

卸売市場周辺遺跡

—高崎354複合産業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2023

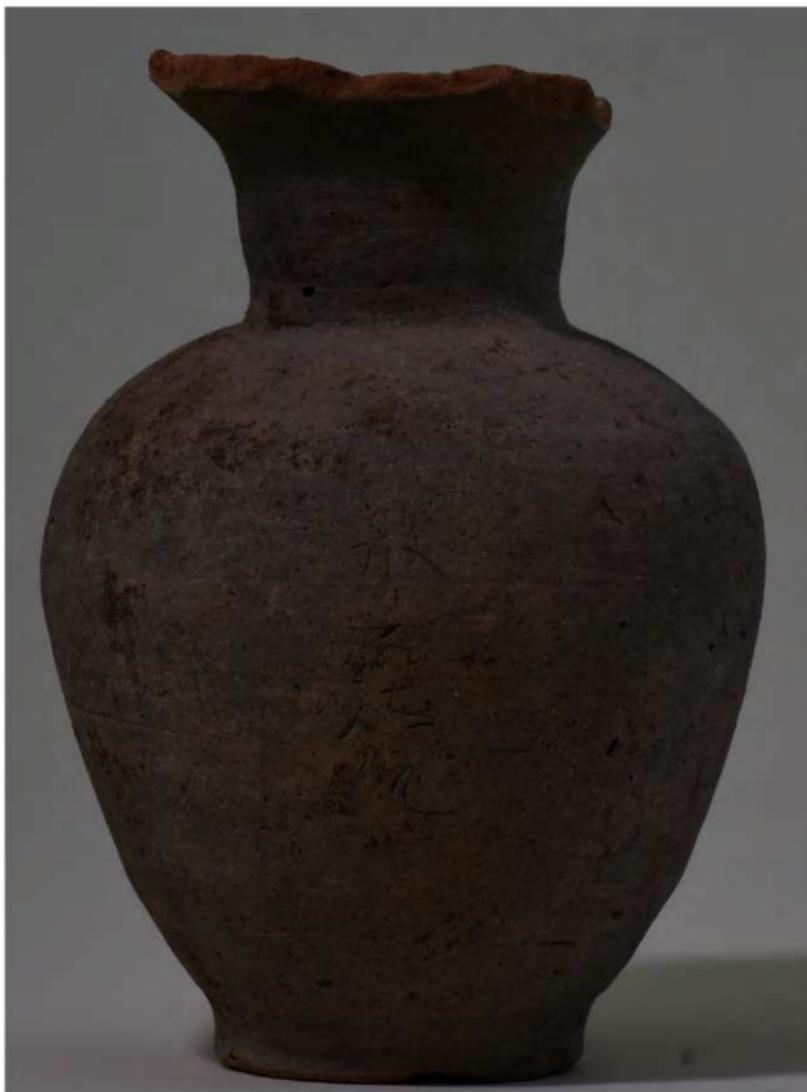
高崎市教育委員会

卸売市場周辺遺跡

—高崎354複合産業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2023

高崎市教育委員会



鉢壳市場周辺遺跡 J 区 V SK05 般若御瓶刻畫須惠器長頸瓶

巻頭図版 2



卸売市場周辺遺跡 J 区VI 北西から

巻頭図版 3



卸売市場周辺遺跡 B 区III 南から

序

高崎市は、古来より関東と信越をつなぐ交通の要衝に位置する人口約36万9千人の中核市です。

平成29年10月末には上野三碑がユネスコ「世界の記憶」に登録され、今年度で5周年を迎えてます。また、歴史と景観が調和した国指定史跡保渡田古墳群や、国重要文化財および史跡である旧新町紡績所など、古代から近代までの多くの遺跡が存在する文化財の宝庫となっています。

本書で報告する卸売市場周辺遺跡は、高崎354複合産業団地造成工事に伴って発見された埋蔵文化財であり、令和元年4月から令和3年3月にかけて発掘調査を実施したものです。このたびの調査では、平安時代末に噴火した浅間山の軽石に覆われた水田や、奈良・平安時代の集落を検出し、古代の人々の生活の一端を知る成果をあげることができました。本報告書はこの成果について文化財調査報告書第486集としてまとめたものです。今後の研究の参考資料としてご一読いただければ幸いです。

結びに、本遺跡の発掘調査および報告書刊行にあたりご協力いただきました関係機関ならびに関係者の皆様に心から感謝申し上げ、序をいたします。

令和5年3月
高崎市教育委員会
教育長 飯野眞幸

例言

1. 本書は高崎 354 複合埋蔵地造成に伴う「鉄兜市場周辺遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は高崎市柴崎町・下大町町・栗崎町地内にかけて所在する。
3. 本遺跡は、高崎市道路番号「765・768・769・792・795・826」に該当する。
765 : D 区 I ~ 768 : C 区 I ~ V 769 : A 区 I ~ III, B 区 I + II 792 : E 区 I + II
795 : B 区 III, C 区 VI ~ VIII, D 区 II, E 区 III ~ V, F 区, G 区, H 区 I ~ V, I 区, J 区 I ~ V 826 : H 区 VI, E 区 I ~ II
826 : H 区 VI, E 区 I ~ II
4. 本遺跡の発掘調査および整理作業は、高崎市教育委員会事務局教育部財保護課埋蔵文化財担当が行った。

調査体制は以下の通りである。

教育長	飯野 真幸
教育部長	小見 幸雄
文化財保護課長	角田 真也
埋蔵文化財担当係長	神澤 久幸（～令和2年度）・瀧沢 国（令和3年度～）・矢島 浩（～令和元年度） 清水 豊（令和2年度～）
埋蔵文化財事務担当	瀧沢 国（～令和2年度）・間口 芳治（～令和3年度）・小暮 里江（～令和2年度） 佐藤 恵子（令和3年度～）・岡田 清香（～令和3年度）・深澤 恵（令和4年度～） 木村 夏菜（令和4年度～）
埋蔵文化財調査担当	山本 ジェームズ（令和2年度～令和3年度）・外所 光明（～令和2年度） 奈良 晴吾（令和元年度～令和3年度）・櫻井 桂（令和元年度～）・飯島 克巳（令和2年度～） 坂塚 誠（令和2年度～令和3年度）・坂井 隆（令和元年度）・櫻井 斎（～令和2年度） 村井田 雅明（～令和2年度）・綿貫 銀次郎（令和元年度）

5. 発掘調査ならびに整理期間は以下のとおりである。

765 発掘：令和元年4月22日～令和元年8月17日	整理：令和元年8月18日～令和5年3月31日
768 発掘：令和元年7月16日～令和2年3月31日	整理：令和2年4月1日～令和5年3月24日
769 発掘：令和元年12月1日～令和2年3月31日	整理：令和2年4月1日～令和5年3月24日
792 発掘：令和2年2月18日～令和2年3月31日	整理：令和2年4月1日～令和5年3月24日
795 発掘：令和2年4月1日～令和3年3月3日	整理：令和3年3月4日～令和5年3月24日
826 発掘：令和3年6月17日～令和4年3月17日	令和4年4月11日～令和4年4月25日 整理：令和4年4月26日～令和5年3月24日

6. 本書の編集は櫻井・飯島が行い、執筆は櫻井と一部瀧沢が行った。また、発掘調査中の遺構等記録写真の撮影は調査担当者と技研コンサル株式会社が行った。

7. 遺構測量は測量研に委託してを行い、一部担当者の指示のもと臨時職員が行った。

8. 遺物測量は櫻井・飯島および臨時職員が行った。また遺物実測図ならびに観察表の作成は、有限会社毛野考古学研究所が主に行い、一部櫻井の指示のもと臨時職員が行った。

9. 遺物写真撮影は、一部櫻井・飯島が撮影を行った。

10. 本事業に際し、発掘調査における表土の削除と埋め戻し作業を（株）井ノ上が行った。

11. 本遺跡の調査および整理作業は係わる各種委託業務は、以下の通り実施した。

測量基準杭設置：㈱富水調査事務所・㈱測研 遺構測量：㈱測研 空中写真撮影：㈱測研・技研コンサル株式会社
遺物デジタル記録作成：有限会社毛野考古学研究所・自然科学分析：株式会社古環境研究所

12. 発掘調査の資料ならびに出土品は高崎市教育委員会で保管している。

13. 整理において下記の方々からご指導、ご助言を賜った。記して感謝申し上げます。

神谷 佳明・桜岡 正信・高島 英之・瀧沢 敦仁・右島 和夫・森田 真一（敬称略・50音順）

凡例

1. 本書に使用した地図は、国土交通省地理院発行傾斜量図（電子地図）、国土交通省地理院発行1/25000 地形図（電子地図）、高崎市都市計画基本図1/2500 をもとに作成した。
2. 本書の座標値は平面直角座標IX系国家座標（世界地図）を用い、方位は同座標北である。
3. 遺構図ならびに遺物図の縮尺は各図に表示した。
4. 押印中に用いる遺構名の略称は以下の通りである。
SD：溝跡 NE：自然流路 SI：堅穴建物跡 SB：掘立柱建物跡 SF：通路 SK：土坑跡 SP：柱穴跡 SE：戸井
SX：性格不明遺構
5. 土層・遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会事務局ならびに（財）日本色彩研究所監修「新版標準土色帖」を使用した。
6. 火山噴出物には次の略号を使用した。
As-A テフラ：浅間Aテフラ（西暦1783年） As-IP：浅間板鼻黄色軽石
As-B テフラ：浅間Bテフラ（西暦1108年） Hr-FA：榛名ニヶ岳洪川テフラ（6世紀初頭）
As-C テフラ：浅間Cテフラ（3世紀末～4世紀初頭） Hr-FP：榛名山ニヶ岳伊春保テフラ（6世紀中頃）
7. 鉄兜市場周辺遺跡で使用した遺物のスクリーントーンは以下のとおりである。その他の遺物のスクリーントーンは遺物図に示した。遺構のスクリーントーンについてはそれぞれ遺構図に表示した。
■須恵器断面
8. 遺物観察表の数値は、以下の通り表した。
数値のみ：完存値 () : 後文による推定値 [] 欠損状態の残存値
9. 遺構平面図中の「●」記号は遺物出土位置を示す。また、出土位置に付した番号は遺物図の番号と一致する。
10. 一部ピットは遺構レベリングからエレベーション図を復元した。

目次

巻頭図版
序・例言・凡例・目次

第 1 章 調査に至る経緯	
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査の方法	1
第 2 章 地理的・歴史的環境	
第 1 節 地理的環境	2
第 2 節 歴史的環境	2
第 3 章 検出した遺構・遺物	
第 1 節 道路の概要	6
第 2 節 基本土層	6
第 3 節 A 区 I・II・III	8
第 4 節 A 区 I・II	19
第 5 節 B 区 III	25
第 6 節 C 区 I・II・V	28
第 7 節 C 区 III・IV	50
第 8 節 C 区 VI・VII	55
第 9 節 D 区 I	61
第 10 節 D 区 II	75
第 11 節 E 区 I	90
第 12 節 E 区 II	100
第 13 節 E 区 III	118
第 14 節 E 区 IV	120
第 15 節 E 区 V	124
第 16 節 F 区	128
第 17 節 G 区	137
第 18 節 H 区 I・II	143
第 19 節 H 区 III・IV	154
第 20 節 H 区 V	158
第 21 節 I 区 VI	162
第 22 節 J 区	163
第 23 節 J 区 I・II・III	167
第 24 節 J 区 IV・V	171
第 25 節 J 区 VI	185
第 26 節 小調査 (E 区 I・2)	188
第 27 節 試掘・立会調査	188
第 4 章 自然科学分析	194
第 5 章 成果と課題	
第 1 節 御売市場周辺遺跡の成果と課題	203
第 2 節 御売市場周辺遺跡の As-B 下水田について	203
第 3 節 「般若御帳」刻書須恵器長頸壺について	208
参考文献	
写真図版	
抄録	

挿図目次

第 1 図 御売市場周辺遺跡 位置図	2
第 2 図 御売市場周辺遺跡 遺跡全体図	3
第 3 図 御売市場周辺遺跡および周辺遺跡 位置図	5
第 4 図 御売市場周辺遺跡 基本土層	7
第 5 図 A 区 III 基本土層	8
第 6 図 A 区 I・II・III 遺構全体図	9
第 7 図 A 区 I・II・III 遺構全体図 (2)	10
第 8 図 A 区 I・II・III SD22・24～30・35～37 遺構図	11
第 9 図 A 区 I・II・III SD39・40・42～44、SF21 遺構図	12
第 10 図 A 区 I・II・III SD51～60・62・63、SK21・22 遺構図	13
第 11 図 A 区 I・II・III SK23～27・29～32 遺構図	14
第 12 国 A 区 I・II・III SK33・35・37～41・51・52 遺構図	15
第 13 国 A 区 I・II・III SD57、SK53・55～60、SP21～23 遺構図	16
第 14 国 A 区 I・II・III SP24～28 遺構図	17
第 15 国 B 区 I・II 基本土層	19
第 16 国 B 区 I 遺構全体図	20
第 17 国 B 区 I SD01・02・05 遺構図	21
第 18 国 B 区 I SD05・09、SK03・04・06～11 遺構図	22
第 19 国 B 区 I SK12・13、SP01～03・05～13 遺構図	23
第 20 国 B 区 I 遺構図	24
第 21 国 B 区 III 遺構全体図	25
第 22 国 B 区 III 基本土層	26
第 23 国 B 区 III SD01・02、SK01～03 遺構図	26
第 24 国 B 区 III 遺構図	27
第 25 国 C 区 I 基本土層	28
第 26 国 C 区 I・II・V 遺構全体図	29
第 27 国 C 区 I 第 2 面 遺構全体図	31
第 28 国 C 区 V 第 2 面 遺構全体図	32
第 29 国 C 区 I・II・V SD01～07・13 遺構図	33
第 30 国 C 区 I・II・V SD08～14・16・17・64 遺構図	34
第 31 国 C 区 I・II・V SD18～22・24・28・31～33、SP05 遺構図	35
第 32 国 C 区 I・II・V SD34・36～38・42～47 遺構図	36
第 33 国 C 区 I・II・V SD48・62・68・81・82 遺構図	37
第 34 国 C 区 I・II・V SD83～88・92・94・95・97、SK38 遺構図	38
第 35 国 C 区 I・II・V SD98～101・103・104・106・109・110・114 遺構図	39
第 36 国 C 区 I・II・V NR02 遺構図	40
第 37 国 C 区 I・II・V SB01 遺構図	41
第 38 国 C 区 I・II・V SK01～06・08～10 遺構図	42
第 39 国 C 区 I・II・V SK11～17 遺構図	43
第 40 国 C 区 I・II・V SK18～20・29～34 遺構図	44
第 41 国 C 区 I・II・V SK35～39、SP01～04 遺構図	45
第 42 国 C 区 I・II・V SP05～20 遺構図	46

第43回	C区I・II・V	遺物図(1)	47
第44回	C区I・II・V	遺物図(2)	48
第45回	C区III・IV	遺構全体図	51
第46回	C区III・IV	SD41・51～55 遺構図	52
第47回	C区III・IV	SD56～60・71・72 破壊遺構、SK23 遺構図	53
第48回	C区III・IV	SK24～26、SP21・22、SE01 遺構図	54
第49回	C区VI	遺構全体図	55
第50回	C区VI	SD111～114、SP23・24 遺構図	56
第51回	C区VI	遺構全体図	57
第52回	C区VII	SD83・84・115・116 遺構図	57
第53回	C区VI	遺物図	58
第54回	D区I	第1面 遺構全体図	62
第55回	D区I	第2面 遺構全体図	63
第56回	D区I	第3面 遺構全体図	64
第57回	D区I	SD01～12・14 遺構図	65
第58回	D区I	SD18・23・26、SI01・03 遺構図	66
第59回	D区I	SI03カマフ 遺構図	67
第60回	D区I	SI01・03 遺物図	67
第61回	D区I	SI02 遺構図	68
第62回	D区I	SI02 遺物図	68
第63回	D区I	SI11～13、SK11 遺構図	68
第64回	D区I	SI15～17、SK02・03・05・06 遺構図	69
第65回	D区I	SK08・12～16・18～22 遺構図	70
第66回	D区I	SK24・27・28、SP01～08 遺構図	71
第67回	D区I	SP09～13、SE01 遺構図	72
第68回	D区I	遺物図	72
第69回	D区II	基本土層	75
第70回	D区II	第1面 遺構全体図	76
第71回	D区II	第2面 遺構全体図(1)	77
第72回	D区II	第2面 遺構全体図(2)	78
第73回	D区II	SD03～09 遺構図	79
第74回	D区II	SD10・11・14・17～19・21 遺構図	80
第75回	D区II	SD12・13 遺構図	81
第76回	D区II	SD20・22 遺構図	82
第77回	D区II	SI01 遺構図	83
第78回	D区II	SI01 遺物図	84
第79回	D区II	SI02 遺構図	85
第80回	D区II	燒土範囲1～3、SK02・03 遺構図	86
第81回	D区II	SK04～08、SP01 遺構図	87
第82回	D区II	SP02～04 遺構図	88
第83回	D区II	遺物図(1)	88
第84回	D区II	遺物図(2)	89
第85回	E区I	基本土層	90
第86回	E区I	遺構全体図	91
第87回	E区I	SD01～05、SK01・02 遺構図	92
第88回	E区I	SK03～06 遺構図	93
第89回	E区I	SK07～09・19・20 遺構図	94
第90回	E区I	SK10～12 遺構図	95
第91回	E区I	SK13～16 遺構図	96
第92回	E区I	SK17・18・21～23 遺構図	97
第93回	E区I	畦01、段01・02 遺構図	98
第94回	E区I	遺物図	98
第95回	E区I	NR01 遺構図	99
第96回	E区II	遺構全体図(1)	101
第97回	E区II	遺構全体図(2)	102
第98回	E区II	-第2面 SD01・02・16 遺構図	103
第99回	E区II	SD03・06～12 遺構図	105
第100回	E区II	SD13～15、18～21 遺構図	106
第101回	E区II	SK01～04・06 遺構図	107
第102回	E区II	SK07・09～12 遺構図	108
第103回	E区II	SK13～15、SP01～04 遺構図	109
第104回	E区II	SP05・06、SX01・02 遺構図	110
第105回	E区II	遺物図(1)	111
第106回	E区II	遺物図(2)	112
第107回	E区II	遺物図(3)	113
第108回	E区II	遺物図(4)	114
第109回	E区III	遺構全体図	118
第110回	E区III	基本土層	118
第111回	E区III	SD01～03、SP01・02 遺構図	119
第112回	E区IV	基本土層	120

第113回	E区IV	遺構全体図	121
第114回	E区IV	砂質土下水田 遺構図	122
第115回	E区IV	遺物図	123
第116回	E区V	基本土層	124
第117回	E区V	遺構全体図	125
第118回	E区V	耕具痕 01～03、畦 01～03、SD01 遺構図	126
第119回	E区V	SK01・02 遺構図	127
第120回	F区	基本土層	128
第121回	F区	- I 遺構全体図	129
第122回	F区	- 2～4 遺構全体図	130
第123回	F区	SD01～07 遺構図	131
第124回	F区	SD08～14 遺構図	132
第125回	F区	SD15～19、歛状遺構 01 遺構図	133
第126回	F区	SK01～04 遺構図	134
第127回	G区	遺構全体図	136
第128回	G区	2面 遺構全体図	137
第129回	G区	基本土層	137
第130回	G区	SD01～03・05・07・08 遺構図	138
第131回	G区	SD09、畦 01、SK01・02・06 遺構図	139
第132回	G区	SK08・09・11・13・16 遺構図	140
第133回	G区	SK10・12・14～15・16 遺構図	141
第134回	G区	遺物図	141
第135回	H区I・II	基本土層	143
第136回	H区I	遺構全体図	144
第137回	H区I	第2面 遺構全体図	145
第138回	H区II	遺構全体図	146
第139回	H区I・II	SD02～09 遺構図	147
第140回	H区I・II	SD10～16 遺構図	148
第141回	H区I・II	SD17～20、SK01～04 遺構図	149
第142回	H区I・II	SK05・06、SP01～04、SE02・03 遺構図	150
第143回	H区I・II	SE01、NR01 遺構図	151
第144回	H区I・II	遺物図	152
第145回	H区III・IV	基本土層	154
第146回	H区III・IV	遺構全体図	155
第147回	H区III・IV	SD01～04 遺構図	155
第148回	H区III・IV	畦 01～06、SK01 遺構図	156
第149回	H区III・IV	SK02～05 遺構図	157
第150回	H区V	基本土層	158
第151回	H区V	遺構全体図	159
第152回	H区V	畦 01～03、水路 01・02 遺構図	159
第153回	H区V	SK01・02 遺構図	160
第154回	H区VI	遺構全体図	161
第155回	H区VI	基本土層	162
第156回	H区VI	SD01～04 遺構図	162
第157回	I区	基本土層	163
第158回	I区	遺構全体図(1)	164
第159回	I区	遺構全体図(2)	165
第160回	I区	SD01～06 遺構図	166
第161回	J区II・III	基本土層	167
第162回	J区I・II・III	遺構全体図	168
第163回	J区I・II・III	SD01～03 遺構図	169
第164回	J区I・II・III	SD04～08、SP01～06 遺構図	170
第165回	J区IV・V	基本土層	172
第166回	J区IV	遺構全体図	173
第167回	J区V	第1面 遺構全体図	174
第168回	J区V	第2面 遺構全体図	175
第169回	J区V	第2面 SD18～20・NR01 遺構図	175
第170回	J区IV・V	SD01～05 遺構図	176
第171回	J区IV・V	SD06～08・10～15 遺構図	177
第172回	J区IV・V	SD16・17、SK01～03・05 遺構図	178
第173回	J区IV・V	SK06～11 遺構図	179
第174回	J区IV・V	SK12～16、SP01～04 遺構図	180
第175回	J区IV・V	SP05～11、SE01 遺構図	181
第176回	J区IV・V	遺物図(1)	181
第177回	J区IV・V	遺物図(2)	182
第178回	J区IV・V	遺物図(3)	183
第179回	J区VI	基本土層	185
第180回	J区VI	遺構全体図	186
第181回	J区VI	SD01・02・04・05、SK01 遺構図	186
第182回	J区VI	SD06、NR01 遺構図	187

第183回	J区VI 遺物図	188
第184回	E区I - II 遺構図	189
第185回	小調査、試掘・立会調査区全体図(1)	191
第186回	小調査、試掘・立会調査区全体図(2)	193
第187回	自然科学分析 鈎壳市場周辺遺跡のプラン・オバール分析結果	197
第188回	鈎壳市場周辺遺跡のプラン・オバール	201
第189回	鈎壳市場周辺遺跡テフラ	202
第190回	鈎壳市場周辺遺跡と周辺条里想定線	205
第191回	『般若御頃』刻書須恵器長頸壺拓本(原寸大)	209
第192回	群馬県内の幾乎文字を入れた墨書き土器	209
第193回	J区V SK01と進撃神社の位置関係	210

表目次

第 1 表	A区I - II - III 遺構観察表(1)	17
第 2 表	A区I - II - III 遺構観察表(2)	18
第 3 表	B区I 遺物観察表	24
第 4 表	B区I 遺構観察表	24
第 5 表	B区III 遺物観察表	27
第 6 表	B区IV 遺構観察表	27
第 7 表	C区I - II - V 遺物観察表(1)	48
第 8 表	C区I - II - V 遺物観察表(2)	49
第 9 表	C区I - II - V 遺物観察表(3)	50
第10表	C区VI 遺物観察表	58
第11表	C区I - II - III - IV - V - VI - VII 遺構観察表(1)	58
第12表	C区I - II - III - IV - V - VI - VII 遺構観察表(2)	59
第13表	C区I - II - III - IV - V - VI - VII 遺構観察表(3)	60
第14表	D区I SI01 - 03 遺物観察表	67
第15表	D区I SI02 遺物観察表	68
第16表	D区I 遺物観察表	72
第17表	D区I 遺構観察表(1)	73
第18表	D区I 遺構観察表(2)	74
第19表	D区II 遺構観察表(1)	82
第20表	D区II 遺物観察表	85
第21表	D区II 遺構観察表(2)	85
第22表	D区II 遺物観察表	89
第23表	D区II 遺構観察表(3)	89
第24表	E区I 遺物観察表	98
第25表	E区I 遺構観察表	100
第26表	E区II 遺物観察表(1)	114
第27表	E区II 遺物観察表(2)	115
第28表	E区II 遺物観察表(3)	116
第29表	E区II 遺物観察表(4)	117
第30表	E区II 遺構観察表	117
第31表	E区III 遺構観察表	119
第32表	E区IV 遺物観察表	123
第33表	E区IV 遺構観察表	123
第34表	E区V 遺構観察表	127
第35表	F区 遺構観察表	135
第36表	G区 遺物観察表	142
第37表	G区 遺構観察表	142
第38表	H区I - II 遺物観察表	152
第39表	H区I - II 遺構観察表(1)	152
第40表	H区I - II 遺構観察表(2)	153
第41表	H区III - IV 遺構観察表	157
第42表	H区V 遺構観察表	160
第43表	H区VI 遺構観察表	162
第44表	I区 遺構観察表	166
第45表	J区I - II - III 遺構観察表	171
第46表	J区IV - V 遺物観察表(1)	183
第47表	J区IV - V 遺物観察表(2)	184
第48表	J区IV - V 遺構観察表(1)	184
第49表	J区IV - V 遺構観察表(2)	185
第50表	J区VI 遺物観察表	188
第51表	J区VI 遺構観察表	188
第52表	自然科学分析 鈎壳市場周辺遺跡におけるプラン ト・オバール分析結果	196
第 53 表	自然科学分析 テフラ分析結果	199

C 区III	全景（南西から）
C 区IV	SD02・53 全景（西から）
C 区IV	全景（南東から）
C 区V	SD108 全景（南から）
C 区V	NR02 断面（南東から）
C 区V	SD85・86・94 全景（北西から）
C 区V	SD85・86・94 全景（南東から）
C 区VI	SD01 全景（東から）
PL18	
D 区I 第1面	SD04・05・14 全景（北から）
D 区I 第2面	SI01・03 全景（北から）
D 区I 第2面	SI01 カマド断面（東から）
D 区I 第2面	SI02 全景（南から）
D 区I 第2面	SI15 全景（北から）
D 区I 第2面	SI16 全景（西から）
D 区I 第2面	調査区全景（西から）
D 区II 第2面	SI01 全景（南から）
PL19	
D 区II 第2面	SI01 カマド全景（南西から）
D 区II	SI01 岩壺穴断面（東から）
E 区I	SD01 全景（南から）
E 区I	畦01 全景（北西から）
E 区II - 1	SD01 全景（東から）
E 区II - 1	SD01 全景（北から）
E 区II - 1	SD02 全景（北から）
PL20	
E 区II - 1 第2面	SD01・SX01 全景（東から）
E 区II - 3	SD06 全景（東から）
E 区II - 4	SD19・20 全景（東から）
E 区II - 4	全景（東から）
E 区III	SD01 全景（西から）
PL21	
E 区IV	SD02 全景（南東から）
E 区III	SD03 全景（南から）
E 区IV	As-B 下水田部分空中写真（上が北）
E 区IV	砂質土下水田トレーン全景（南西から）
E 区V	As-B 下水田耕種空中写真（上が北）
E 区V	耕具痕断面（北から）
E 区V	耕具痕サンプル採取箇所（北から）
E 区V	畦01 断面（南から）
PL22	
E 区V	畦02 断面（南から）
E 区V	畦03 断面（東から）
E 区V	耕具痕出状況（西から）
E 区V	耕具痕全景（西から）
F 区 - 1	北側全景（南から）
F 区 - 2	SD09・10 全景（北から）
F 区 - 2	全景（東から）
F 区 - 3	SD08 全景（東から）
PL23	
F 区 - 3	SD12・13 全景（南から）
F 区 - 3	東側全景（西から）
G 区	畦01 全景（南西から）
G 区	SD01 挿入全景（南から）
G 区	SD03 全景（北から）
G 区	SD08 全景（北から）
H 区	SD01 全景（南から）
PL24	
H 区I 第2面	NR01 検出状況（南西から）
H 区II	SD13 全景（北西から）
H 区II	SE01 断面（北から）
H 区III	畦01 断面（南から）
H 区IV	SD02 全景（南から）
H 区V	SK02～4 全景（南から）
H 区V	水路01・02 全景（北から）
H 区V	水路01 断面（北から）
PL25	
H 区V	畦02 サンプル採取箇所（南から）
H 区V	畦01 断面（南から）
PL26	
H 区V	畦03 断面（北から）
H 区V	SD03 全景（北から）
I 区	SD01 全景（北東から）
I 区	SD02 全景（北東から）
I 区	1 トレーン断面（北東から）
J 区 I	SD03 全景（東から）
PL27	
J 区III	SD01 全景（東から）
J 区IV	SD04 全景（南から）
J 区V	SK05 断面（南から）
J 区V	SK05-137 遺物出土状況（東から）
J 区V	SK05-138 遺物出土状況（東から）
J 区V 第2面	NR02 断面（東から）
J 区VI	SD02 全景（南東から）
PL28	
J 区VI	SD02 断面（東から）
E 区 I - 2	小調査区全景（南西から）
TE1	10T 断面（西から）
TE1	11T 畦（南から）
TE1	3TAs-A 处理坑（南から）
TE2	14T 全景（南から）
TE2	27 全景（北から）
TE2	8T 全景（南から）
PL29	
TE3	4T 畦全景（南から）
TE3	10T 全景（南から）
TE3	77畦・3D 西から）
TE4	17 全景（西から）
TE4	2T 全景（北から）
TE5	5T 全景（北から）
TE5	11T 全景（南から）
TE5	12T 全景（南から）
PL29	
TE5	14T 全景（南から）
TE5	18T 畦（南から）
TE6・9	9-17TAs-B 堆積状況（南から）
TE6・9	9-17TAs-B 検出状況（東から）
TE7	17 全景（南から）
TE7	5T 全景（北から）
TE10	1T 全景（北から）
TE10	7T 全景（南から）
PL30	
TE10	9T 全景（北から）
TE10	11T 大畦検出状況（南東から）
TE11	1T 全景（南から）
TE11	17 全景（西から）
TE12	1T 全景（北から）
TE12	4T 全景（南から）
PL31	
TE13	7T 微高地全景（南から）
TE14	1T 全景（北東から）
TE14	3T 断面（南東から）
T1	断面（西から）
T1	全景（北東から）
T2	全景（南西から）
T5	全景（東から）
T6	全景（東南から）
PL32	
	出土遺物（1～30）
PL33	出土遺物（31～51）
PL34	
	出土遺物（52～71・73～75）
PL35	
	出土遺物（72・76～104）
PL36	
	出土遺物（105～135）
PL37	
	出土遺物（136～143）

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

平成30年8月、高崎工業団地造成組合(以下、高工団と略)から、高崎市下大類町・栗崎町・柴崎町地内において高崎354複合産業団地として用地造成の計画があると、高崎市教育委員会文化財保護課(以下、文化財保護課と略)に連絡があった。

該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である32C28遺跡、33C01遺跡、33C05遺跡、33C10遺跡、矢中33遺跡、栗崎40-3遺跡、栗崎40-6遺跡をその範囲内に含むため、工事前に文化財保護法94条第1項の規定による通知が必要であることを伝えた。

工事計画について、高工団および道路等のインフラ工事を所管する高崎市都市整備部産業・流通基盤整備室より説明を受け、埋蔵文化財保護についての協議を行ったが、新規の道路および調整池、水路等が計画されており、計画の変更は困難であるとの回答を得た。

事業予定地内は平安時代水田跡や集落遺跡が想定されており、これら遺構に工事が影響を与えるのは不可避であるため、平成31年度より発掘調査を実施することとなった。

平成31年1月23日に高工団より文化財保護法94条第1項の通知があり、平成31年3月4日に発掘調査の勧告を行った。その後、会計年度毎に文化財保護法94条第1項の通知が提出され、年度毎に工事計画について事業課と協議、発掘調査計画を策定した。

なお、遺跡名称については、発掘調査が複数の小字においておこなわれるところから、発掘調査の事業名称である「卸売市場周辺遺跡」を用いた。

(滝沢)

第2節 調査の方法

発掘調査区は工事区ごとに以下のように設定した。

- 区画道路1号線：E区I・III～V、I区
- 区画道路2号線：G区、II区I・II・V
- 区画道路3号線：J区IV～VI
- 区画道路4号線：B区III、C区VI～VII
- 区画道路5号線：H区VI
- 市道H104号線：J区I～III
- 地獄堰用水路：A区I～III、B区I・II
- 木村堰第2排水工：E区II
- 木村堰第3排水工：F区
- 寄居堰用水路：H区III・IV
- 調整池：C区I～V
- 2号雨水排水路：D区I・II
- 1号緑地：J区IV

調査面積の合計は約35,188m²である。

上記調査区以外に、小調査としてトイレ敷地の調査を行い、E区I-2とした。

企業用地部分は本調査とは別に試掘確認調査を行い、遺構の残存・性格を確認した。本報告書に試掘確認調査の結果も掲載した。

表土掘削は、担当者の指示のもとバックホーによりを行い、廃土については隣接する企業用地を置き場とした。また、廃土の運搬には一部クローラーダンプを使用した。

D区以外の調査区では、大部分にAs-Bテフラ(以下、本文中ではAs-Bとする。)が堆積していたため重機によりAs-B堆積層上面まで掘削したのち、人力によってAs-Bを除去し遺構確認作業を行った。

D区では遺構確認面となる黒色粘質土面まで機による表土除去を行い、遺構の掘り下げには、人力による掘削作業を行った。

C区・E区・H区・J区では、As-B直下面より下層の第2面の調査も行った。

第2面はC区・H区では灰褐色シルト質土、E区では砂質土、J区では砂層およびAs-B下黒褐色粘質土下を遺構確認面としてバックホーにより掘削を行い、遺構の掘り下げは人力による掘削作業を行った。

遺構平面図及び断面図の作成は、トータルステーション・オートレベルを使用した。平面図については、各遺構を1/100・1/20を基本として作成した。

全調査区において全体図は、1/40測量を㈱測研に委託して行った。

遺構断面図の作成は、1/20を基本とし、土層の観察にあたった。

測量基準点は、㈱富永調査事務所に委託し、国土調査杭を元にして設置した。

写真撮影は、一眼レフカメラを用いて35mmのモノクロフィルムとカラーリバーサルフィルム、デジタル一眼レフカメラで各調査段階の記録を撮影した。

空中写真撮影については㈱測研と技研コンサル株式会社に業務委託を行い、ドローンによる撮影を実施した。

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

卸売市場周辺遺跡は、群馬県高崎市栗崎町・柴崎町・下大類町にかけて所在する。本遺跡西端は高崎市中心部より東4.2kmに位置している。

約27,000年前、浅間山の山体崩壊による泥流で前橋台地が形成された。これを古利根川が開削したことにより、井野川低地帯が形成された。本遺跡はこの井野川低地帯の南辺から、開削された台地の段丘崖の下部にかけて立地する。(なお、本稿では井野川低地帯南側の台地を「高崎台地」と呼称する。)

現在、調査地は昭和期の土地改良工事によって全体が平坦な水田地帯となっている。

第2節 歴史的環境

縄文時代：本遺跡の周辺では縄文時代の遺構は顕著ではなく、遺物が散見されるに留まる。縄貫堀米前II遺跡(2)からは縄文時代中期後半の加曾利E2～3式期の土器片・石器が出土している。

弥生時代：高崎情報団地I遺跡(3)から土器片と後期の方形周溝墓が出土している。後期前半以降は、万相寺遺跡(4)、元島名遺跡(5)など井野川自然堤防の微高地上での集落の展開が見られる。

古墳時代：前期古墳は、4世紀初頭とされ

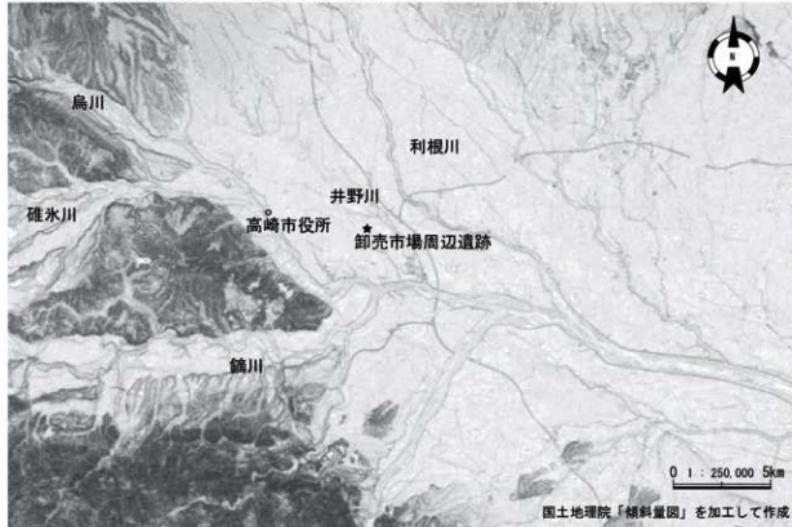
る元島名將軍塚古墳(6)、4世紀後半代の柴崎蟹沢古墳(7)、柴崎浅間山古墳(8)などがある。柴崎蟹沢古墳は、削平されており正確な位置は不明であるが、柴崎浅間山古墳の北西にあったとされ、「口始元年」銘(正始元年と考えられる)の三角縁神獸鏡の出土が伝えられ、ヤマト王権との繋がりが考えられている。

中期古墳は、5世紀前半代に普賢寺裏古墳(9)、不動山古墳(10)、岩鼻二子山古墳など前方後円墳が築造され、綿貫古墳群を形成する。後期古墳は、6世紀後半に綿貫觀音山古墳(11)が築造され、銅製水瓶、獸帶鏡、異形冑、装飾太刀など、中国や朝鮮半島との関係を示す副葬品が出土している。

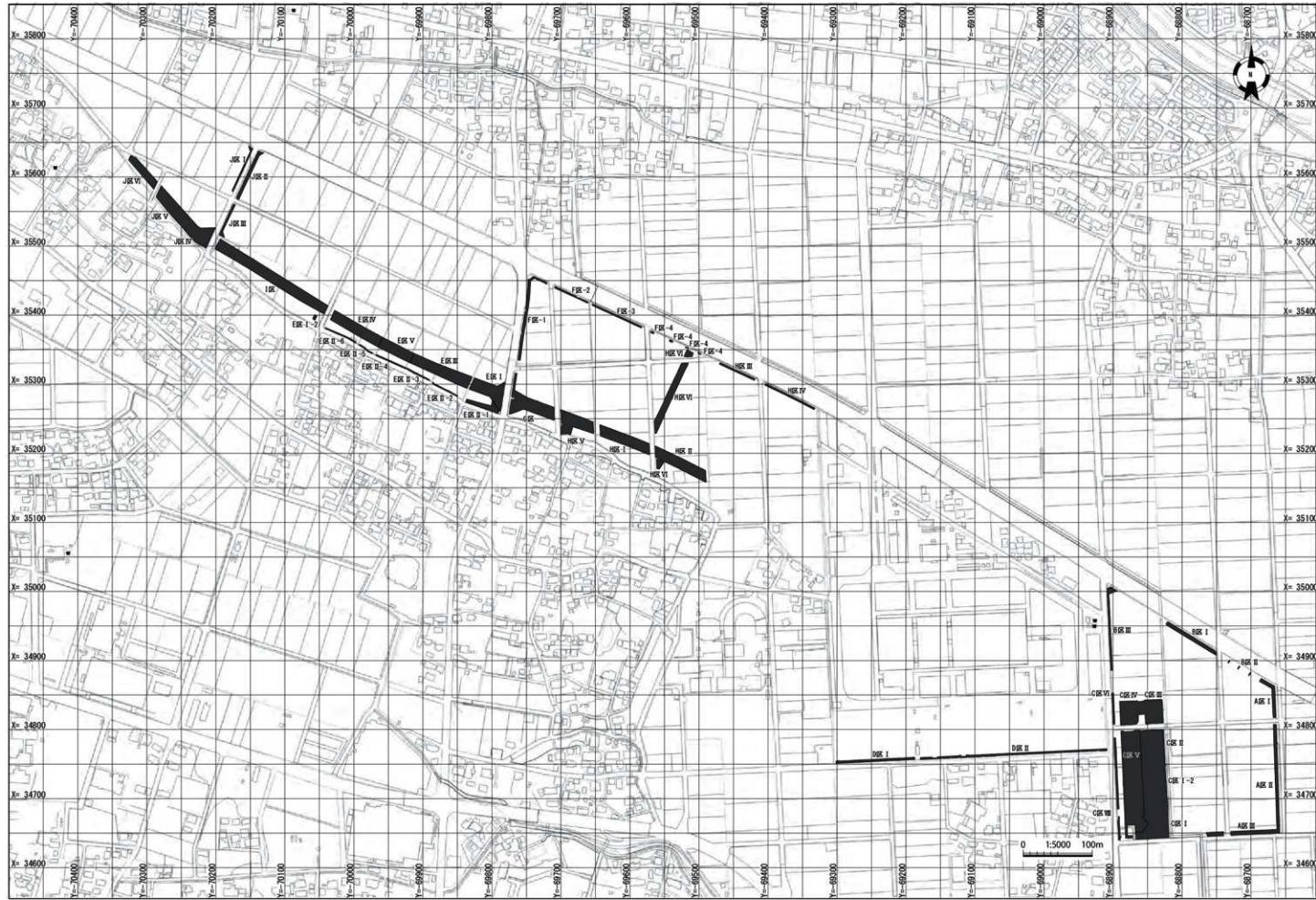
前期の集落遺跡は綿貫遺跡(12)で確認されている。後期には集落遺跡が増加し、井野川右岸の綿貫牛道遺跡(13)、綿貫伊勢遺跡(14)、などで6世紀前半以降の堅穴建物跡を確認している。弥生時代と同じく、井野川自然堤防の微高地上を選地している。

水田跡は、6世紀初頭と考えられるHr-FA下水田跡が上滝根町北遺跡(15)、上滝II遺跡(16)、上滝五反畠遺跡(17)、上滝天水遺跡(18)などで確認されている。6世紀中頃のHr-FP下水田跡は上滝根町北遺跡(15)、上滝II遺跡(16)などで確認されている。

奈良・平安時代：集落遺跡は井野川流域に分布し、平安時代寺院跡も確認された綿貫遺



第1図 卸売市場周辺遺跡 位置図



第2図 卸売市場周辺遺跡 遺跡全体図

跡（12）、綿貫伊勢遺跡（13）、下滝天水遺跡（18）などで集落が分布する。また、下大類流域通団地遺跡（19）、柴崎熊野前遺跡（20）では古代の集落が、井野川低地帯の微高地で展開している。

水田跡は井野川とその支流の柏川流域の低地帯を中心として、条里地割に則ったAs-B下水田跡が広く検出されている。本遺跡周辺では、柴崎遺跡群Ⅰ～V（21～25）、柴崎西浦・吹手西遺跡（26）、柴崎隼人・吹手西遺跡（27）、柴崎遺跡群・南大類遺跡群（28）、柴崎熊野前遺跡（20）の調査が行われており、広大なAs-B下条里水田と共に低地内の微高地の集落が報告されている。

さらに、北側に位置する宿大類遺跡（29）においても、As-B下水田が展開している。

また本遺跡の南に位置する谷中村東遺跡（30）では、高位段丘面に大型水路を整備しAs-B下水田が営まれ、水田面に伴う大型溜井状遺構から、9世紀中頃铸造と推定される銅印「物部私印」が出土している。物部氏と条

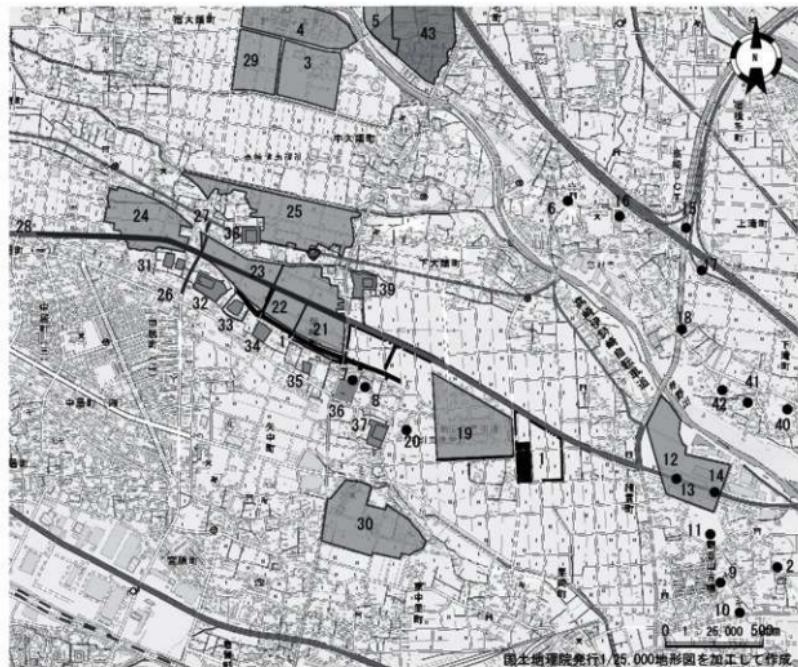
里地割、水田開発の関連が指摘されている。

道路状遺構は、推定東山道「牛堀・矢ノ原ルート」が高崎情報団地Ⅰ遺跡（3）で確認されている。

中世：高崎台地北辺には城館跡を主とする遺跡が分布する。西から柴崎西浦屋敷（31）、高井屋敷（32）、柴崎桜井屋敷（33）、光明寺（34）、村間屋敷（35）、蟹沢屋敷（36）、大下屋敷（37）が高崎台地上北辺に並ぶ。高井屋敷は外郭内に進雄神社を含み、両者の関係が指摘される。柴崎桜井屋敷主郭の南西外側には室町期の虚空蔵尊を本尊とする持仏堂が所在する。

また本遺跡周辺の井野川低地帯にも、数は少ないながら、隼人屋敷（38）や大類寄居（39）といった城館跡・砦跡が所在する。

対岸の井野川左岸には、伝・五左衛門原屋敷（40）、八幡山館（41）、下滝館（42）、元島名城（43）などの城館址が所在する。



第3図 卸売市場周辺遺跡および周辺遺跡 位置図

第3章 検出した遺構・遺物

第1節 遺跡の概要

鉄壳市場周辺遺跡では、広範囲にわたってAs-B下水田跡が確認された。また、現状では見えない微地形も発掘調査によって明らかとなり、方形の土地区画溝（B区I、C区III・IV、D区II）、古代の集落域（D区I、D区II）、旧河道（C区I・II・V、H区I、J区V）が明らかになった。

遺物量は多くないものの、溝や流路に流れ込んだ周辺遺跡の様子を反映する遺物が出土している。

特筆すべき事項として、本遺跡西寄りに位置するJ区V SK05から、「般若御瓶」と刻書された須恵器長頸壺が出土している。刻書の内容は他に例を見ず、本遺跡が初出となる。また、同構造からは「風」墨書きも出土している。類例のない大変貴重な資料・出土状況と言える。

第2節 基本土層

本遺跡の標高値は遺跡南東隅でおよそ海拔74.4m、遺跡北西隅でおよそ海拔82.1mであり、北西から南東へ向けて2kmにわたってゆるやかに約8m標高を下げる。

A区基本土層

- 現耕作土。
- 土地改良工事による適土。
- As-Bテフラ・次堆積層。
- 黒褐色粘質土（10YR3/2）しまり強い。粘性あり。白色輕石微量。
- 暗褐色粘質土（10YR3/3）しまり強い。粘性あり。白色輕石微量。
- 黑色粘質土（10W1/2）しまりやや強い。粘性あり。白色輕石微量。

E区基本土層

- 土。
- As-Bテフラ・次堆積層。
- 黒褐色粘質土（10YR3/2）しまりやや強い。しまり強い。粒子細かい。白色輕石 $\phi 1\sim 3$ mm微量。
- 暗褐色粘質土（10YR3/4）粘性やや強い。しまり強い。粒子細かい。白色輕石 $\phi 1\sim 3$ mm微量。黄褐色地縫（10Y5/8） $\phi 2\sim 5$ mm \times 1mm付近。砂粒 $\phi 0.3$ mm多量。分立集積層。
- 黒褐色粘質土（10YR3/2）粘性強い。しまり強い。粒子細かい。以降、黄褐色・ルートブロック（10YR6/3） $\phi 1\sim 3$ mm微量。ややカルト観。
- 黑色粘質土（10W1/2）粘性強い。しまり強い。粒子細かい。白色輕石 $\phi 1\sim 4$ mm多量。
- 黑色粘質土（10YR1/2）粘性強い。しまり強い。粒子細かい。
- 黑色粘質土（10YR3/2）粘性やや弱い。しまり強い。白色輕石 $\phi 1\sim 3$ mm微量。
- 黑色粘質土（10W2/1）粘性弱い。しまりやや弱い。白色輕石 $\phi 1\sim 3$ mm微量。
- シルト漂浮層

J区基本土層

- 土。
- 土地改良工事適土。
- 以降、褐色粘質土（7.5YR6/3）粘性弱い。しまりやや強い。粒子細かい。砂粒 $\phi 0.3$ mm多量。白色輕石 $\phi 1\sim 3$ mm微量。
- 灰褐色土（10YR4/2）粘性やや弱い。しまり強い。粒子細かい。白色輕石 $\phi 0.5$ mm微量。分立集積少量。
- 黒褐色粘質土（10YR3/2）粘性あり。しまり強い。粒子細かい。白色輕石微量。
- 黑褐色粘質土（10YR3/2）粘性弱い。しまりやや弱い。粒子細かい。白色輕石 $\phi 0.5$ mm微量。
- 灰褐色土（10YR6/2）粘性なし。しまり弱い。粒子細かい。白色輕石 $\phi 1\sim 2$ mm多量。ラミナ化。
- 黒褐色粘質土（10YR3/2）粘性弱い。しまり弱い。粒子細かい。白色輕石 $\phi 0.5\sim 1$ mm微量。分立集積少量。
- 黑色粘質土（10W1/2）粘性やや弱い。しまり弱い。白色輕石 $\phi 1\sim 2$ mm微量。
- 黒褐色粘質土（10YR2/2）粘性やや弱い。しまり弱い。白色輕石 $\phi 1\sim 3$ mm微量。
- 黒褐色粘質土（10W1/2）粘性やや弱い。しまり弱い。白色輕石 $\phi 2\sim 5$ mm多量。輕石が帶状に堆積する。
- 黒褐色粘質土（10YR2/2）粘性やや弱い。しまり弱い。白色輕石 $\phi 1\sim 3$ mm微量。
- 灰褐色シルト質土（10YR4/2）粘性やや弱い。しまりやや弱い。粒子細かい。黒褐色粘質土（10YR2/2）少量。シルト漂浮層。
- 以降、黃褐色シルト質土（10YR5/2）粘性やや弱い。しまりやや弱い。粒子細かい。地山シルト。
- 灰褐色粘土（3W0/2）粘性弱い。しまり弱い。粒子細かい。

事業対象地はそのほとんどを昭和期の土地改良工事によって整備された水田が占める。この時の工事により、調査区によつてはAs-Bが削平されるなど、微地形が確認できない状態となつてゐる。

発掘調査に際しては、34地点で基本土層を観察した。ここでは、調査区が広範にわたるために6地点の基本土層を代表として掲載した。ここで掲載しなかつた基本土層は各区の説明部分に掲載した。

表土（1層）直下には、土地改良工事の盛り土が位置し、その下は土地改良工事の削平が及んだ深さにより、地点により残存する土層は様々である。

概ねAs-Aテフラ（以下、本文中はAs-Aとする。）混土、As-B混土、As-B一次堆積層までは共通する。大部分ではAs-B一次堆積層下には、As-B下水田耕土の黒褐色粘質土が堆積する。As-B下水田耕土下の土層の堆積状況は地点により様々であるが、黒褐色粘質土や褐灰色粘質土が堆積することが多い。この層の中には、Hr-FP・Hr-FAを含む層の堆積が確認できる地点もある。基盤層はにぶい黄褐色シルト質土である。

D区基本土層

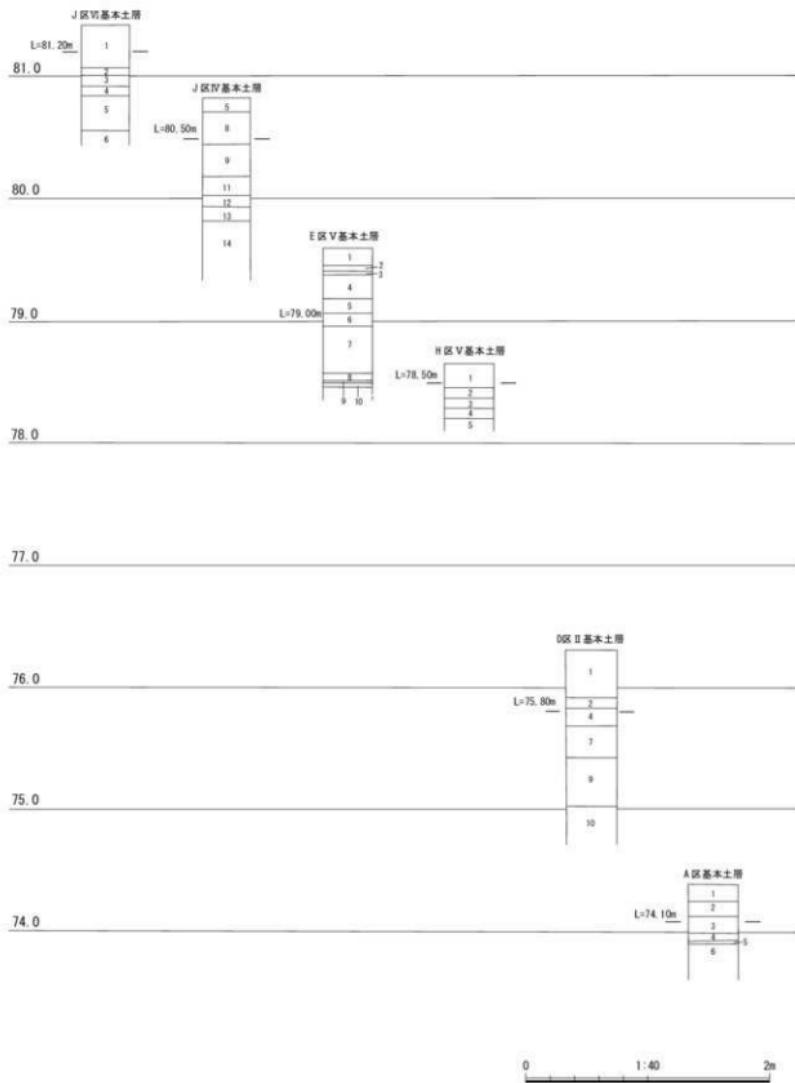
- 灰褐色土（7.5YR1/1）粘性なし。しまりあり。白色粘多量。
- 灰褐色土（7.5YR1/2）粘性なし。しまりあり。白色粘多量。
- 黑褐色土（7.5YR1/1）粘性。しまり強い。白色粘多量。
- 褐色土（7.5YR5/1）粘性なし。しまりあり。砂石 $\phi 1\sim 2$ mm多量。
- 黑褐色土（7.5YR2/2）粘性なし。しまりあり。砂質土。
- 灰褐色土（7.5YR1/2）粘性強い。しまりあり。黄褐色ブロッケ混じる。
- 暗褐色土（7.5YR3/2）粘性やや強い。しまりあり。黄褐色ブロッケ多量。白色土混じる。
- 暗褐色土（7.5YR3/1）粘性弱い。しまり強い。ローム・小礫・砂粒混じる。
- 以降、褐色土（7.5YR6/3）粘性。しまり強い。シルト質。
- 以降、褐色土（7.5YR7/3）粘性強い。しまりあり。

E区基本土層

- 現耕作土。
- 土地改良工事土。
- As-Bテフラ・次堆積層。
- 黒褐色粘質土（10YR3/2）粘性弱い。しまりやや弱い。白色輕石微量。
- 暗褐色粘質土（10YR1/3）粘性あり。しまりやや弱い。白色輕石微量。
- 暗褐色粘質土（10YR1/2）粘性弱い。しまりやや弱い。白色輕石微量。

J区VI基本土層

- 現耕土。
- 以降、褐色土（7.5YR6/4）粘性なし。しまりなし。As-Bテフラ混入土。砂質土。
- 黑褐色土（7.5YR3/2）粘性弱い。しまり強い。白色粘少量。黄褐色地縫。
- 分立地縫に沈着。
- 褐色土（7.5YR5/1）粘性弱い。しまり強い。白色粘微量。5mm程の輕石含む。
- 分立地縫に沈着。
- 黑褐色土（7.5YR3/1）粘性弱い。しまり強い。白色粘少量。5mm程の輕石含む。
- 灰褐色土（7.5YR6/2）粘性やや弱い。しまり弱い。白色粘少量。
- 灰褐色土（7.5YR3/2）粘性やや弱い。しまり弱い。白色粘少量。



第4図 卸売市場周辺道路 基本土層

第3節 A区 I・II・III

(1) 調査区の概要

A区 I・II・IIIは、地盤悪用工事に伴い発掘調査を実施した。調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんでおり、As-B一次堆積層の残存は良好ではなかった。よってAs-B堆積層下面とAs-Bが削平されている場合には土地改良工事土の黒褐色粘質土面を遺構検出面とした。

本調査区ではAs-B層下後～近世までの遺構を検出した。遺構の内訳は、溝30条、土坑27基、ピット8基である。

(2) 溝・通路

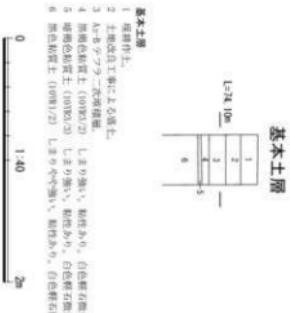
本調査区では、30条の溝を検出した。溝はAs-B層下後～近世のものである。溝はもしくは南東端のA区 II・A区 IIIの境に東流、した。溝群の上層はSD39～SD44まで一括でミナ状水成堆積が堆積していた。As-B層下後から近世まで水路であったと考えられる。またSD41とSD42の間にには硬化した黒褐色砂質土に小礫が多く埋め込まれた高まりがあり、通路の可能性がある(SF21)。

(3) 土境

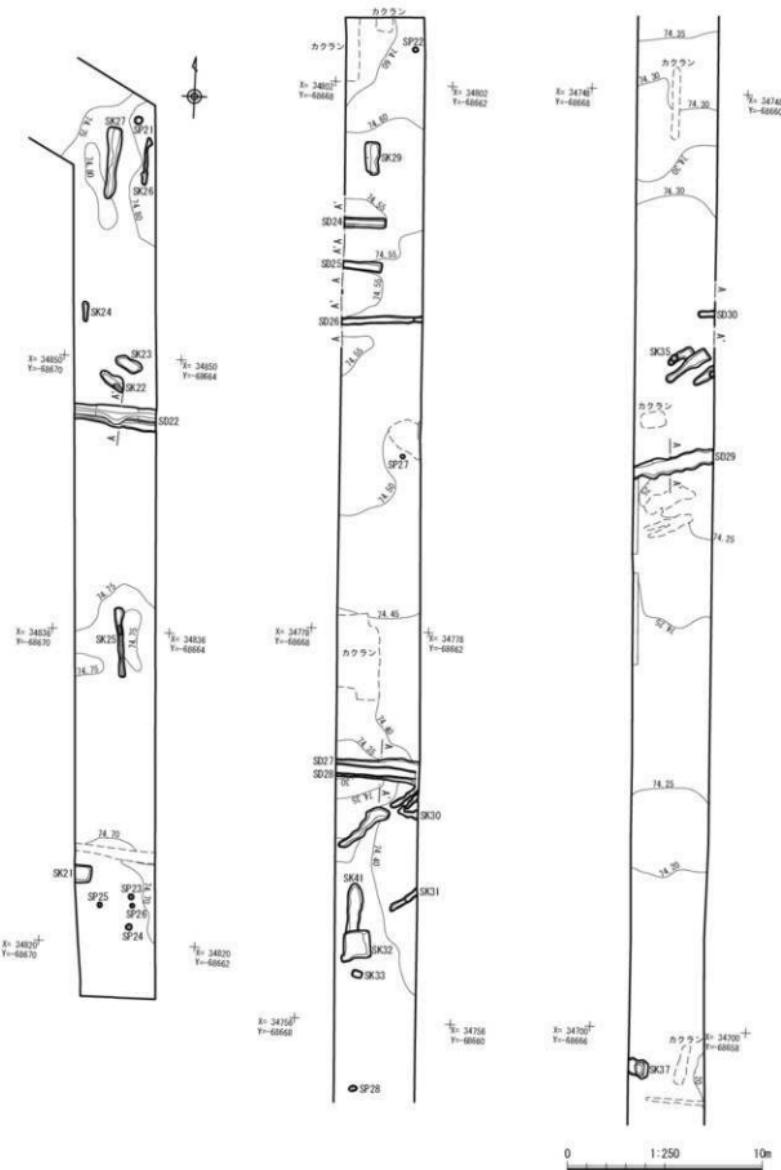
本調査区では、27基の土坑を検出した。ほとんどがAs-B混土を埋土に持つ。As-B層下後の土坑である。SNS3は土坑埋土と考えられる部分が全て酸化鉄分凝集となっていた。被熱・炭など難治関連遺構と認定できる痕跡・遺物は検出できなかつたため、自然の所産であると判断した。

(4) ピット

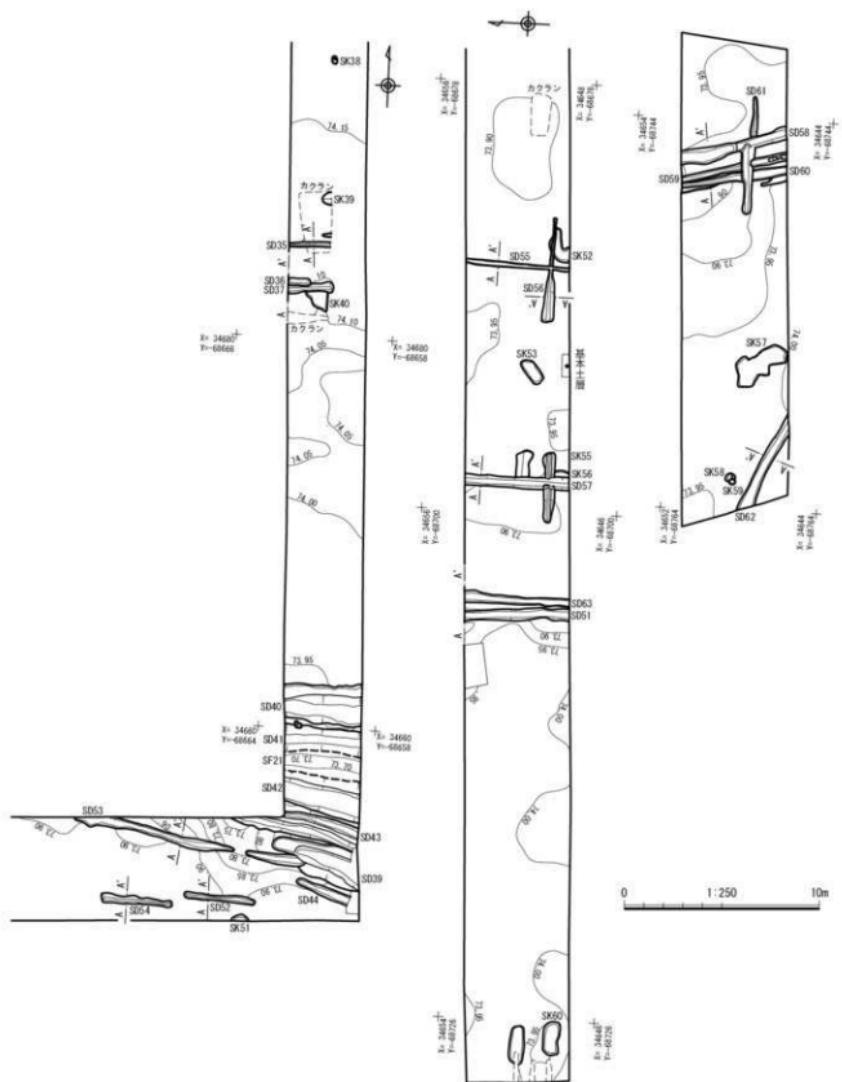
本調査区では、8基のピットを検出した。全てAs-B・As-B混土を埋土として持つピットであるものはなく、全て単独のピットであり、掘立柱建物跡などの遺構として認定できるものになかった。



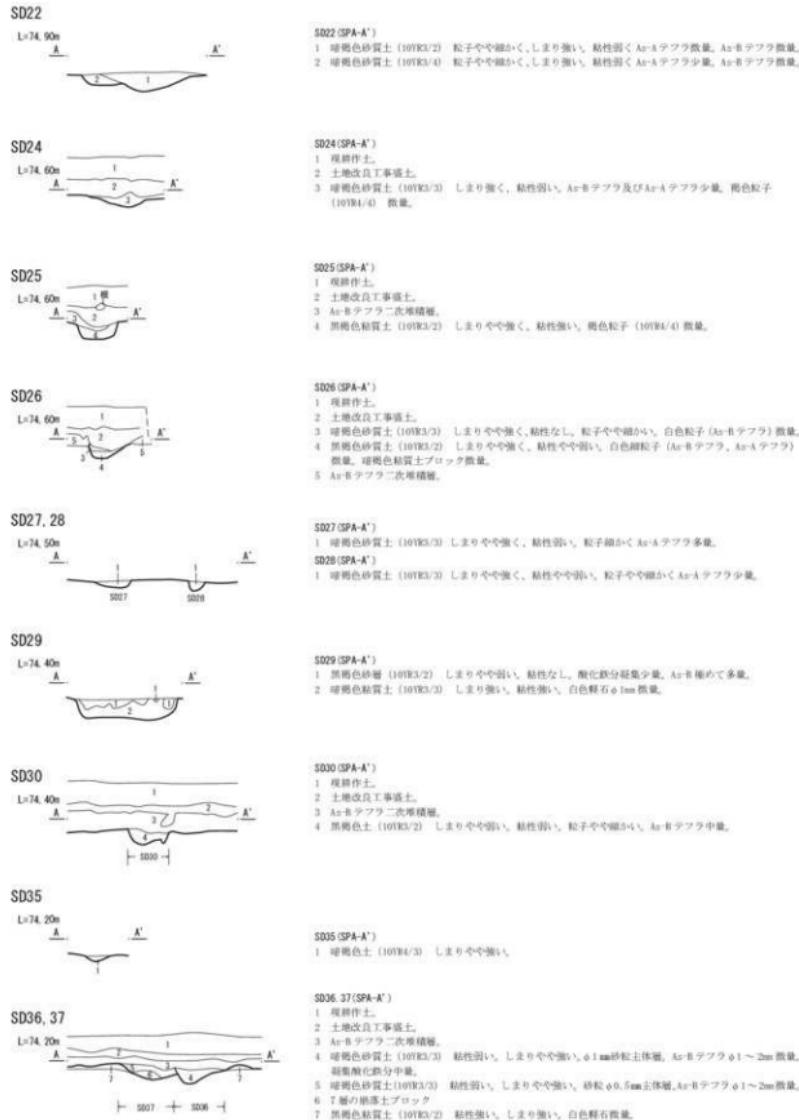
第5図 A区III 基本土層



第6図 A区I・II・III 造構全体図(1)



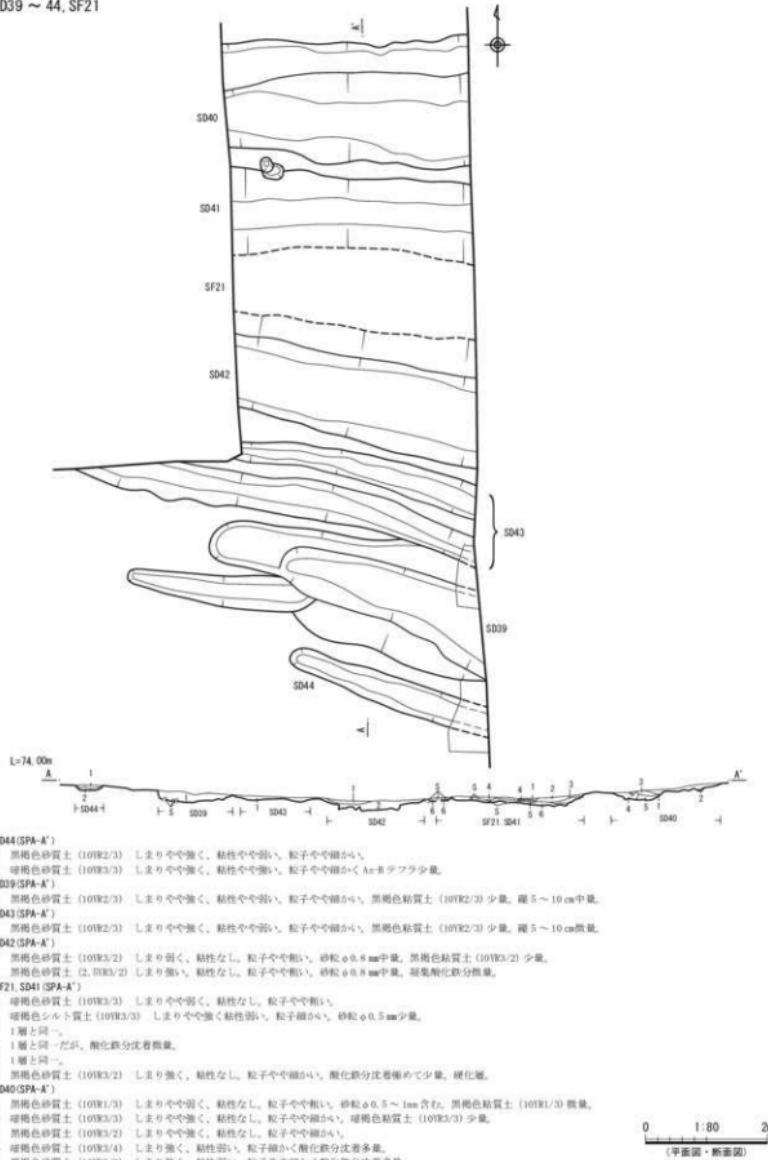
第7図 A区I・II・III 造構全体図(2)



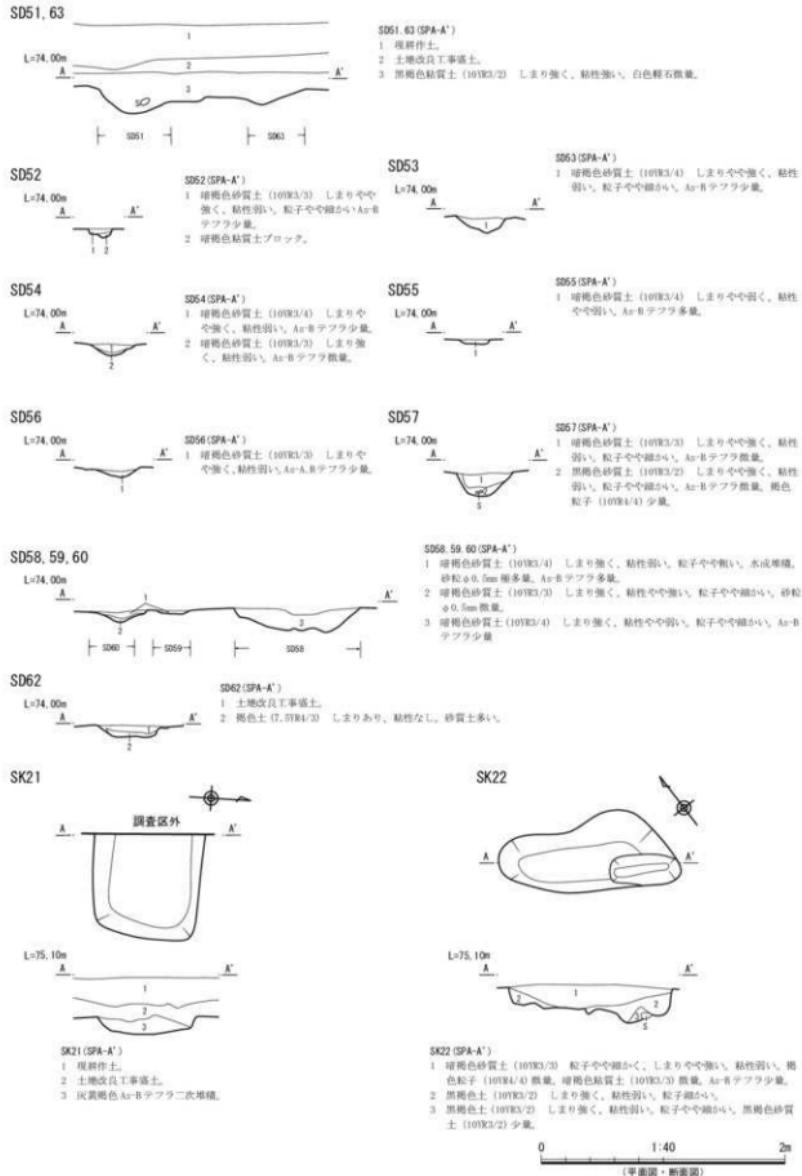
0 1:40 2m

第8図 A区 I・II・III SD22・24～30・35～37 透構図

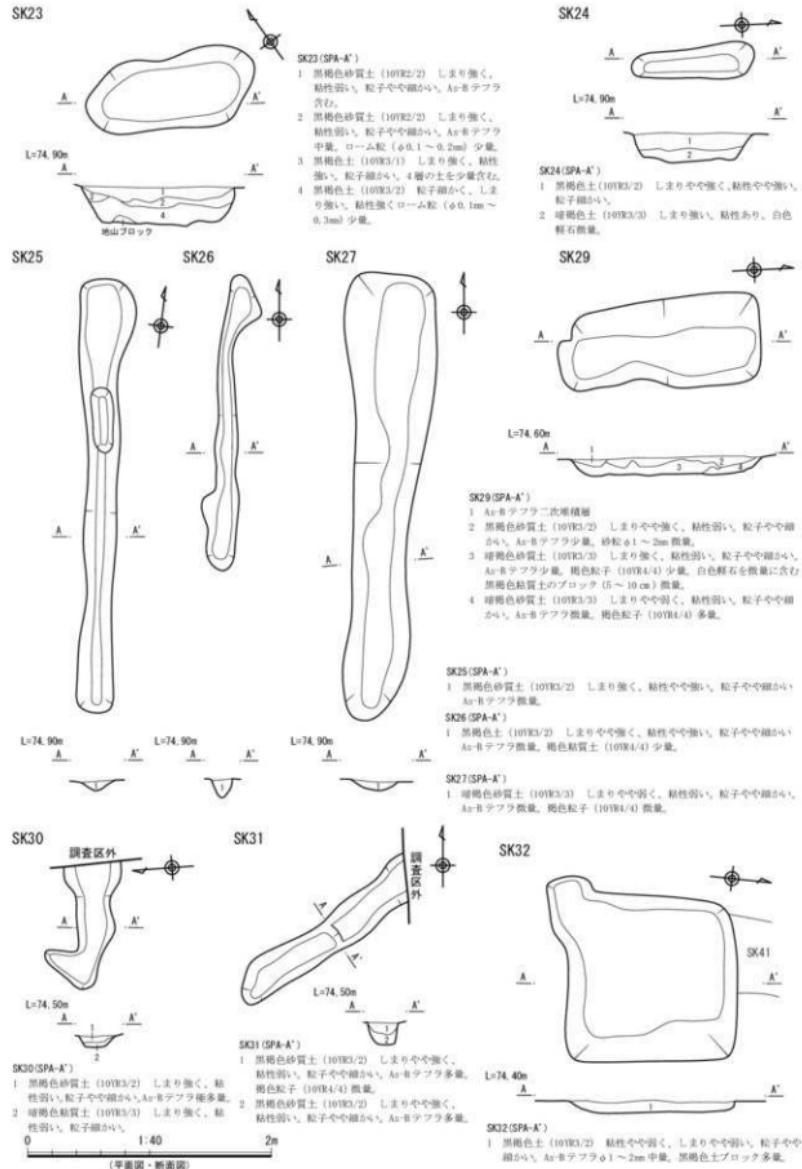
SD39 ~ 44, SF21



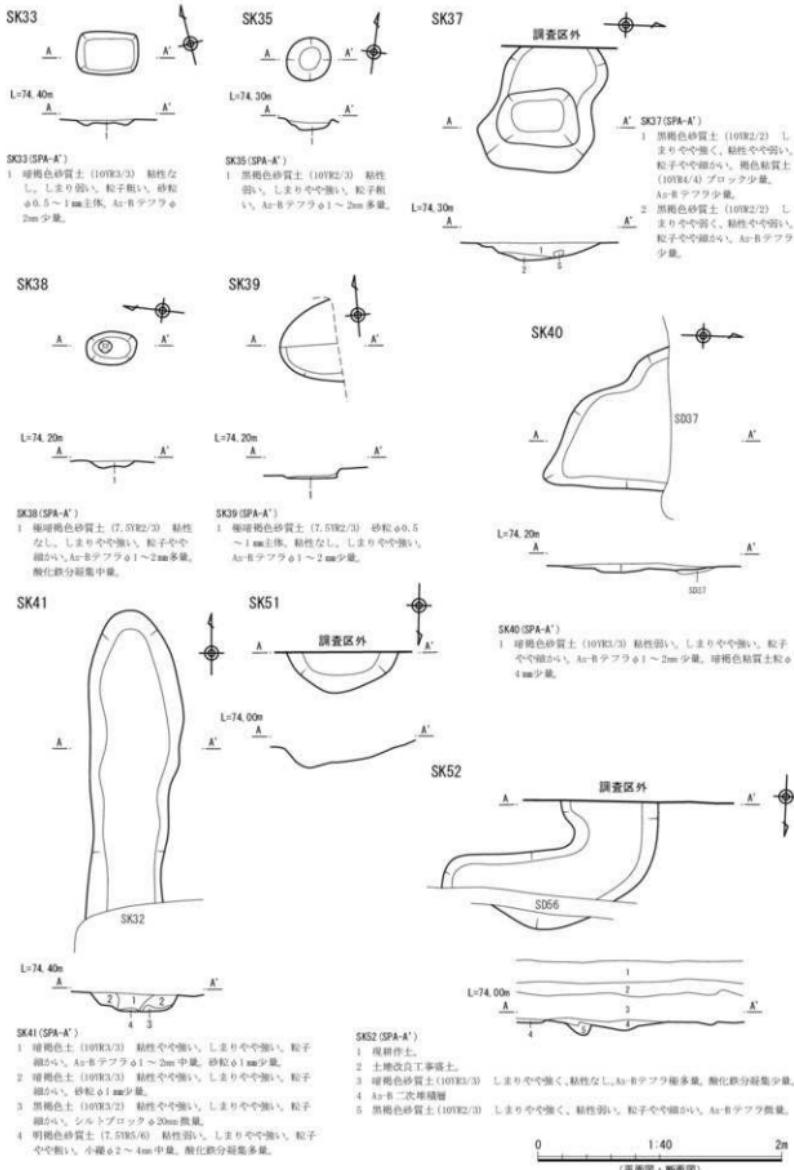
第9図 A区 I・II・III SD39 ~ 44, SF21 道構図



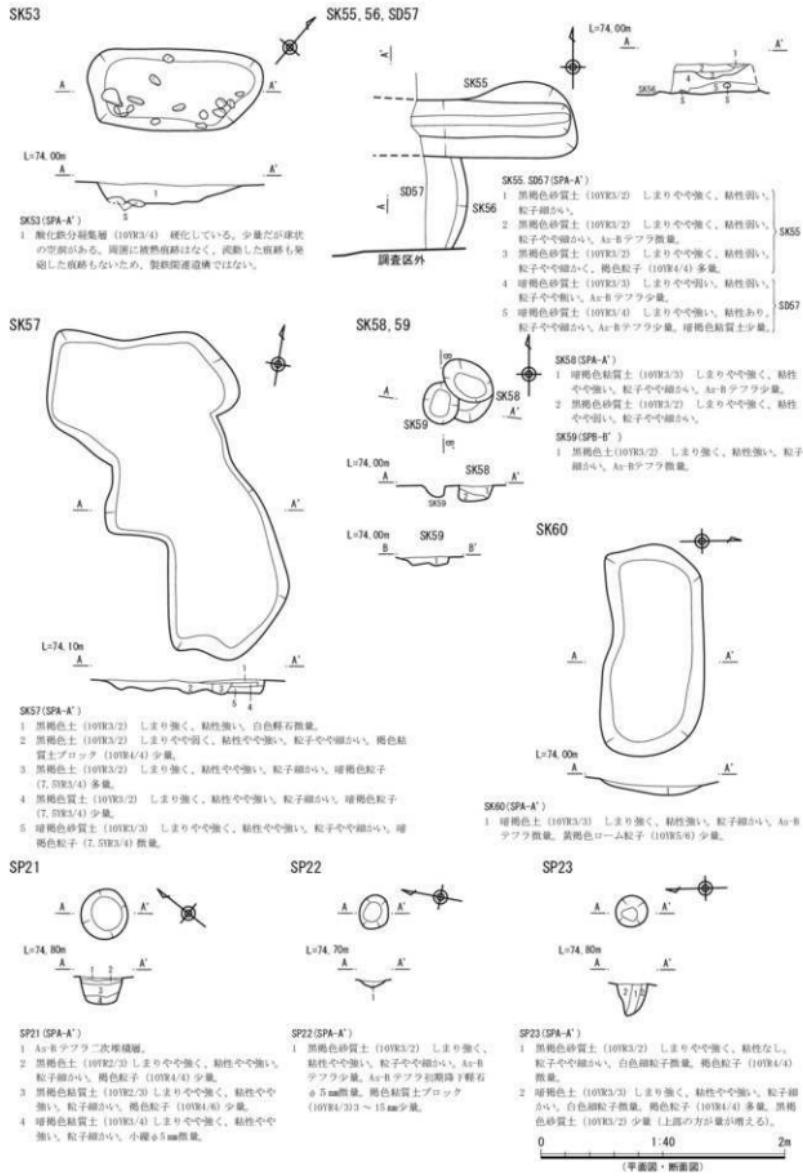
第10図 A区 I・II・III SD51～60・62・63、SK21・22 造構図



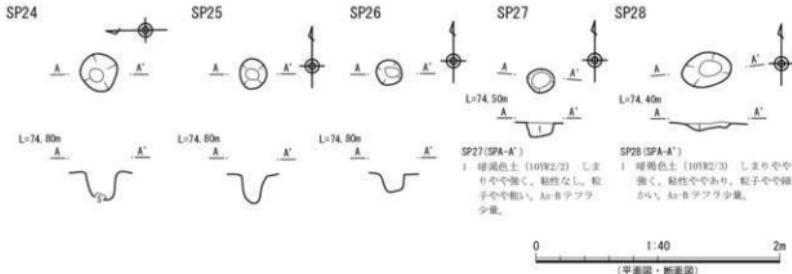
第11図 A区I・II・III SK23～27・29～32 道構図



第12図 A区 I・II・III SK33・35・37~41・51・52 遊構図



第13図 A区 I・II・III SD57、SK53・55~60、SP21~23 造構図



第14図 A区 I・II・III SP24~28 遊模図

第1表 A区 I・II・III 遊模観察表 (1)

名称	区	形状	主軸方位	現況 (m)	初期	深さ	時期	備考・出土遺物
SD21	I							大森
SD22	I	% 80° - E		4.20	1.10	0.16	Ab-A階下段	土師器、瓦、陶器、陶器、壺、輪、鏡、鏡、環
SD23	I							大森
SD24	I	% 80° - E		2.10	0.50	0.10	Ab-A階下段	
SD25	I	% 80° - E		2.00	4.90	0.15	Ab-B階下段	
SD26	I	% 80° - E		4.13	0.35	0.19	Ab-A階下段	
SD27	II	% 84° - E		4.30	0.55	0.16	Ab-A階下段	
SD28	II	% 87° - E		4.25	0.36	0.09	Ab-A階下段	
SD29	II	% 76° - E		4.18	1.00	0.20	Ab-B階下段	
SD30	II	% 87° - E		0.85	0.30	0.08	Ab-B階下段	
SD31								瓦
SD32								瓦
SD33								瓦
SD34								瓦
SD35	II	% 87° - E		2.10	0.27	0.13		
SD36	II	% 90° - E		1.14	0.37	0.13	SD07 を切る。	
SD37	II	% 86° - E		2.34	0.56	0.09	Ab-B階下段	SA40 を切る。
SD38								瓦
SD39	II	% 62° - E		0.00	1.42	0.16	Ab-A階下段	
SD40	II	% 90° - E		4.02	2.16	0.30	Ab-A階下段	
SD41	II	% 80° - E		3.94	1.46	0.23	Ab-A階下段	
SD42	II	% 80° - E		4.02	2.08	0.14	Ab-A階下段	
SD43	II	% 78° - E		3.90	0.56	0.06	Ab-A階下段	SD09 を切る。
SD44	II	% 70° - E		2.96	0.76	0.08	Ab-A階下段	
SD45	III	% 2° - E		0.36	0.60	0.23	Ab-A階下段	
SD46	III	% 86° - E		0.66	0.28	0.10	Ab-B階下段	
SD47	III	% 29° - E		7.38	0.56	0.19	Ab-B階下段	
SD48	III	% 89° - E		3.62	0.48	0.12	Ab-B階下段	
SD49	III	% 4° - E		5.32	0.28	0.06	Ab-A階下段	SD06 を切る。
SD50	III	% 85° - E		5.36	0.60	0.14	Ab-A階下段	SA52 を切る。
SD51	III	% 1° - E		5.34	0.68	0.25	Ab-B階下段	
SD52	III	% 11° - E		5.54	0.84	0.36	Ab-B階下段	SD01 を切る。
SD53	III	% 16° - E		5.52	0.44	0.28	Ab-B階下段	
SD54	III	% 11° - E		5.50	0.74	0.37	Ab-B階下段	
SD55	III	% 88° - E		2.04	0.36	0.05		SD09 + SD を切る。
SD56	III	% 64° - E		4.84	0.78	0.13		近現代
SD57	III	% 1° - E		5.49	0.64	0.11	Ab-A階下段	
SD58	III	% 80° - E		3.90	2.30			
SD59	I	不整形	% 90° - E	0.96	0.94	0.14	Ab-B階下段	土師器、陶器器
SD60	I	不整形	% 43° - E	1.50	0.65	0.15	Ab-B階下段	
SD61	I	椭円形	% 60° - E	1.40	0.65	0.32	Ab-B階下段	
SD62	I	不整形	% 1° - E	1.00	0.30	0.29		
SD63	I	近方形	% 10° - E	3.60	0.45	0.11	Ab-B階下段	土師器
SD64	I	不方形	% 5° - E	3.40	0.30	0.17	Ab-B階下段	土師器
SD65	I	不整形	% 5° - E	3.68	0.76	0.10	Ab-B階下段	
SD66								瓦
SD67	I	不整形	% 43° - E	4.75	0.32	0.13	Ab-B階下段	土師器
SD68	II	不整形	% 63° - E	1.05	0.48	0.15	近現代	土師器、瓦、陶器、瓦、石器
SD69	II	不整形	% 54° - E	1.68	0.34	0.22	Ab-B階下段	土師器、瓦、陶器、古代瓦
SD70	II	不整形	% 5° - E	1.50	1.36	0.14	Ab-B階下段	SD41 を切る、土師器
SD71								

第2表 A区 I・II・III 遺構観察表 (2)

名称	区	形状	主軸方位	規格 (m)	時期	参考・出土遺物
				長軸	短軸	
SK34						矢器
SK35	II	円船	N-2°-W	0.33	0.35	0.03 ka-B層下後
SK36						矢器
SK37	II	不整形	N-23°-W	1.30	0.96	0.15 ka-B層下後
SK38	II	楕円形	N-12°-W	0.49	0.28	0.05 ka-B層下後
SK39	II	楕円形	N-4°-W	0.68	0.48	0.09 ka-B層下後
SK40	II	不整形	N-2°-W	1.20	1.00	0.77 ka-B層下後
SK41	II	不整形	N-1°-E	2.44	0.76	0.18 土師器、頭蓋骨
SK41	III	不整形	N-89°-E	0.90	0.30	0.12 土師器
SK52	III	不整形	N-85°-E	1.75	1.06	0.13 ka-B層下後
SK53	III	不整形	N-50°-E	1.44	0.67	0.18 矢器
SK54	III					矢器
SK55	III	不整形	N-89°-E	1.38	0.62	0.19 頭蓋骨切る、頭器
SK56	III	不整形	N-0°	0.76	0.34	0.06 矢器
SK57	III	不整形	N-30°-W	3.04	1.52	0.12 矢器
SK58	III	楕円形	N-54°-W	0.48	0.31	0.14 頭蓋骨
SK59	III	楕円形	N-15°-E	0.35	0.30	0.11 土師器
SK60	III	長方形	N-86°-W	1.74	0.98	0.13 ka-B層下後
SP21	I	円船		0.20	0.20	0.26 ka-B層下前か
SP22	I	円船		0.29	0.25	0.10 ka-B層下前
SP23	I	円船		0.26	0.26	0.26 ka-B層下前
SP24	I	円船		0.32	0.31	0.24 矢器
SP25	I	円船		0.24	0.22	0.24 土師器
SP26	I	円船		0.22	0.22	0.16 矢器
SP27	II	円船		0.22	0.20	0.11 ka-B層下後
SP28	II	楕円形	N-84°-E	0.42	0.28	0.10 ka-B層下後

第4節 B 区 I・II

(1) 調査区の概要

B 区 I は、地獄堰用水路工事に伴い発掘調査を実施した。

調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんおり、As-B 一次堆積層は良好に残存していなかった。

As-B 堆積層下面と、As-B が削平されている場合には土地改良工事盛土下の黒褐色粘質土を遺構検出面とした。

本調査区では As-B 削平後～近世までの遺構を検出した。遺構の内訳は、溝 7 条、土坑 10 基、ピット 12 基である。

B 区 II も B 区 I とに地獄堰切り回しのため設定した調査区であるが、試掘トレンチに As-B の堆積が検出されなかつたため、トレンチ調査のみを行った。

(2) 溝

本調査区では、7 条の溝を検出した。溝の大部分は As-B を埋土とするもので、遺構の深さは浅いものが多い。

SD01・02 は B 区 I 中央部で検出した。断面形は SD01 の東寄りは薬研堀、SD01 西寄り・SD02 は底部がやや平坦な台形を呈する。SD01 の底部の標高は SD02 との接続部で約 74.5m、西寄りで約 74.6m を測り、東へ向けて底部標高を下げる。SD02 の底部の標高は約 74.7m で、SD01 とは約 20cm の段差がある。SD01・02 共に埋土は、As-B が混ざる砂質土が主体であり、

As-B 降下後に掘削されていると考えられる。SD01・02 の走行方向はほぼ東西、南北方向である。SD01・02 の走行方向から方形区画を構成する堀であった可能性が指摘できる。遺物は SD01 から須恵器高台付塊が 1 点出土している。

(3) 土坑

本調査区では、10 基の土坑を検出した。

SK06 は As-B 降下後の土坑である。土坑の底部で人骨を検出した。人骨は残存状態が悪く、かろうじて同定できた上腕骨・尺骨・大腿骨から北頭位で西向きの屈葬である。各骨の長さから子供の骨であると考えられ、残存状態の悪さもこれに起因する。

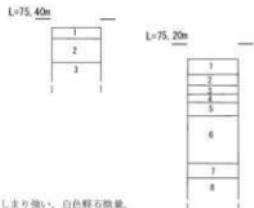
人骨は土壤ごと取り上げ、硬化処理を試みたが、検出時点では既に潰れ、細片となってしまっており資料化することができなかつた。

土坑底部には埋葬部の構造に関係するとと思われるピット状の穴が 3 つ外側に向けて斜めに穿たれていた。釘や副葬品などは検出できなかつた。

(4) ピット

本調査区では 12 基のピットを検出した。全て As-B を埋土に含むピットであった。これらのピットは規則的な配置をとるものはなく、全て単独のピットであり、掘立柱建物跡などの遺構として認定できるものはなかつた。

B 区 I 基本土層 B 区 II 基本土層



B 区 I 基本土層

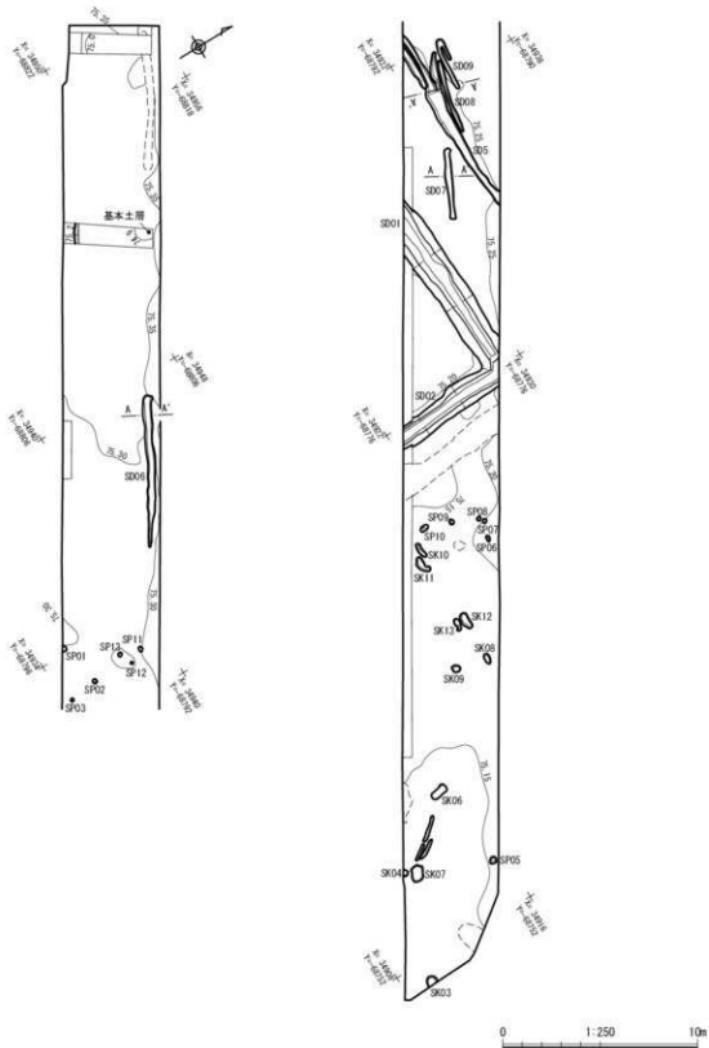
- 1 細褐色粘質土 (10YR3/3) 黏性強い。しまり強い。白色軽石微量。
- 2 黒褐色粘質土 (10Y2/3) 黏性強い。しまり強い。鉄分集積極めて多量。
- 3 細褐色シルト質土 (7.1Y3/4) 黏性強い。しまり強い。黒褐色粘質土 (10W2/3) 少量。鉄分集積多量。

B 区 II 基本土層

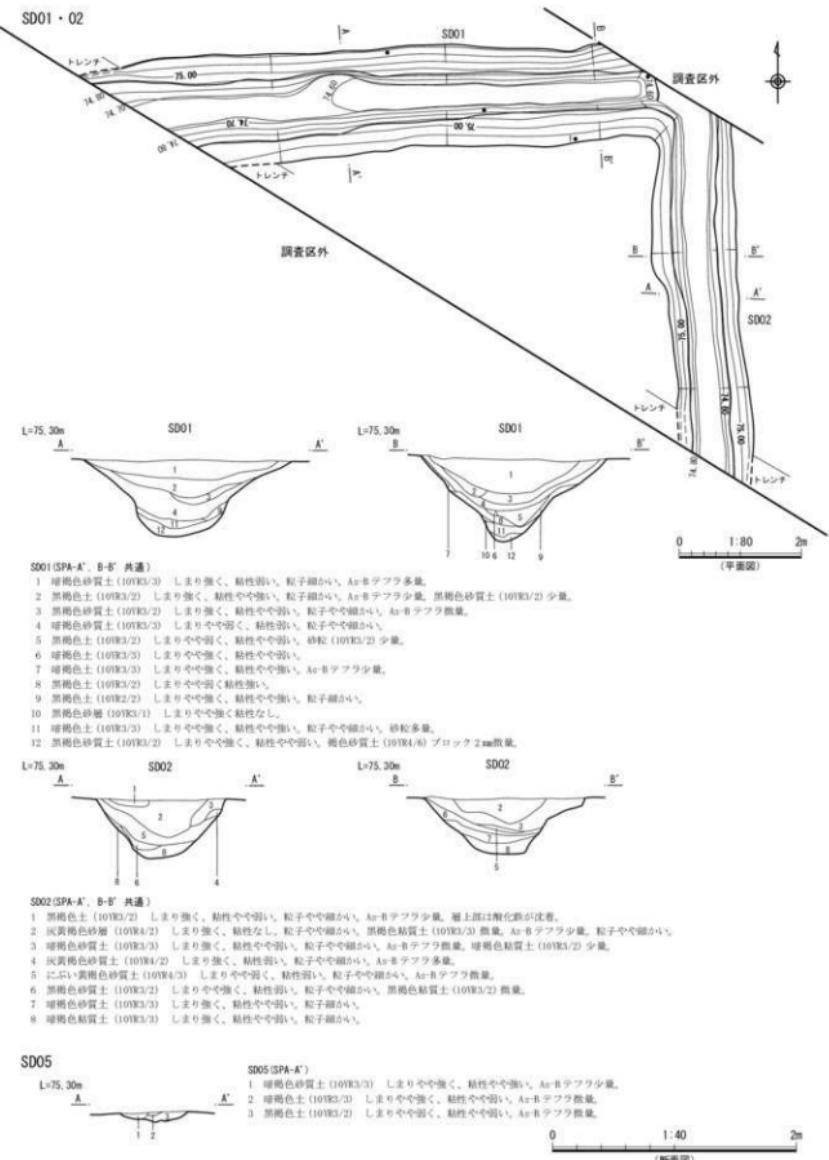
- 1 細褐色土 (10YR3/4) しまり弱い。粘性弱い。複耕土。Ar-A テフラ含む。
- 2 細褐色土 (10YR3/3) しまり弱い。粘性あり。土地改良工事盛土。Ar-A テフラ・Ar-B テフラ含む。
- 3 細褐色砂質土 (10W3/3) 粘性なし。しまり強い。Ar-B テフラ極めて多量。鉄分集積少量。
- 4 細褐色砂質土 (10W3/3) 粘性強い。しまり強い。白色軽石微量。
- 5 細褐色砂質土 (10W3/3) しまり弱い。粘性弱い。細褐色砂質土 (10Y3/3) を少量。Ar-B テフラ微量。軽石細粒。
- 6 灰黃褐色砂質土 (10Y4/2) しまり弱い。粘性弱い。褐色粘土 (10Y4/4) 極めて多量。軽石細粒。黒褐色粘質土 (10W3/2) ブロック微量。
- 7 黄褐色土 (10Y4/4) シルト質土。褐色粘土極めて多量。
- 8 にじむ黄褐色土 (10Y4/3) シルト質土。



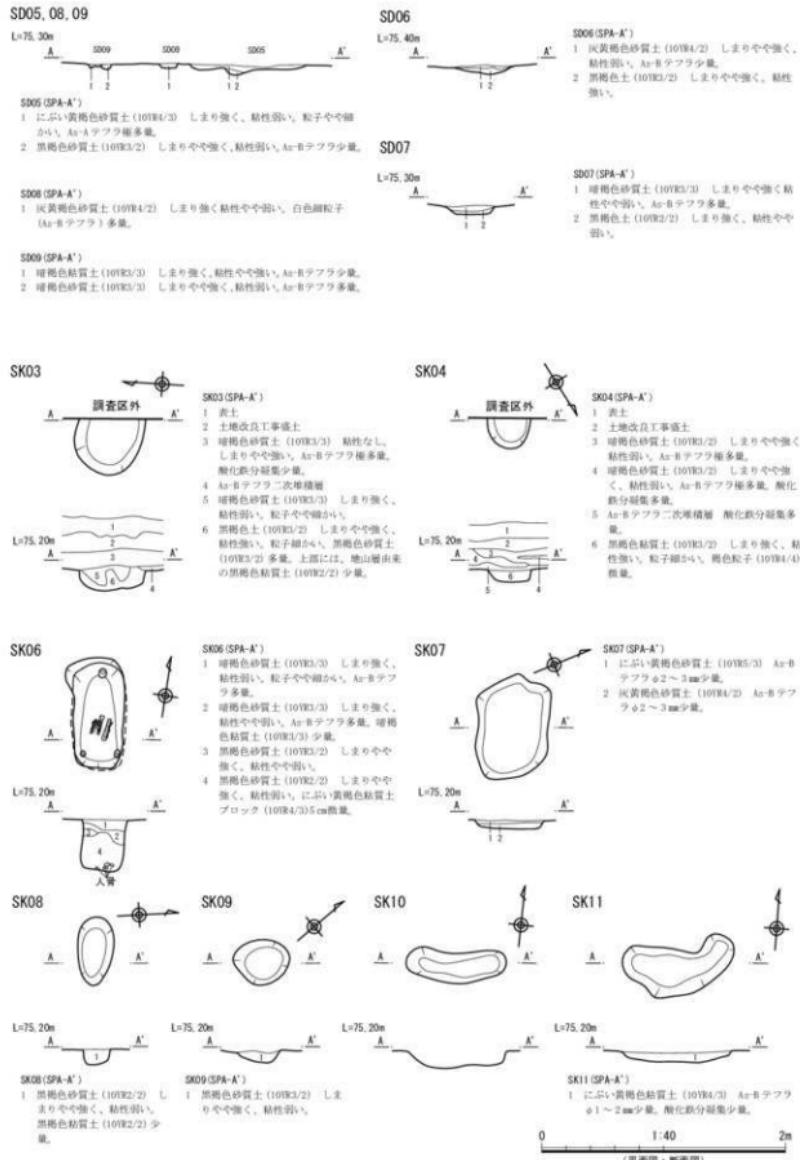
第 15 図 B 区 I・II 基本土層



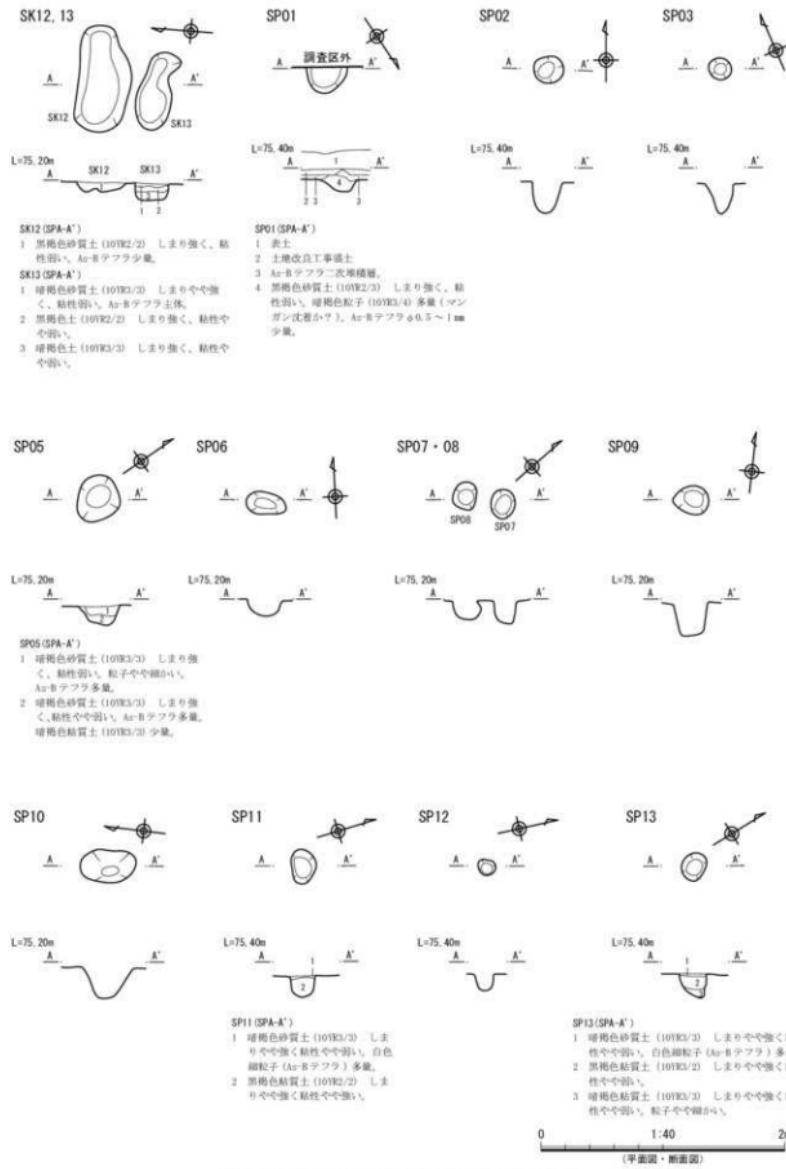
第 16 図 B 区 I 造構全体図



第 17 図 B 区 I SD01・02・05 道構図

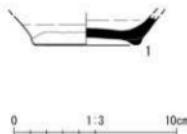


第 18 図 B 区 I SD05 ~ 09, SK03 ~ 04, 06 ~ 11 道構図



第 19 図 B 区 I SK12・13, SP01 ~ 03, 05 ~ 13 造構図

B 区 I 出土遺物



第20図 B区I 遺物図

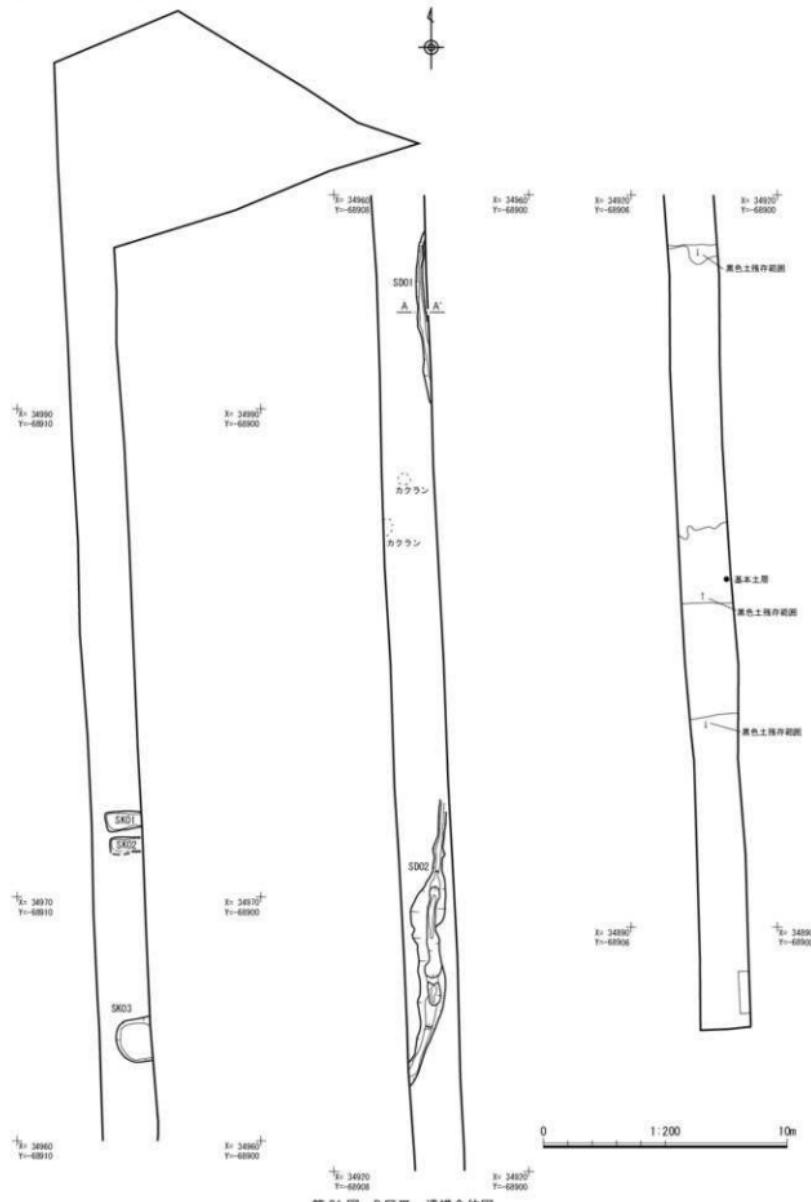
第3表 B区I 遺物観察表

図版番号 PL.32-1	遺物名 底窓	縦幅 横幅	法縦 (cm) 口径	直径 底高	成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①地色 ②色調 ③軽土 ④石質、チャート	残存 (%)	備考	
	SB01	底窓	—	6.4	口: 1.60	ロクロ成形。底面切削後に高台貼付。	①青 ②NN/ ③石質、チャート	10	

第4表 B区I 遺構観察表

名前	形状	主軸方位	掘距 (m)	直輪 切輪	深さ	時期	備考・出土遺物
SD01		N- 90° - E	0.48	1.80	0.72	Ae-B 陣下後	方形容の土地区画の脛か。土師器。底窓。高台付塊。古代玉。網器
SD02		N- 0°	0.46	1.40	0.51	Ae-B 陣下後	方形容の土地区画の脛か。土師器。底窓。高台・甕、底窓窓・甕、馬糞
SD03							欠番
SD04							欠番
SD05		N- 80° - E	0.76	0.88	0.07	古世以後	土師器。底窓。脚踏。網器
SD06		N- 60° - W	2.76	0.46	0.06	Ae-B 陣下後	土師器。陶器
SD07		N- 67° - W	3.64	0.38	0.07	Ae-B 陣下後	底窓。灰釉陶器。高台付塊
SD08		N- 72° - W	3.84	0.28	0.05	近現代	古世鉄器。網器
SD09		N- 84° - W	0.56	0.24	0.07	Ae-B 陣下後	
SD10							欠番
SD11							欠番
SK02	小輪形	N- 2° - W	0.56	0.46	0.17	Ae-B 陣下後	
SK04	小輪形	N- 59° - W	0.56	0.25	0.12	Ae-B 陣下後	
SK05							欠番
SK06	長方形	N- 11° - W	0.68	0.31	0.32	Ae-B 陣下後	土瓶基。幼児人骨
SK07	楕円形	N- 57° - W	0.89	0.60	0.07	Ae-B 陣下後	
SK08	楕円形	N- 81° - W	0.57	0.30	0.12		
SK09	円形		0.47	0.37	0.10		
SK10	不輪形	N- 86° - E	0.82	0.25	0.15		
SK11	不輪形	N- 86° - E	0.92	0.42	0.08	Ae-B 陣下後	
SK12	楕円形	N- 89° - E	0.88	0.43	0.08	Ae-B 陣下後	
SK13	不輪形	N- 78° - W	0.65	0.29	0.14	Ae-B 陣下後	
SP01	不輪形	N- 59° - W	0.34	0.21	0.10	Ae-B 陣下後	土師器。底窓
SP02	円形		0.25	0.24	0.26		
SP03	円形		0.19	0.18	0.25		
SP04							欠番
SP05	円形		0.40	0.35	0.17	Ae-B 陣下後	
SP06	楕円形	N- 76° - W	0.33	0.19	0.14		
SP07	円形		0.24	0.20	0.19		
SP08	円形		0.23	0.19	0.06		
SP09	円形		0.30	0.25	0.27		
SP10	楕円形	N- 14° - W	0.45	0.27	0.25		
SP11	円形		0.28	0.29	0.18	Ae-B 陣下後	
SP12	円形		0.16	0.14	0.14		
SP13	円形		0.24	0.18	0.21	Ae-B 陣下後	

第5節 B区Ⅲ



第21図 B区Ⅲ 遺構全体図

(1) 調査区の概要

B 区 III は調査区西側の区画道路 4 号線工事に伴い発掘調査を実施した。

本調査区では平安時代と近世の遺構および遺物を検出した。遺構の内約は、溝 2 条、土坑 3 基である。調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんでおり、As-B はほとんど残っていないかった。よって As-B 堆積層下面と、As-B が削平されている場合には土地改良工事土下面を遺構検出面とした。

検出した遺構の内訳は、溝 2 条、土坑 3 基である。

(2) 溝

本調査区では、2 条の溝を検出した。

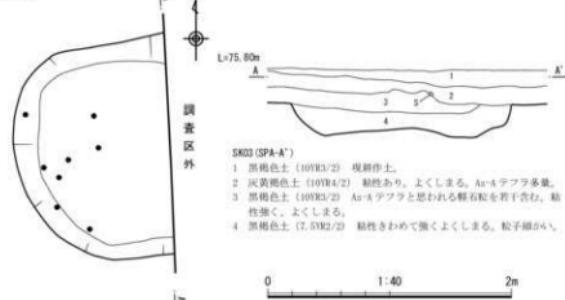
SD02 は 9 世紀後半の遺物が多く出土しており、当該期に埋没していると考えられる。遺構肩部には As-C が堆積しており、先行する溝

SD01 SD02
L=75.60m A A' L=75.40m A A'

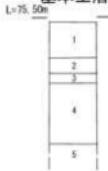
SK01・02



SK03



基本土層

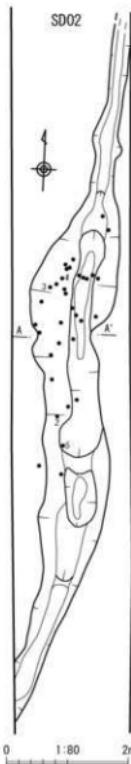


基本土層

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 規耕作土。粘性有り。よくしまる。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) As-B テフラを多量に含む。粘性有り。強くしまる。
- 3 黒褐色土 (7.SYR1/2) 粘土質。粘性きわめて強く。よくしまる。
- 4 黒褐色土 (7.SYR1/2) 粘土質。粘性きわめて強く。よくしまる。
- 若干の鉄分化粧粒子を含む。
- 5 黑褐色土 (7.SYR4/2) 粘土質。粘性きわめて強く。よくしまる。
- 鉄分化粧粒子を多量に含む。

0 1:40 2m

第 22 図 B 区 III 基本土層



第 23 図 B 区 III SD01・02, SK01～03 遺構図

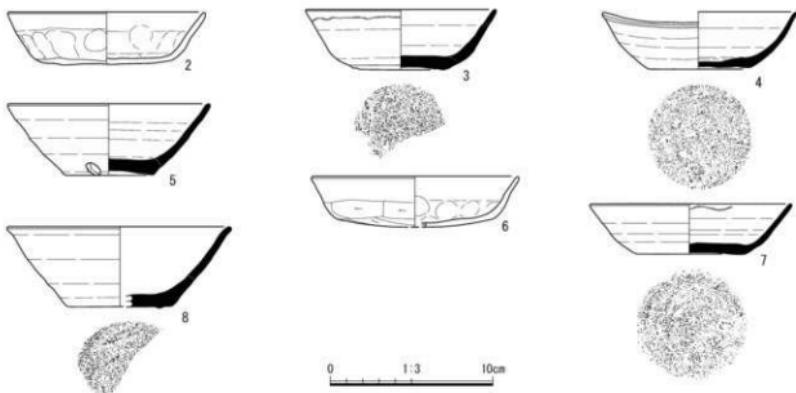
があった可能性がある。

(3) 土坑

本調査区では、3基の土坑を検出した。ど

の土坑もAs-Aが埋土に入っており、近世の所産である。

SK01・02はAs-A二次堆積を埋土に持つ。As-A処理坑と思われる。



第24図 B区III 遺物図

第5表 B区III 遺物観察表

固番号	遺物名	種別 器種	法面 (cm)	成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③断土	残存 (%)	備考
第24図2 PL32-2	S002	土器部 外	12.0 8.0 3.25	外：ロクロコナデ。底面指壓叩打後にヨコナデ。底面ハケズリ 内：ロクロコナデ。	①良好 ②S16/6 ③チャート。凝灰岩、 角閃石	70	
第24図3 PL32-3	S002	直器部 外	【11.6】 【5.8】 3.7	ロクロ成形 外：ロクロナデ。底面回転系切木調整 内：ロクロナデ	①焼成りやや弱い ②S17/1 ③内：S17/3 ④チャート。石英、安 山岩	40	伏地か、外側か ら1mmの範囲のみ復元
第24図4 PL32-4	S002	直器部 外	【11.9】 6.2 3.7	ロクロ成形 外：ロクロナデ。底面回転系切木調整 内：ロクロナデ	①良好 ②2.S16/1 ③石英、チャート	60	全体に温形がゆ がんでいる
第24図5 PL32-5	S002	直器部 外	【12.4】 【5.4】 4.4	ロクロ成形 外：ロクロナデ。底面回転系切木調整 内：ロクロナデ	①焼成りやや弱い ②2.S17/1 ③石英、チャート	25	
第24図6 PL32-6	遺物外 部	土器部 外	【12.6】 【9.8】 ③.1	底部半底気味 外：ロクロコナデ。体部ハケズリ 内：ロクロコナデ。体部指壓叩打後にヨコナデ	①良好 ②S17/6 ③石英、チャート。凝 灰岩、角閃石	40	
第24図7 PL32-7	遺物外 部	直器部 外	【12.5】 6.6 3.1	ロクロ成形 外：ロクロナデ。底面回転系切木調整 内：ロクロナデ	①焼成りやや弱い ②S14/1 ③焼成された粘土	50	表面削除吸着
第24図8 PL32-8	遺物外 部	直器部 外	【13.7】 【6.4】 5.0	ロクロ成形 外：ロクロナデ。底面回転系切木調整 内：ロクロナデ	①焼成り弱い ②2.S16/1 ③石英、片岩	30	内面は磨滅が著 しい

第6表 B区III 遺構観察表

名称	形状	主軸方位	復原 (m)	時期	備考・出土遺物
S001	N°-E	10.9	1.39	0.11	
S002	N°-W-E	6.89	0.49	0.32	9世紀後半 土器部分・壁、直器部・片岩、大甕
SK01	不整形	N°-S-E	1.29	0.81	0.19 As-A降下後 As-A処理坑
SK02	不整形	N°-S-E	1.27	0.60	0.67 As-A降下後 As-A処理坑
SK03	不整形	N°-S-E	1.82	1.27	0.28 As-A降下後

第6節 C 区 I・II・V

(1) 調査区の概要

C 区 I・II・V は、調整池工事に伴い発掘調査を実施した。3 区画に分けて発掘調査を行ったため、C 区 I・II・V の番号を割り当てている。遺構内容は一連であるため、ここではまとめて取り上げる。

調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんでおり、As-B 一次堆積層は良好に残存していなかった。このため、遺構確認面は原則 As-B 層下としているが、土地改良工事盛土下の黒褐色粘質土面とした場合もある。

本調査区では As-C テフラ（以下、本文中では As-C テフラとする。）降下後～近現代までの遺構を検出した。遺構の内訳は、溝 85 条、自然流路 2 条、掘立柱建物跡 1 軒、土坑 29 基、ピット 20 基である。

(2) 溝

本調査区では、85 条の溝を検出した。これらの溝はほとんどが流下方向が北西から南東となっており、後述する NRO1・02 と共通する。

SD09・18・21・104 といった一部の溝は真北を意識しており、自然地形に沿ったものとは異なる性格を有していると考えらえる。

(3) 自然流路

本調査区では、2 条の自然流路を検出した。NRO1・02 は、調査区南半に位置し、どちらも北西から南東へ流下する自然流路である。

NRO2 は埋土下部に As-C 混土の堆積を確認でき、As-B 降下頃までにはほぼ埋没する。

NRO1 は上限年代は不明だが現代まで存続する。

遺物は多様な時代のものが出土するが、土器はほとんど細片、かつ、割口が丸くなっている。出土遺物は周囲・上流からの流れ込みと考えられる。

(4) 掘立柱建物跡

本調査区では、掘立柱建物跡 1 軒を検出した。

調査区北端に位置し、梁行 2 間、桁行 3 間のピット 10 基によって構成される側柱建物であり、平面長方形を呈する。

主軸は真北を意識している。P4・P5 にのみ根石が入る。遺物は乏しいが、遺構埋土に火山噴出物が入らないため、As-B 降下以前の遺構の可能性がある。

(5) 土坑

本調査区では、29 基の土坑を検出した。

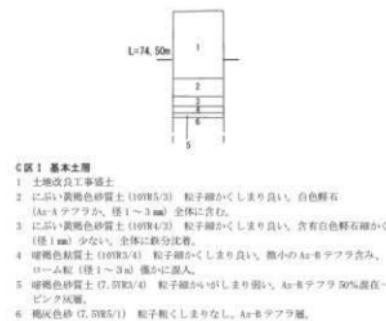
溝の中に土坑が重複するものが多く、性格を特定することができる土坑はなかった。

(6) ピット

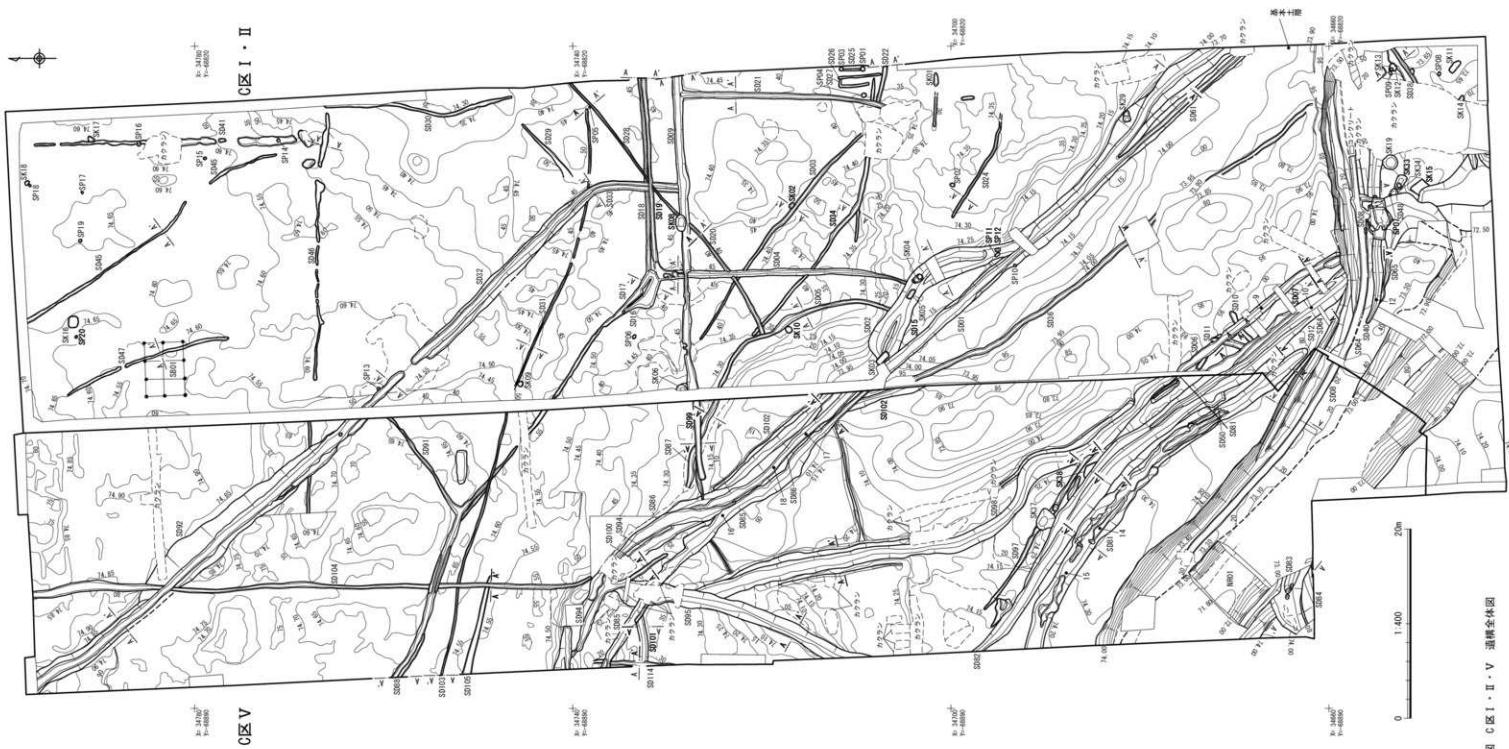
本調査区では 20 基のピットを検出した。

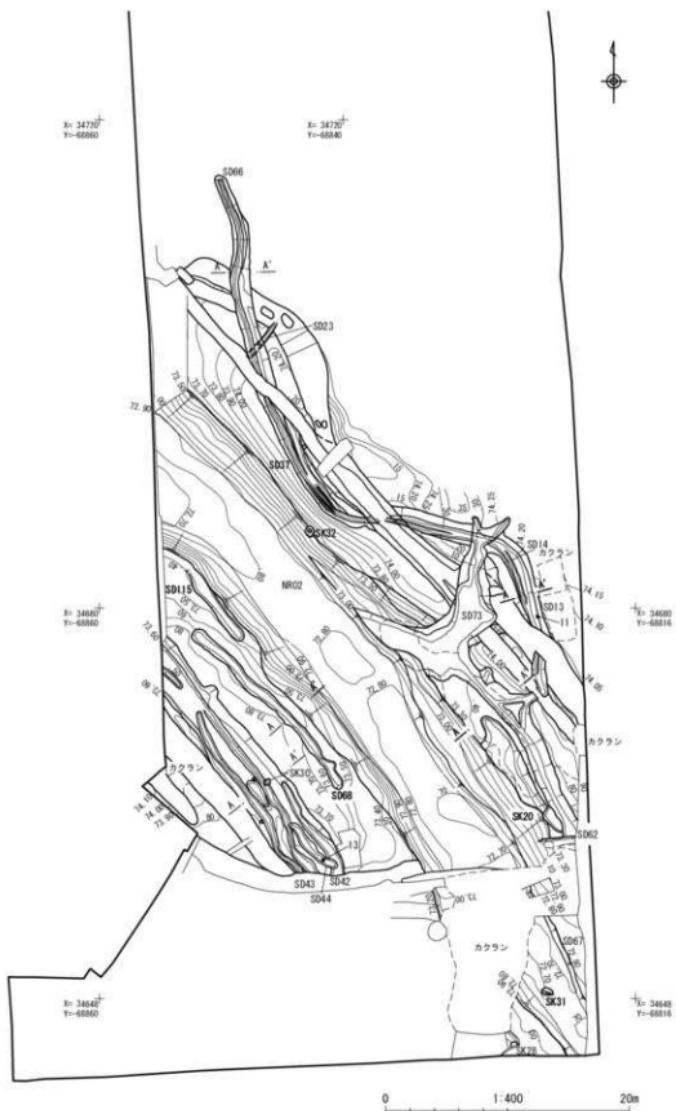
性格を掴むことができる遺構は掘立柱建物跡のピット以外には検出できなかつた。

C 区 I 基本土層



0 1:40 2m
第 25 図 C 区 I 基本土層



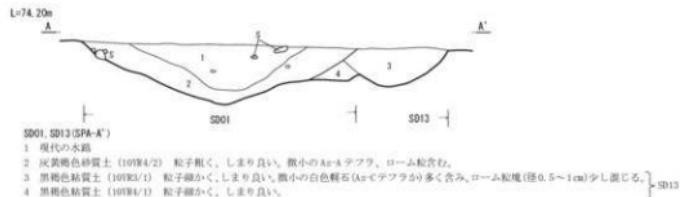


第27圖 C区1第2面 遺構全体図

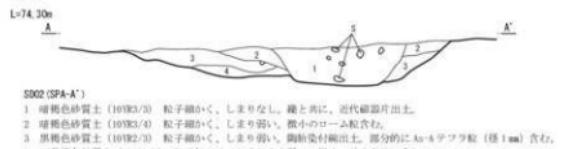


第28図 C区V第2面 遺構全体図

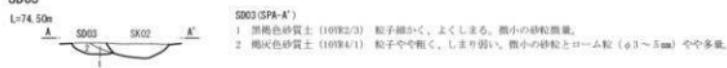
SD01, 13



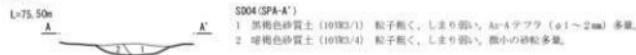
SD02



SD03



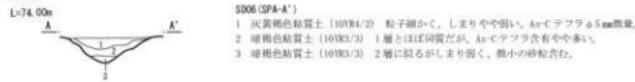
SD04



SD05



SD06



SD07

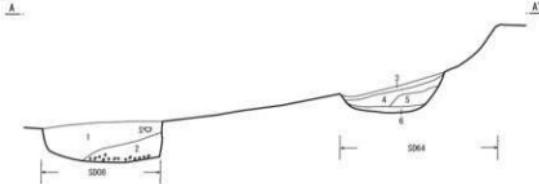


0 1:40 2m

第29図 C区 I・II・V SD01～07・13 透構図

SD08, SD64

L=74.20m



SD08, SD64 (SPA-A')

- 1 淡黄褐色砂質土 (10YR4/2) 粒子やや粗く。よくしまる。塊山シルトブロック ($\phi 5 \sim 30$ cm) 隅状に含む。縫 (1 ~ 5 cm) 含む。
2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3) 粒子細かく。しまり弱い。シルト粒 ($\phi 1 \sim 30$ cm) 蔓在し。下位 5 cmは縫 (1 ~ 2 cm) 多量。 } SD08
3 にぶい黄褐色砂層 (10YR7/3) 粒子細かく。しまり弱い。部分的に酸化鉄分沈着。
4 黑褐色砂質土 (10YR3/3) 粒子細かく。しまりやや弱い。夾雜物なし。
5 にぶい黄褐色砂質土 (10YR3/3) 粒子やや粗いが。よくしまる。部分的に4層砂質土含む。
6 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 粒子やや粗く。しまりやや弱い。部分的に4層砂質土混じる。

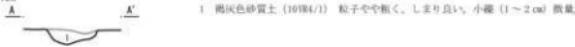
SD09

L=74.60m



SD10

L=74.10m

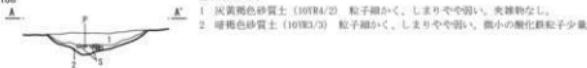


SD10 (SPA-A')

- 1 淡灰色砂質土 (10YR4/1) 粒子やや粗く。しまり良い。小縫 (1 ~ 2 cm) 略量。

SD11

L=74.10m

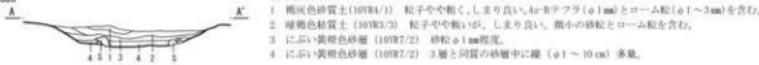


SD11 (SPA-A')

- 1 淡黄褐色砂質土 (10YR4/2) 粒子細かく。しまりやや弱い。夾雜物なし。
2 淡褐色砂質土 (10YR3/2) 粒子細かく。しまりやや弱い。微小の酸化鉄粒少量。

SD12

L=74.00m

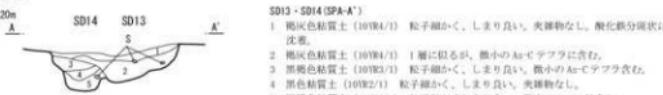


SD12 (SPA-A')

- 1 淡黄褐色砂質土 (10YR4/1) 粒子やや粗く。しまり良い。Ar-kテフラ ($\phi 1 \sim 3$ cm) を含む。
2 淡褐色砂質土 (10YR3/3) 粒子やや粗いが。しまり良い。微小の砂粒とローム粒を含む。
3 にぶい黄褐色砂層 (10YR7/2) 砂粒 $\phi 1$ cm程度。
4 にぶい黄褐色砂層 (10YR7/2) 3層と同質の砂層中に縫 ($\phi 1 \sim 10$ cm) 多量。

SD13, 14

L=74.20m

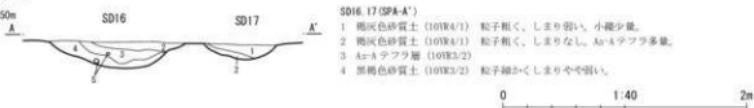


SD13 - SD14 (SPA-A')

- 1 淡灰色砂質土 (10YR4/1) 粒子細かく。しまり良い。夾雜物なし。酸化鉄分斑状に沈着。
2 淡灰色砂質土 (10YR4/1) 層に似るが。微小のAr-kテフラ ($\phi 1 \sim 3$ cm) を含む。
3 黑褐色砂質土 (10YR3/3) 粒子細かく。しまり良い。微小のAr-kテフラ含む。
4 黑色粘土 (10YR2/1) 粒子細かく。しまり良い。夾雜物なし。
5 黑褐色砂質土 (10YR3/3) 粒子細かくしまり良い。微小のローム粒含む。

SD16, 17

L=75.50m



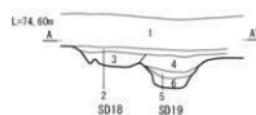
SD16, 17 (SPA-A')

- 1 淡灰色砂質土 (10YR4/1) 粒子粗く。しまり弱い。小縫少量。
2 淡灰色砂質土 (10YR4/1) 粒子粗く。しまりなし。Ar-kテフラ多量。
3 Ar-kテフラ層 (10YR3/2)
4 黑褐色砂質土 (10YR3/3) 粒子細かくしまりやや弱い。

0 1/40 2m

第30図 C区 I・II・V SD08 ~ 14・16・17・64 通構図

SD18・19



SD18・19(SPA-A')

- 1 表土
- 2 硅褐色砂質土 (10YR1/4) 粒子粗く、しまり良い。上部に部分地被。
- 3 黑褐色砂質土 (10YR3/1) 粒子やや粗く、しまりやや弱い。As-Aテフラ ($\phi 3 \sim 5$ mm) 多量。
- 4 黑灰色砂質土 (10Y4/1) 粒子やや粗く、しまりやや弱い。As-Aテフラ ($\phi 1 \sim 5$ mm) 多量。
- 5 As-Aテフラ(2次堆積層) (10Y3/3)
- 6 増粘色の質土 (10Y3/4) 粒子粗く、しまり弱い。As-Aテフラ ($\phi 1 \sim 3$ mm) 多量。

SD18
SD19

SD20



SD20(SPA-A')

- 1 暗褐色粘質土 (10YR4/1) 粒子細かく、しまり良い。微小の砂粒とローム粒 ($\phi 1 \sim 5$ mm) 含む。
- 2 暗褐色粘質土 (10YR6/1) 1層に限るが、ローム粒 ($\phi 1 \sim 10$ mm) や多量。

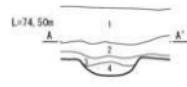
SD21



SD21(SPA-A')

- 1 暗褐色砂質土 (10YR4/1) 粒子細かく、しまり良い。微小のAs-Bテフラ含む。

SD22



SD22(SPA-A')

- 1 表土
- 2 硅褐色砂質土 (10YR3/4) 粒子細かく、しまりやや弱い。微小のAs-Aテフラと酸化鉄粒子含む。
- 3 硅褐色砂質土 (10YR3/3) 粒子細かく、しまりやや弱い。微小の酸化鉄粒子含む。
- 4 黑褐色砂質土 (10YR3/1) 粒子細かく、しまりやや弱い。失透性なし。

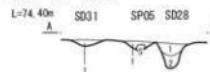
SD24



SD24(SPA-A')

- 1 暗褐色砂質土 (10YR3/2) 粒子細かく、しまり弱い。微小のAs-Aテフラ含む。

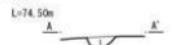
SD28・31・SP05



SD28, 31, SP05(SPA-A')

- 1 暗褐色粘質土 (10YR4/1) 粒子細かく、しまり良い。微小の砂粒とローム粒 ($\phi 1 \sim 5$ mm) 含む。
- 2 暗灰色粘質土 (10YR6/1) 1層に限るが、ローム粒 ($\phi 1 \sim 10$ mm) や多量。

SD31



SD31(SPA-A')

- 1 暗褐色粘質土 (10YR4/1) 粒子細かく、しまり良い。微小の砂粒とローム粒 ($\phi 1 \sim 5$ mm) 含む。

SD32



SD32(SPA-A')

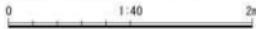
- 1 黑褐色砂質土 (10YR3/2) 粒子やや粗く、しまりやや弱い。ローム・シルト粒 ($\phi 10 \sim 30$ mm) 少量。
- 2 暗灰色砂質土 (10YR4/1) 1層に限るが、ローム・シルト粒多量。

SD33

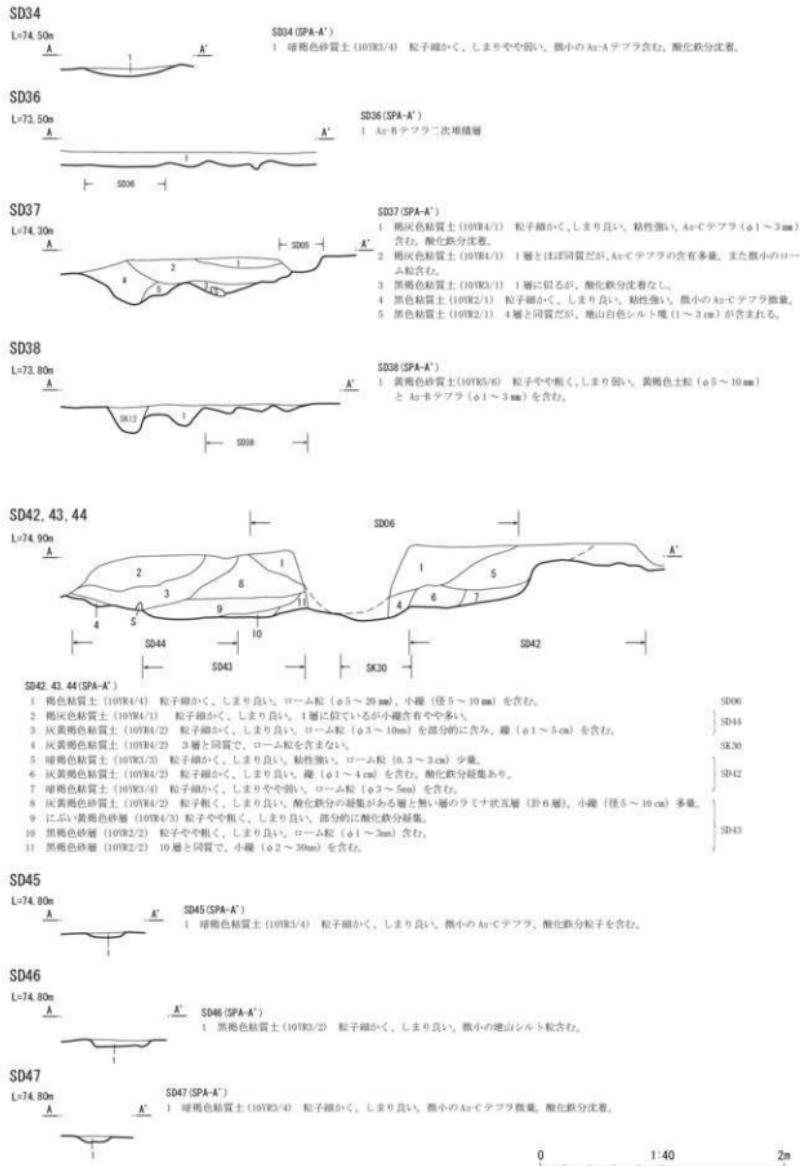


SD33(SPA-A')

- 1 黑褐色砂質土 (10YR3/2) 粒子やや粗く、しまりやや弱い。ローム・シルト粒 ($\phi 10 \sim 30$ mm) 少量。
- 2 暗灰色砂質土 (10YR4/1) 1層に限るが、ローム・シルト粒多量。
- 3 黄褐色砂質土 (10YR4/2) 粒子細かく、しまりやや弱い。酸化鉄分凝塊 ($\phi 10 \sim 15$ mm) 含む。



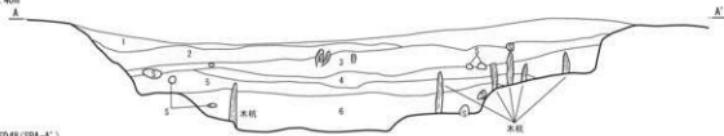
第31図 C区I・II・V SD18～22・24・28・31～33, SP05 遊構図



第32図 C区 I・II・V SD34・36～38・42～47 道構図

SD48

L=73.40m



SD48 (SPA-A')

- 1 黄褐色粘質土 (10Y6/4-2) 粒子細かく、しまり良い。粘性強い。Ar-Aテフラ ($\phi 1 \sim 3\text{ mm}$) 含む。上部には、酸化鉄分層 ($\phi 5 \sim 10\text{ mm}$) 含む。
- 2 黑褐色粘質土 (10Y6/2-2) 1層に限るが、より褐色で酸化鉄分層を含まない。
- 3 棕灰色砂質土 (10Y4/4-1) 粒子やや粗く、しまり良い。Ar-Aテフラ ($\phi 1 \sim 2\text{ mm}$) 含む。
- 4 棕灰色砂質土 (10Y4/4-1) 3層に限るが、Ar-Aテフラを含まない。
- 5 黑褐色砂層 (10Y3/2-2) 粒子やや粗く、しまり良い。礫 ($\phi 5 \sim 10\text{ cm}$) を少量。
- 6 黑褐色シルト質土 (10Y3/2-2) 粒子やや粗く。しまり弱い。礫 ($\phi 2 \sim 10\text{ cm}$) 多量。

SD62

L=74.10m



SD62 (SPA-A')

- 1 黑褐色粘質土 (10Y3/3-1) 粒子細かく、しまり良い。粘性強い。小礫 ($\phi 1 \sim 2\text{ cm}$) と白黄色シルト粒 (径 $5 \sim 10\text{ mm}$) 含む。酸化鉄分沈着。
- 2 黑褐色粘質土 (10Y2/2-2) 1層に限るが小礫、シルト粒の量少ない。
- 3 黄褐色粘質土 (10Y4/4-2) 粒子細かく、しまり良い。粘性強い。微小の堆山白色シルト粒含む。
- 4 黑色粘質土 (10Y2/2-1) 粒子やや粗く、しまりやや弱い。白黄色シルト粒 ($\phi 1 \sim 3\text{ cm}$) 含む。
- 5 棕褐色粘質土 (17.5Y4/4-6) 粒子やや粗く、しまりやや弱い。4層と同質で酸化鉄分層を含む。

SD68

L=73.90m

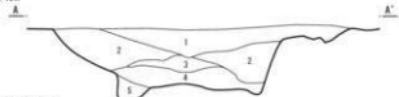


SD68 (SPA-A')

- 1 黑色粘質土 (10Y2/2-1) 粒子細かく、しまり良い。粘性強い。ローム粒 ($\phi 1 \sim 10\text{ mm}$) 多量。

SD81

L=74.40m



SD81 (SPA-A')

- 1 淡褐色砂質土 (10Y4/3-3) 粒子細かく、かたくしまる。ローム粒 ($\phi 5 \sim 10\text{ mm}$) 多量。
- 2 淡褐色砂質土 (10Y3/3-3) 1層に限るがローム粒比較的小なく。礫 ($\phi 1 \sim 5\text{ cm}$) を含む。
- 3 淡褐色砂質土 (10Y3/3-3) 1層に限るが、2層よりもさらにローム粒含む少なし。中位を中心に微小の砂粒を含む。
- 4 黄褐色粘質土 (10Y4/2-2) 粒子粗く、しまり弱い。礫 ($\phi 1 \sim 5\text{ cm}$) を含む。
- 5 5-6 黄褐色土 (10Y5/4) 粒子細かく。しまり弱い。シルト質。微小のローム粒と堆積褐色土を含む。

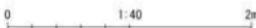
SD82

L=74.40m



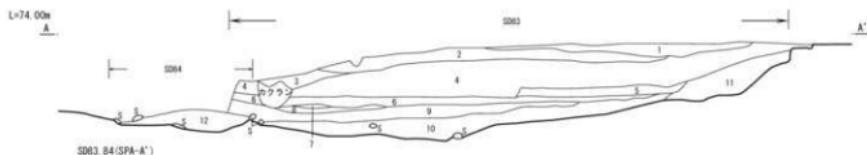
SD82 (SPA-A')

- 1 淡褐色粘質土 (10Y3/3-3) 粒子やや粗く、しまり良い。白色粒子 (微小 $\sim 3\text{ mm}$) 多量。
- 2 黑褐色粘質土 (10Y3/2) 粒子やや粗く。しまり良い。礫 ($\phi 1 \sim 5\text{ cm}$) を含む。
- 3 黄褐色砂質土 (10Y3/3-1) 粒子やや粗く、しまり良い。ローム粒 ($\phi 5 \sim 10\text{ mm}$) を含む。
- 4 黑褐色粘質土 (10Y2/2-3) 粒子細かく、しまり良い。白色粒子 (微小) とローム粒 ($\phi 3 \sim 5\text{ mm}$) 多量。また小礫 ($\phi 3 \sim 5\text{ mm}$) を含む。酸化鉄分沈着。
- 5 黑褐色粘質土 (10Y3/2-1) 粒子細かく、しまり良い。小礫 ($\phi 5 \sim 20\text{ mm}$) を含む。
- 6 黑褐色粘質土 (10Y3/1) 5層中に砂と小礫含む。
- 7 反黄褐色砂質土 (10Y5/2-2) 粒子細かく、しまり良い。中位にシルト (幅約 3 cm) を含む。
- 8 反黄褐色砂質土 (10Y4/2) 粒子粗く、しまり弱い。砂層を部分的に含み。小礫 ($\phi 5 \sim 20\text{ mm}$)、ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{ cm}$) を含む。

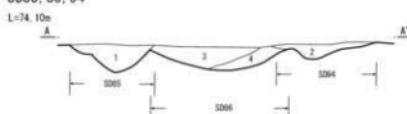


第33図 C区 I・II・V SD48・62・68・81・82 遺構図

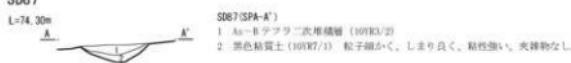
SD83・84



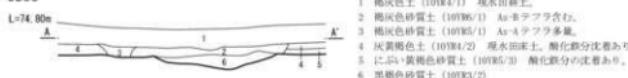
SD85, 86, 94



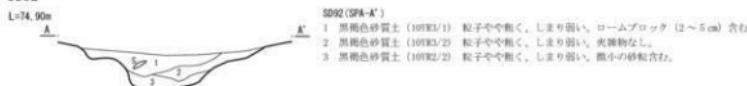
SD87



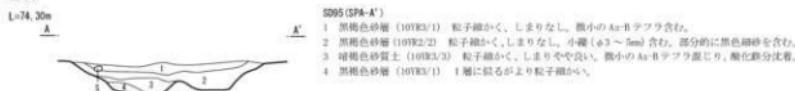
SD88



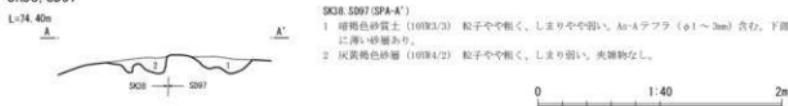
SD92



SD95



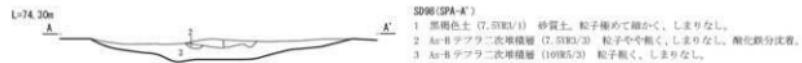
SK38, SD97



0 1:40 2m

第34図 C区I・II・V SD83～88, 92, 94, 95, 97, SK38 違構図

SD98



SD99



SD100



SD101



SD103



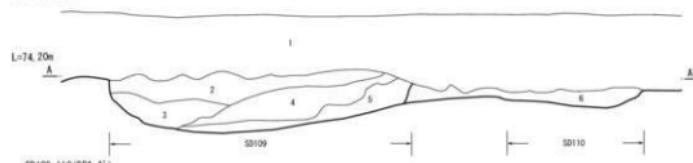
SD104



SD106



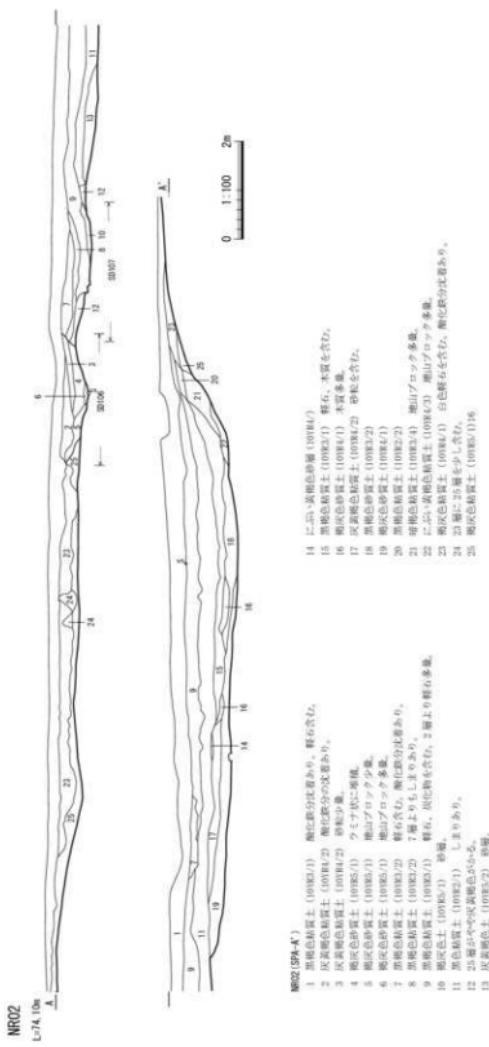
SD109, 110



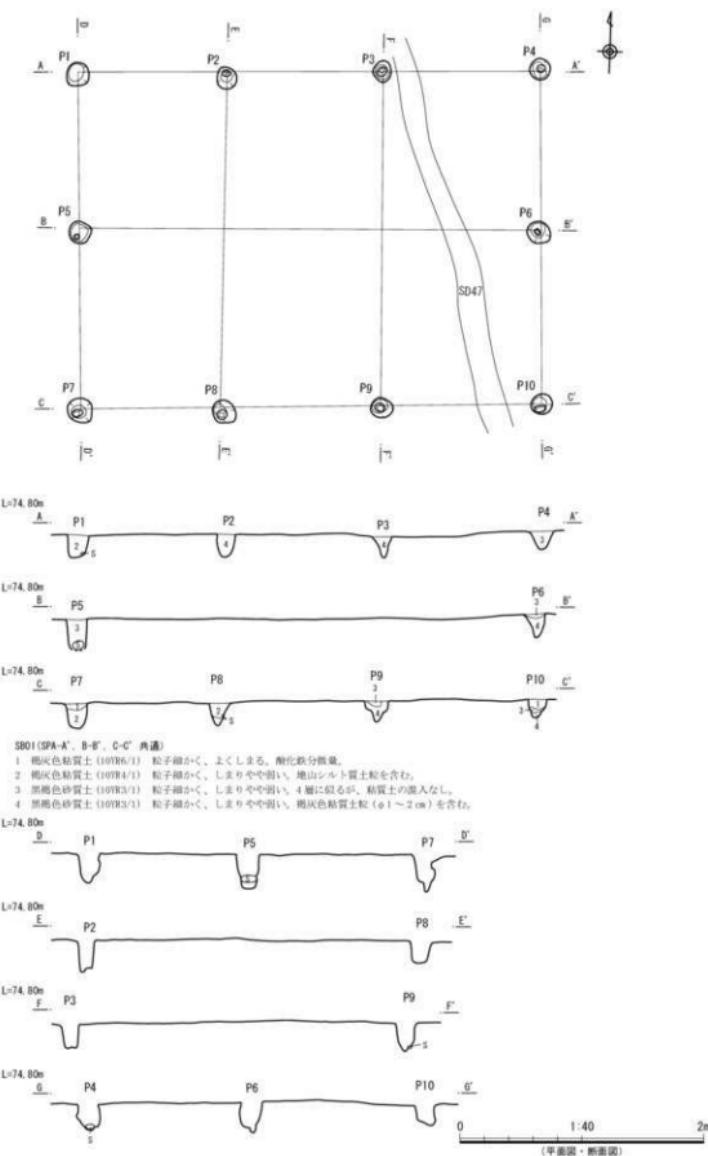
SD114



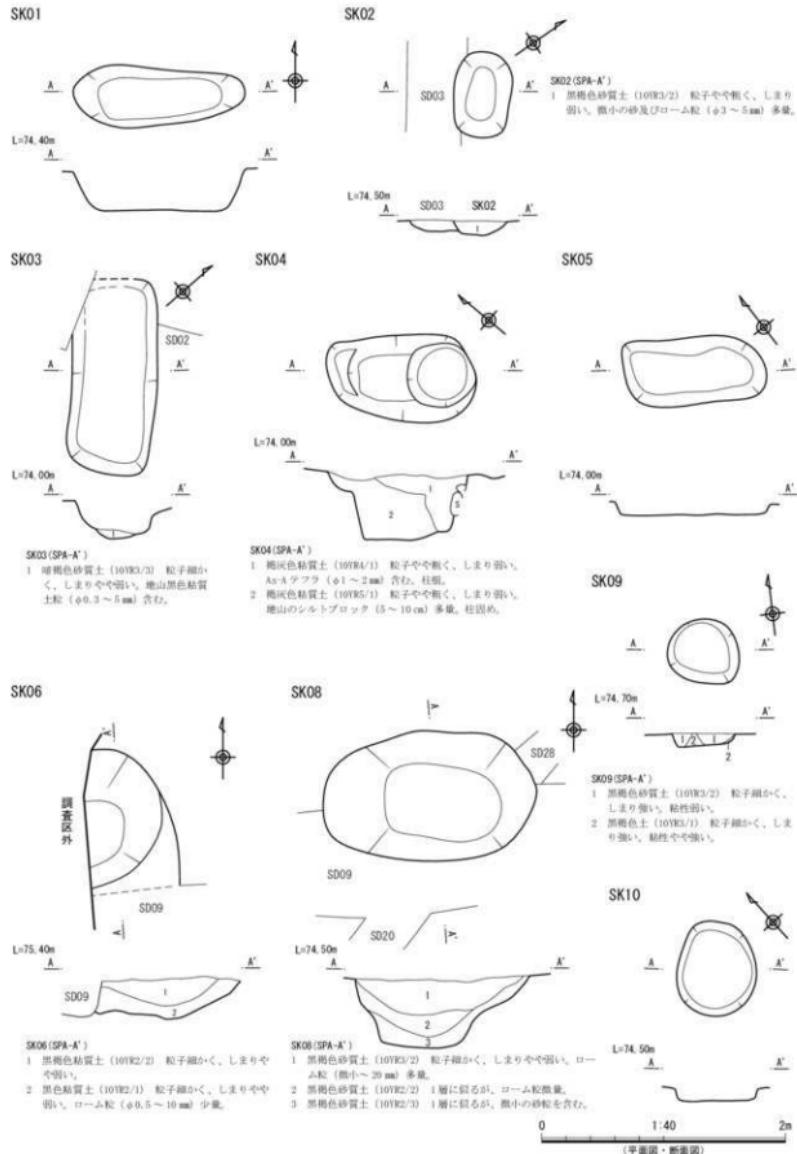
第35図 C区I・II・V SD99～101・103・104・106・109・110・114 造構図



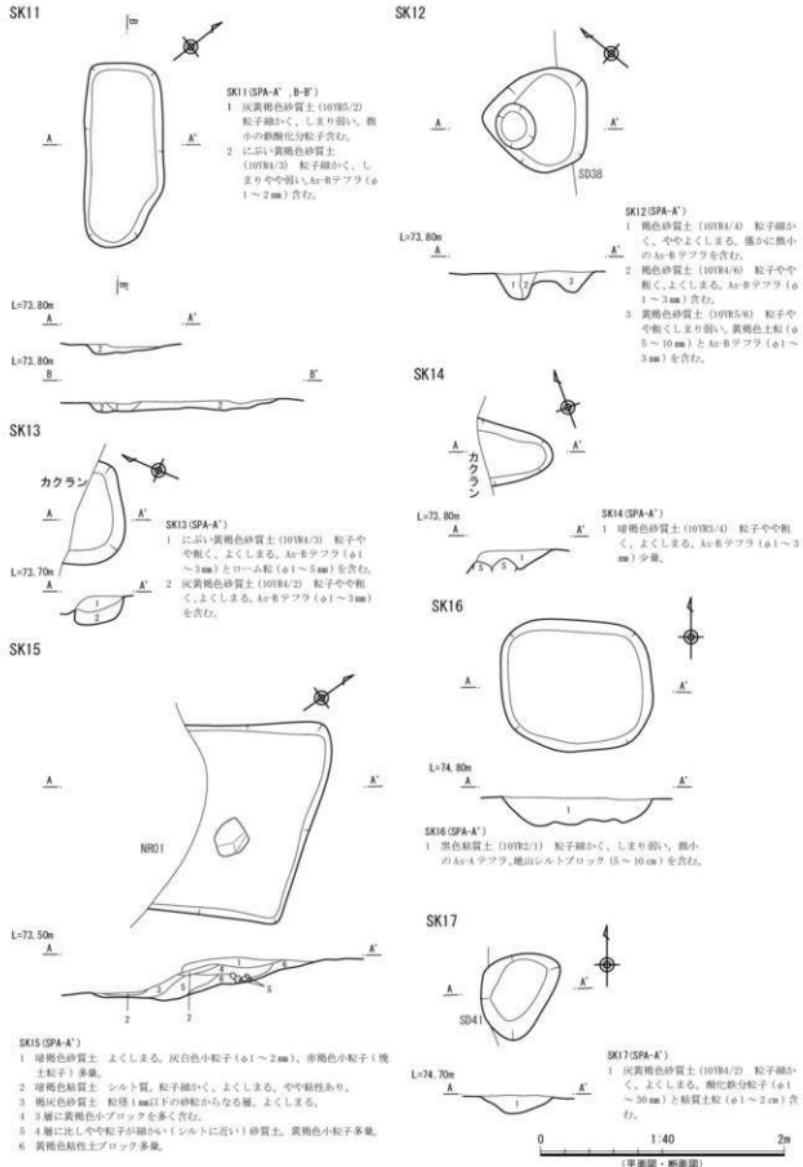
SB01



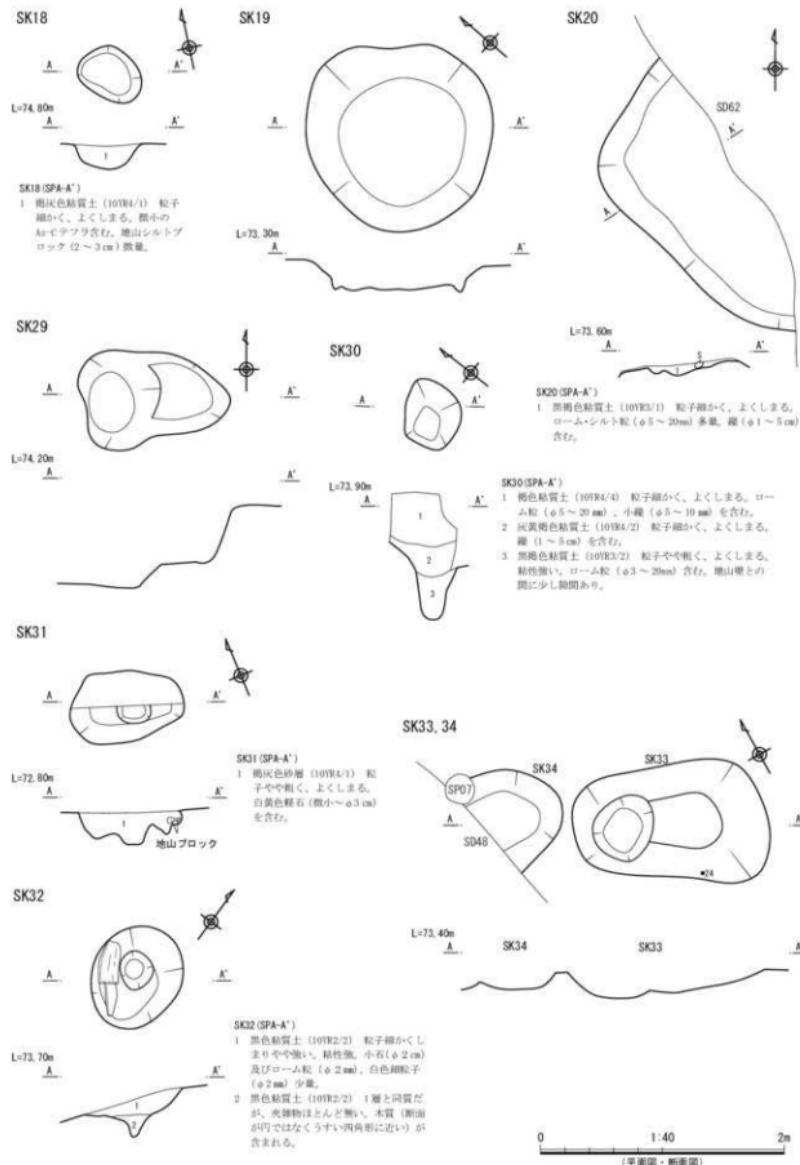
第37図 C区I+II+V SB01 造構図



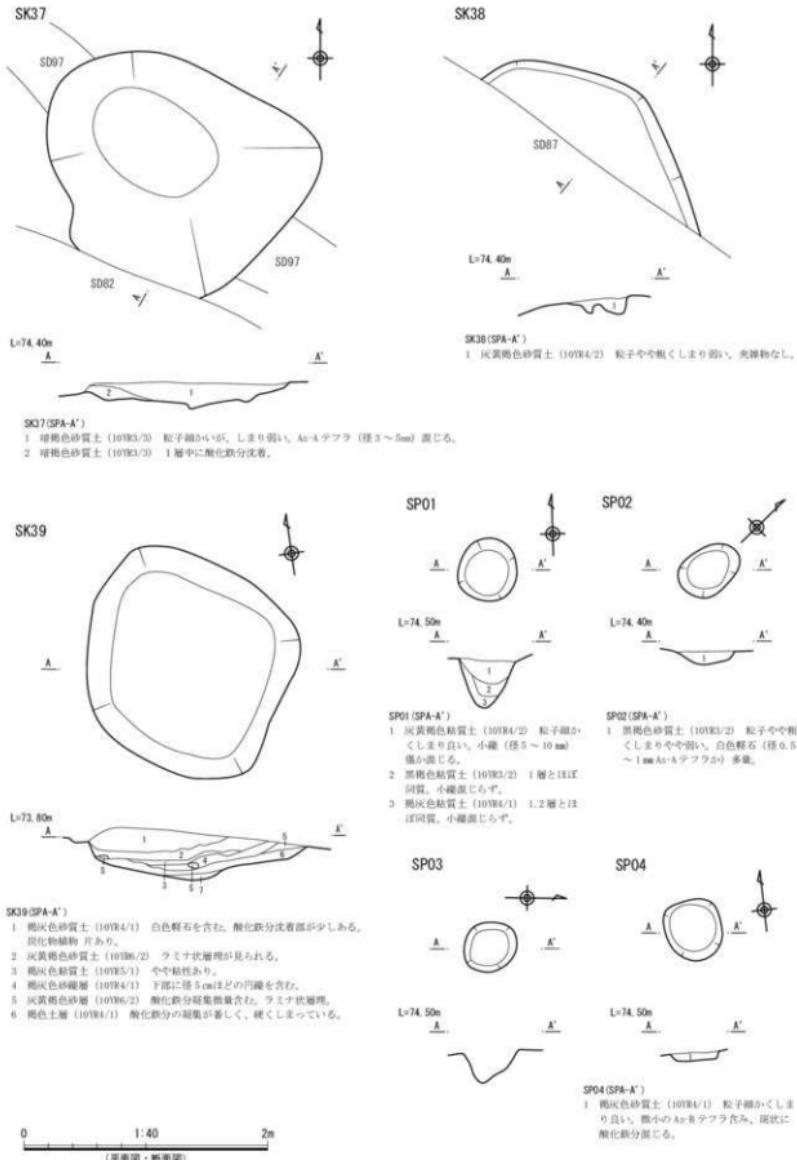
第38図 C区 I・II・V SK01～06・08～10 遺構図



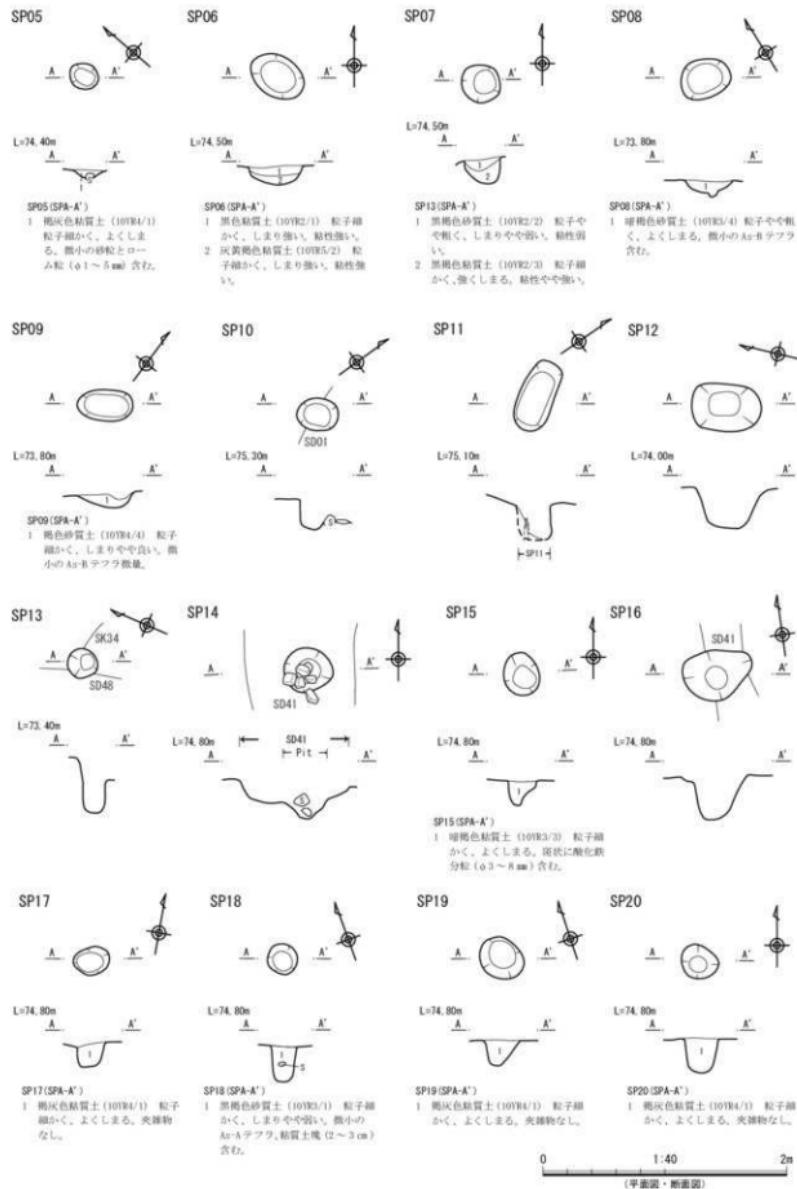
第39図 C区I・II・V SK11～17 造構図



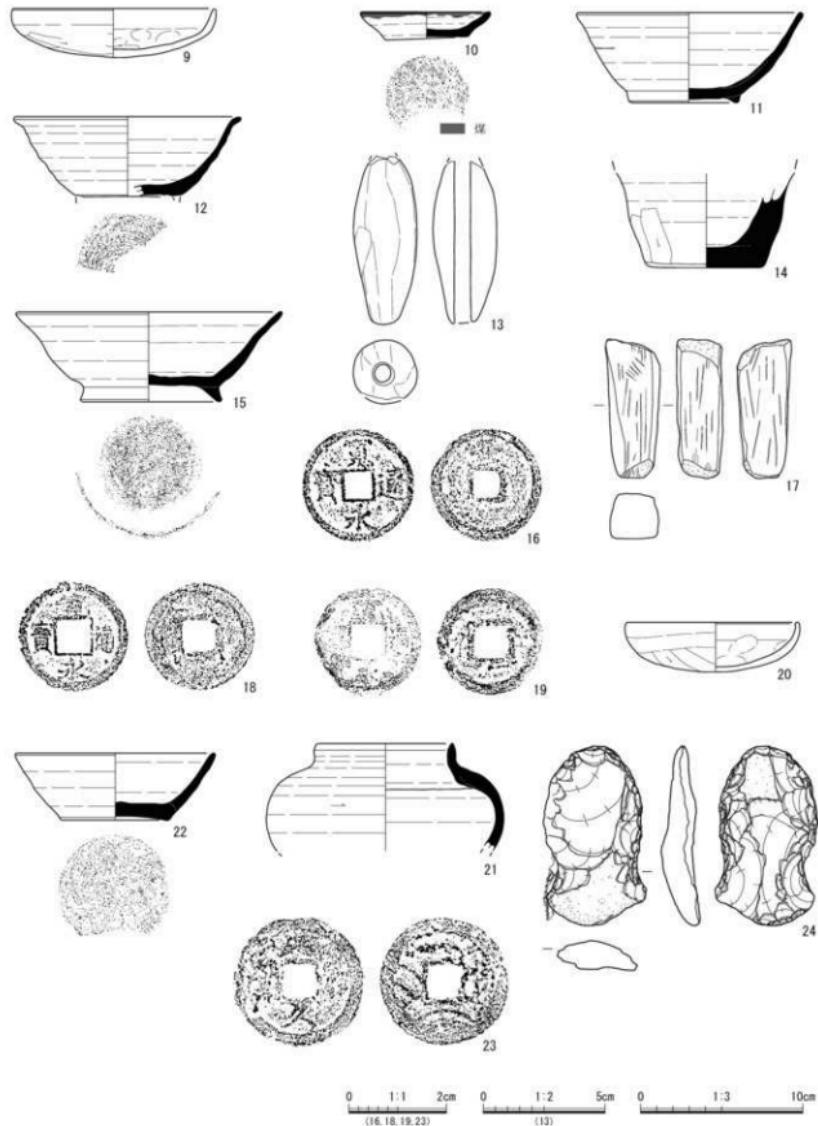
第40図 C区 I・II・V SK18~20・29~34 構造図



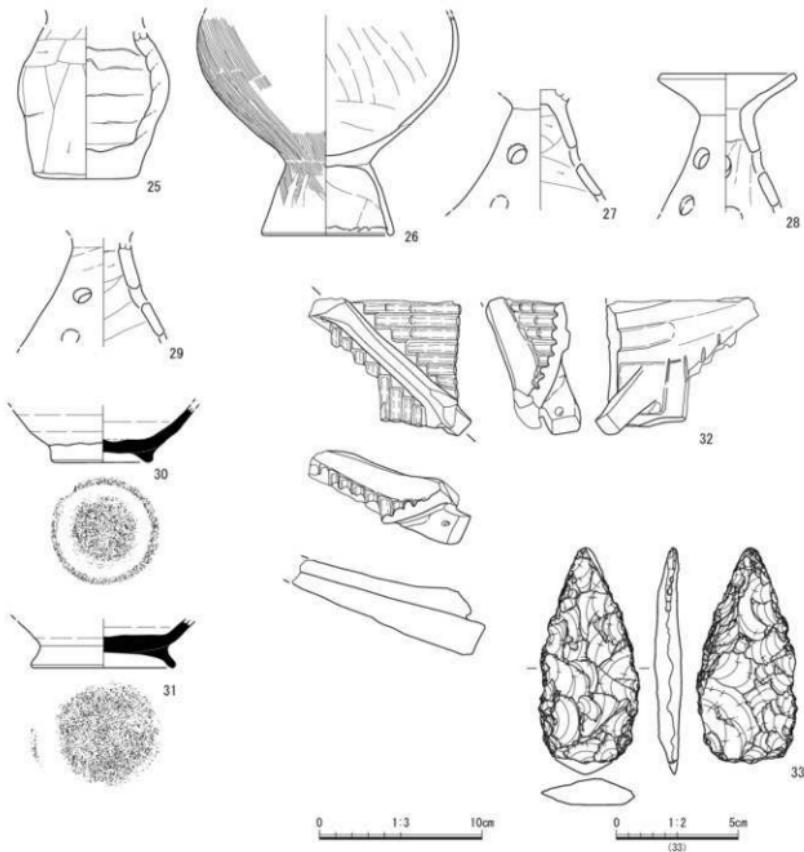
第41図 C区 I・II・V SK37~39, SP01~04 造構図



第 42 図 C 区 I・II・V SP05 ~ 20 道横図



第43図 C区 I・II・V 遺物図(1)



第44図 C区 I・II・V 遺物図(2)

第7表 C区 I・II・V 遺物観察表(1)

回収番号	遺物名	種別 器種	法量(cm) 口径 底径 高さ	表面	形状、裏形技法等の特徴(裏形、文様の特徴)	①地成 ②色調 ③粒土	残存 (%)	備考
第43回9 PL32-9	SB06 土師器 盆	【12.3】	—	5.0	外面に丸みをもつて縁部 外: 口縁部ヨコナデ。底部ハラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ。底部指添所直後にヨコナデ	①良好 ②7.5W7.6 ③チャート、石英、片岩	40	
第43回10 PL32-10	カワラケ 小皿	7.9	5.0	1.7	クロコ底形 外: ヨコナデ。底面凹凸有切れ目調整 内: ヨコナデ	①普通 ②19108/2 ③チャート、鈍分粒	70	内部外面に大きな付着。擦磨面に軽用
第43回11 PL32-11	須恵器 高台付瓶	【13.7】 【6.4】	5.5	外: ヨコナデ。底面凹凸有切れ目高台貼付 内: ヨコナデ	①地成りやぐ弱い。 ②19106/1 ③チャート、片岩、石英	50	底面擦磨観	
第43回12 PL32-12	須恵器 高台付瓶	【14.0】 【6.6】	4.9	外: ヨコナデ。底面手附系切後に高台貼付 内: ヨコナデ	①地成りやぐ弱い。 ②19107/2 ③チャート、石英、研磨母	30		

第8表 C区I・II・V 遺物観察表(2)

国版番号	遺物名	種別 器種	法面(cm)			重量(g)	成形・整形技術等の特徴 (認形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③軽土	残存 (%)	備考
			長さ	幅	厚さ					
第43国13 PL32-13	土製品 土鍋	(6.9) 2.6 2.6	(46)	手捏ね、孔径0.7cm、外面ナデ	①普通 ②10kg/3 ③チャート、石英	80				
第43国14 PL32-14	土窓 土鍋	— 7.1	(5.6)	成形・整形技術等の特徴 (認形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③軽土					
第43国15 PL32-15	瓦窓 高台付窓	[6.3] [6.6]	5.5	輪縁のみ現、ロコロ調整 外：底面周囲にタテのヘラケズリ、底面ヘラケズリ 内：ロクロナダ	①良好 ②37.0 ③軽土、石英	30				
第43国16 PL32-16	瓦窓 瓦窓通窓	2.3 0.15 0.1	1.97	調製、裏面無文、孔は0.6×0.6cmの方孔	①良好	100				
第43国17 PL32-17	土製品 泥石	3.6 3.4 2.8	122.8	調製	断面方形で、小口面以外を使用	100				
第43国18 PL32-18	瓦窓 瓦窓通窓	2.2 0.2 0.1	2.11	調製、裏面無文、孔は0.7×0.7cmの方孔	①良好	100				
第43国19 PL32-19	瓦窓 瓦窓通窓	2.2 0.2 0.1	2.08	調製、裏面無文、孔は0.7×0.7cmの方孔	①良好	100				
第43国20 PL32-20	土窓 土窓	[10.5] —	3.1	成形・整形技術等の特徴 (認形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③軽土					
第43国21 PL32-21	瓦窓 瓦窓	[8.2] —	(6.6)	内：ロクロナダ、肩窓回転ヘラケズリ 外：ロクロナダ、肩窓回転ヘラケズリ 内：ロクロナダ、肩窓に複合痕	①良好 ②34.0 ③チャート、石英、片岩	20				
第43国22 PL32-22	瓦窓 瓦窓	[12.2] 6.6	3.6	ロクロナダ 外：ロクロナダ、底面回転糸切面調整 内：ロクロナダ	①良好 ②36.0 ③チャート、片岩、軽灰岩	40				
第43国23 PL32-23	瓦窓 瓦窓 (室)	2.6 0.25 0.1	3.10	調製、裏面方形文、室または質、孔は0.7×0.7cmの方孔	①良好	100				
第43国24 PL32-24	石器 石器打石器	11.0 6.4 2.3	133.68	調製	中央下部の両側面に取りを持つ 扁平錐状素材とし、刃部以外の 周縁に両面加工が施される。刃 部に無鉛ガラスや鋸歯痕が認め られる。	100	スクレイバーの 可能性あり			
第43国25 PL32-25	遺構外 土窓部 小窓部	— 4.3	(6.2)	成形・整形技術等の特徴 (認形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③軽土					
第43国26 PL32-26	遺構外 土窓部 台付窓	— 7.9	(13.5)	底面の丸井窓に同一土栓による補充粘土、端部は 板状	①良好 ②7.0kg/4 ③石英、チャート、泥岩	25	S字底口縫			
第43国27 PL32-27	遺構外 土窓部 高窓	— —	(7.4)	底面はやや広がり、後1.3cmの円孔が2段階3列に 配設される 外：脚部が著しく調節不明	①良好 ②39.7kg ③石英、チャート、安山 岩、鉄分鉱	40	19+20の脚部 に類似			
第43国28 PL32-28	遺構外 土窓部 器台	[8.0] —	(8.5)	受部の内面は直角的、上方に広がり、中央に径1.8cm の貫通孔、脚部に径1.8cmの円孔が2段階3列に配設さ れる 外：脚部が著しく調節不明	①普通 ②10kg/4 ③チャート、鉄分鉱、石英	60	18+20の脚部 に類似			
第43国29 PL32-29	遺構外 土窓部 器台	— —	(6.7)	受部中央に径1.1cmの貫通孔、脚部に径1.0cmの円孔 が2段階3列に配設される 外：脚部ヨコナダ	①普通 ②39.6kg ③大粒の片岩、チャート、 石英	40	18+19の脚部 に類似			
第43国30 PL32-30	遺構外 瓦窓付窓	— 6.0	(3.5)	はなび吸収 外：ロクロナダ、底面回転糸切面に高台貼付 内：ロクロナダ	①良好 ②10kg/1 ③チャート、石英、片岩	30	表面削除層有			
第43国31 PL32-31	遺構外 瓦窓付窓	— [8.1]	(3.6)	ロクロナダ 外：ロクロナダ、底面回転糸切面に高台貼付 内：ロクロナダ	①焼成 ②37.0 ③石英	20	近部内外面に墨 書き判斷不能			

第9表 C区I・II・V 遺物観察表(3)

図版番号	遺構名	種別 遺構	法線(cm)			形成・整形技術等の特徴(温形・文様の特徴)	①地成 ②色調 ③軽土	残存(%)	備考
			長さ	幅	厚さ				
第44図32 PI.33-32	遺構外 土製品 瓦塔	(5.8)	(9.3)	3.5	丸瓦を主体とする多瓦墻タイプ。磚木先端側面に風窓 穴(焼成前0.7×0.4cmの穿孔)。 外:丸瓦は径0.7cmの半段竹管状工具による型挽き。 縫ぎ目は削り落し、開口部2.0cm、1.5cm、3.0cm)、裏側 は上面にズレ、側面ナギ、軒先はケメリ波にナギ 内:ナギ、調子、軒先は粘土切り取りによるケズリ出し、 筋木の間隔±1cm	①普通 ②7.5Y07/8 ③右表、チャート。鉄分鉱、 軽灰分			
第44図33 PI.33-33	遺構外 石器 尖頭鋸	(8.85)	4.15	1.13	(0.29)	チャート	本體形 先端部に横状剥離痕(使用による剥離か)	98	基部欠損

第7節 C区III・IV

(1) 調査区の概要

C区III・IVは、調整池工事予定地の現道から北側部分の発掘調査実施箇所である。調査開始時にはC区III・IV間に道路があつたため、別区画として扱っているが、遺構内容は一連であると判断できるため、ここではまとめて取り上げる。

調査区全体にAs-Bの堆積が確認できたため、As-B一次堆積層下面を遺構検出面として設定した。

本調査区ではAs-B降下前後～近世までの遺構および遺物を検出した。遺構の内訳は、溝13条、畝状遺構、土坑5基、ピット2基、井戸1基である。

(2) 溝

本調査区では、13条の溝を検出した。

区画溝と考えられる直交する溝を多く検出した。C区III・IV北側に中心を持つ方形の土地区画が存在していると推定できる。残念ながら、区画内の施設と考えられる遺構は検出できなかった。

SD52・53はC区III・IV中央を東西に横切りながら、並行する溝である。SD53は東西の両端で北へ直角に曲がり、SD54・56に続いている。

SD52は埋土にAs-Aを多く含み、As-A降下後に埋没している。SD52は、SD53よりも東西に長く伸び、SD41・57・58・60・72に接続する可能性がある。

SD53は埋土下部にAs-Bを多く含み、As-B降下後の所産と考えられる。SD53は、SD54・56と連続し北へ曲がる。SD41・52・57・58・60・72により構成される方形の土地区画に比して、小規模な方形の土地区画を構成する。

加えて、SD52・53は走行方向が共通する。このことから、SD52埋没後にSD53を掘りなおす。

した溝と考えられるが、方形の土地区画の規模は完全に一致しないため、溝を掘りなおした際に区画に変更があった可能性がある。

また、SD51・52・53sec-A'部分はSD53の幅が狭まる箇所であり、SD53を渡るために施設があった可能性がある。

(3) 畝状遺構

本調査区では、畾状遺構を検出した。

畾状遺構はAs-Aによって埋没した近世の畾状遺構である。畾の上部は削平されてしまっているが、畾間10条を検出した。

(4) 土坑

本調査区では5基の土坑を検出した。

詳細な性格を特定することはできなかった。

(5) ピット

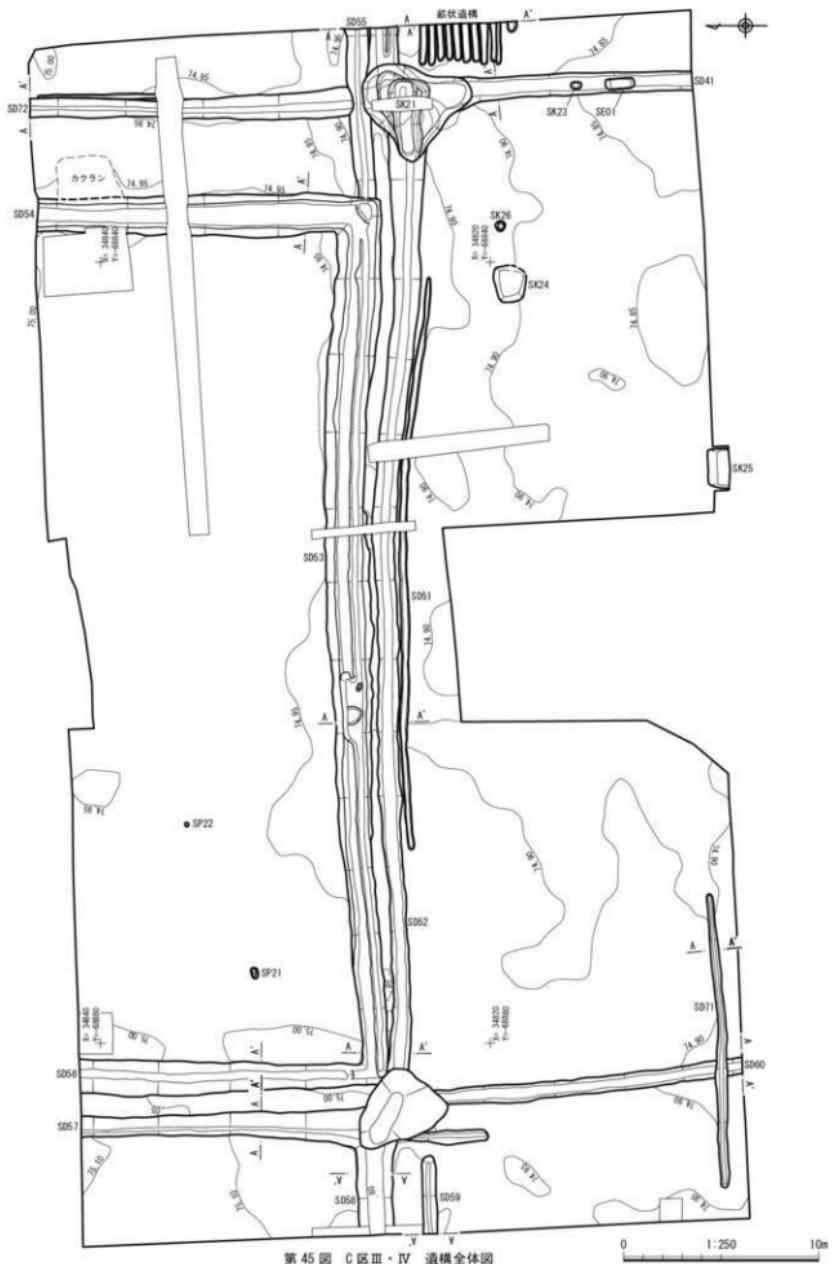
本調査区ではピットを2基検出した。

ピットは2基とも埋土にAs-Bを含み、方形区画内に位置するが、性格を特定することはできなかった。

(6) 井戸

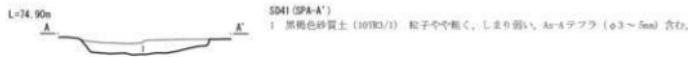
本調査区では井戸1基を検出した。

SE01は平面形は隅丸長方形で短軸0.34m、長軸0.56、約0.8m以上の深さを測る。長軸は南北方向である。埋土上部にAs-B混土が堆積することから、As-B降下後の所産と考えられる。

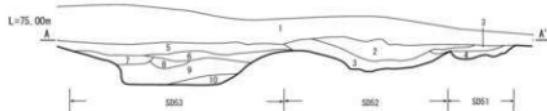


第45図 C区III・IV 遺構全体図

SD41



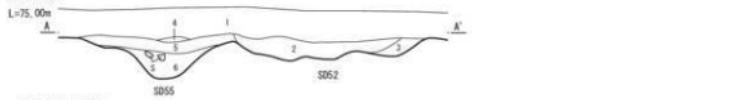
SD51, 52, 53



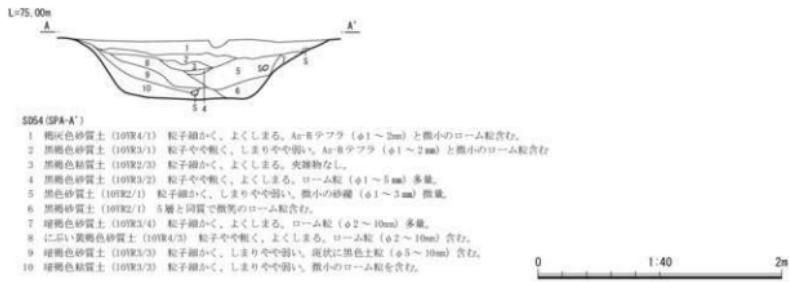
SD52, 53



SD52, 55



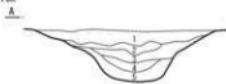
SD54



第44図 C区III・IV SD41・51～55 道構図

SD56

L=75, 10m



SD56 (SPA-A')

- 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3) 粒子粗く、よくしまる。Ae-Bテフラ ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) 多量。ローム粒 ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$) 含む。
- 2 喀斯特色砂質土 (10YR2/2) 粒子細かく、よくしまる。火焯物なし。
- 3 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 粒子やや粗く、よくしまる。Ae-Bテフラ ($\phi 1\text{mm}$) 多量。
- 4 黑褐色砂質土 (10YR3/2) 3層と同質で、粘質土を含む。
- 5 黑褐色砂質土 (10YR3/2) 粒子細かく、しまりやや弱い。微小のAe-Bテフラ含む。

SD57

L=75, 10m



SD57 (SPA-A')

- 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 粒子やや粗く、よくしまる。Ae-Aテフラ ($\phi 1 \sim 5\text{mm}$) 含む。
- 2 喀斯特色砂質土 (10YR4/2) 粒子細かく、しまりなし。火焯物なし。根の埋れか。
- 3 喀斯特色砂質土 (10YR3/3) 粒子細かく、よくしまる。Ae-Aテフラ ($\phi 1 \sim 5\text{mm}$) 含む。

SD58

L=75, 00m



SD58 (SPA-A')

- 1 喀斯特色砂質土 (10YR4/1) 粒子やや粗く、しまり弱い。Ae-Bテフラ ($\phi 1 \sim 3\text{mm}$) 多量。
- 2 喀斯特色砂質土 (10YR4/2) 粒子細かく、よくしまる。Ae-Aテフラ ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) 含む。
- 3 喀斯特色土 (10YR5/2) Ae-Aテフラを主体とする 和様 1 ~ 5mm。
- 4 黑褐色砂質土 (10YR4/2) 粒子やや粗く、よくしまる。Ae-Bテフラ ($\phi 1 \sim 3\text{mm}$) 含む。

SD59

L=75, 00m



SD60

L=75, 00m



SD60 (SPA-A')

- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 粒子細かくしまり良い。微小のAe-Bテフラ 2層に。
- 2 喀斯特色砂質土 (10YR3/3) 粒子細かく、よくしまる。Ae-Aテフラ ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) 含む。酸化鉄分沈着。
- 3 喀斯特色砂質土 (10YR3/4) 粒子細かく、しまりやや弱い。Ae-Aテフラ ($\phi 1 \sim 3\text{mm}$) 含む。

SD71

L=75, 00m

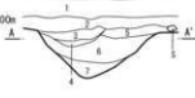


SD71 (SPA-A')

- 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 粒子細かく、しまりなし。微小のAe-Aテフラ含む。
- 2 喀斯特色砂質土 (10YR3/2) 粒子細かく。しまりやや弱い。Ae-Bテフラ ($\phi 1 \sim 3\text{mm}$) 含む。

SD72

L=75, 00m



SD72 (SPA-A')

- 1 現耕作土
- 2 喀斯特色砂質土 (10YR4/2) 粒子細かく、よくしまる。Ae-Aテフラ ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) 含む。
- 3 喀斯特色砂質土 (7.5YR4/3) 粒子やや粗く、よくしまる。Ae-Aテフラ ($\phi 1 \sim 3\text{mm}$) 含む。酸化鉄分沈着。
- 4 喀斯特色砂質土 (10YR4/2) 粒子細かく、しまりやや弱い。Ae-Aテフラ ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) 含む。
- 5 喀斯特色砂質土 (10YR4/2) 粒子細かく、しまりやや弱い。Ae-Bテフラ ($\phi 1 \sim 3\text{mm}$) 多量。
- 6 喀斯特色砂質土 (10W4/1) 粒子細かく、よくしまる。斑状にシルトブロック (1 ~ 2cm) 含む。Ae-Bテフラ ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) 難量。
- 7 喀斯特色砂質土 (10W4/3) 粒子細かく、よくしまる。Ae-Bテフラ ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) 含む。

畠状造構

L=75, 00m



畠状造構 (SPA-A')

- 1 現耕作土
- 2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 粒子細かいく。しまり弱い。Ae-Aテフラ ($\phi 2 \sim 3\text{mm}$) 含む。
- 3 喀斯特色砂質土 (10YR3/3) 粒子細かく。しまり弱い。Ae-Aテフラ ($\phi 3 \sim 5\text{mm}$) 多量。
- 4 Ae-Aテフラ一次堆積層。

SK23



L=74, 90m



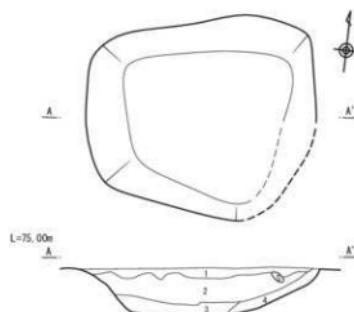
SK23 (SPA-A')

- 1 喀斯特色砂層 (10YR4/2) 粒子細く、しまりなし。Ae-Aテフラ ($\phi 1 \sim 3\text{mm}$) 含む。

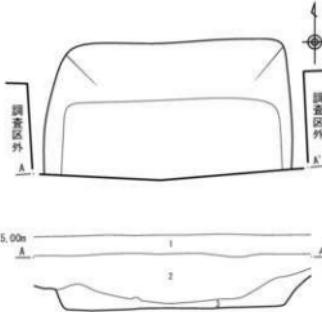


第 47 図 C 区 III・IV SD56 ~ 60・71・72、畠状造構、SK23 造構図

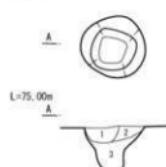
SK24



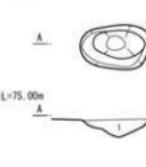
SK25



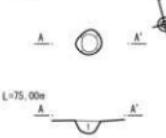
SK26



SP21

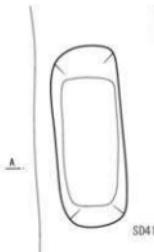


SP22



0 1:40 2m
(平面図・断面図)

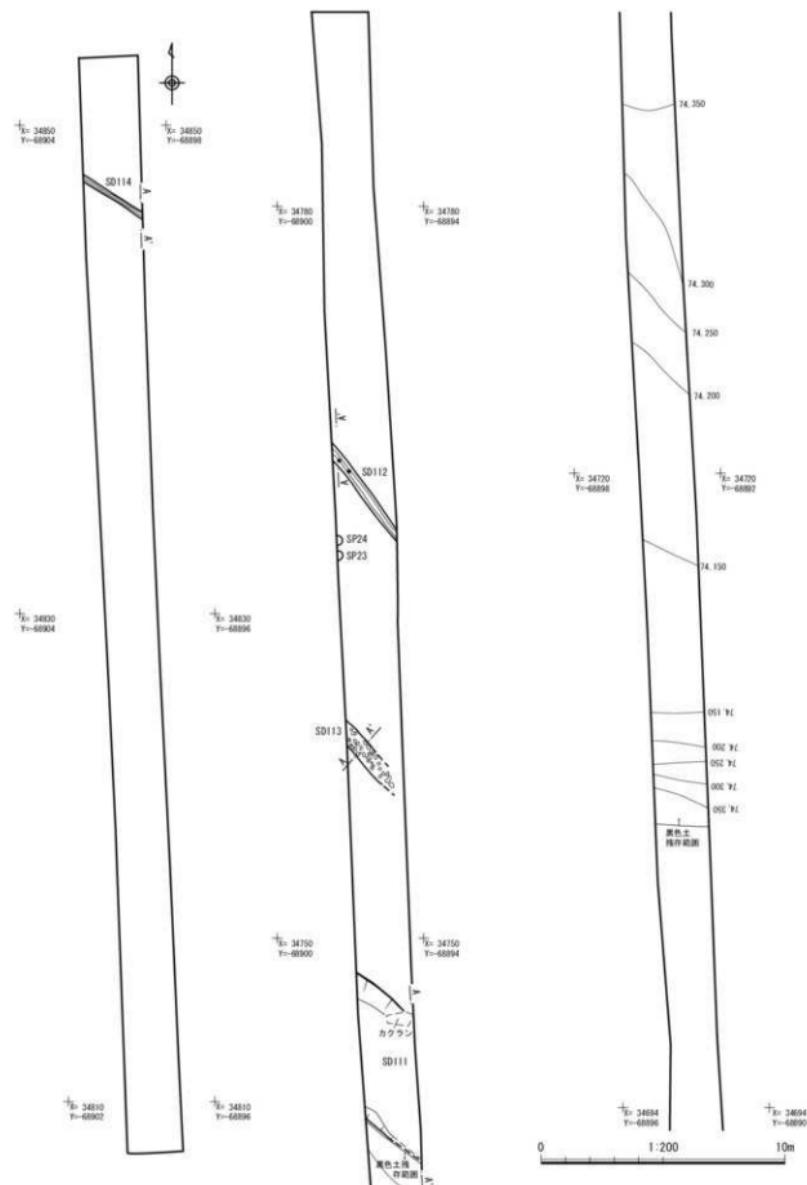
SE01



SD41

第48図 C区III・IV SK24～26, SP21・22, SE01 透構図

第 8 節 C 区 VI・VII



第 49 図 C 区 VI・VII 造構全体図

(1) 調査区の概要

C 区 VI・Ⅷは、区画道路 4 号線工事に伴い発掘調査を行った。

両調査区は、隣接しているため、ここではまとめて取り扱う。

調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんできり、As-B 一次堆積層は良好に残存していなかった。よって As-B 堆積層下面と、As-B が削平されている場合には土地改良工事盛土下の黒褐色粘質土面を遺構検出面とした。

C 区 VI では古代～近代までの遺構および遺物を検出した。遺構内訳は、溝 4 条、ピット 2 基である。

C 区 VIII では近世以降の遺構を検出した。遺構内訳は、溝 4 条である。

(2) 溝

C 区 VI では、溝 4 条を検出した。C 区 VI の SD114 は、As-B 二次堆積層を埋土としている。この他の溝は時期を特定できなかつた。

C 区 VI の溝は北西から南東へ流下し、一帯の地形の傾斜に沿つたものである。

C 区 VIII では、溝 4 条を検出した。

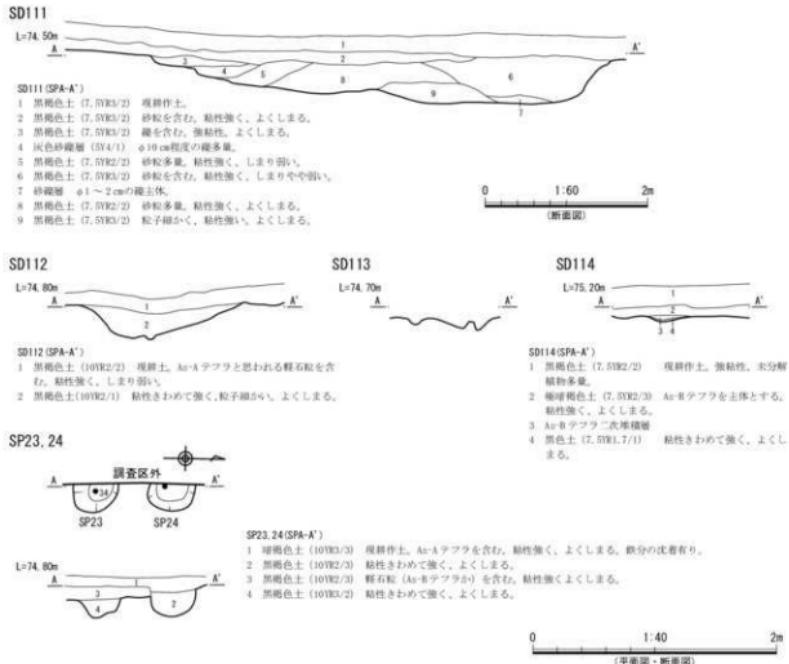
SD83・84・116 は南西から北東に向かって流下し、C 区 I・II・V で検出した NR01・02 に注ぐと推測される。

例外として、SD115 は南東から北西に向かつて流下していた。

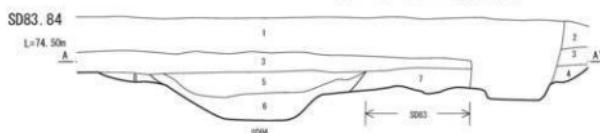
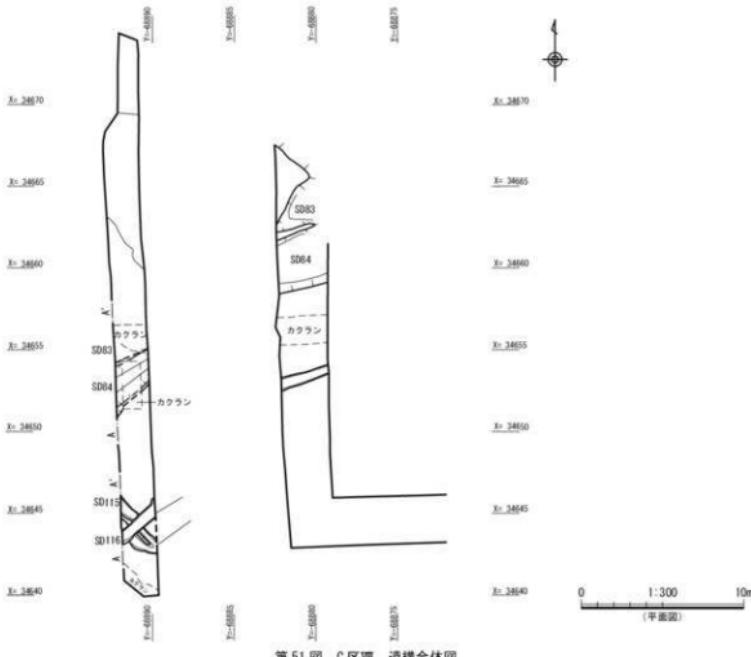
(3) ピット

C 区 VI では、2 基のピットを検出した。

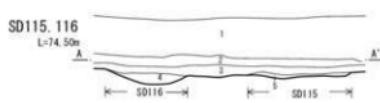
SP23 は As-B 層下に掘り込み面を持ち、SP24 は As-A 混土から掘りこまれていた。



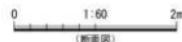
第 50 図 C 区 VI SD111～114, SP23・24 遺構図



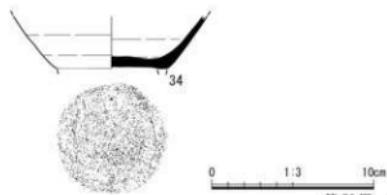
2. 反黄褐色土 (10YR4/2) 地山の小ブロック多量。
3. にぶく黄褐色土 (10YR4/3) 砂堆土層。
4. 増褐色土 (10YR2/3) 砂質土。
5. 黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。
6. 反褐色土 (10YR6/2) 砂質土。黄色土ブロック含む。
7. 反黄褐色土 (10YR4/2) Ae-Aテフラ含む。
8. 黑褐色土 (10YR3/2) ロームブロック。小礫多量。



2. 反黄褐色土 (10YR4/2) 地山の小ブロック多量。整地土層。
3. 反黄褐色土 (10YR4/2) Ae-Aテフラ含む。
4. 増褐色土 (10YR2/3) 砂質土。小礫含む。(SD116)
5. 黑褐色土 (10YR3/2) ロームブロック。小礫含む。(SD115)



第52図 C区IV SD83・84・115・116 造構図



第53図 C区VI 遺物図

第10表 C区VI 遺物観察表

国版番号	遺物名	種別 器種	法量 (cm)	成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)			①焼成 ②色調 ③粘土	残存 (%)	備考
			口径 底径 厚さ	直径 底面	高さ				
第53番34 PL33-34	瓦底付鉢	SP23	—	6.9	(3.2)	—	①焼成 ②ロクナナ 外: ロクナナ 内: ロクナナ	50	

第11表 C区I・II・III・IV・V・VI・VII 遺構観察表 (1)

名前	IK	面	形状	主軸方位	規模 (m)	時期	備考・出土遺物
S001	I + VI	1 + 2	N-38°-W	19.98	1.46	0.45	近現代 土師器、瓦底器、近現代陶磁器
S002	I + VI	1 + 2	N-53°-W	20.22	3.04	0.42	近現代 土師器
S003	I + VI	1	N-56°-W	27.68	0.54	0.12	Ao-C 降下後 土師器
S004	I + VI	1	N-11°-E	23.26	0.82	0.18	近現代 SD09.34を切る。土師器、瓦底器、古時代陶磁器
S005	I	1	N-12°-W	21.74	0.89	0.21	土師器、坪、瓦底器杯、壺
S006	I	1 + 2	N-37°-W	17.06	0.96	0.05	須良・平安以降 土師器、瓦底器
S007	I	2 + 3	N-28°-W	3.64	0.84	0.14	Ao-C 降下後 SD10.81・82を切る。土師器、瓦底器、古時代陶磁器、挂瓦
S008	I	3	N-60°-W	21.72	0.84	0.37	近現代 SD14.20を切る。馬頭
S009	I	1	N-38°-E	33.16	1.26	0.30	近現代 土師器
S010	I	1	N-52°-E	3.80	0.66	0.13	土師器、瓦底器地
S011	I	1	N-11°-E	5.50	0.68	0.13	8世紀か 土師器片、瓦底器蓋、火腹
S012	I	2 + 3	N-38°-W	5.20	1.38	0.37	Ao-B 降下後 土師器片、坪、瓦底器
S013	I	2	N-22°-W	17.09	1.50	0.81	須良・平安以降 土師器、瓦底器、瓦台付壇
S014	I	2	N-32°-W	6.90	—	—	Ao-C 降下後 土師器
S015	I	1 + 2	N-67°-W	5.54	1.82	0.13	Ao-C 降下後 土師器、瓦底器片、罐器
S016	I	1	N-60°-W	5.76	1.56	0.18	Ao-C 降下後 土師器、瓦底器・坪
S017	I	1	N-49°-W	17.32	0.74	0.16	土師器 土師器、瓦底器、近現代陶磁器、砾石
S018	I	1	N-87°-E	20.26	0.46	0.12	Ao-C 降下後 土師器、瓦底器、罐器
S019	I	1	N-86°-E	23.38	0.96	0.15	Ao-C 降下後 土師器、陶器、罐器
S020	I	1	N-52°-E	14.12	0.52	0.20	—
S021	I	1	N-3°-E	21.22	0.64	0.29	Ao-C 降下後 SD22を切る。土師器、瓦底器
S022	I	1	N-78°-E	5.82	0.50	0.13	—
S023	I	2	N-40°-E	2.84	0.48	0.22	—
S024	I	1	N-67°-W	11.96	0.34	0.05	Ao-A 降下後 —
S025	I	1	N-2°-W	1.76	0.22	0.03	—
S026	I	1	N-6°-W	5.60	0.26	0.07	—
S027	I	1	N-8°-W	5.85	0.30	0.08	—
S028	I	1	N-50°-E	18.16	0.21	0.29	Ao-C 降下後 SD03.34を切る。
S029	I	1	N-40°-E	7.05	0.72	0.07	—
S030	II	1	N-3°-E	20.28	0.28	0.11	土師器
S031	I	1	N-28°-E	20.66	0.34	0.10	—
S032	I	1	N-40°-W	75.00	1.00	0.14	近現代 SD03.92・104を切る。瓦底器地
S033	II	1	N-33°-W	14.8	1.96	0.33	近世以降 土師器、瓦底器、染付罐器
S034	I	1	N-52°-W	22.92	0.54	0.08	Ao-A 降下後 —
S035	I	1	N-25°-W	—	—	—	—
S036	I	1	N-38°-W	5.15	0.59	0.04	Ao-C 降下後 —
S037	I	2	N-29°-W	15.00	1.50	0.32	Ao-C 降下後 土師器、瓦底器
S038	I	1	N-52°-E	5.50	0.49	0.09	近現代 —
S039	—	—	—	—	—	—	欠番
S040	I	1	N-88°-W	17.00	1.03	0.04	古近代 土師器、瓦底器、高円付壇、近現代陶磁器
S041	II + III	1	N-1°-W	28.04	1.94	0.15	近現代 万葉山地区窯、磨器、近現代陶磁器、砾石
S042	I + III	2	N-32°-W	9.00	0.60	0.07	平安か 土師器、S字口縁付壺形器、瓦底器、坪、大甕
S043	I	2	N-35°-W	15.00	0.78	0.04	平安か 土師器、瓦底器、坪、高圓
S044	I	2	N-47°-W	6.00	0.90	0.09	平安か SD43を切る。土師器、瓦底器、土壺
S045	II	1	N-33°-W	32.22	0.49	0.06	Ao-C 降下後 土師器
S046	II	1	N-88°-W	21.00	0.28	0.10	土師器
S047	II	1	N-20°-W	18.30	0.34	0.18	Ao-C 降下後 土師器
S048	II	1	N-8°-E	10.00	4.00	0.59	近現代 SK34を切る。土師器、近現代陶器
S049	—	—	—	—	—	—	欠番

第 12 表 C 区 I · II · III · IV · V · VI · VII 造構觀察表 (2)

名称	区	面	形状	土輪方位	規格 (m)	時期	備考	
					長軸	短軸	深さ	
S050	I	3		N·33°·W	2.16	0.92	0.22	土輪器、須恵器杯
S051	III + IV	1		N·87°·E	29.28	0.44	0.96	Ao-A 降低下後
S052	III + IV	1		N·87°·E	30.70	1.20	0.29	Ao-A 降低下後
S053	III + IV	1		N·89°·E	28.80	2.44	0.37	Ao-B 降低下後
S054	III	1		N·0°·E	15.34	2.28	0.44	Ao-B 降低下後
S055	III	1		N·86°·E	8.68	1.08	0.46	Ao-B 降低下後
S056	IV	1		N·1°·E	14.52	1.90	0.54	Ao-B 降低下後
S057	IV	1		N·1°·E	14.30	1.76	0.29	近現代
S058	IV	1		N·87°·E	4.46	1.88	0.30	Ao-A 降低下後
S059	IV	1		N·88°·E	4.90	0.74	0.17	Ao-B 降低下後
S060	IV	1		N·0°·W	15.54	0.98	0.15	近現代
S061	I	2		N·49°·W	28.92	4.64	0.31	近現代
S062	I	2		N·33°·W	16.00	2.50	0.39	近現代
S063								欠番
S064	I	2 + 3		N·32°·W	20.00	—	0.32	近現代
S065	I	2		N·79°·W	9.00	0.60	0.05	
S066	I	2		N·8°·W	17.28	1.66	0.48	土輪器、須恵器
S067								欠番
S068	I	2		N·45°·W	17.62	0.94	0.23	古墳か
S069								欠番
S070								欠番
S071	I + IV	1		N·87°·E	15.00	0.50	0.13	近現代
S072	I + III	1		N·1°·W	16.40	1.40	0.25	Ao-A 降低下後
S073	I	2		N·11°·E	12.50	3.69	0.50	土輪器
S074								欠番
S075								欠番
S076								欠番
S077								欠番
S078								欠番
S079								欠番
S080								欠番
S081	I + V	3		N·29°·W	1.50	0.80	0.62	近現代
S082	I + V	2 + 3		N·49°·W	3.55	2.00	0.55	近現代
S083	I + III	2 + 3		N·54°·E	6.50	3.50	0.25	古墳以降
S084	I + III + Ⅳ	3		N·66°·E	5.00	1.50	0.27	古墳以降
S085	V	1		N·45°·W	10.26	1.90	0.41	近現代
S086	V	1		N·31°·W	17.00	1.50	0.06	近現代
S087	V	1		N·72°·W	9.80	0.68	0.28	Ao-B 降低下後
S088	V	1		N·70°·W	27.60	1.90	0.17	近現代
S089								欠番
S090								欠番
S091	V	1		N·56°·E	12.34	0.84	0.09	
S092	V	1		N·49°·W	43.46	3.88	0.42	土輪器、須恵器・境
S093								欠番
S094	V	1		N·45°·W	19.34	1.46	0.14	S086 を切る。
S095	V	1		N·19°·E	24.46	2.74	0.41	Ao-B 降低下後
S096								欠番
S097	V	1		N·55°·W	10.32	0.52	0.15	Ao-B 降低下後
S098	V	1		N·22°·W	15.82	1.49	0.27	Ao-B 降低下後
S099	V	1		N·85°·E	8.40	0.80	0.23	Ao-B 降低下後
S100	V	1		N·32°·W	8.80	0.52	0.11	Ao-B 降低下後
S101	V	1		N·61°·E	4.44	0.88	0.06	Ao-B 降低下後
S102	V	1		N·19°·W	9.00	0.96	0.02	
S103	V	1		N·74°·W	18.84	0.26	0.16	Ao-A 降低下後
S104	V	1		N·1°·W	58.38	1.12	0.28	近現代
S105	V	1		N·26°·W	10.30	0.94	0.12	須恵器・境
S106	V	2		N·9°·W	18.04	2.54	0.32	古墳紀以降
S107	V	2		N·81°·E	5.18	0.88	0.12	近現代
S108	V	2		N·2°·W	17.26	4.44	0.51	古墳紀以降
S109	V	2		N·86°·W	14.38	2.68	0.32	S0110 を切る。
S110	V	2		N·83°·W	21.44	0.92	0.22	
S111	VI	1		N·60°·W	9.93	1.27	0.37	古墳紀以降
S112	VI	1		N·36°·W	4.00	0.43	0.33	古墳紀以降
S113	VI	1		N·43°·W	1.97	0.66	0.11	Ao-B 降低下後
S114	VI	1		N·56°·W	2.65	0.26	0.06	近現代
S115	VI	1		N·38°·W	5.20	0.70	0.05	
S116	VI	1		N·51°·E	2.60	0.70	0.05	土輪器、須恵器
S117	V	1		N·3°·E	5.82	0.58	0.13	土輪器、須恵器
S118	I	3		N·27°·W	7.09	0.80	0.04	土輪器
S119	I	3		N·47°·W	25.00	16.00	1.30	古墳紀以降
S120								土輪器・境、須恵器・境、S 字口縫合付裏

第13表 C区I・II・III・IV・V・VI・VII 造構観察表(3)

名称	区	面	形状	主軸方位	規格 (a)	面積	時期	備考・出土遺物
SK02	I	2	長方形	N=33°-E	64.59	9.50	0.90	Ae-C後～Ae-B後 土師器、須恵器、打製石斧
SK03	I		長方形	N=90°-E	2.80	2.80		
P1			円形		0.18	0.18	0.37	
P2			円形		0.18	0.16	0.34	
P3			円形		0.18	0.15	0.29	
P4			円形		0.18	0.17	0.33	
P5			円形		0.18	0.18	0.48	
P6			円形		0.18	0.18	0.42	
P7			円形		0.20	0.20	0.46	
P8			円形		0.19	0.19	0.37	
P9			円形		0.19	0.16	0.35	
P10			円形		0.18	0.17	0.36	
SK01	I		椭円形	N=90°-E	1.42	0.52	0.37	土師器
SK02	I		長方形	N=45°-E	0.72	0.46	0.13	SD02を切る。土師器
SK03	I		長方形	N=47°-E	1.60	0.72	0.25	古現代
SK04	I		椭円形	N=40°-E	1.42	0.72	0.97	Ae-A降下後 土師器
SK05	I		椭円形	N=50°-E	1.60	0.54	0.21	須恵器
SK06	I		不整形	N=4°-E	1.14	0.64	0.35	多孔石
SK07								欠番
SK08	I		椭円形	N=84°-E	1.76	1.06	0.37	古現代
SK09	I		円形		0.64	0.56	0.11	SD09+29を切る。
SK10	I		円形		0.78	0.66	0.10	
SK11	I		長方形	N=50°-E	1.59	0.64	0.96	Ae-A降下後 土師器
SK12	I		不整形	N=40°-E	0.86	0.66	0.13	古現代 SD28を切る。
SK13	I		不整形	N=20°-E	0.84	0.49	0.31	Ae-A降下後 土師器
SK14	I		不整形	N=20°-E	0.64	0.54	0.17	Ae-A降下後 土師器
SK15	I		不整形	N=40°-E	1.69	1.12	0.11	土師器
SK16	II		長方形	N=90°-E	1.24	1.10	0.22	Ae-A降下後 土師器
SK17	II		椭円形	N=30°-E	0.72	0.60	0.11	古現代
SK18	II		椭円形	N=50°-E	0.54	0.38	0.25	
SK19	I		円形		1.52	1.32	0.27	土師器、高环・S字口縁台付
SK20	I	2	不整形	N=40°-E	2.50	1.02	0.18	古現代
SK21	III		不整形	N=6°-E	5.60	4.84	0.82	古現代 SD41+51+55を切る。古現代陶器器。右臼
SK22	III							欠番
SK23	III		長方形	N=2°-E	1.59	0.56	0.82	Ae-A降下後 土師器
SK24	III		不整形	N=84°-E	1.92	1.66	0.39	Ae-A降下後 須恵器
SK25	III		不整形	N=38°-E	2.04	1.14	0.19	Ae-A降下後 土師器
SK26	III		円形		0.54	0.52	0.49	Ae-B降下後 土師器
SK27	I							欠番
SK28	I	2	不整形	N=17°-E	0.56	0.34	-	
SK29	I		不整形	N=86°-E	1.18	0.62	0.35	
SK30	I	2	円形		0.60	0.59	0.32	
SK31	I	2	椭円形	N=67°-E	0.94	0.58	0.29	
SK32	I	2	円形		0.86	0.76	0.39	
SK33	I		椭円形	N=55°-E	1.62	1.02	0.23	古現代
SK34	I		椭円形	N=10°-E	0.82	0.69	0.21	古現代
SK35	V		椭円形	N=11°-E	2.60	1.69	0.10	欠番
SK36	V							欠番
SK37	V		不整形	N=64°-E	2.16	1.80	0.25	Ae-A降下後 SD97を切る。
SK38	V		不整形	N=4°-E	2.20	0.68	0.13	Ae-A降下後 土師器
SK39	V	2	長方形	N=89°-E	1.72	1.72	0.12	
SP01	I	1	円形		0.52	0.48	0.42	
SP02	I	1	椭円形	N=15°-E	0.54	0.38	0.13	Ae-A降下後 土師器
SP03	I	1	円形		0.46	0.42	0.26	
SP04	I	1	円形		0.54	0.48	0.05	Ae-A降下後 土師器
SP05	I	1	円形		0.24	0.22	0.06	
SP06	I	1	椭円形	N=60°-E	0.48	0.34	0.17	
SP07	II		円形		0.32	0.22	0.21	古現代 SK34を切る。
SP08	I		椭円形	N=50°-E	0.40	0.32	0.12	Ae-B降下後 土師器
SP09	I		椭円形	N=58°-E	0.46	0.26	0.13	Ae-B降下後 土師器
SP10	I		円形		0.34	0.26	0.24	
SP11	I		長方形	N=33°-E	0.60	0.28	0.33	
SP12	I		長方形	N=10°-E	0.56	0.39	0.31	
SP13	I		円形		0.24	0.22	0.48	
SP14	I		円形		0.40	0.38	0.17	
SP15	I		円形		0.34	0.28	0.21	
SP16	I		椭円形	N=90°-E	0.58	0.49	0.37	
SP17	II		円形		0.28	0.22	0.27	
SP18	II		円形		0.26	0.22	0.31	Ae-A降下後 土師器
SP19	II		円形		0.38	0.32	0.58	古現代 SD41を切る。
SP20	II		円形		0.32	0.26	0.31	
SP21	IV	1	椭円形	N=80°-E	0.58	0.38	0.15	Ae-B降下後 土師器
SP22	IV	1	円形		0.22	0.20	0.10	Ae-B降下後 土師器
SP23	VI		不整形		0.38	0.23	0.15	19世紀以前 須恵器高台付壺
SP24	VI		不整形		0.38	0.22	0.20	Ae-A降下後 土師器
SP25	III		長方形	N=2°-E	0.56	0.34	0.40	Ae-B降下後 土師器

第9節 D 区 I

(1) 調査区の概要

D 区 I は、2 号雨水排水路工事に伴い発掘調査を行った。調査区全体が運動場の一部となつており、運動場整備に伴うカクランが広範囲にわたって検出された。

As-B 一次堆積層は残存していなかった。よつて現代のカクランの下層面を遺構検出面とし、第 1 面として調査を行つた。

第 2 面は第 1 面の遺構及びカクラン土の下層遺構を対象として調査を行い、第 3 面は第 2 面の下層遺構を対象として調査を行つた。

本調査区では古代～近世までの遺構および遺物を検出した。遺構の内訳は、溝 25 条、堅穴建物跡 9 軒、土坑 21 基、ピット 13 基、井戸 1 基である。

(2) 溝

本調査区では、25 条の溝を検出した。SD02・05・12・18・22 は、埋土に As-B を含む As-B 降下以降の溝である。他に SD01・05～07 は As-A を埋土に含むことから近世以降の溝である。半数の溝は時期を特定することができなかつた。

SD23 は断面台形を呈する溝で、走行方向はほぼ南北である。9 世紀前半の須恵器坏が出士している。

(3) 堅穴建物跡

本調査区では 9 軒の堅穴建物跡を検出した。調査区の特性上、SI01 以外の堅穴建物跡の全体を調査することはできなかつたが、概ね主軸を南北方向にとるもの (SI01・15)、20° 程度西に傾くもの (SI03・11)、40° 程度東に傾くもの (SI12・13・16・17) がある。

3 種類の堅穴建物の傾向から、少なくとも 3 時期の集落が重なつてゐると考えられる。

SI01 からは 9 世紀後半のコの字状の口縁部を持つ甕の破片が 2 点 (35・37)、8 世紀後半の土師器坏 (38)・須恵器坏 (39) が出土している。先行する SI03 と重複しているため、古い年代の遺物は SI03 に属するもの可能性がある。

SI01 のカマドは西カマドだが、SI01 の床面に比して高く、上面に別の住居が存在していた可能性がある。

他の住居の遺物はほとんどが細片で、平面図に出土位置は示したが、図化に至らなかつた。そのため、遺構の時期も判断困難であった。

(4) 土坑

本調査区では、21 基の土坑を検出した。調

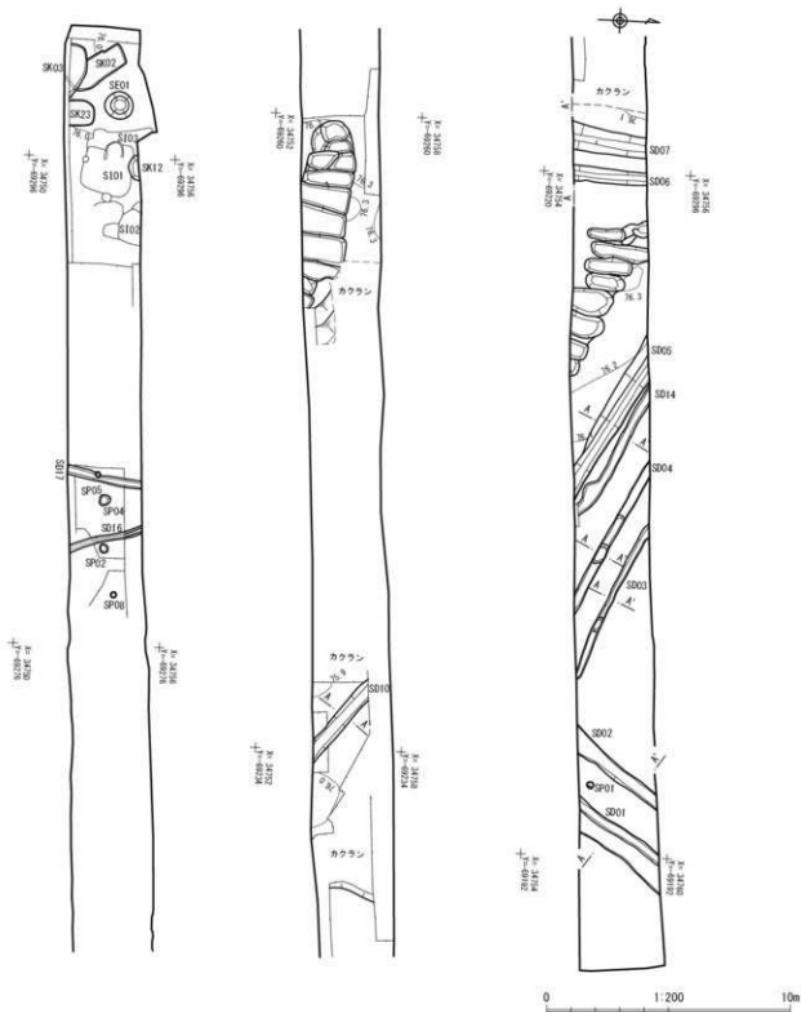
査区全体に散つており、詳細な性格を掴める土坑はなかつた。

(5) ピット

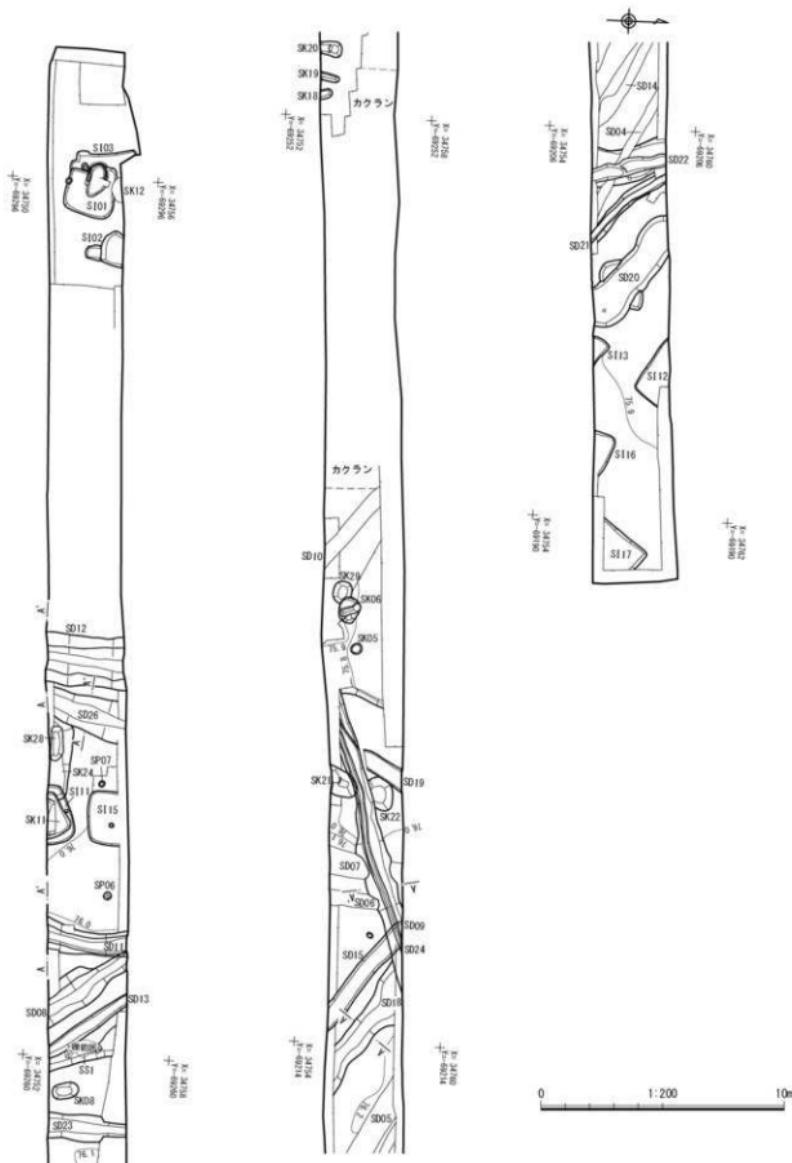
本調査区では 13 基のピットを検出した。これらのピットは規則的な配置をとるものはなく、全て単独のピットであり、掘立柱建物跡などの遺構として認定できるものはなかつた。

(6) 井戸

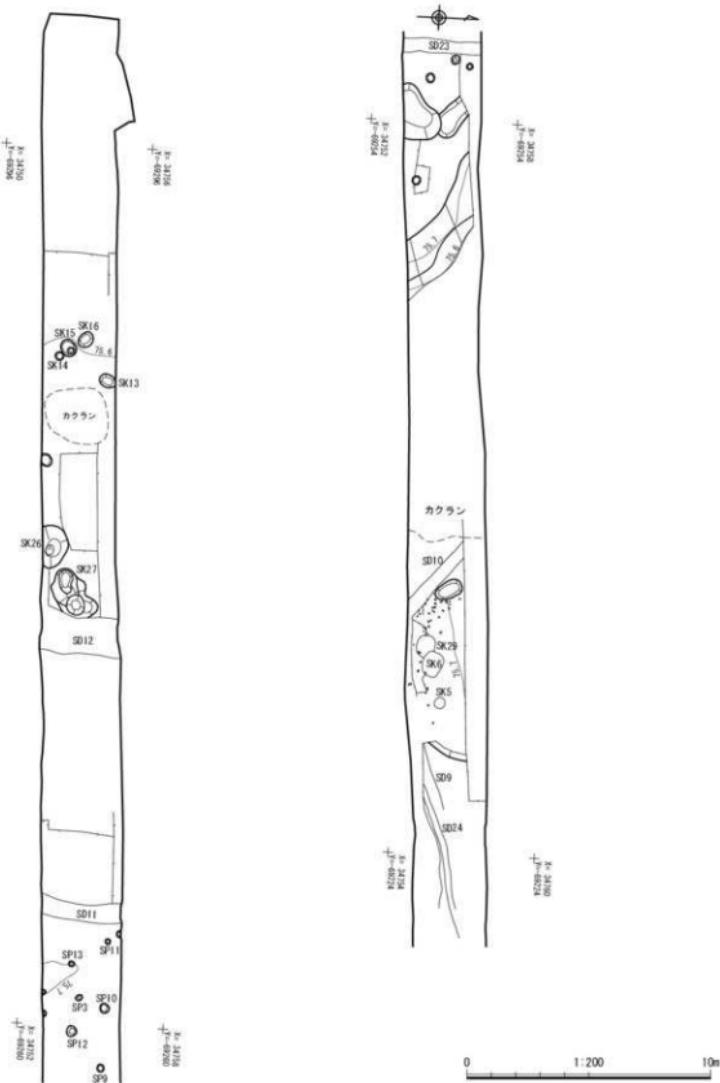
本調査区では 1 基の井戸を検出した。SE01 は調査区西端で検出し、上面直径約 1.14m で断面形は漏斗状を呈する。深さは約 1.6m であった。詳細な時期は不明である。



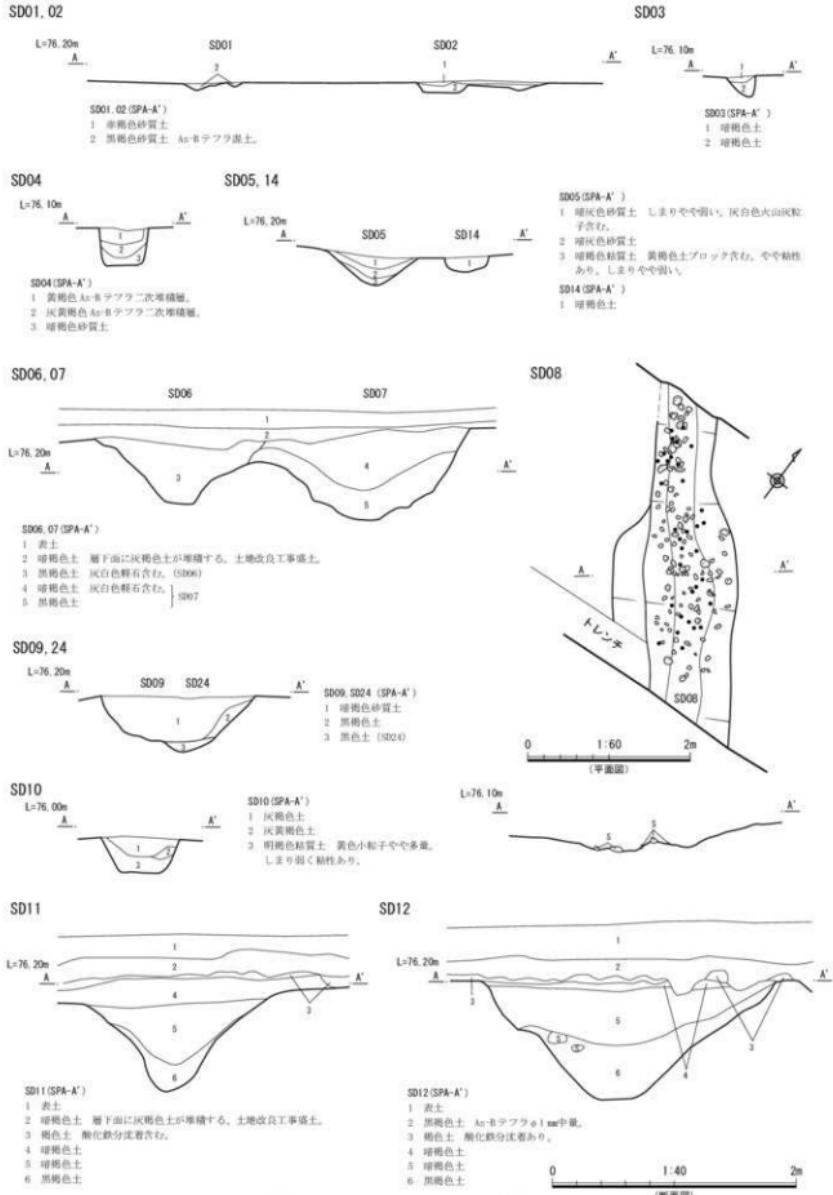
第 54 図 D 区 I 第 1 面 造構全体図



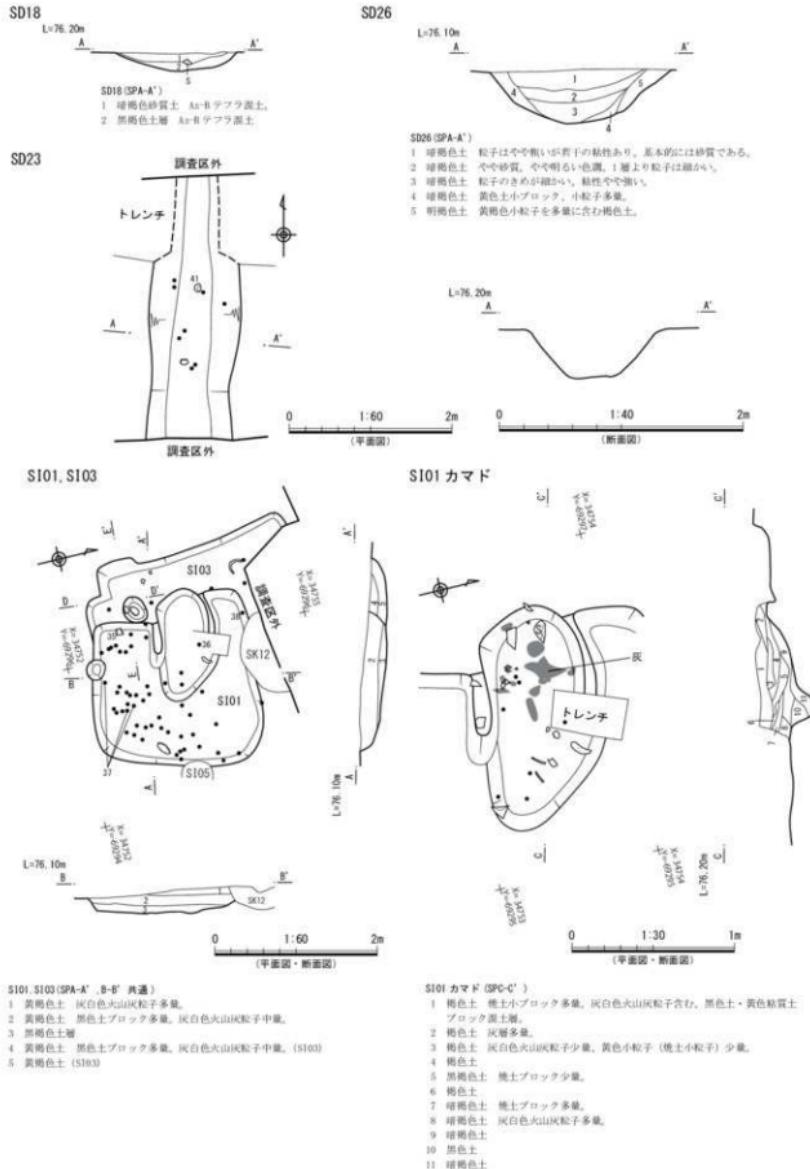
第55図 D区I第2面 造構全体図



第 56 図 D 区 I 第 3 面 造構全体図

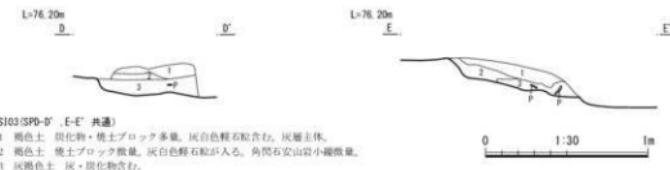


第 57 図 D 区 I SD01 ~ 12・14 透横図

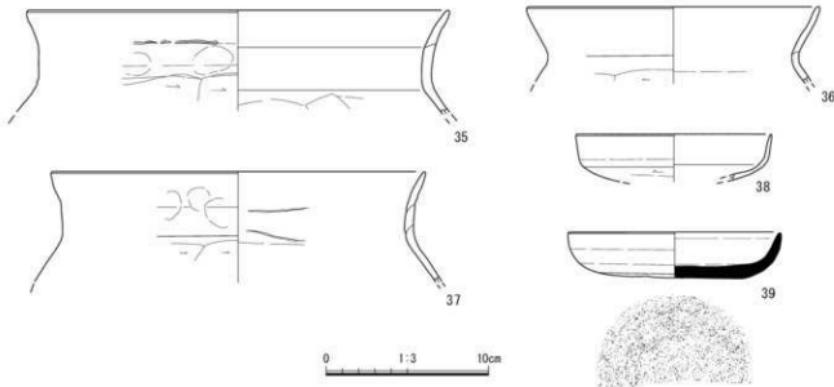


第 58 図 D 区 I SD18・23・26、SI01・03 遺構図

SI03 カマド



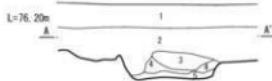
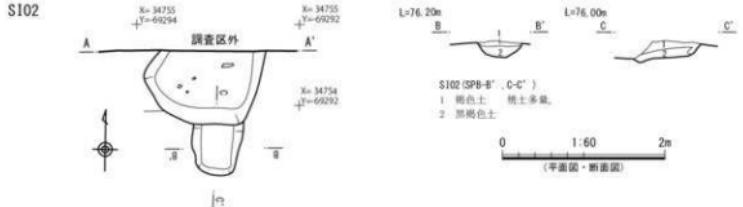
第 59 図 D 区 I SI03 カマド 遺構図



第 60 図 D 区 I SI01-03 遺物図

第 14 表 D 区 I SI01-03 遺物観察表

回収番号	遺構名	種別 器種	法長 (cm) 口径 底径 器高	成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③粘土			保存 (%)	備考
					④焼成	⑤色調	⑥粘土		
第 60 回 35 PL.33-35	SI01	土師器 甕	【25.8】 — (6.2)	弱いコの字状口縁 外：口縁部ヨコナデ。腹部指頭押圧後にヨコナデ、輪 積み痕、腹部ヨコのヘラケズリ 内：ローラー施ヨコナデ、輪圧ヘナナデ	①良好 ②SI95/4 ③網状母、石英			10	
第 60 回 36 PL.33-36	SI01	土師器 甕	【18.0】 — (4.6)	口縁端部は弱く内側する 外：口縁部ヨコナデ。腹部ヨコのヘラケズリ 内：ローラー施ヨコナデ、輪圧ヘナナデ	①良好 ②SI96/6 ③チャート、石英、鉄分鉻			5	
第 60 回 37 PL.33-37	SI01	土師器 甕	【23.0】 — (6.8)	弱いコの字状口縁 外：口縁部ヨコナデ。腹部指頭押圧後にヨコナデ、輪 積ヨコのヘラケズリ 内：ローラー施ヨコナデ、輪積み痕、輪圧ヘナナデ	①良好 ②SI96/6 ③チャート、片岩、鉄分鉻			10	
第 60 回 38 PL.33-38	SI01	土師器 甕	【12.0】 — (2.9)	口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内：ローラー施ヨコナデ	①良好 ②SI96/6 ③チャート、片岩、泥炭			10	
第 60 回 39 PL.33-39	SI03	瓶窓 井	13.8 9.2 2.9	口クロ成形 外：ローラーナデ、体部下部～底部外周回転ヘラケズリ 底曲静止系切後ヘラケズリ 内：ローラーナデ	①良好 ②SI96/1 ③網状、安山岩			50	



S102 (SPA-A')

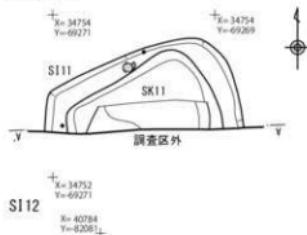
1. 黄土
2. 喀斯特土 層下面に灰褐色土が堆積する。土地改良工事遺土。
3. 黑褐色土 粘土含。黄褐色土。
4. 黑褐色土
5. 喀斯特土 黄褐色土。

第 61 図 D 区 I S102 造構図

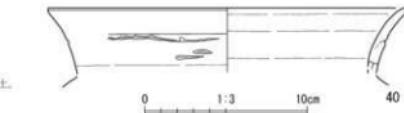
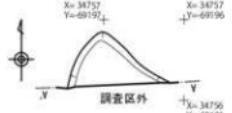
第 15 表 D 区 I S102 遺物観察表

回収番号	遺物名	埋別 地盤 層	法面 寸法 (cm) ○径 直徑 高さ	成形・整形技術等の特徴 (器形・文様の特徴)	①地塊 ②色調 ③粉土 残存 (%)	備考
第 62 50-40 PL33-40	S102 土罐 甕	[22.0] —	(4.0)	外: 口縁部ヨコナザ、輪縫み痕 内: 口縁部ヨコナザ	①良好 ②SIY6/6 ③チャート、石茎、角閃石	10

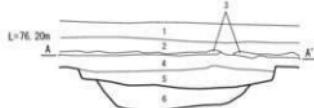
S111, SK11



S113



第 62 図 D 区 I S102 遺物図



S111, SK11 (SPA-A')

1. 黄土
2. 喀斯特土 土地改良工事遺土。
3. 白色土 酸化鉄分沈着あり。
4. 喀斯特土
5. 喀斯特土
6. 黑褐色土 (SK11)



S112 (SPA-A')

1. 黑褐色土 A-Bテフラ Ø 1mm中量。
2. 黄褐色土 酸化鉄分沈着あり。
3. 喀斯特土 白色、黄色小粒子多量。
4. 黑褐色粘土質 A-Bテフラ Ø 1mm中量。

縫まりやや弱く粘性あり。



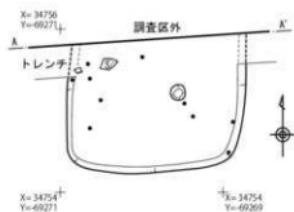
S113 (SPA-A')

1. 黄土
2. 喀斯特土 土地改良工事遺土。
3. 黑褐色土 A-Bテフラ Ø 1mm中量。
4. 白色土 酸化鉄分沈着あり。
5. 喀斯特土
6. 黑褐色土

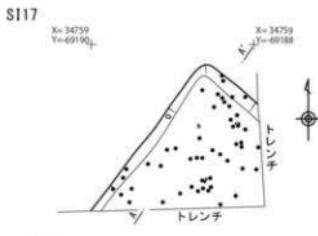


第 63 図 D 区 I S111 ~ 13, SK11 造構図

SI15

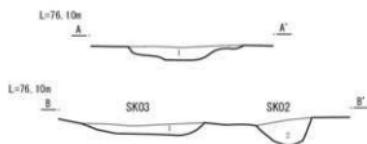


SI16



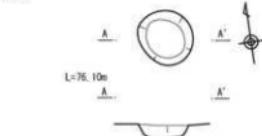
0 1:60 2m
(平面図・断面図)

SK02・03



SK02, SK03 (SPA-A'-B-B') 断面
1 黒褐色砂質土。粒子はきめ細かく、白色粒子φ 2 ~ 5mm 多量、黒色土ブロック 10 ~ 15mm と黄褐色小ブロック多量。
2 明褐色砂質土。比較的の粒子は粗らかく、黒褐色土ブロックを含む。1層に比し砂質。

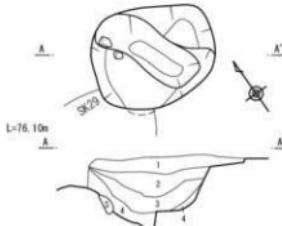
SK05



SK05 (SPA-A')
1 黄褐色砂質土。黄色小粒子多量。しまり良い。

0 1:40 2m
(平面図・断面図)

SK06

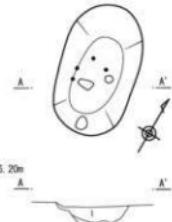


SK06 (SPA-A')
1 黒褐色砂質土。黄色小粒子多量。しまり良い。

2 塗褐色土
3 黒褐色土。粒子はきめ細かく、しまり良い。粘性あり。黄色粒子中量。
4 黒色土

第64図 D 区 I SI15 ~ 17, SK02・03・05・06 遺構図

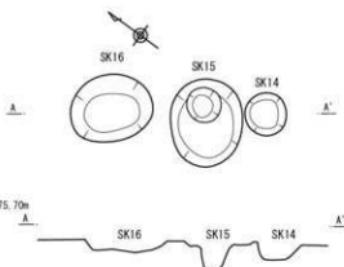
SK08



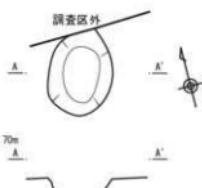
SK12



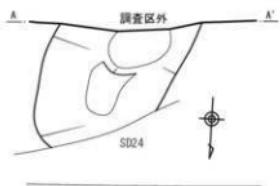
SK14・15・16



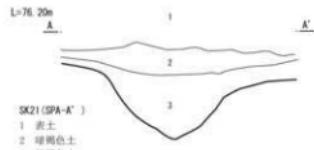
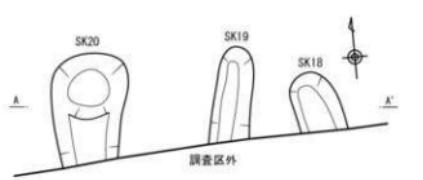
SK13



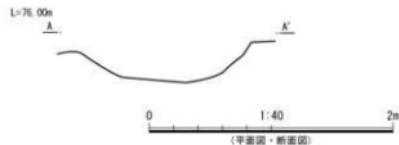
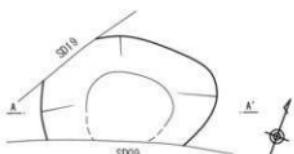
SK21



SK18, 19, 20

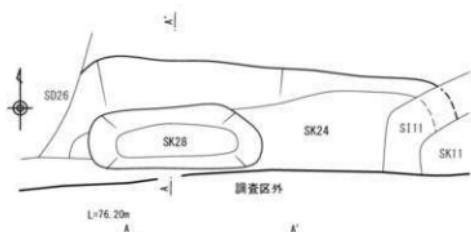


SK22



第 65 図 D 区 I SK08・12～16・18～22 遺構図

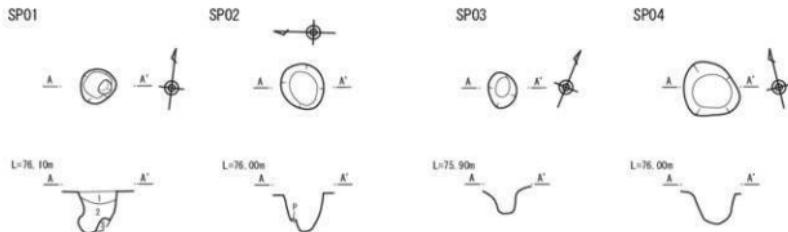
SK24・28



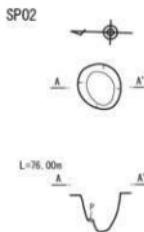
SK27



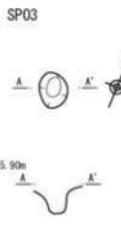
SP01



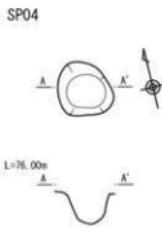
SP02



SP03

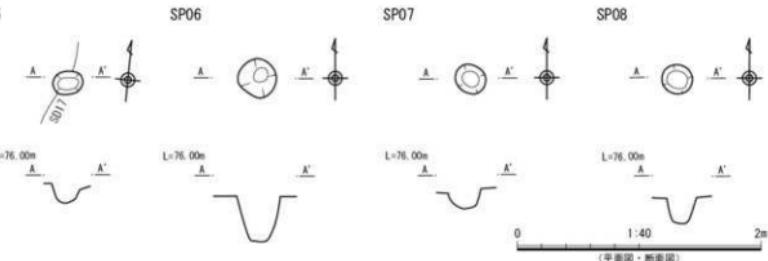


SP04

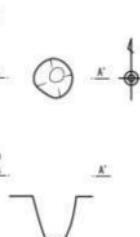


SP01 (SPA-A')
1 黒色テフラ
2 塗褐色粘質土

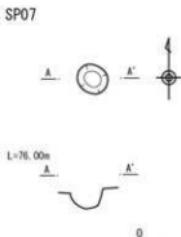
SP05



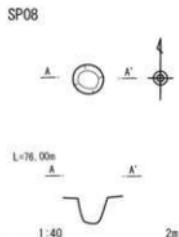
SP06



SP07

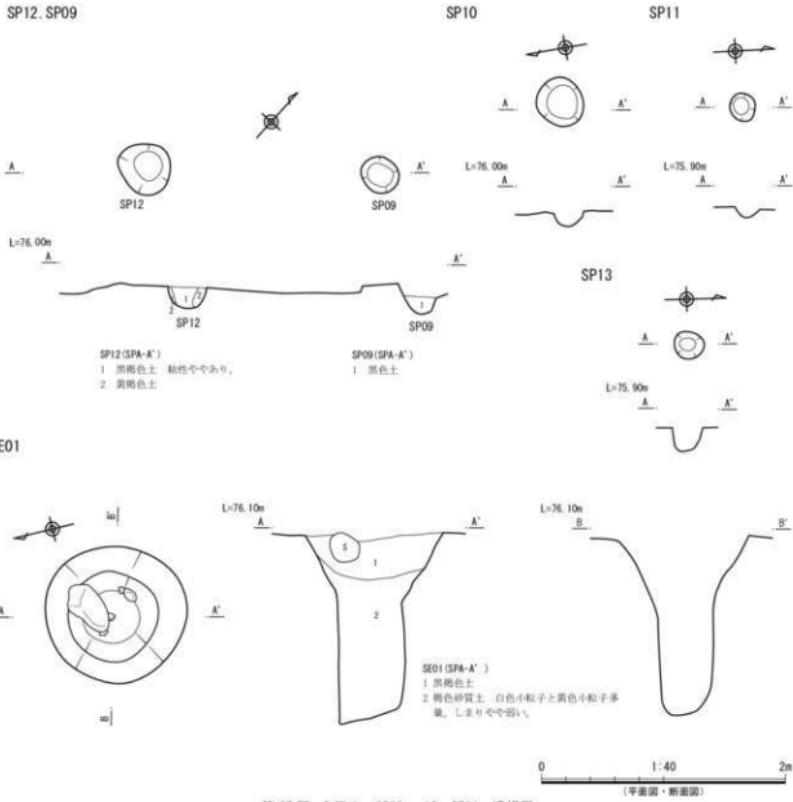


SP08

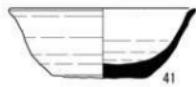


0 1:40 2m
(平面図・断面図)

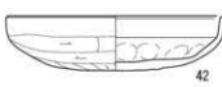
第 66 図 D 区 I SK24・27・28、SP01～08 這様図



第 67 図 D 区 I SP09 ~ 13, SE01 遺構図



41



42

第 68 図 D 区 I 遺物図

第 16 表 D 区 I 遺物観察表

図番号	遺構名	種別 器種	法面 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①地成 ②色調 ③粒土	残存 (%)	備考
			口径	底径	高さ				
第 67 図 41 PI.33-41	遺構部 坑	SB23	11.4	5.6	4.3	口クロ成形 外: 口クロナナ, 底面削鉛系切末調整 内: 口クロナナ	①地縫り弱い ②7, SB8/3 ③チャート, 角閃石, 鉄分粒	80	
第 68 図 42 PI.33-42	遺構外 部	土師器 坑	13.2	—	3.4	口縫部は直立気味に立ち上がる 外: 口縫混ヨコナナ, 体部ヘラケズリ 内: 口縫混ヨコナナ, 体部指頭押正後にナナ	①良好 ②SB6/4 ③チャート, 角閃石, 鉄分粒	90	

第 17 表 D 区 I 透構觀察表 (1)

名稱	面	形狀	主軸方位	規格 (mm)	時間		備考・出土物
					長軸	短軸	
S001	1		N- 23° - E	3.93	1.09	0.05	近世以降
S002	1		N- 38° - E	4.08	0.84	0.05	As-1 降下後 銀匙頭
S003	1		N- 66° - E	6.72	0.34	0.13	
S004	1		N- 64° - E	6.40	0.44	0.10	As-1 降下後 鑽器
S005	1		N- 69° - E	5.68	1.56	0.31	近世
S006	1		N- 2° - E	3.02	0.62	0.23	As-1 降下後 土師器、陶器
S007	1		N- 7° - E	3.09	1.08	0.34	As-1 降下後 銀匙頭
S008	2		N- 36° - E	3.94	0.52	0.13	近世 土師器、銀匙頭・高环、陶器殘片、青釉、安田磁器
S009	2		N- 73° - E	9.08	1.95	0.76	S004 を切る。
S010	1		N- 69° - E	3.28	0.64	0.32	土師器、銀匙頭
S011	2		N- 11° - E	5.26	1.16	0.66	土師器、銀匙頭
S012	2		N- 6° - E	3.14	2.12	0.86	As-1 降下後 SK27 を切る。土師器、銀匙頭・坪地
S013	2		N- 38° - E	3.82	0.60	0.05	土師器、銀匙頭
S014	1		N- 62° - E	5.48	0.72	0.12	銀匙頭
S015	2		N- 54° - E	3.96	0.78	0.07	S009 を切る。
S016	1		N- 16° - E	3.06	0.32	0.06	
S017	1		N- 12° - E	3.10	0.40	0.05	
S018	2		N- 52° - E	3.94	1.40	0.17	As-1 降下後 土師器
S019	2		N- 71° - E	1.70	0.78	0.16	S004 を切る。
S020	2		N- 52° - E	4.40	1.72	0.19	
S021	2		N- 41° - E	4.06	0.54	0.34	
S022	2		N- 12° - E	2.90	1.22	0.28	As-1 降下後 S004 を切る。
S023	2		N- 23° - E	3.24	1.14	0.41	9世紀後半から 銀匙頭・坪・壠
S024	2		N- 72° - E	10.00	0.92	0.25	
S025							矢番
S026	1		N- 43° - E	3.06	1.68	0.45	SK11 を切る。
S101	2		N- 78° - E	2.10	1.72	0.25	9世紀後半 土師器・坪
S102	2		N- 3° - E	1.43	0.89	0.27	8世紀後半から 土師器・坪
S103	2		N- 8° - E	2.82	0.45	0.17	8世紀後半から 銀匙頭・坪
S104							矢番
S105							矢番
S106							矢番
S107							矢番
S108							矢番
S109							矢番
S110							矢番
S111	2		N- 75° - E	2.12	1.13	0.53	SK11 を切る。
S112	2		N- 69° - E	1.86	1.23	0.18	
S113	2		N- 52° - E	0.82	0.68	0.15	
S114							矢番
S115	2		N- 88° - E	2.20	1.65	0.28	土師器
S116	2		N- 71° - E	1.65	0.85	0.14	土師器
S117	2		N- 38° - E	2.02	1.59	0.14	平安時代 土師器、銀匙頭
S001							矢番
S002	1	不整形	N- 35° - E	2.41	1.04	0.24	土師器
S003	1	不整形	N- 78° - E	2.20	0.68	0.12	SK02 を切る。土師器
S004							矢番
S005	2	円形		0.47	0.41	0.12	
S006	2	橢円形	N- 83° - E	1.07	0.88	0.54	
S007							矢番
S008	2	橢円形	N- 19° - E	1.09	0.65	0.22	As-1 降下後 土師器
S009							矢番
S010							矢番
S011	2	正方形	N- 65° - E				平安以前
S012	1	橢円形	N- 83° - E	1.05	0.42	0.26	土師器跡
S013	3	橢円形	N- 26° - E	0.70	0.53	0.13	
S014	3	円形		0.35	0.35	0.16	
S015	3	橢円形	N- 58° - E	0.73	0.60	0.25	
S016	3	橢円形	N- 44° - E	0.68	0.55	0.10	
S017							矢番
S018	2	不整形	N- 13° - E	0.51	0.38	0.21	
S019	2	不整形	N- 15° - E	0.78	0.21	0.13	銀匙頭
S020	2	不整形	N- 10° - E	0.89	0.63	0.31	As-1 降下後 土師器
S021	2	不整形	N- 26° - E	1.20	1.01	0.57	
S022	2	不整形	N- 96° - E	1.46	0.96	0.34	S009・19 を切る。 矢番
S023							矢番
S024	2	不整形	N- 85° - E	2.60	1.05	0.46	
S025							矢番
S026	3	橢円形	N- 86° - E	1.72	1.05	0.06	
S027	3	不整形	N- 61° - E	2.12	1.37	0.29	As-1 植木
S028	2	橢円形	N- 89° - E	1.42	0.82	0.60	
S029	2	橢円形	N- 82° - E	0.95	0.78	0.42	
S030	1	円形		0.29	0.29	0.34	As-1 降下後 土師器
S031	1	円形		0.40	0.35	0.32	
S032	3	橢円形	N- 19° - E	0.30	0.23	0.22	
S033	1	円形	N- 83° - E	0.49	0.41	0.26	
S034	1	橢円形	N- 83° - E	0.25	0.19	0.16	

第 18 表 D 区 I 造模觀察表 (2)

名称	面	形状	主轴方位	規格 (m)			时期	備考
				長軸	短軸	深さ		
SP06	2	円形		0.32	0.32	0.37		
SP07	2	円形		0.26	0.24	0.17		
SP08	1	円形		0.26	0.24	0.22		
SP09	3	円形		0.31	0.31	0.25		
SP10	3	円形		0.41	0.39	0.14		
SP11	3	円形		0.24	0.22	0.09		
SP12	3	不整形 N= 19° - 8		0.79	0.56	0.19		
SP13	3	円形		0.24	0.23	0.20		
SP01	1			1.17	1.12	1.58	An-A 以下複合	

第10節 D区II

(1) 調査区の概要

D区IIは、2号雨水排水路工事に伴い発掘調査を行った。調査区全体は運動場の一部となっており、運動場整備に伴うカクランが広範囲にわたって検出された。

As-B一次堆積層はあまり残存していないかった。よって現代のカクランの下層面を遺構検出面とし、第1面として調査を行った。

第2面は第1面の遺構及びカクラン土の下層遺構を対象として調査を行った。

本調査区では古代～近現代までの遺構および遺物を検出した。遺構の内訳は、溝22条、竪穴建物跡2軒、焼土範囲3箇所、土坑7基、ピット4基である。

(2) 溝

本調査区では、22条の溝を検出した。

SD12・13は第2面で検出した。幅2.64m、深さ0.81～0.85mと比較的規模が大きく、調査区外北側ではほぼ直角に曲がる推定できる。

断面形は底面が平坦で台形を呈する。走行方向はSD12ではN-32°Eとなり、30°程度真北から傾いている。埋土にAs-Bが混ざるため、時期はAs-B降下後と考えられる。方形の土地区画の堀と考えられるが、区画内の遺構は検出できなかった。

(3) 竪穴建物跡

本調査区では2軒の竪穴建物跡を検出した。

SI01(遺構: 第77図/遺物: 第78図)

位置:D区IIの西寄りに位置する。重複:なし。形態:長方形と推定できる。柱穴: 南東隅でSP01を確認した。SP01の床面からの深さは0.11mを測る。北辺に沿って壁周溝がわらると推定される。カマド: 北辺の北東隅に設置される。袖は検出できなかった。貯蔵穴: 東隅で検出した。深さは0.3mである。床面: ほぼ平坦で中央部分を中心に硬化面を確認した。また遺構中央部に炭層の堆積を確認した。遺物: 掘藏遺物は10点で、カマド内からは完形の土師器壊1点(46)とカマド内とカマド前の破片が接合した土師器甕(45)が出土した。貯蔵穴付近からもほぼ完形の土師器壊(47)が出土した。その他の遺物は周囲からの流れ込みの可能性がある。所見: カマド内の出土遺物から9世紀前半の所産であると考えられる。

SI02(遺構: 第79図)

位置:D区IIの中央に位置する。重複:なし。形態:不明。柱穴:不明。カマド:不明。床面: ほぼ平坦で中央部分で硬化面を確認し

た。遺物: 固化できるものは無かったが、土師器S字口縁台付甕の破片が出土している。所見: 古墳時代前期に属する遺構の可能性が高い。

(4) 焼土範囲

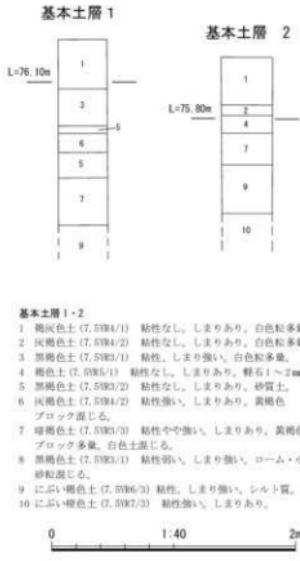
本調査区で焼土範囲を3箇所確認した。各焼土範囲は土坑状の掘方を持つが、時期・性格は不明である。

(5) 土坑

本調査区では、7基の土坑を検出した。調査区全体に散っており、詳細な性格を掴める土坑はなかった。

(6) ピット

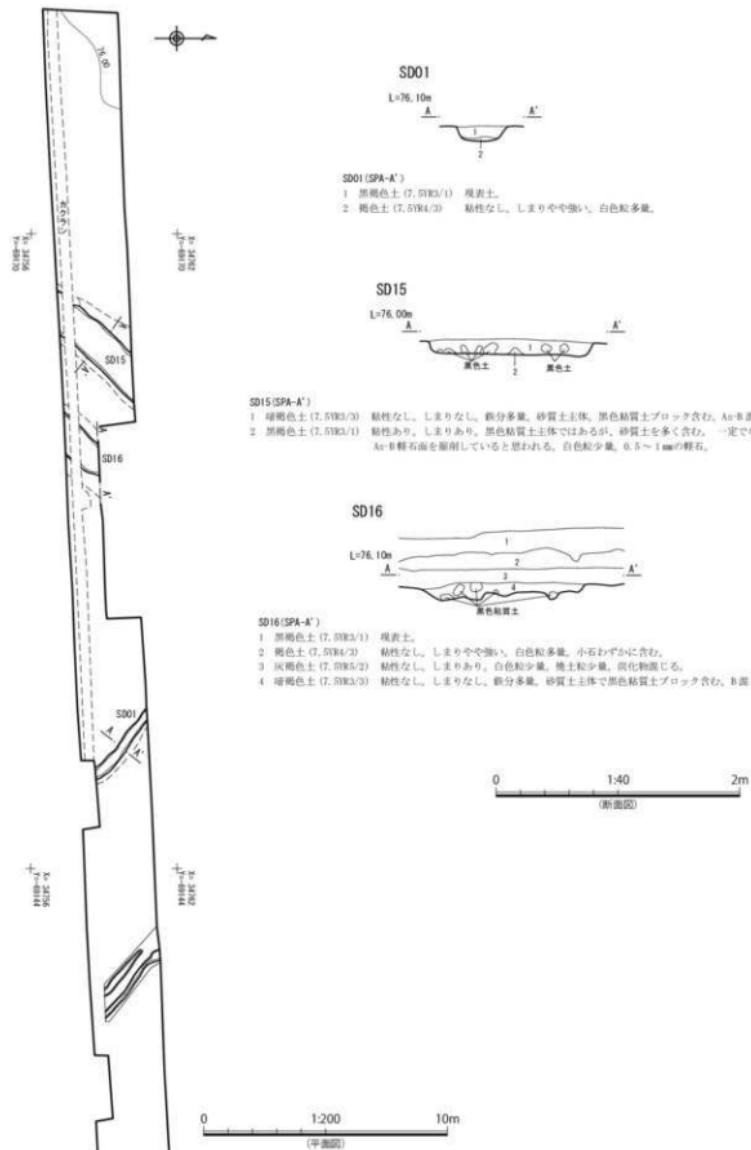
本調査区では4基のピットを検出した。これらはピットは規則的な配置をとるものではなく、全て単独のピットであり、掘立柱建物跡など詳細な性格を掴めるピットはなかった。



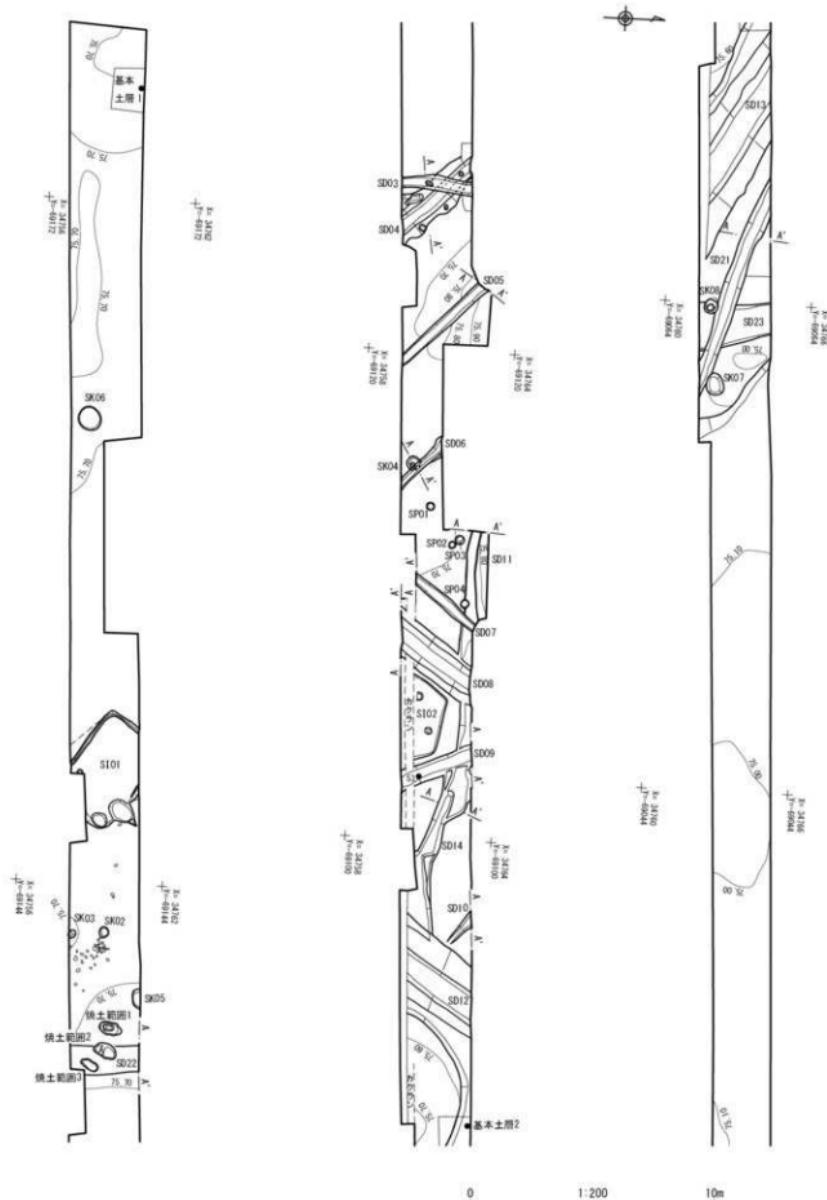
基本土層1・2

- 1 黄灰白色 (7,503A/1) 黏性なし。しまりあり。白色粘多量。
- 2 灰褐色土 (7,503B/2) 黏性なし。しまりあり。白色粘多量。
- 3 黑褐色土 (7,503C/1) 黏性なし。しまり強め。白色粘多量。
- 4 黄褐色土 (7,503E/1) 黏性なし。しまりあり。輕石1～2mm多量。
- 5 黑褐色土 (7,503D/2) 黏性なし。しまりあり。砂質土。
- 6 黄褐色土 (7,503E/2) 黏性強め。しまりあり。黄褐色。
- 7 灰褐色土 (7,503F/3) 黏性やや強め。しまりあり。黃褐色。
- 8 黑褐色土 (7,503G/1) 黏性弱め。しまり強め。ローム・小稼・砂質混じる。
- 9 にぶい褐色土 (7,504E/3) 黏性。しまり強め。シルト質。
- 10 にぶい褐色土 (7,504F/3) 黏性強め。しまりあり。

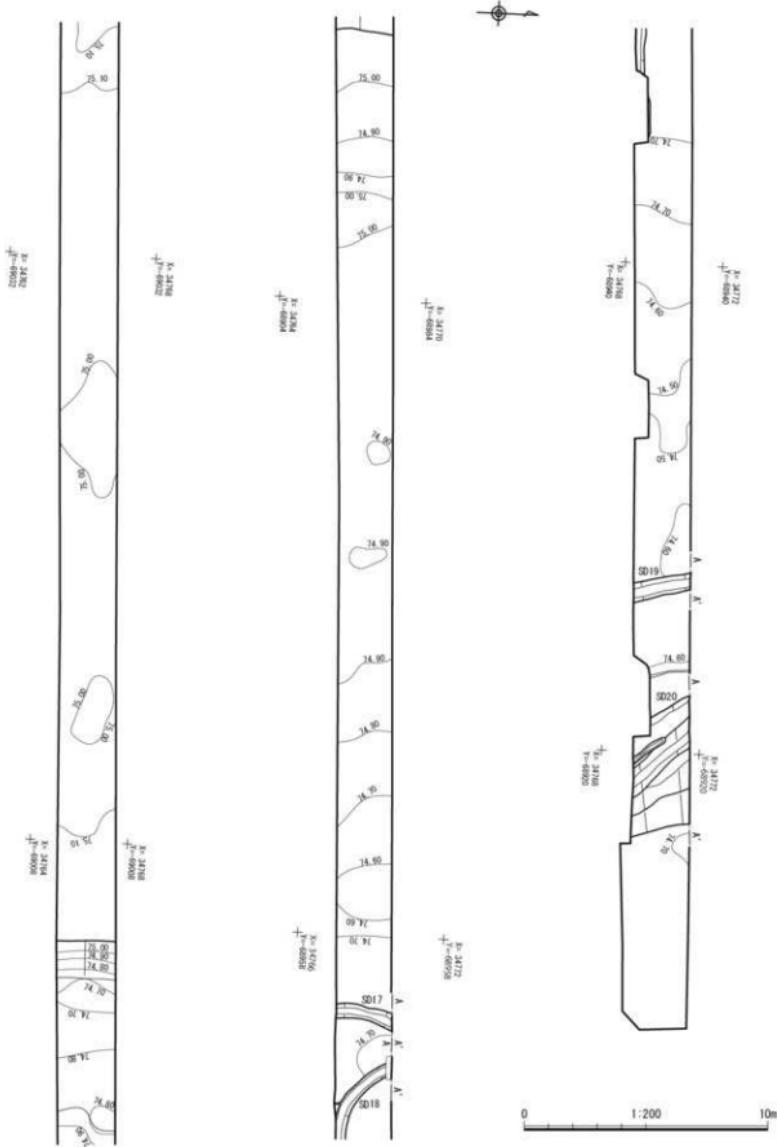
第69図 D区II 基本土層



第70図 D区Ⅱ第1面 造構全体図



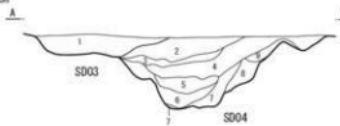
第71図 D区 II 第2面 造構全体図(1)



第72図 D区II第2面 遺構全体図(2)

SD03, 04

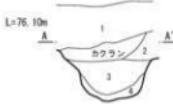
L=75.80m



SD03, 04 (SPA-A')

- 褐色灰土 (7, SYR4/1) 黏性なし。しまりなし。砂質土主体。上層から入り込む現代の風。
- 黒褐色土 (7, SYR3/1) 黏性あり。しまりあり。炭化鉄分がや多い砂質土含む。
- 暗褐色土 (7, SYR3/4) 黏性なし。しまりなし。砂質土主体。粘質土ブロック状に混じる。
- 暗褐色土 (7, SYR3/3) 黏性なし。しまりなし。砂質土主体。小礫。川砂れき。
- 暗褐色土 (7, SYR3/2) 黏性なし。しまりなし。砂質土主体。(下方 An=市テフラ層) 小量。
- 暗褐色土 (7, SYR2/4) 黏性なし。しまりなし。砂質土。炭化鉄分多く地山プロック(少)多量。小礫混じる。
- 黒褐色土 (7, SYR2/4) 黏性なし。しまりなし。地山プロック(ローム?) 多量。白色粘微量。砂質。
- 黒褐色土 (7, SYR2/3) 黏性やや弱い。しまりあり。地山プロック(大)多量。塊の崩落少。
- 黒褐色土 (7, SYR2/2) 黏性なし。しまりあり。地山プロックや多い。砂質土少量。

SD05



SD05 (SPA-A')

- 褐色土 (7, SYR4/3) 現表土。
- 褐色土 (7, SYR4/4) 黏性やや弱くしまりあり。白色粘少量。炭化物微量。塊土板わざかに含む。
- 暗褐色土 (7, SYR3/3) 黏性やや弱い。しまりあり。炭化物微量。砂質土ブロック混じる。φ1~2mmの軽石含む。
- 黒褐色土 (7, SYR3/2) 黏性強い。しまりあり。炭化物微量。砂質土少量。粘質土ブロック多量。

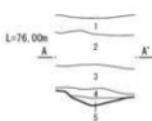
SD06



SD06 (SPA-A')

- 暗褐色土 (7, SYR3/3) 黏性やや強く。しまりあり。ロームプロック(少)多量。炭化物少量。砂質土混じる。
- 暗褐色土 (7, SYR3/3) 黏性なし。しまり弱。ロームプロック(少)多量。炭化物少量。砂質土混じる。

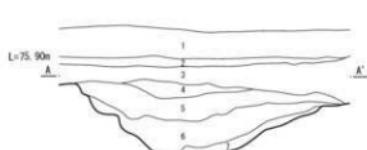
SD07



SD07 (SPA-A')

- 黒褐色土 (7, SYR4/3) 現表土。
- 黒褐色土 (7, SYR3/2) 黏性なし。しまりあり。白色粘多量。炭化物微量。塊土ブロックわざかに混じる。
- 黒褐色土 (7, SYR3/2) 黏性やや弱い。しまりあり。白色粘少量。炭化物わざかに混じる。
- 黒褐色土 (7, SYR2/2) 黏性弱い。しまり弱い。塊土板。炭化物わざかに混じる。やや砂質。φ1mm程の軽石含む。
- 黒褐色土 (7, SYR2/2) 黏性なし。しまりなし。炭化物。塊土板わざかに混じる。砂質土。

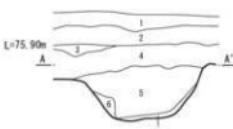
SD08



SD08 (SPA-A')

- 黒褐色土 (7, SYR3/1) 現表土。
- 褐色土 (7, SYR4/2) 黏性なし。しまりあり。白色粘多量。黄褐色粘少量。炭化物微量。
- 黒褐色土 (7, SYR3/2) 黏性なし。しまりあり。白色粘少量。φ1mm程度の軽石含む。黄褐色粘少量。
- 暗褐色土 (7, SYR3/3) 黏性なし。しまりあり。白色粘微量。小礫含む。炭化物わざか。
- 暗褐色土 (7, SYR3/3) 黏性弱い。しまりやや弱い。白色粘微量。黄褐色粘少量混じる。砂質土。
- 黒褐色土 (7, SYR2/2) 黏性あり。しまりあり。白色粘少量。炭化鉄分や多く下方でざかに砂質土混じる。φ0.5mmの軽石混じる。
- 黒褐色土 (7, SYR3/1) 黏性強い。しまりあり。黄褐色粘少量。砂質土混じる。

SD09



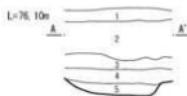
SD09 (SPA-A')

- 黒色土 (7, SYR2/1) 現表土。
- 褐色土 (7, SYR3/2) 透灰土。
- 褐色土 (7, SYR3/3) 黏性強い。しまりあり。白色粘多量。黄褐色粘少量。
- 褐色土 (7, SYR3/3) 黏性やや弱い。しまりあり。白色粘多量。塊土板少量化。釋石混じる。
- 黒褐色土 (7, SYR3/2) 黏性なし。しまりあり。白色粘少量。塊土板わざかに含む。砂質土主体。
- 暗褐色土 (7, SYR3/3) 黏性やや強。しまり弱い。白色粘微量。
- 黒褐色土 (7, SYR3/1) 黏性なし。しまりなし。砂質土、小礫混じる。

0 1.40 2m

第 73 図 D 区 II SD03 ~ 09 道構図

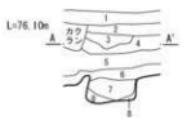
SD10



SD10(SPA-A')

- 1 黒褐色土 (7.SYR2/1) 粘土土。
- 2 褐色土 (7.SYR4/3) 道成土。砂石等多量。
- 3 黄褐色土 (7.SYR4/1) 粘性なく少しあ弱い。白色と少量。灰土と微量。砂質土主体。
- 4 噴霧褐色土 (7.SYR3/3) 粘性なしや強い。しまりあり。白色和少量。φ0.1mmの砂石含む。
- 5 黑褐色土 (7.SYR3/2) 粘性なし。しまりなし。砂質土。黄褐色粘微量。

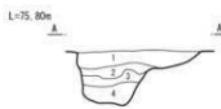
SD11



SD11(SPA-A')

- 1 黒色土 (7.SYR2/1) 粘土土。
- 2 褐色土 (7.SYR4/3) 粘性なし。しまり強。砂石等混じる。
- 3 褐色土 (7.SYR4/1) 粘性なし。白色粘多量。黄褐色灰。炭化物微量。
- 4 噴霧褐色土 (7.SYR3/3) 粘性弱。しまりあり。白色粘中量。粘土混じる。炭化物、堆土と混じる。
- 5 噴霧褐色土 (7.SYR3/2) 粘性弱。しまりあり。白色粘や少弱。炭化物、堆土と混じる。
- 6 噴霧褐色土 (7.SYR3/1) 粘性なし。しまりやや弱い。白色粘少量。黄褐色粘微量。
- 7 黑褐色土 (7.SYR2/2) 粘性強なしや強。白色粘。黄褐色粘少量。砂質土がまばらに含まれる。
- 8 黑褐色土 (7.SYR3/1) 粘性なし。しまりなし。黄褐色粘微量。炭化物微量。砂質土主体。

SD14



SD14(SPA-A')

- 1 黒褐色土 (7.SYR2/2) 粘性やや強い。しまりあり。白色粘少量。炭化物分多量。Ar-Bテフラ面。
- 2 黑褐色土 (7.SYR1/1) 粘性強い。しまりあり。白色粘微量。Ar-Bテフラ層微量。粘質土。
- 3 噴霧褐色土 (7.SYR3/2) 粘性やや弱い。しまりあり。白色粘少量。黄褐色ブロック(中)多量。Ar-Bテフラ面。
- 4 黑褐色土 (7.SYR3/1) 粘性やや弱い。しまりあり。白色粘少量。黄褐色土の小ブロック少量。Ar-Bテフラ面。

SD17



SD17(SPA-A')

- 1 黒褐色土 (7.SYR6/1) 粘性やや強い。しまりやや強い。白色粘微量。粘土質土ブロック少量。砂質土わざかに混じる。炭化物分少量沈着。
- 2 黄褐色土 (7.SYR5/2) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。砂質土主体。粘土質土ブロックや多く混じる。鉄分付でかく沈着。
- 3 黄褐色土 (7.SYR5/1) 粘性なし。しまりなし。黄褐色土ブロック少量。下層にφ0.5mm砂石少量。砂質土主体。

SD18



SD18(SPA-A')

- 1 黄褐色土 (7.SYR6/1) 粘性やや強い。しまりやや強い。白色粘微量。砂質土ブロック状に含む。粘質土主体。
- 2 黄褐色土 (7.SYR6/2) 粘性やや強い。しまりやや強い。に長い褐色土ブロック多量。砂質土主体。
- 3 黄褐色土 (7.SYR5/1) 粘性やや強い。しまりやや強い。白色粘少量。φ0.5mm砂石含む。さめ細かい砂質土主体。

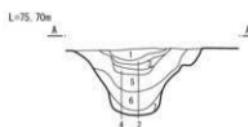
SD19



SD19(SPA-A')

- 1 黄褐色土 (7.SYR4/1) 粘性なし。しまりなし。砂質土主体。圓砂粒多量。炭化物分わざかに沈着。
- 2 黄褐色土 (7.SYR4/2) 粘性なし。しまりなし。砂質土主体。φ0.5mm砂石下層に少量。炭化物分わざかに沈着。

SD21

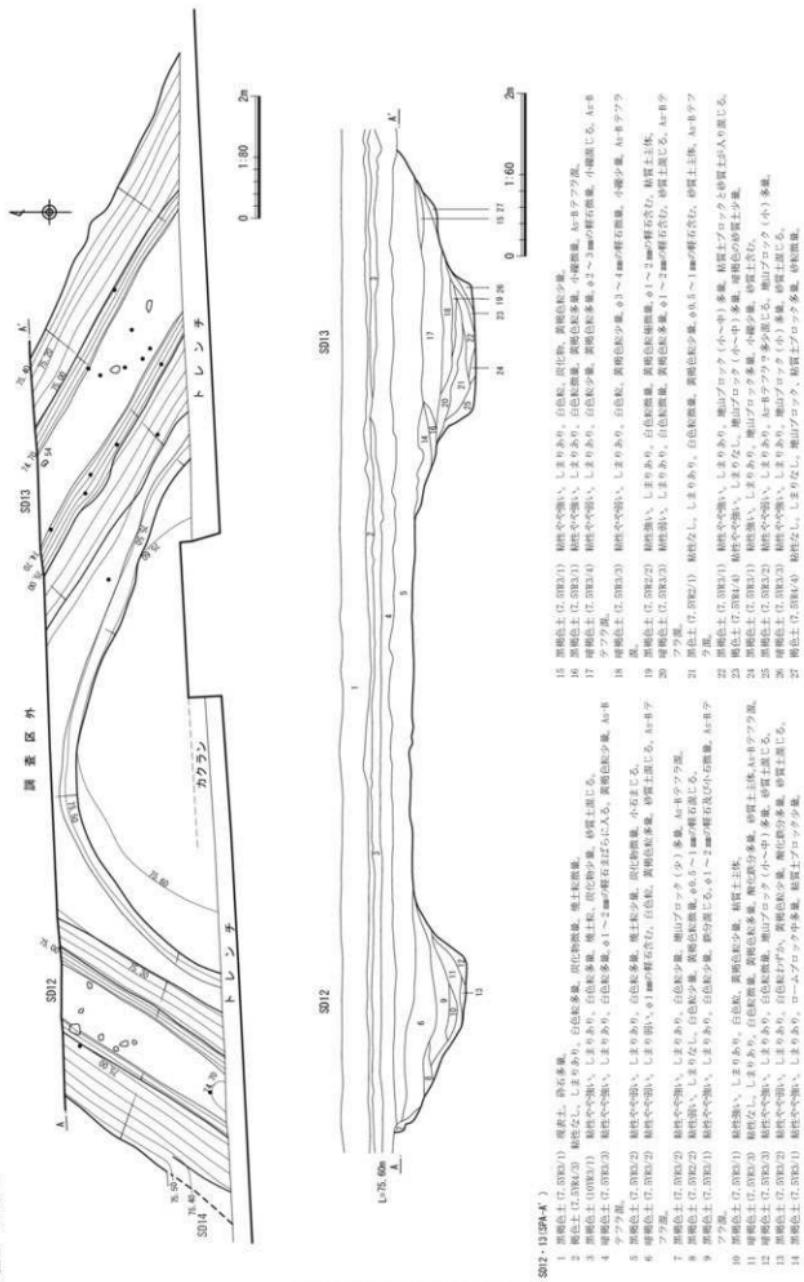


SD21(SPA-A')

- 1 黑褐色土 (7.SYR4/3) 粘性なし。しまりあり。白色粘微量。黄褐色粘少量。炭化物微量。砂質土。鉄分含むφ2~3mmの砂石含む。
- 2 黑褐色土 (7.SYR4/1) 粘性弱い。しまりあり。白色粘。黄褐色粘少量。砂石混じる。粘質土。
- 3 黑褐色土 (7.SYR4/3) 粘性弱い。しまりなし。白色粘。黄褐色粘微量。炭化物分含む。
- 4 黑褐色土 (7.SYR4/1) 粘性弱い。しまりあり。黄褐色粘含む。炭化物微量。
- 5 噴霧褐色土 (7.SYR3/3) 粘性やや強い。しまり弱い。白色粘。炭化物微量。堆土粘少量。φ0.5~1mm砂石含む。砂粒混じる。
- 6 黑褐色土 (7.SYR3/1) 粘性やや強い。しまりあり。白色粘。黄褐色粘。堆土粘少量。φ0.5mm砂石含む。
- 7 噴霧褐色土 (7.SYR3/2) 粘性やや強い。しまりあり。ローラー土ブロック(少)多量。砂粒少量。

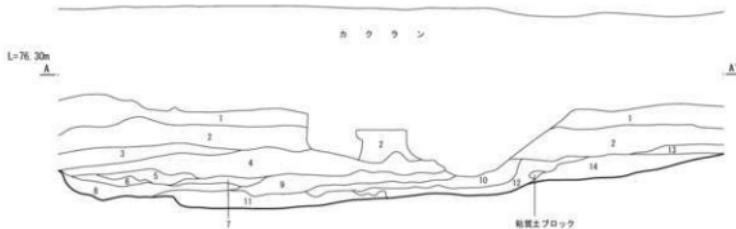
0 1:40 2m

第74図 D区Ⅱ SD10・11・14・17~19・21 道構図



第75図 D区II SD12・13 遺構図

SD20



SD20 (SPA-A')

- 1 黄褐色土 (7.5W5/1) 粘性なし。しまりあり。白色粘多量。小穂含む。砂質土。
- 2 白褐色土 (7.5W4/4) 粘性強い。しまりあり。白色粘少量。黄褐色粘微量。φ0.5~1mm粘石含む。砂質土。An-Hテフラ層じる。
- 3 黄褐色土 (7.5W5/2) 粘性なし。しまりあり。白色粘微量。砂質土。
- 4 黄褐色土 (7.5W5/5) 多量。砂質土。
- 5 黄褐色土 (7.5W6/1) 粘性なし。しまりなし。白色粘微量。粘質土ブロック (小) まばらに含む。砂質土。
- 6 明顯灰黒土 (7.5W7/1) 粘性なし。しまりなし。白色粘微量。粘質土ブロック (小) 多量。砂質土。
- 7 黄褐色土 (7.5W8/2) 粘性なし。しまりなし。白色粘微量。けわかに粘石分離する。砂質土。
- 8 黄褐色土 (7.5W8/1) 粘性なし。しまりなし。白色粘微量。ロームブロック (小) 多量。砂質土。
- 9 黄褐色土 (7.5W8/1) 粘性なし。しまりあり。白色粘微量。黄褐色土ブロック (小) 少量。粘質土ブロック (小) 多量。φ0.5mm粘石含む。(一部小穂集中する箇所あり)。
- 10 黄褐色土 (7.5W6/1) 粘性やや強い。しまりあり。φ1mm粘石。ロームブロック (小) 多量。砂質土。
- 11 黄褐色土 (7.5W6/2) 粘性強い。しまりあり。粘質土主体。白色粘質土ブロック少量。砂質土。
- 12 黄褐色土 (7.5W6/1) 粘性なし。しまりあり。白色粘少量。ロームブロック (小) 少量。砂質土。
- 13 に加へ褐色土 (7.5W5/3) 粘性やや強い。しまりあり。白色粘微量。ロームブロック (中) 少量。粘化鉄分含む。
- 14 深黃褐色土 (7.5W8/3) 粘性強い。しまり強い。ローム主体。砂粒多量。

SD22



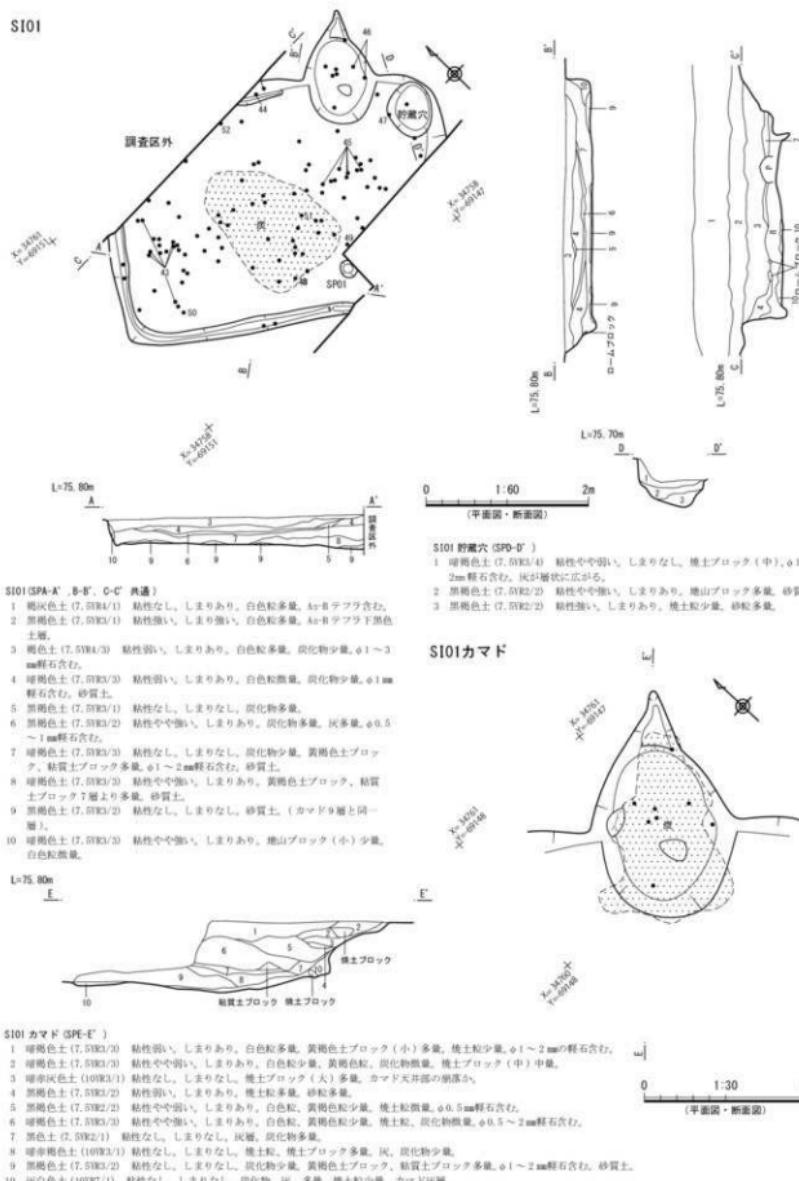
第 76 図 D 区 II SD20・22 遺構図

0 1:40 2m

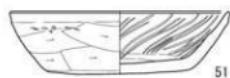
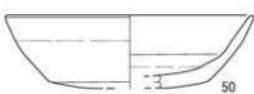
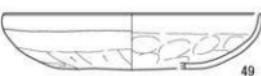
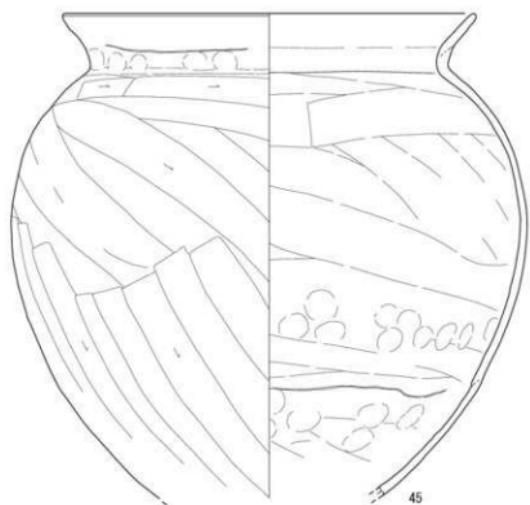
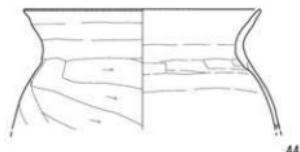
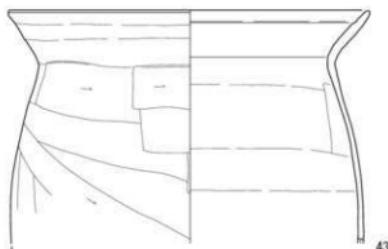
第 19 表 D 区 II 遺構観察表 (1)

名前	面	形状	主軸方位	周囲 (m)	高さ 高60 低60 深さ	時期	備考・出土遺物
SD01	1	N-51°-E	3.22	0.48	0.24		土師器
SD02	2	N-6°-E	1.22	0.48	0.13	古現代	矢頭
SD03	2	N-6°-E	3.72	1.44	0.61	ka-B段下後	土師器
SD04	2	N-6°-E	2.14	0.54	0.23	ka-B段下後	土師器
SD05	2	N-45°-E	4.38	0.52	0.35	ka-A段下後か	土師器
SD06	2	N-44°-E	2.14	0.54	0.23		SD04を切る。土師器
SD07	2	N-28°-E	5.12	0.48	0.15		SD01を切る。
SD08	2	N-33°-E	3.42	1.58	0.45	ka-A段下後	SD01を切る。須恵器、陶器、内耳繩
SD09	2	N-21°-E	3.06	0.76	0.43	ka-A段下後	SD01を切る。土師器・焼、須恵器、打削右刃
SD10	2	N-49°-E	1.32	0.46	0.07	ka-A段下後	土師器
SD11	2	N-83°-E	4.92	0.54	0.22	ka-A段下後	
SD12	2	N-32°-E	3.20	2.64	0.81	ka-A段下後	甲壁に燃る可能性あり。土師器、須恵器、骨破
SD13	2	N-60°-E	3.58	2.64	0.85	ka-A段下後	甲壁に燃る可能性あり。土師器、須恵器、端・高台付帯
SD14	2	N-70°-E	6.60	1.12	0.43	ka-B段下後	土師器下口縫合付帯。陶器
SD15	1	N-42°-E	3.80	0.71	0.19	ka-B段下後	土師器、須恵器
SD16	1	N-29°-E	1.96	1.20	0.08		土師器、須恵器
SD17	3	N-12°-E	2.32	0.62	0.11	ka-A段下後	土師器、須恵器
SD18	3	N-50°-E	5.48	0.54	0.15	ka-A段下後	土師器、須恵器
SD19	3	N-13°-E	2.34	0.74	0.09		土師器
SD20	3	N-40°-E	4.66	2.96	0.57	ka-B段下前か	土師器鋏、須恵器鋏
SD21	2	N-23°-E	7.96	0.78	0.53	ka-A段下後か	SD23を切る。土師器、須恵器
SD22	2	N-4°-E	2.80	1.18	0.03	ka-A段下後か	
SD23	2	N-13°-E	2.22	1.02	0.16		

S101



第77図 D区II S101 道構図



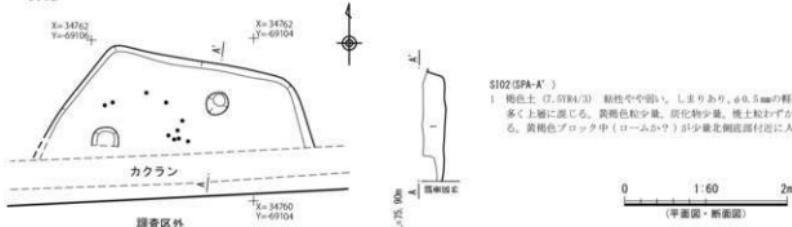
0 1:3 10cm

第78圖 D区Ⅱ SI01 遺物圖

第20表 D区 II S101 遺物観察表

国版番号	遺跡名	種別 遺跡	法面 □径 法格	法面 幅	成形・整形技術等の特徴 (器形・文様の特徴)	①地成 ②色調 ③粘土			残存 (%)	備考
						④	⑤	⑥		
第78回43 PL33-43	S101	土師器 便	22.2	—	(14.3) 口縁部内面に段を有する 外: 口縁部ヨコナヂ。肩へ胸上部ヨコのヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナヂ。肩へ胸上部ヨコのヘラケズリ	①良好 ②2.0M7/4 ③粘土質、チャート、褐灰岩、石英	40			
第78回44 PL33-44	S101	土師25 便	14.5	—	(7.4) 口縁部中央に凹い縦を有する 外: 口縁部ヨコナヂ。肩部ヨコのヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナヂ。肩部ヘラケズリ	①良好 ②2.0M6/6 ③粘土質、チャート、粘分粘	30			
第78回45 PL33-45	S101	土師25 便	【25.2】	—	(29.8) 口縁部に無い外方口縁 外: 口縁部ヨコナヂ。肩部指頭押圧後にヨコナヂ、輪 縫み痕、肩部ヨコのヘラケズリ、脚部ナ底のヘラケ ズリ 内: 口へ胸部ヨコナヂ。肩へ胸上部ヘラケズリ。脚下部 指頭押圧後にヘラケズリ、輪縫み痕	①良好 ②2.0M7/8 ③粘土質、チャート、粘分粘、研磨母 材、角閃石	40			
第78回46 PL33-46	S101	土師25 便	13.5	—	3.0 外: 口縁部ヨコナヂ。体部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナヂ。体部指頭押圧後にナヂ	①良好 ②2.0M6/6 ③研磨母材、研磨母 材、角閃石	100			
第78回47 PL33-47	S101	土師25 便	12.1	—	3.0 口縁に立ち上がる 外: 口縁部ヨコナヂ。体部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナヂ。体部指頭押圧後にヨコナヂ	①良好 ②2.0M6/6 ③粘土質、粘分粘、研磨母 材、角閃石	90			
第78回48 PL33-48	S101	土師25 便	【14.0】	—	3.5 外: 口縁部ヨコナヂ。その他の痕跡のため不明 内: 口縁部ヨコナヂ。体部指頭押圧後にナヂ	①複数 ②2.0M6/6 ③粘土質、粘分粘、研磨母 材、角閃石	30			
第78回49 PL33-49	S101	土師25 便	【15.7】	【9.0】	3.9 外: 口縁部ヨコナヂ。体部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナヂ。体部指頭押圧後にナヂ	①良好 ②2.0M6/6 ③研磨母材、粘分粘、研磨母 材、角閃石	30			
第78回50 PL33-50	S101	土師器 便	【15.0】	—	4.5 外: 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ、表面磨滅が著しく不 明 内: 口縁部ヨコナヂ	①良好 ②2.0M7/8 ③粘分粘、チャート、褐灰岩、 石英チャート、片岩	20			
第78回51 PL33-51	S101	土師25 便	13.4	8.9	3.9 外曲面は深溝がやや凹む 外: 口縁部ヨコナヂ。体部ヘラケズリ、輪縫み痕、波 紋ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナヂ。体部ヘラケズリ後に放射状のヘラ ケズリ	①良好 ②2.0M6/6 ③チャート、片岩、粘分粘	80			
第78回52 PL34-52	S101	便器25 便	—	—	(16.9) 外: 腹上部ヨコナヂ。脚下部平行タタキ 内: 腹上部ヨコナヂ。脚下部同心円當地具痕	①良好 ②S4/0 ③チャート、石英	90			

S102

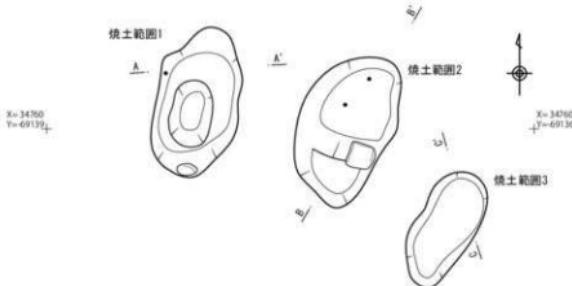


第79図 D区 II S102 遺構図

第21表 D区 II 遺構観察表(2)

名称	面	形状	主軸方位	規模 (m)	時期	備考・出土遺物	
						④	⑤
S101	2	% 42° -E	4.17	3.04	0.35	9世紀前半	土師器・便・馬糞・焼・須恵器・陶
S102	2	% 80° -W	3.08	1.18	0.21	六世紀前半	土師器・S字口沿付付器

焼土範囲 1.2.3



焼土範囲 1



焼土範囲 1 (SPA-A')

- 暗褐色土 (10YR3/3) 黏性やや強い。しまり弱い。白色粒多量。炭化物やや多量。砂質土。
- 黒褐色土 (7.5YR3/1) 黏性なし。しまり弱い。白色粒わずか。焼土ブロック、炭化物多量。
- 暗褐色土 (7.5YR3/3) 黏性やや強い。しまりあり。白色粒わずか。焼土粒、炭化物少量。

焼土範囲 2



焼土範囲 2 (SPB-B')

- 暗褐色土 (10YR3/1) 黏性やや強い。しまり弱い。白色粒多量。炭化物少量。
- 黒褐色土 (10YR3/2) 黏性弱い。しまり弱い。白色粒多量。炭化物多量。
- 暗褐色土 (10YR3/3) 黏性やや強い。しまりやや強い。白色粒少量。粘質土ブロック中量。焼土粒少量。
- 明褐色土 (2.5YR5/6) 黏性弱い。しまりやや強い。白色粒わずかに含む。焼土主体。
- 黒褐色土 (7.5YR3/1) 黏性なし。しまりなし。炭化物、灰が主体。
- にじみ 黑褐色土 (10.5YR5/3) 黏性なし。しまりなし。白色粒少量。炭化物わずか。砂質土。
- 黒褐色土 (7.5YR2/2) 黏性やや強い。しまりあり。白色粒わずか。焼土粒、粘質土ブロック少量。

焼土範囲 3



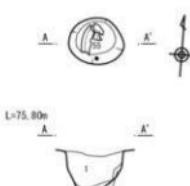
焼土範囲 3 (SPC-C')

- 暗褐色土 (10YR3/3) 黏性やや強い。しまり弱い。白色粒少量。焼土ブロック少量。炭化物少量。φ 0.5 ~ 1 mm 石膏含む。
- 暗褐色土 (10YR3/4) 黏性弱い。しまり弱い。炭化物多量。白色粒少量。小礫混じる。
- 黒褐色土 (7.5YR2/2) 黏性ややあり。しまりあり。焼土粒少量。炭化物わずか。粘質土ブロック (小) 混じる。

SK03

0 1:30 1m
(平面図・断面図)

SK02



SK02 (SPA-A')

- 黄褐色土 (7.5YR4/3) 黏性弱い。しまりあり。白色粒微量。黄褐色ブロック (小) 少量。砂質土主体。
- 褐色土 (7.5YR4/4) 黏性やや弱い。しまり弱い。黄褐色ブロック (小) 中量。

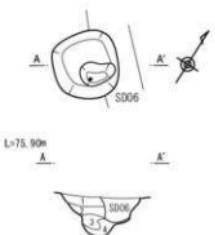
SK03 (SPA-A')

- 暗褐色土 (7.5YR3/3) 黏性なし。しまりあり。白色粒、黄褐色粒少量。炭化物微量。
- 褐色土 (7.5YR3/2) 黏性弱い。しまりあり。黄褐色粒少量。焼土粒微量。砂質土。

0 1:40 2m
(平面図・断面図)

第 80 図 D 区 II 焼土範囲 1 ~ 3, SK02・03 道構図

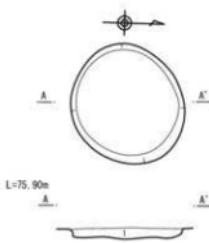
SK04



SK04(SPA-A')

- 1 黒褐色土 (7.SYR2/1) 粘性弱い。しまりやや強い。白色粘少量。黄褐色粘少量。炭化物、ロームブロック（小）微量。
- 2 増強色土 (7.SYR3/2) 粘性やや強い。しまりあり。ロームブロック（小）多量。
- 3 黒褐色土 (7.SYR3/1) 粘性やや強め。しまりあり。炭化物、ローム粘微量。
- 4 増強色土 (7.SYR3/1) 粘性やや強め。しまりあり。ロームブロック多量。小礫微量。

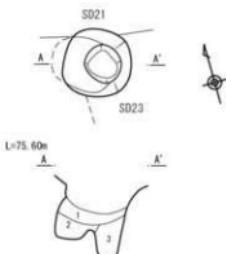
SK06



SK06(SPA-A')

- 1 黑褐色土 (7.SYR2/2) 粘性強い。しまりあり。白色粘、褐色粘。炭化物少量。

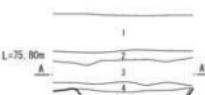
SK08



SK08(SPA-A')

- 1 黑褐色土 (7.SYR3/2) 粘性やや強い。しまりあり。白色粘微量。ローム多量。φ 1mm粒石含む。
- 2 黑褐色土 (7.SYR3/1) 粘性やや強い。しまりあり。ロームブロック多量。
- 3 黑褐色土 (7.SYR3/1) 粘性なし。しまりなし。白色粘微量。ロームブロック（小）多量。

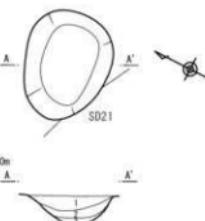
SK05



SK05(SPA-A')

- 1 増強色土 (7.SYR3/3) 粘性なし。しまりあり。白色粘微量。φ 0.5~1 mm粒石含む。（造成土）
- 2 黑褐色土 (7.SYR3/2) 粘性なし。しまりなし。黄褐色粘少量。φ 1mm粒石含む。鉄分多量。砂質土。
- 3 増強色土 (7.SYR3/3) 粘性なし。しまりなし。白色粘、炭化物微量。φ 0.5~1 mm粒石含む。砂質土。
- 4 黑褐色土 (7.SYR3/1) 粘性強い。しまりあり。黄褐色粘少量。砂粒まばらに混じる。
- 5 黑褐色土 (7.SYR2/2) 粘性強い。しまりあり。黄褐色粘多量。ロームブロック（小）、φ 0.5 mm粒石含む。
- 6 増強色土 (7.SYR3/4) 粘性やや強い。しまりあり。ロームブロック多量。

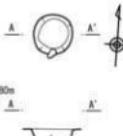
SK07



SK07(SPA-A')

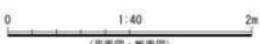
- 1 黑褐色土 (7.SYR3/1) 粘性やや強い。しまりあり。白色粘。黄褐色粘多量。鐵分土少量。φ 0.5~1 mm粒石含む。
- 2 増強色土 (7.SYR3/3) 粘性強い。しまりあり。白色粘微量。黄褐色粘多量。ロームブロック（小）多量。
- 3 黑褐色土 (7.SYR3/1) 粘性やや強い。しまりなし。ロームブロック多量。砂粒混じる。

SP01



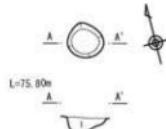
SP01(SPA-A')

- 1 黑褐色土 (7.SYR2/2) 粘性やや強い。しまりあり。白色粘微量。黄褐色粘多量。

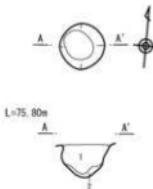


第 81 図 D 区 II SK04 ~ 08, SP01 造構図

SP02



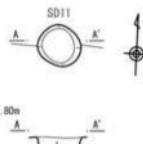
SP03



SP02 (SPA-A')

- 1 黒褐色土 (7.5YR3/4) 黏性やや弱い。しまりあり。φ2 mm鉢石含む。
2 ムブロック (小) 多量。

SP04



SP03 (SPA-A')

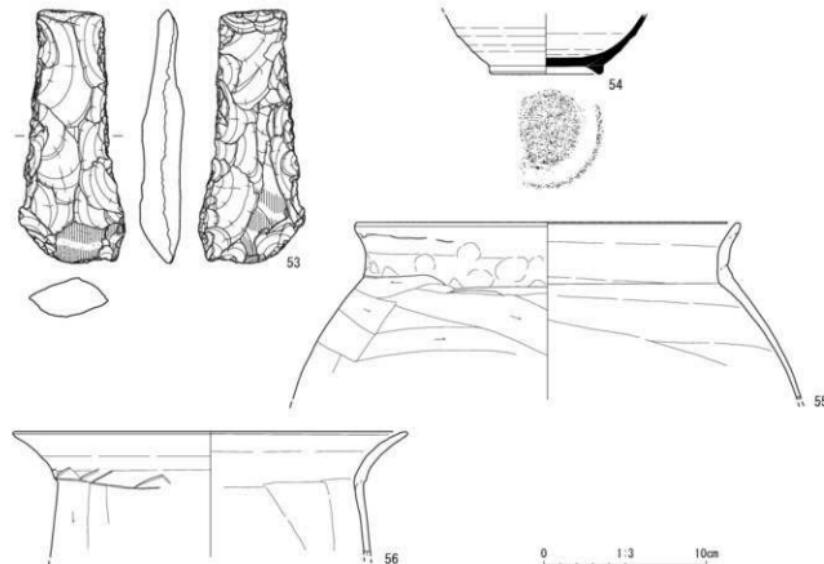
- 1 黒土 (7.5YR2/1) 黏性やや弱い。しまりあり。白色粒多量。ロームブロック (小) 少量。
2 黒褐色土 (7.5YR2/2) 黏性やや弱い。しまりなし。ロームブロック (小) 多量。砂質土無し。

0 1:40 2m
(平面図・断面図)

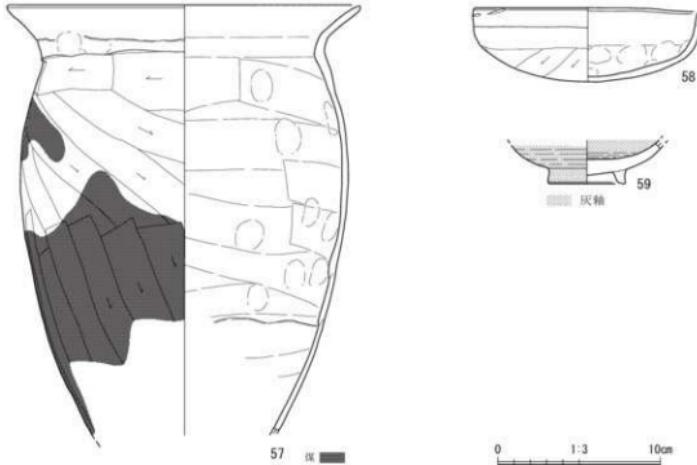
SP04 (SPA-A')

- 1 黒褐色土 (7.5YR2/2) 黏性やや弱い。しまりあり。φ0.5 ~ 1 mm鉢石混じる。黄褐色粒少量。

第 82 図 D 区 II SP02 ~ 04 遺構図



第 83 図 D 区 II 遺物図 (1)



第 84 図 D 区 II 遺物図 (2)

第 22 表 D 区 II 遺物観察表

団査番号	遺構名	構造 器種	法面 (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	作成技法等の特徴	現存 (%)	備考	
第 83 図 53 PL.34-53	石器 打製石器		15.5	6.5	2.6	—	(245.7)	頁岩	擦痕、網状骨片剥片を剥離し、網縫に画面加工が施される。刃部に微細剝離痕や擦耗痕が認められる。なお、打製石器(始端)のような刃部角度を持つ。	98		
			法面 (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	作成技法等の特徴	①焼成 ②色調 ③釉上		
第 83 図 54 PL.34-54	東晉器 高台付塊	—	6.0	—	—	0.7	(3.7)	陶器	クロコ成形 外: 口縁部ヨコナデ、底面凹凸部切後に高台粘付 内: ヨコナダ	①焼締りやや弱い ② 1070°C/1 ③軟分松、尾岩、石英	30	
第 83 図 55 PL.34-55	土師器 塊	【23.4】	—	—	—	—	(10.9)	陶器	ヨコの字形に縫 外: 口縁部ヨコナデ。輪縫み痕。頭部捺頭押圧後にヨコナ デ、頭部ヨコのヘラケズリ 内: ヨコ一帯ヨコナダ、頭～脚部ヨコのヘラナダ	①良好 ② 5100°C/8 ③研磨母、チャート、軟分 松	20	
第 83 図 56 PL.34-56	土師器 塊	【24.0】	—	—	—	—	(7.7)	陶器	口縁部に強く外反する 外: 口縁部ヨコナデ。胸部タテのヘラケズリ 内: ヨコナダヨコナデ。胸部ヨコのヘラナダ	①良好 ② 5100°C/6 ③チャート、研磨母、角閃 石	10	
第 84 図 57 PL.34-57	遺構外 土師器 塊		21.7	—	—	—	(26.4)	陶器	口縁部は強く外反する 外: 口縁部捺頭押圧後にヨコナダ。輪縫み痕。頭部ヨコの ヘラケズリ、胸部タテのヘラケズリ 内: ヨコナダヨコナダ。頭部捺頭押圧後にナダ	①良好 ② 5100°C/4 ③チャート、石英、軟分松	40	外面に煤の付着
第 84 図 58 PL.34-58	遺構外 土師器 塊		13.7	—	—	—	4.5	陶器	外: 口縁部ヨコナダ。輪縫み痕。体部ヘラケズリ 内: ヨコナダヨコナダ。頭部捺頭押圧後にナダ	①良好 ② 5100°C/6 ③チャート、尾岩、角閃石	100	
第 84 図 59 PL.34-59	陶器 系縄	—	4.7	—	—	—	(2.7)	陶器	クロコ成形。附り出し窓台。窓台内に除き赤色の鉄錆を施 す	①良好 ② 5100°C/4 ③鐵錆	20	

第 23 表 D 区 II 造構観察表 (3)

名称	面	形状	主軸方位	規模 (m)	長軸	短軸	深さ	時期	備考・出土遺物
SK01	2	円形		—	—	—	—	—	大壺
SK02	2	円形		—	0.46	0.38	0.37	9世紀	土師器塊
SK03	2	不整形	N~18°~W	0.31	0.30	0.19	—	8世紀	土師器塊
SK04	2	円形		—	0.59	0.59	0.36	—	SK06 を切る。土師器
SK05	2	不整形	N~85°~E	0.84	0.31	0.28	—	—	—
SK06	2	円形		—	1.01	0.91	0.09	—	—
SK07	2	椭円形	N~78°~E	0.90	0.71	0.26	—	—	SK01 を切る。
SK08	2	円形		—	0.69	0.58	0.62	—	SK01・23を切る。
SP01	2	円形		—	0.34	0.33	0.14	—	—
SP02	2	円形		—	0.30	0.30	0.13	—	—
SP03	2	円形		—	0.36	0.36	0.27	—	—
SP04	2	円形		—	0.36	0.33	0.16	—	—

第 11 節 E 区 I

(1) 調査区の概要

E 区 I は、区画道路 1 号線工事に伴い発掘調査を行った。調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんでおり、As-B 一次堆積層ほぼ残存していなかった。よって As-B 堆積層下面まで削平されている場合には、土地改良工事土下の黒褐色粘質土面を遺構検出面とした。

本調査区では古墳時代～近現代までの遺構および遺物を検出した。遺構の内訳は、溝 5 条、As-B 下水田、自然流路 1 条、土坑 23 基である。

(2) 溝

本調査区では、5 条の溝を検出した。溝は近代～現代のものが 1 条 (SD01)、As-B を埋土に持つものが 3 条 (SD02～04)、時期不明のものが 1 条 (SD05) である。

(3) As-B 下水田

本調査区南西隅と南東隅に As-B 下畦・段と

水田区画を検出した。本調査区の水田区画は南から北・西から東へ水田面を下げているものと考えられる。南西隅水田面の標高は畦を挟んで、西側で 79.12m、東側で 79m 程度となっている。例外として南東隅の段は北から南へ落ちており、水田と接続する台地際の溝の可能性もある。

南側台地寄りの高い水田区画と南西隅水田区画以東の水田区画は土地改良工事により削平されているようで、E 区 I 全体として水田区画の残りは悪かった。

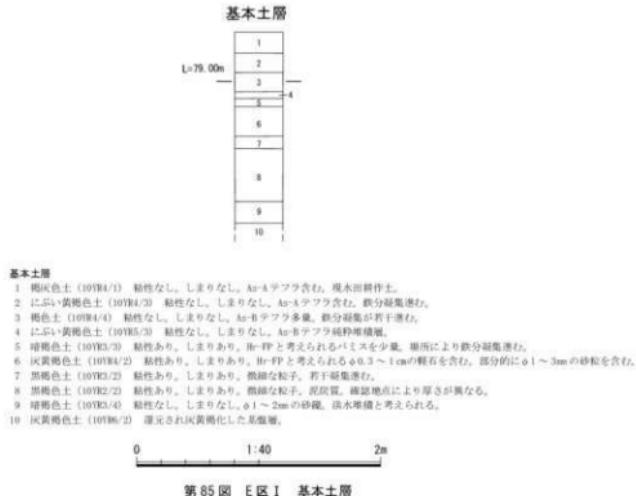
(4) 土坑

本調査区では、23 基の土坑を検出した。

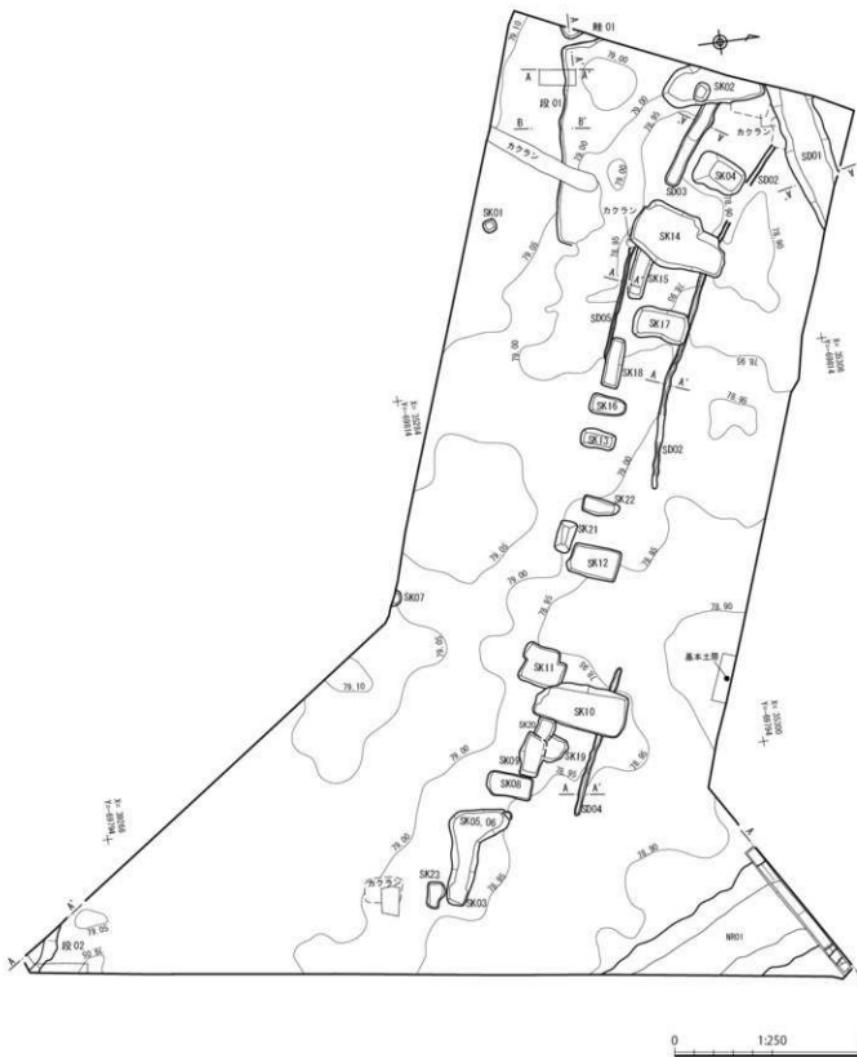
土坑の大半は As-A や As-B を埋土に含み、各テフラ降下以降に掘削されたものと考えられるが、性格を特定することはできなかつた。

(5) 自然流路

本調査区では、1 条の自然流路を検出した。自然流路は埋土上面で As-B、埋土中位層で Hr-FP の堆積が確認できる。



第 85 図 E 区 I 基本土層



第 86 図 E 区 I 造構全体図

SD01

L=79.10m



SD01 (SPA-A')

- 1 淡黃褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。上位にはラグゴミ、下位には6cmの小礫多量。土地販賣前の画面。
- 2 稕灰色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。微細な砂粒。若干鉄分富集進む。
- 3 稕灰色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。微細な砂粒。若干鉄分富集進む。
- 4 にぶい淡褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。約2cm～10cmの礫を多量に含む。微細分富集が進行。
- 5 にぶい淡褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。約3～5cmの小礫多量。微細分富集が着目。
- 6 稕褐色土 (10YR5/4) 黏性なし。しまりなし。約1cm以下の礫を含む。水流の多さを看取できる。

SD02

L=79.20m



SD03

L=79.10m



SD04

L=79.10m



SD05

L=79.10m



SD02 (SPA-A')

- 1 淡褐色土 (7.5YR4/6) 黏性なし。しまりなし。L_o-Bテフラ多量。酸化鉄分富集進む。

SD03 (SPA-A')

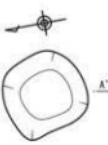
- 1 淡褐色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。L_o-Bテフラ多量。埋没元。

SD04 (SPA-A')

- 1 淡灰色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。L_o-Bテフラ多量。若干酸化鉄分富集あり。

SK01

L=79.20m

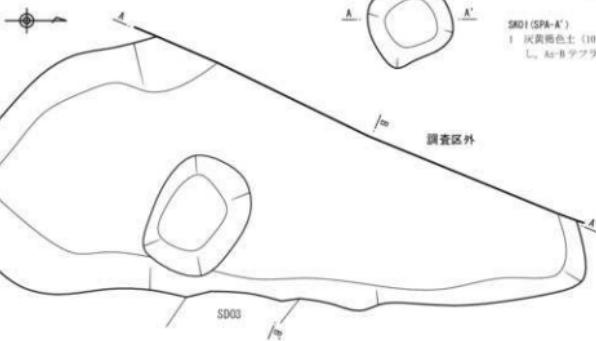


SK01 (SPA-A')

- 1 淡黃褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。L_o-Bテフラ少量。酸化鉄分富集進む。

SK02

L=79.20m



SK02 (SPA-A', B-B' 共通)

- 1 淡色土 (7.5YR4/6) 黏性なし。しまりあり。Ae-Aテフラ含む。複数段土表層で酸化鉄分富集が進む。
- 2 近代の割り込み。
- 3 淡褐色土 (10YR4/6) 黏性なし。しまりあり。Ae-Aテフラ含む。酸化鉄分富集がむづかに進む。
- 4 市街地土 (7.5YR3/6) Ae-Bテフラ多量。堆積は悪く、古い。
- 5 淡褐色土 (10YR3/4) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ多量。
- 6 淡黃褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ多量。
- 7 淡褐色土 (10YR3/4) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ及びAe-Eテフラ埋蔵色土の混合土。
- 8 淡褐色土 (7.5YR4/4) Ae-Bテフラ少量。酸化鉄分富集が弱め。
- 9 にぶい淡褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ及びAe-Eテフラ下埋蔵色土の混合土。
- 10 淡黃褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりあり。Ae-Bテフラ及びAe-Eテフラ下淡褐色土の混合土。
- 11 Ae-Bテフラ一次堆積。



第 87 図 E 区 I SD01 ~ 05, SK01 ~ 02 透構図

SK03, 05, 06



SK03



SK03 (SPA-A')

- 1 淡灰色土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりなし。Ae-Hテフラ多量。上位は酸化鉄分凝集が進む。
- 2 淡黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりあり。Ae-Hテフラ及びAe-Kテフラ淡褐色土の混合土。
- 3 にぶい淡黄色土 (10YR4/3) 2層と同様で、全体的に酸化鉄分の凝集進む。
- 4 淡褐色土 (10YR3/4) 粘性なし。しまりなし。Ae-Hテフラ多量。わずかに酸化鉄分凝集が見られる。

SK05

SK03



SK05・SK06 (SPB-B')

- 1 淡黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。Ae-Hテフラ多量。
 - 2 淡褐色土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりなし。Ae-Kテフラ少量。
 - 3 淡褐色土 (10YR3/4) 粘性なし。しまりなし。φ1～2mm砂粒含み、若干酸化鉄分の凝集が見られる。
 - 4 淡褐色土 (10YR3/3) 粘性なし。しまりなし。φ1～2mm砂粒多量。
 - 5 淡褐色土 (10YR3/2) 粘性あり。しまりあり。Hr-FPと考えられる輕石含む。
 - 6 淡黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりなし。φ1～2mmの砂粒上りする。洪水による堆積と考えられる。
 - 7 淡褐色土 (10YR3/3) 粘性なし。しまりなし。φ2～3mmの砂粒となりる。
 - 8 淡黄褐色土 (10YR4/3) 粘性なし。しまりなし。Ae-Hテフラ含む。
 - 9 にぶい淡褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。φ1～2mmの砂粒及び2～5cmの褐色土ブロック含む。
 - 10 淡褐色土 (10YR3/4) 粘性なし。しまりなし。φ1～2mmの砂粒多量。少量の粘土ブロック含む。
- } SK05
} SK06

SK04



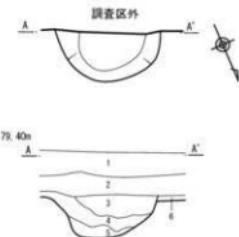
SK04 (SPA-A')

- 1 淡黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。Ae-Hテフラ多量。φ5～10mmの軽石を含む。
1～2cmの黑色ブロック少量。
- 2 淡黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。Ae-Hテフラ多量。灰色の砂質土を層状に含み、灰色粘質土ブロック (1～3cm) 含む。下部は酸化鉄分凝集多量。

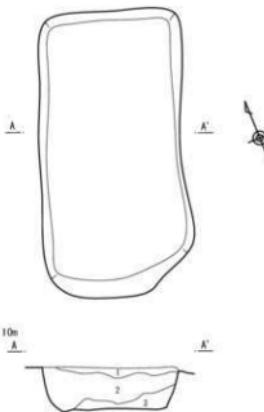


第 88 図 E 区 I SK03～06 造構図

SK07



SK08



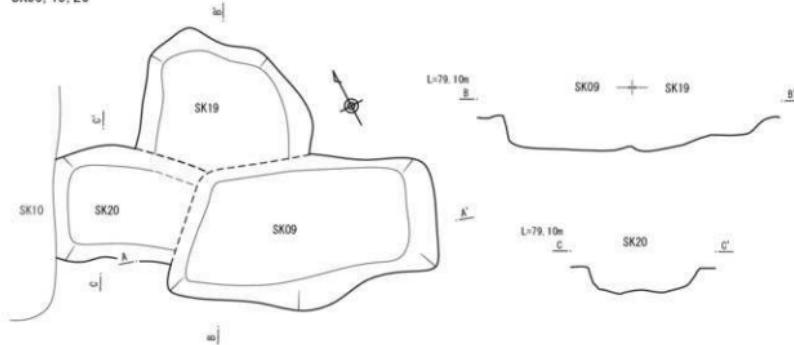
SK07 (SPA-A'-A'')

- 1 灰褐色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ含む。現水田耕作土。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ含む。酸化鉄分斑状塊。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ及び堆積色粘質土ブロックの混合土。
- 4 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黏性なし。しまりなし。上層と同様だが、Ae-Bテフラの含有が少ない。
- 5 塗褐色土 (10YR3/4) 黏性なし。しまりなし。φ1~2mmの粗砂含む。
- 6 黄褐色土 (10YR4/4) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ多量。酸化鉄分斑状塊が若干進む。

SK08 (SPA-A'-A'')

- 1 灰褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ多量。
- 2 灰褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラと3~5cmの堆積色粘質土ブロックの混合土。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。2層同様の混合土。若干酸化鉄分斑状塊が進む。

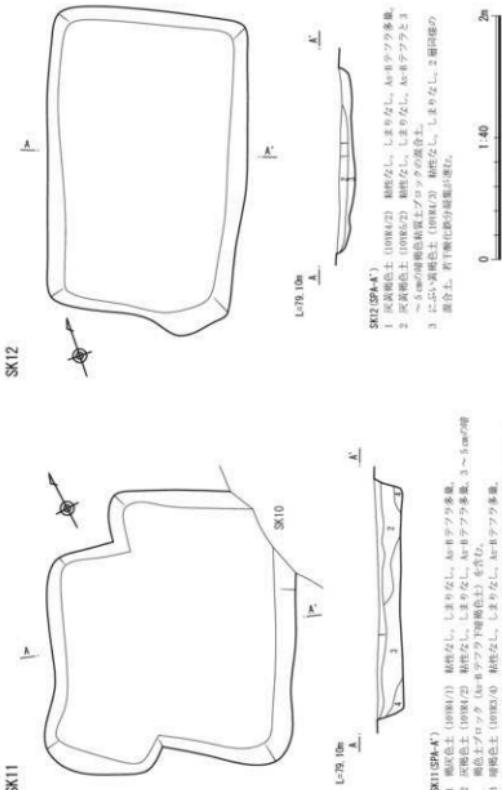
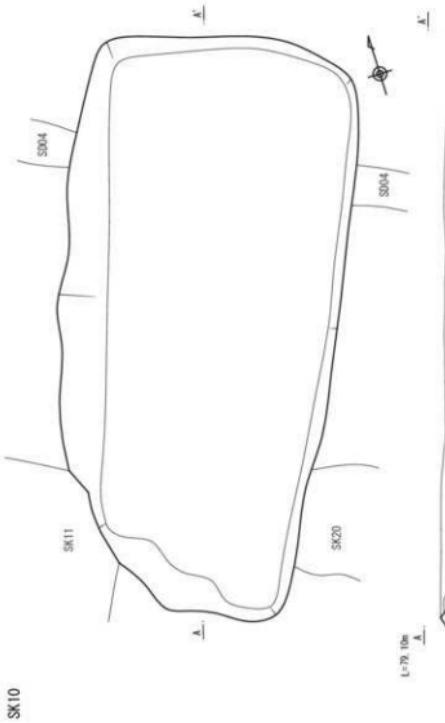
SK09, 19, 20



- 1 从黃褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ多量。
- 2 从黃褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラと3~5cmの堆積色粘質土の混合土。
- 3 黄褐色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。φ1~2mmの粗砂粒多量。

0 1:40 2m
(平面図・断面図)

第 89 図 E 区 I SK07 ~ 09 · 19 · 20 道構図

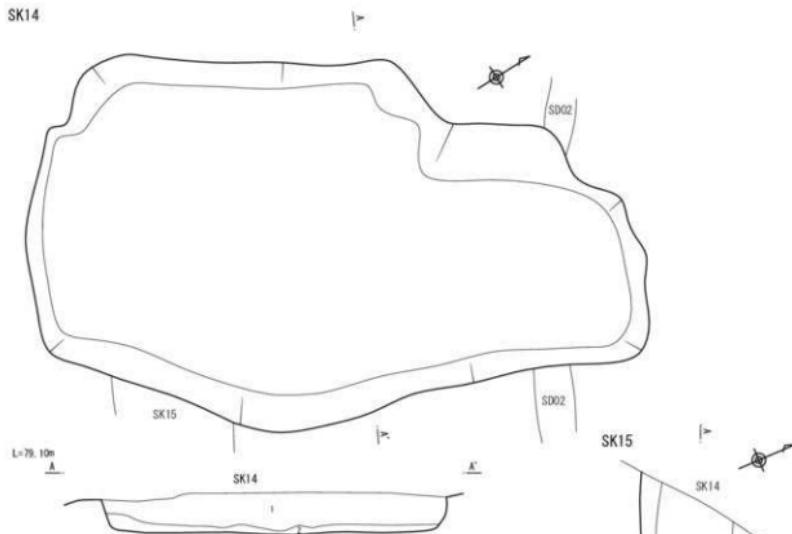


第90図 E区 I SK10 ~ 12 連続図

SK13, 16



SK14



L=79, 10m



0 1:40 2m
(平面図・断面図)

第 91 図 E 区 I SK13 ~ 16 遊構図

SK17

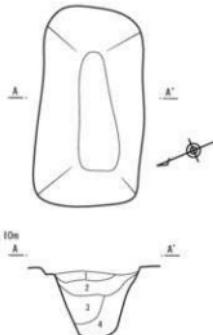


L=79, 10m

A-A'

K-K'

SK21

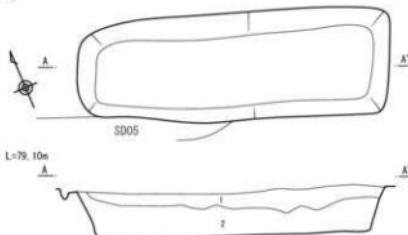


L=79, 10m

A-A'

K-K'

SK18

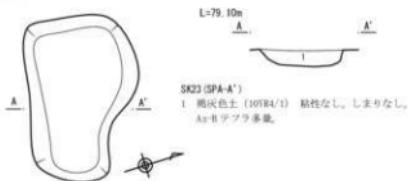


L=79, 10m

A-A'

K-K'

SK23

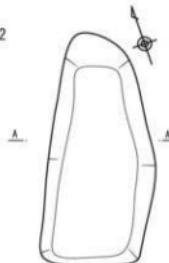


L=79, 10m

A-A'

K-K'

SK22

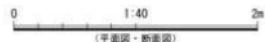


L=79, 10m

A-A'

K-K'

SK22 (SPA-A')



第 92 図 E 区 I SK17・18・21~23 造構図

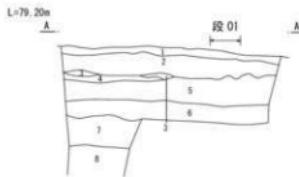
畦 01



段 01



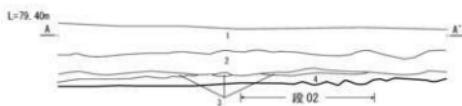
段 01



段 01 (SPA-A')

- 1 増粘土色土 (10YR3/3) 黏性あり。しまりあり。Hr-FPと考えられるバシスを少量含む。砾所により鉄分凝集塊。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性あり。しまりあり。Hr-FPと考えられるδ3～10mmの軽石を含む。淡水性の堆積。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。1層と同様の砂粒を全般的に含む。
- 5 増粘土色土 (10YR3/3) 黏性あり。しまりあり。δ5～10mmの白色バシス少量。
- 6 黄褐色土 (10YR4/4) 黏性なし。しまりなし。δ1～2mmの砂粒を主体とする。淡水性の堆積。
- 7 黑褐色土 (10YR2/2) 黏性あり。しまりあり。細めて細かい粒子。泥状質。
- 8 増粘土色土 (10YR3/4) 黏性あり。しまりあり。5層同様だが、やや明るく粘性少ない。

段 02

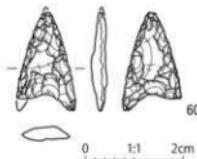


段 02 (SPA-A')

- 1 開灰褐色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Aa-Aテフラ含む。現水面耕作土。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。Aa-Aテフラ含む。酸化鉄分凝集塊。
- 3 黄褐色土 (10YR4/4) 黏性なし。しまりなし。Aa-Bテフラ多量。酸化鉄分凝集が若干進む。
- 4 Aa-Bテフラ一次接觸層。

0 1.40 2m

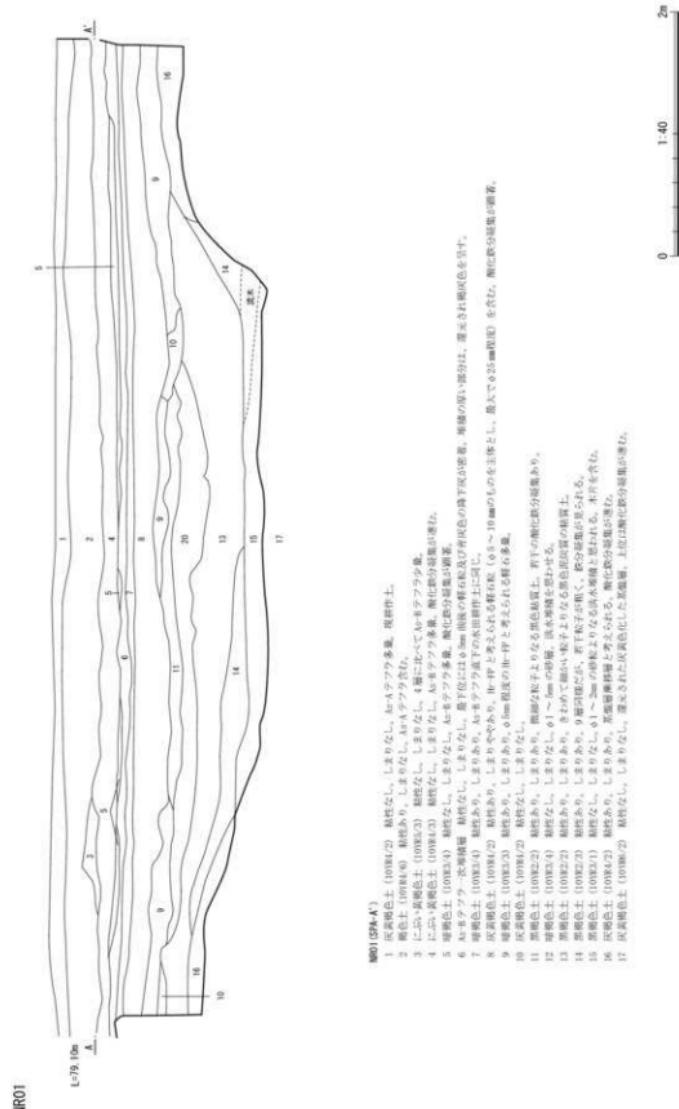
第 93 図 E 区 I 畦 01、段 01・02 造模図



第 94 図 E 区 I 造物図

第 24 表 E 区 I 造物観察表

因版番号	遺構名	種別 器種	法面 (cm)			重量 (g)	材質	作成技法等の特徴	残存 (%)	備考
			長さ	幅	厚さ					
第 94 図 60 PL.54-60	遺構外 石器 石器	(2.03)	(1.22)	0.34	(0.57)	チャート	面糸無剥離		95	先端部・左側面 欠損



第95図 E区 I NKO1 連続図

第 25 表 E 区 I 遺構観察表

名前	形状	主軸方位	規模 (m)	時期	備考・出土遺物	
SD01	N° 80° ~ E	6.08	2.34	0.43	古墳時代 土師器、灰釉陶器皿、若狭代陶器、残瓦	
SD02	N° 64° ~ W	18.26	0.34	0.10	As-B 墓下後	
SD03	N° 54° ~ W	4.72	0.92	0.20	As-B 墓下後	
SD04	N° 65° ~ W	7.84	0.34	0.06	As-B 墓下後	
SD05	N° 69° ~ W	5.88	0.22	0.06		
SX01	円錐		0.76	0.72	0.14	As-B 墓下後
SX02	長方形	N° 0°	5.09	2.12	0.44	As-B 墓下後
SX03	長方形	N° 66° ~ W	2.39	1.39	0.53	As-B 墓下後
SX04	長方形	N° 25° ~ E	2.54	1.80	0.26	As-B 墓下後
SX05	不規則	N° 2° ~ W	3.26	1.68	0.41	As-A 墓下後
SX06	不規則	N° 76° ~ W	3.26	1.68	0.41	As-A 墓下後
SX07	円錐		0.84	0.40	0.34	As-B 墓下後
SX08	長方形	N° 22° ~ E	2.34	1.26	0.34	As-B 墓下後
SX09	長方形	N° 77° ~ W	2.18	1.30	0.29	As-B 墓下後
SX10	長方形	N° 25° ~ E	4.72	2.34	0.53	As-B 墓下後
SX11	不規則	N° 31° ~ W	2.16	2.00	0.27	As-B 墓下後
SX12	長方形	N° 25° ~ E	2.62	1.64	0.14	As-B 墓下後
SX13	長方形	N° 21° ~ E	1.80	1.00	0.29	As-B 墓下後
SX14	不規則	N° 22° ~ E	2.10	2.04	0.33	As-A 墓下後
SX15	不規則	N° 22° ~ W	2.40	0.90	0.31	As-A 墓下後
SX16	長方形	N° 25° ~ E	2.85	1.94	0.27	As-B 墓下後
SX17	長方形	N° 21° ~ E	2.86	1.62	0.31	As-B 墓下後
SX18	長方形	N° 68° ~ W	2.54	0.88	0.54	As-A 墓下後
SX19	不規則	N° 75° ~ W	1.42	1.00	0.17	As-B 墓下後
SK20	長方形	N° 15° ~ W	1.00	0.92	0.22	As-B 墓下後
SK21	長方形	N° 67° ~ W	1.64	0.88	0.63	As-A 墓下後
SK22	長方形	N° 22° ~ W	1.90	0.90	0.46	As-B 墓下後
SK23	不規則	N° 73° ~ W	1.38	0.91	0.12	As-B 墓下後
NR01	N° 24° ~ W	6.84	5.32	1.94	Hr-FP 墓下後	

第 12 節 E 区 II

(1) 調査区の概要

E 区 II は用水路切り回し工事に伴い設定された。調査区は 5 つのトレンチに分割されているため、E 区 II - 1 ~ 6 までの枝番を付した。

調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんでおり、As-B 一次堆積層の残存状況は良くなかった。よって As-B 堆積層下面と、As-B が削平されている場合には土地改良工事盛土下の黒褐色粘質土面を遺構検出面とした。

E 区 II - 1 は、若干の雍みであった SD01 部分の As-B 下水田耕作土を除去した下に溝を検出し、第 2 面として調査を実施した。

本調査区では古墳時代～近世までの遺構および遺物を検出した。遺構の内訳は、溝 18 条、土坑 13 基、ピット 7 基、性格不明遺構 2 基である。

(2) 溝

本調査区では、溝 18 条を検出した。

SD01 は E 区 II - 1 第 2 面で検出した。幅 4.5 ~ 4.1m で東流する溝である。底面を約 78.50m から約 78.10m へ東に向かって下げる。SD01 は As-B 一次堆積層によって埋没しており、As-B の下層には流れ込んだと思われる Hr-FP 混土が堆積する。

SD01 からは須恵器壺 12 点、須恵器高台付塊 7 点出土しており古代の遺物の出土が顕著であ

り、溝の存続時期の主体も古代と推定できる。また少数ながら古墳時代前期の土師器や石器の出土もある。こうした遺物は SD01 の南に展開する台地上からの流れ込んだものと推測でき、周辺遺跡の状況を少なからず反映していると考えられる。

(3) 土坑

本調査区では、13 基の土坑を検出した。

土坑は近世～現代の土坑を 1 基、As-A を埋土に含む土坑を 3 基、As-B を埋土に含む土坑を 4 基、時期不明の土坑 4 基を検出した。

(4) ピット

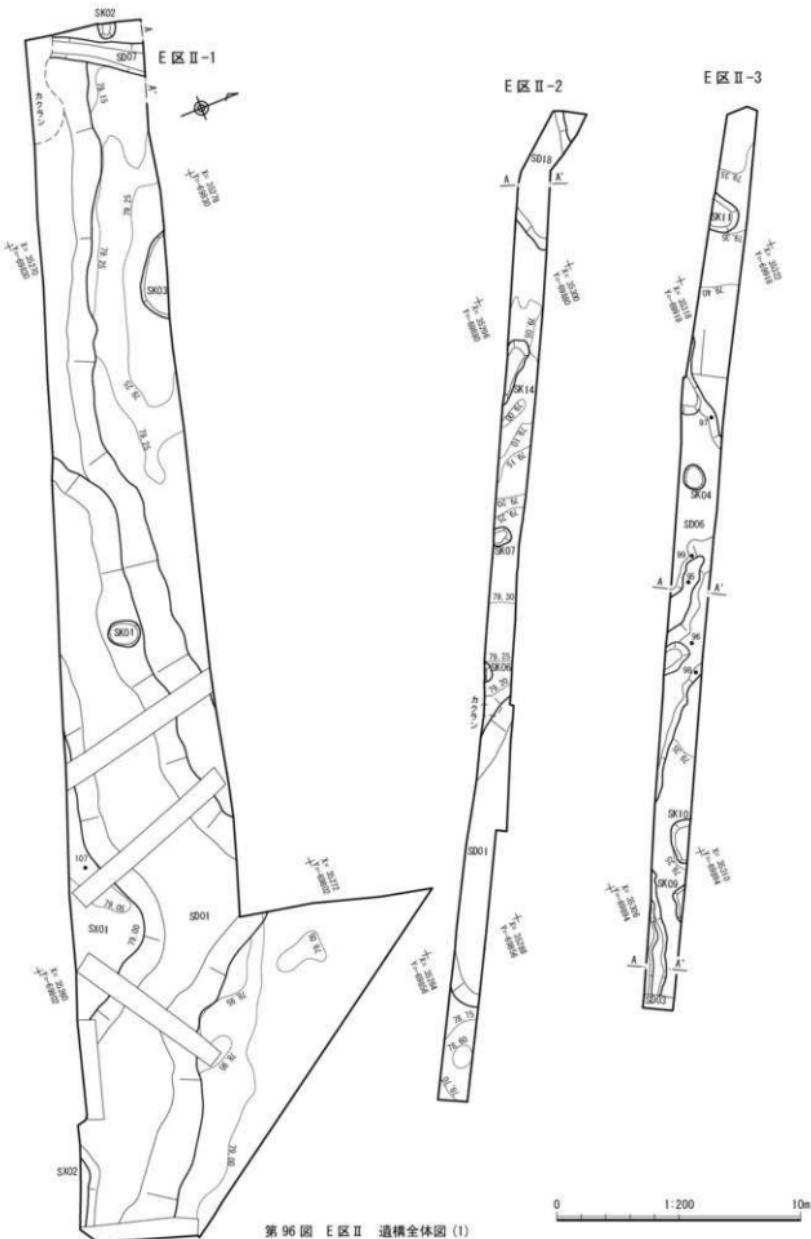
本調査区では、7 基のピットを検出したが、性格を特定できるピットは検出できなかった。

(5) 性格不明遺構

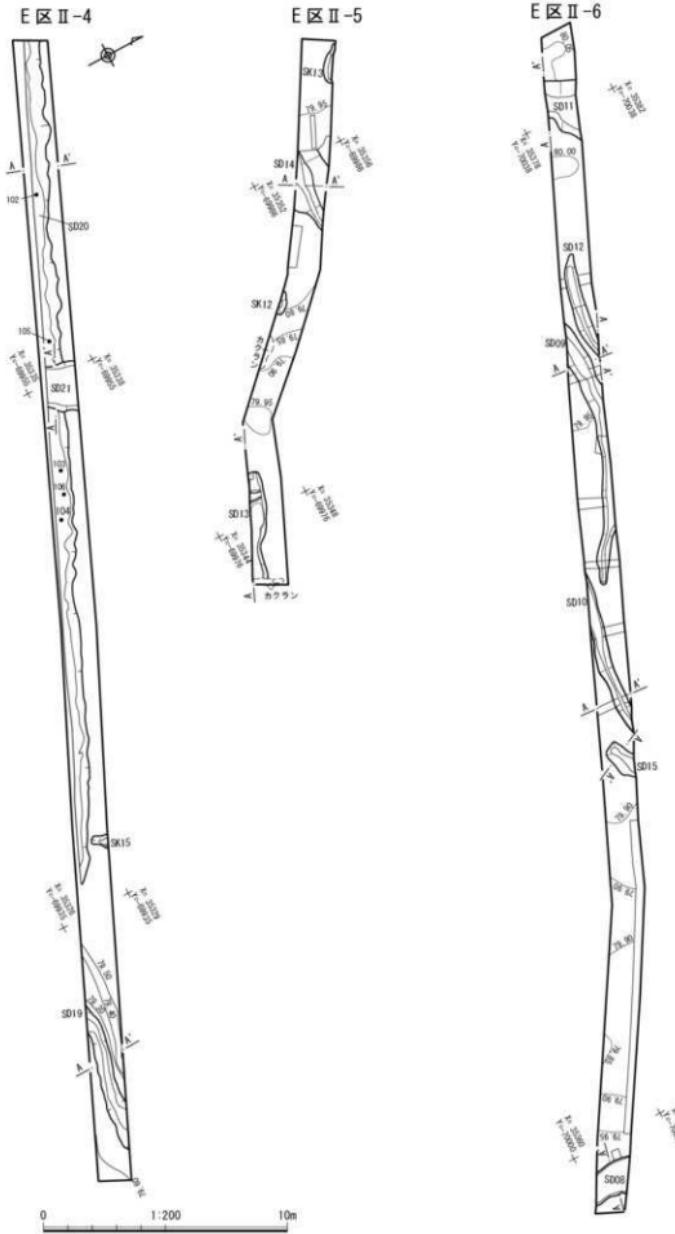
本調査区では、性格不明遺構 2 基を検出した。どちらも E 区 II - 1 で検出した。

SX01 は埋土に Hr-FP と As-C を含む遺構である。テフラの堆積と、SX01 を切る SD01 遺物から方形周溝墓や古墳の可能性がある。

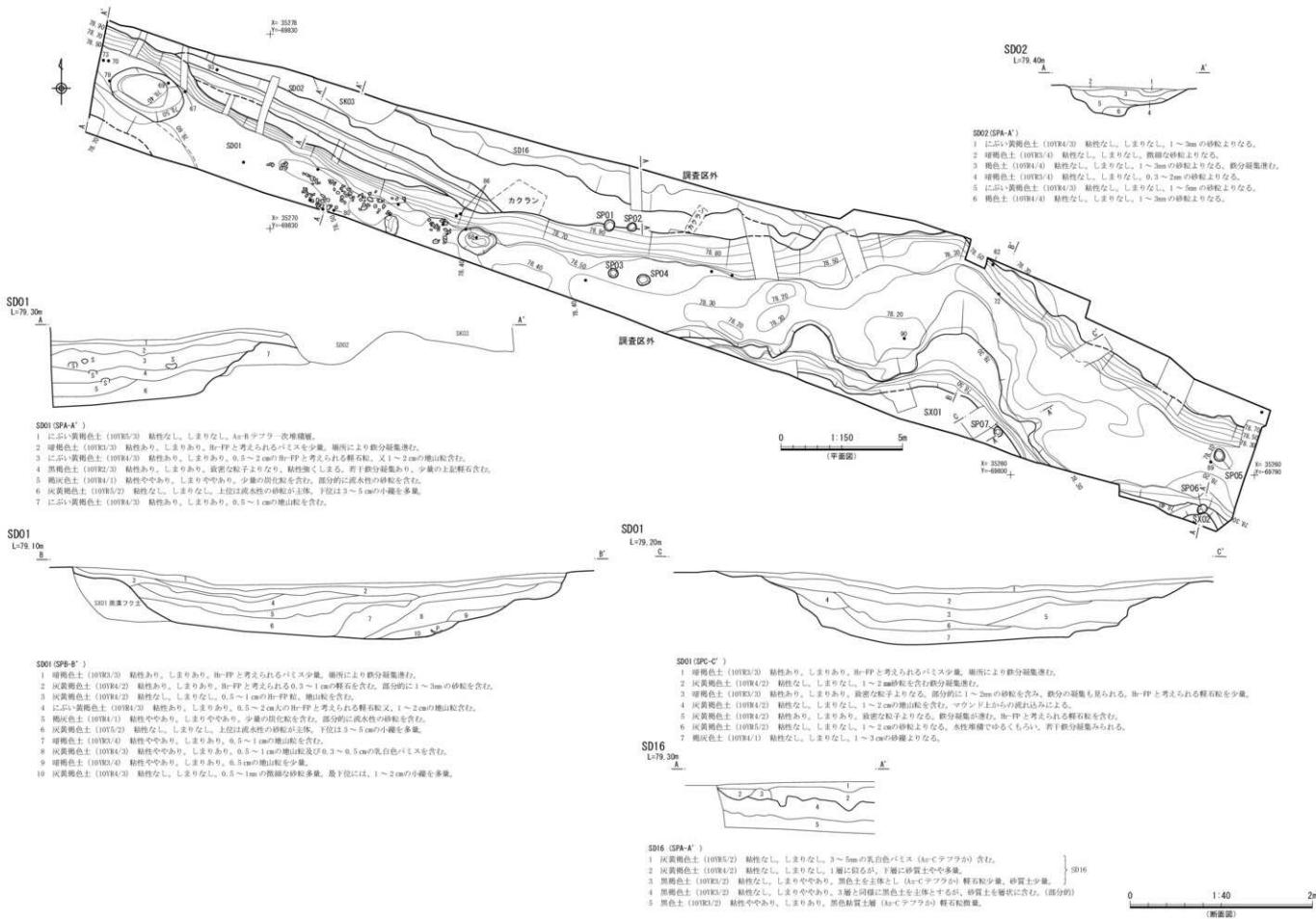
SX02 は SX01 と似た土層の堆積状況で、As-C を埋土に含む。SD01 に切られる点も同一で、方形周溝墓や古墳の可能性がある。



第96図 E区II 造模全体図(1)



第97図 E区Ⅱ 造構全体図(2)



第98図 E区II-1第2面 SD01・02・16 造構図

SD03



SD03 (SPA-A')

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりあり。微細な粒子よりなる。
- 2 灰黄褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。 $\phi 1 \sim 2\text{cm}$ の砂粒を主体とする。
- 3 にじみ灰黄褐色土 (10YR4/3) $\phi 2 \sim 5\text{mm}$ の砂粒を主体とする。

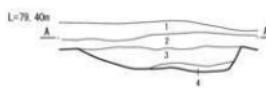
SD06



SD06 (SPA-A')

- 1 从灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。 $\phi 1 \sim 2\text{cm}$ の砂粒を主体に、 $\phi 0.5 \sim 2\text{cm}$ の小礫を含む。酸化鉄分凝聚塊。
- 2 灰褐色土 (10YR5/4) 黏性なし。しまりなし。 $\phi 1 \sim 2\text{cm}$ の砂粒を主体とする。
- 3 从灰黄褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。 $\phi 1 \sim 2\text{cm}$ の砂粒を主体とする。一部酸化鉄分凝聚塊。
- 4 从灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。 $\phi 2 \sim 4\text{cm}$ の砂粒よりなる。部分的に $2 \sim 3\text{cm}$ の小礫混入。
- 5 にじみ灰褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。地山板多量。

SD07



SD07 (SPA-A')

- 1 表土。
- 2 土被改良土。
- 3 从灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。Ae-Aテフラ、As-Bテフラ混土。黒色土ブロック (1cm) 少量。
- 4 从灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。As-Bテフラ軽石粒多量。地山黄色土ブロック (0.5 ~ 1cm) 少量。

SD08



SD08 (SPA-A')

- 1 从灰黄褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。 $\phi 1\text{mm}$ の砂粒よりなる。
- 2 黒色土 (10YR4/4) 黏性なし。しまりあり。5mmの地山粒少量。

SD09



SD09 (SPA-A')

- 1 灰褐色土 (10YR3/4) 黏性ややあり。しまりあり。5mmの地山粒を含む。
- 2 从灰黄褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。 $\phi 0.5 \sim 1\text{cm}$ の砂粒よりなる。
- 3 从灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりあり。5mmの地山粒と暗褐色粘土ブロック含む。

SD10



SD10 (SPA-A')

- 1 増殖褐色土 (10YR3/4) 黏性ややあり。しまりあり。 $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ のBr-FPと共にわれる粒子含む。
- 2 増殖褐色土 (10YR3/3) 黏性ややあり。しまりあり。1 ~ 2cmの堆山土ブロック含む。

SD11



SD11 (SPA-A')

- 1 増殖褐色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Ae-Aテフラ含む。現水田耕作土。
- 2 増殖褐色土 (10YR3/3) 黏性なし。しまりなし。2 ~ 10cmの礫多量。砂質土多量。
- 3 にじみ灰黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。灰色粘土多量。酸化鉄分沈着物質多量。Ae-Aテフラ多量。
- 4 4層と同様だが、酸化鉄分凝聚塊。
- 5 にじみ灰黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。3層に似るが、Ae-Aテフラ入らない。
- 6 从灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性ややあり。しまりややあり。Ae-Aテフラ中量。灰色粘土土を頭状に含む。
- 7 増殖褐色土 (10YR3/3) 黏性なし。しまりなし。上層は酸化し、下層は黒褐色の砂質層で構成される。

SD12



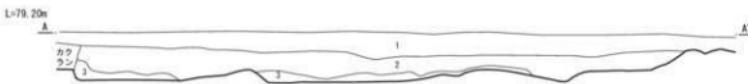
SD12 (SPA-A')

- 1 从灰黄褐色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Ae-Aテフラ含む。現水田耕作土。
- 2 Ae-Bテフラ下黑色粘土層。
- 3 从灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性ややあり。しまりややあり。灰色粘土多量。酸化鉄分沈着物質少量。地山黄色土粒少量。
- 4 从灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性ややあり。しまりややあり。1層より地山黄色土粒を多量。黒色土 (基盤層) ブロック少量。

0 1:40 2m

第99図 E区Ⅱ SD03・06～12 造構図

SD13



SD14



SD15

L=79.20m

A ————— A' —————

SD18

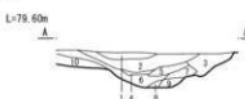
L=79.40m

A ————— A' —————

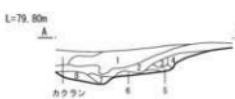
SD18 (SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。砂質土中量。酸化鉄分凝集塊。黒色土ブロック (1~3cm) 少量。
- 2 黄褐色土 (10YR3/3) 粘性なし。しまりなし。砂質土中に1~3cmの很多量。鉄分の酸化凝集塊かなり進行。

SD19



SD20



SD21

L=79.70m

A ————— A' —————

SD21 (SPA-A')

- 1 黑褐色色砂層 (10YR2/2) 粘性なし。しまりやや強い。灰帯 (10YR6/2) のAr-Bテフラ。ビンザル灰斑。
- 2 黑褐色土 (10YR3/2) 粘性やや強い。しまりやや強い。粒子細かい。砂粒φ0.2mm少量。
- 3 墓園色砂層 (10YR3/6) 粘性なし。しまりやや強い。粒子やや粗い。
- 4 黑褐色土 (10YR2/2) 粘性やや強い。しまりやや弱い。粒子やや粗い。軽石φ1mm微量。

0 1:40 2m

第100図 E区II SD13~15, 18~21 遺構圖

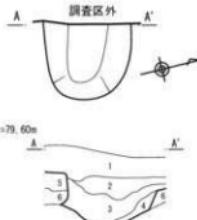
SK01



SK01 (SPA-A')

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ多量。
- 2 黄褐色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。I層同様な灰黄褐色土と暗褐色土が交互に堆積。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。2層と同様だが、暗褐色土多量。

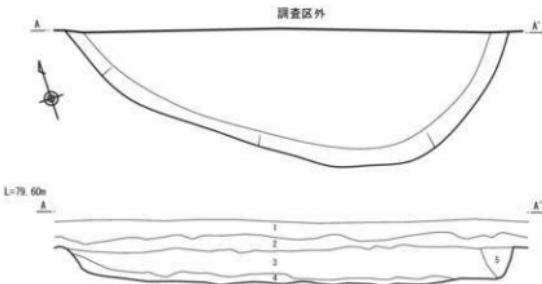
SK02



SK02 (SPA-A')

- 1 暗灰色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ含む。現水田耕作土。
- 2 にふい黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ多量。
- 3 暗褐色土 (10YR4/4) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ多量。5~10cmの暗褐色土をブロック状に混入する。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。φ1~2mmの砂粒よりなる。
- 5 黄褐色土 (10YR4/4) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ多量。酸化鉄分凝集が若干進む。
- 6 Ae-Bテフラ一次堆積層。

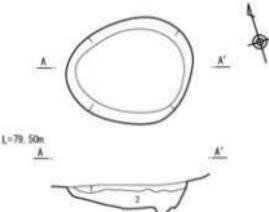
SK03



SK03 (SPA-A')

- 1 灰色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Ae-Aテフラ含む。現水田耕作土。
- 2 にふい黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。Ae-Aテフラ含む。酸化鉄分凝集進む。
- 3 にふい黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。φ3~5mmの砂粒。地山駆多量。
- 4 墓褐色土 (10YR5/4) 黏性なし。しまりなし。φ3~5mmの砂粒。地山駆及びAe-Bテフラ少量。
- 5 にふい黄褐色土 (10YR5/3) 黏性なし。しまりなし。しまりなし。φ1~2mmの砂粒と主体とし。地山小ブロック少量。

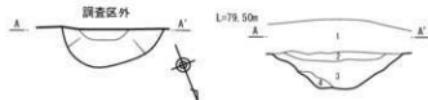
SK04



SK04 (SPA-A')

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。少量の地山駆。小ブロック含む。
- 2 にふい黄褐色土 (10YR5/3) 黏性なし。しまりなし。φ1~3mmの砂粒よりなる。

SK06



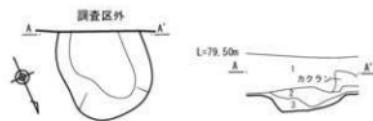
SK06 (SPA-A')

- 1 現耕作土と土地改良土。
- 2 暗灰色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ混土。地山駆少量。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。Ae-Bテフラ土。地山駆ブロック (1~2cm) 含む。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。2層に似る。地山駆ブロック少量。



第 101 図 E 区 II SK01 ~ 04・06 道横図

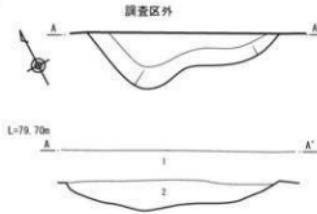
SK07



SK07(SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりなし。Ar-Aテフラ含む。現水田耕作土。
- 2 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。Ar-Aテフラ混入。地山粘土。
- 3 にじみ黄褐色土 (10YR4/3) 粘性なし。しまりなし。地山ブロック (1~3cm) 多量。

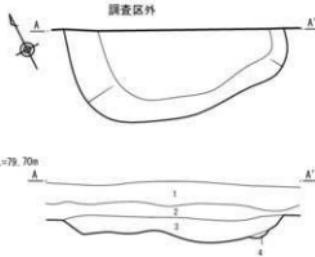
SK09



SK09(SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりなし。Ar-Aテフラ含む。現水田耕作土。
- 2 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。Ar-Aテフラ+Ar-Bテフラ混入。地山粘土 (0.5~1cm) 少量。細い砂粒を含む。

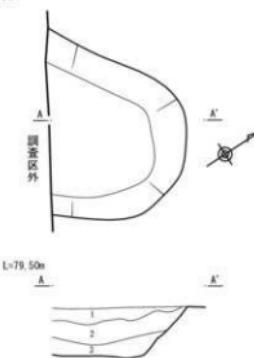
SK10



SK10(SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりなし。Ar-Aテフラ含む。現水田耕作土。
- 2 土地改良土
- 3 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。Ar-Aテフラ、Ar-Bテフラ混入。地山粘土 (0.5~1cm) 少量。細い砂粒を含む。
- 4 Ar-Bテフラ多量。

SK11

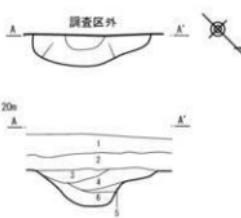


SK11(SPA-A')

- 1 塗褐色土 (10YR3/4) 粘性なし。しまりなし。2~3cmの堆山小ブロックを含む。部分的に酸化鉄分富集。
- 2 塗褐色土 (10YR3/2) 粘性あり。しまりあり。1~2cmの堆山ブロック少量。
- 3 塗褐色土 (10YR3/1) 粘性あり。しまりあり。粘性強く。粘土細かい。

0 1:40 2m
(平面図・断面図)

SK12

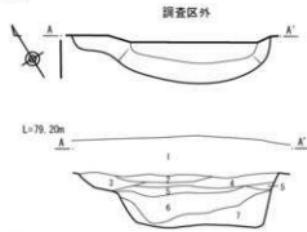


SK12(SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりなし。Ar-Aテフラ含む。現水田耕作土。
- 2 にじみ黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。Ar-Bテフラ含む。酸化鉄分富集あり。
- 3 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりなし。灰質土と黒色土ブロック多量。
- 4 にじみ黄褐色土 (10YR5/3) 粘性なし。しまりなし。酸化鉄分が付着する砂利多量。黒色土ブロック少量。
- 5 黑色土 (10YR3/2) 粘性なし。しまりなし。黑色土主土。砂質土中量。地山黄色土少量。
- 6 塗褐色土 (10YR3/3) 粘性なし。しまりなし。砂質土層。酸化鉄分が付着する砂利少量。黑色土ブロック少量。

第 102 図 E 区 II SK07 ~ 09 ~ 12 遊構図

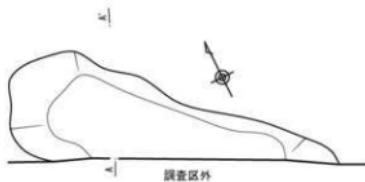
SK13



SK13 (SPA-A')

- 褐色灰土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Aa-Aテフラ含む。現水田耕作土。
- 灰黃褐色土 (10YR6/2) 黏性なし。しまりなし。Aa-Aテフラ中量。砂質土多く多量。
- 暗褐色土 (10YR5/3) 黏性なし。しまりなし。酸化鉄分付着砂質土上部。堆山 (黄) 鉱少量。
- 明黃褐色土 (10YR6/4) 黏性なし。しまりややあり。シルトが板状に堆積し、酸化鉄分付着砂質土上部。
- 褐灰色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。灰色砂質土・黒色粘質土中量。シルトブロック少量。
- 褐灰色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。4層より砂質土多量。シルトブロックやや多量。
- にじむ黄褐色土 (10YR5/3) 黏性なし。しまりなし。砂質土層。漸移層。

SK14



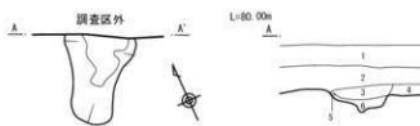
L=79.40m



SK14 (SPA-A')

- 暗褐色緩層 (10YR3/4) 黏性なし。しまりなし。1~2 cmの小石多量。
- 灰黃褐色土 (10YR6/2) 黏性なし。しまりなし。砂質土層。黒色土ブロック少量。酸化鉄分凝集塊やけがれ。
- 褐灰色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。砂質土層。黒色土ブロック少量。0.5~1 cmの小石少量。
- 暗褐色土 (10YR3/4) 黏性なし。しまりなし。砂質土層。2層より細かい、酸化鉄分凝集塊多い。

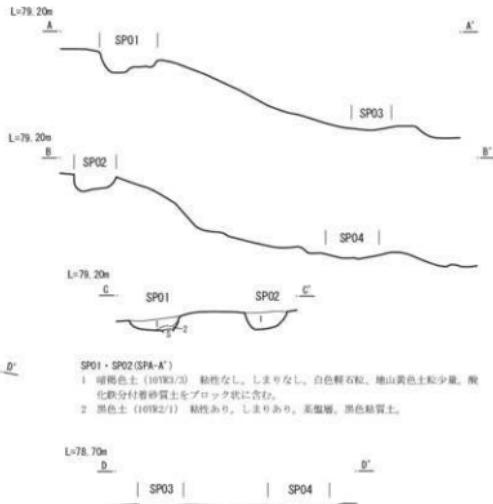
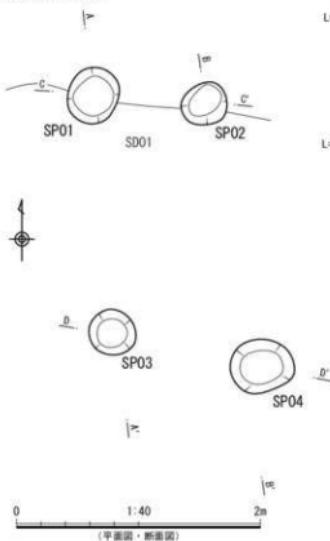
SK15



SK15 (SPA-A')

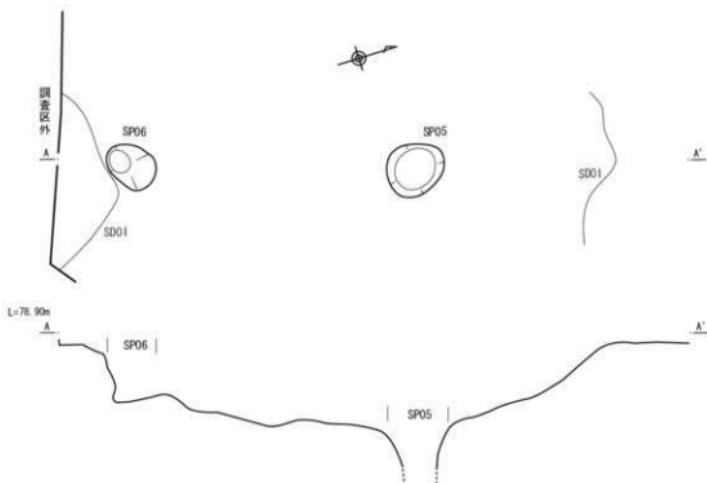
- 表土
- 土地改良工事底土
- 暗褐色土 (10YR3/4) 黏性弱い。しまりやや強い。松子やや細かい。砂質、黒褐色土 (10YR5/2) 無量。
- 堆積土 (10YR2/3) 黏性やや弱い。しまりやや弱い。松子やや細かい。Aa-B テフラ痕量。
- 黒褐色土 (10YR2/2) 黏性やや弱い。しまりやや弱い。松子やや細かい。Aa-C テフラ痕量。
- 褐色砂質土 (10YR4/4) 黏性弱い。しまりやや弱い。松子やや細かい。砂粒と0.5 mm以上。Aa-D 0.5 mm以上。黄褐色土 (10YR5/6) ブロックを含む。

SP01, 02, 03, 04

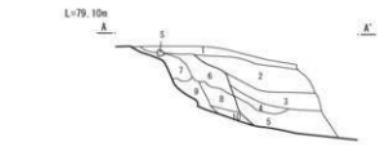


第103図 E区II SK13～15, SP01～04 遺構図

SP05, 06



SX01 (2面)



SX01 (SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR3/3) 黏性あり。しまりあり。H-FP と考えられるべき層。断面により鉛分鉱物混在。
- 2 深黄褐色土 (10YR4/2) 黏性あり。しまりあり。H-FP と考えられる $\phi 1 \sim 10$ mm の砾石を含む。部分的に $\phi 1 \sim 3$ cm の砂粒を含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黏性あり。しまりあり。 $\phi 5 \sim 20$ mm の H-FP と考えられる輕石を又、 $\phi 1 \sim 2$ cm の礫山を含む。
- 4 鮎灰褐色土 (10YR4/1) 黏性ややあり。しまりややあり。少量の炭化鉄を含む。部分的に流水性の砂粒を含む。
- 5 深黄褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。上位は流水性の砂粒が主体。下位は $3 \sim 5$ cm の小礫多量。
- 6 深黄褐色土 (10YR5/3) 黏性なし。しまりなし。3 ~ 5 cm の塊状ブロック含む。
- 7 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黏性なし。しまりなし。3 ~ 5 cm の塊状ブロック多量。
- 8 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黏性なし。しまりなし。3 ~ 5 cm の塊状ブロック含み。乳白色バニラ少量。
- 9 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黏性なし。しまりなし。5 ~ 10 cm の礫山ブロックを含む。
- 10 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。5 ~ 10 cm の礫山ブロック少數。最下位は $\phi 1 \sim 3$ cm の砂粒多量。

SX02 (2面)

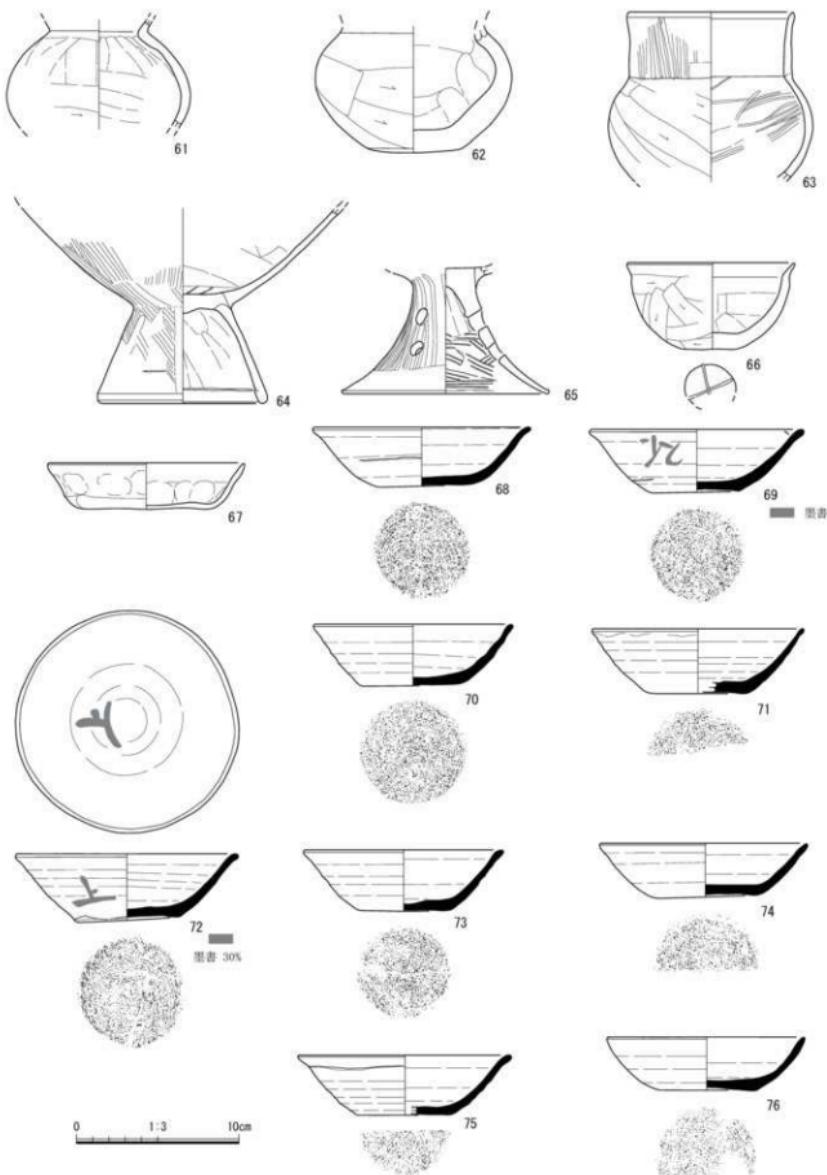


SX02 (SPA-A')

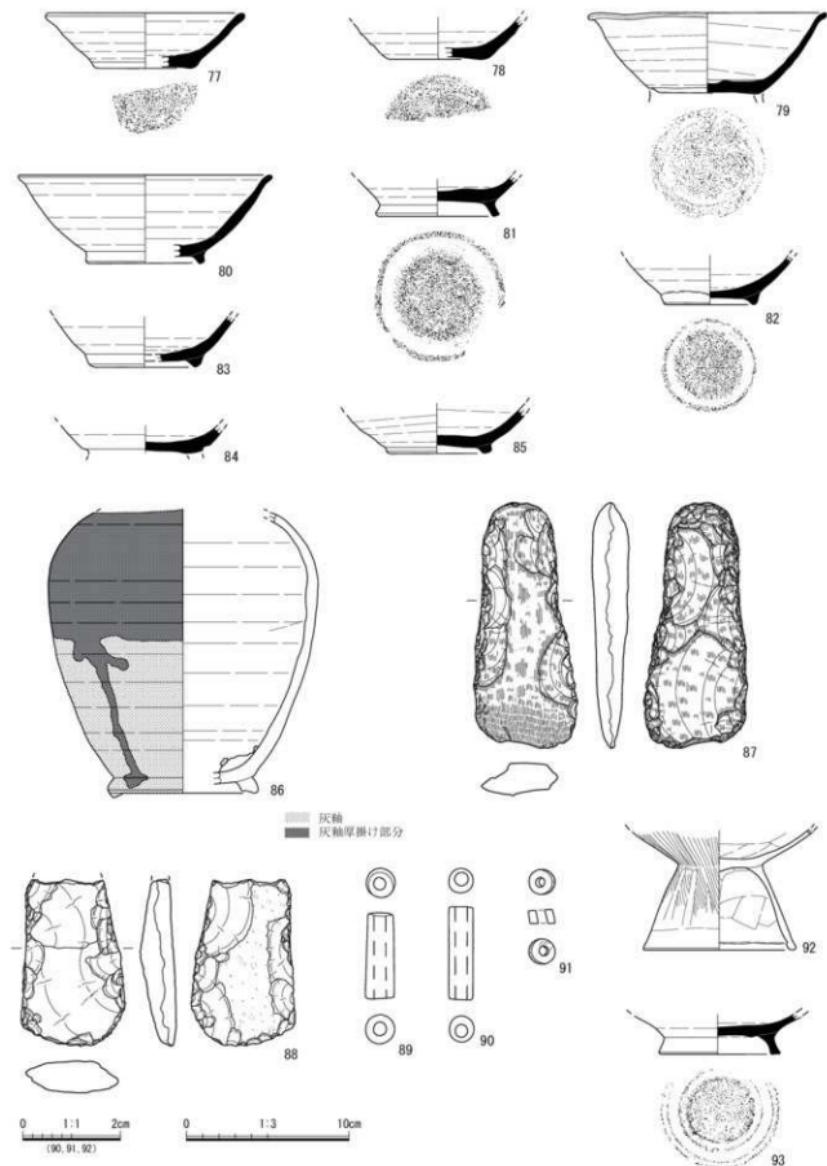
- 1 深黄褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。上位は流水性の砂粒が主体。下位は $3 \sim 5$ cm の小礫多量。
- 2 深黄褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりややなし。1 ~ 3 cm の礫山ブロック含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黏性なし。しまりなし。3 ~ 10 cm の礫山ブロック含む。
- 4 塗褐色土 (10YR3/2) 黏性なし。しまりなし。少量の An-Ce フラッシュ粒子含む。



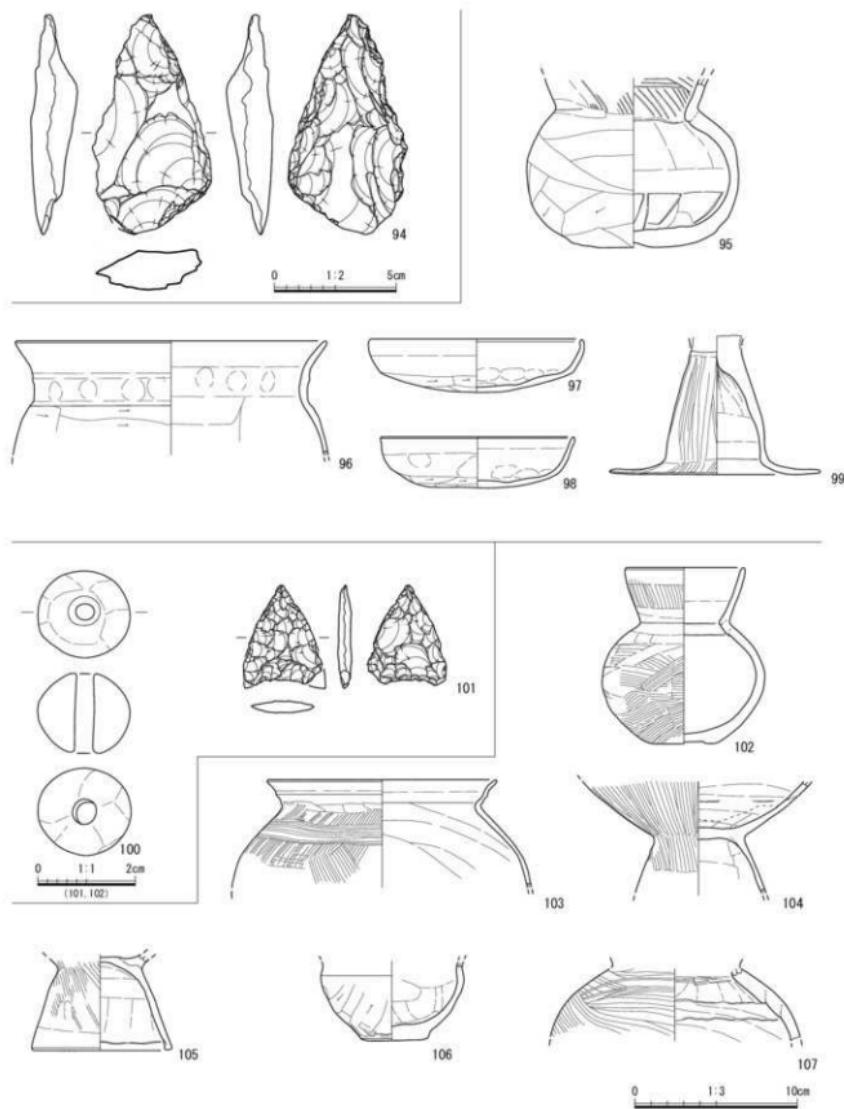
第 104 図 E 区 II SP05, 06, SX01, 02 造構図



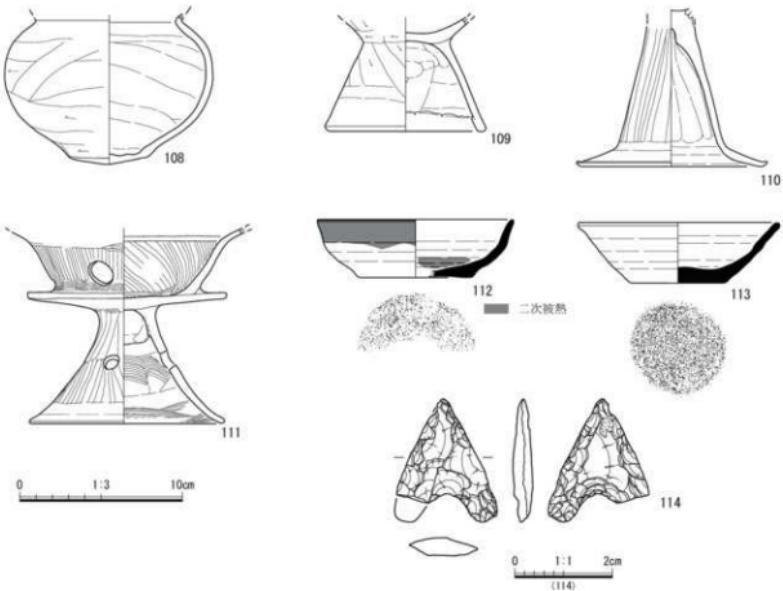
第 105 図 E 区 II 遺物図 (1)



第106図 E区Ⅱ 遺物図(2)



第107図 E区II 遺物図(3)



第108図 E区Ⅱ 遺物図(4)

第26表 E区Ⅱ 遺物観察表(1)

国宝番号	遺物名	種別 器種	法面 径深	法面 底径	法面 高さ	成形・焼成法等の特徴 (凹凸・文様等の特徴)	①焼成 ②色調 ③断土			残存 (%)	備考
							④直通	⑤10H7/2	⑥焼成窓、片岩、チャート		
第105・56 PL.34-61	SDB1	土師器 小型壺	—	—	(6.7)	外：胴上面ナデ、胴下部ヘラケズリ 内：胴上面ナデ、胴下部ナデ	①直通 ②10H7/2 ③焼成窓、片岩、チャート	30			
第105・56 PL.34-62	SDB1	土師器 小型壺	—	【4.0】	(5.2)	外：胴部ヘラケズリ、底面ヘラケズリ 内：胴ナデ	①直通 ②10H8/2 ③焼成、石英	40			
第105・56 PL.34-63	SDB1	土師器 口付壺	【10.0】	—	(10.4)	口縁が長く直立 外：口縁ヨコナサザ後にタテのヘラミガキ、胴部ナダ 内：口縁ヨコナサザ	①直通 ②SW7/4 ③チャート、石英、鉱分粒	30			
第105・56 PL.34-64	SDB1	土師器 台付壺	—	【10.4】	(12.0)	脚部内部の大井筋に同一直線上による焼成粘土。端部2 所直通 外：脚部ハケメ、脚部ハケメ後にタテのナデ 内：脚部ヘラナデ、脚部ナデ	①直通 ②10H8/3 ③鉱分粒、チャート、角閃 石	20	S字状口縁		
第105・56 PL.34-65	SDB1	土師器 环	—	【12.6】	(7.8)	周辺は2段でなじみがあり、径1.0cmの円孔が2段3列に 配設される 外：脚部脚部ヘラミガキ。脚部ヘラミガキ後にヨコナ サザ 内：脚部脚部上位ナデ。下位ハケメ。脚部ハケメ後 に部分的にヨコナサザ	①直通 ②7.5H7/3 ③チャート	20			
第105・56 PL.34-66	SDB1	土師器 壺	【10.3】	5.1	5.3	内斜口縁 外：口縁ヨコナサザ、体部ヘラケズリ 内：口縁ヨコナサザ、体部ヘラナデ	①直通 ②7.5H8/4 ③焼成窓、チャート、石英	40	底面に「X」の 線刻		
第105・56 PL.34-67	SDB1	土師器 壺	【12.0】	【8.0】	2.9	外：口縁ヨコナサザ、体部指壓押法直後にヨコナサザ、底 面ちごみ剥離 内：口縁ヨコナサザ、体部へ底面指壓法にナデ	①直通 ②7.5H7/4 ③焼成窓、温泥窓	50	型押し作り?		
第105・56 PL.34-68	SDB1	土師器 壺	13.1	5.8	5.8	ヨコナサザ 外：ヨコナサザ、底面切削系切末調整 内：ヨコナサザ	①直通 ②10H7/1 ③焼成、チャート	90	内外面重ね複数 分段面観鏡		
第105・56 PL.34-69	SDB1	土師器 壺	13.0	5.4	3.9	ヨコナサザ 外：ヨコナサザ、底面切削系切末調整 内：ヨコナサザ	①直通 ②10H7/1 ③焼成、チャート、石英	100	体部外面に墨書 「北」か		

第 27 表 E 区 II 遺物觀察表 (2)

固版番号	遺構名	種別 器種	法縦 (cm) □径 直径 脊高			成形・整形技術等の特徴 (記述・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③粘土	残存 (%)	備考
			長さ	幅	厚さ				
第 105 番 70 PL34-70	S001	遺構器 件	12.1	6.2	3.8	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り未調整 内: ロクロナザ	①良好 ②96/0 ③粘分松、片岩、砂岩	100	
第 105 番 71 PL34-71	S001	遺構器 件	[12.9]	[6.0]	4.0	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り後に周溝を手待ちへ ケズリ 内: ロクロナザ	①焼繰りやや弱い ②107/1 ③片岩、石英、チャート。 研磨面 研磨面	40	底面部内外面研磨 被覆
第 105 番 72 PL35-72	S001	遺構器 件	13.4	6.2	4.2	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り未調整 内: ロクロナザ	①焼繰りやや弱い ②88/0 ③石英、砂岩、麻灰岩	100	内部底部に墨書き 「上」
第 105 番 73 PL34-73	S001	遺構器 件	[12.1]	5.5	3.8	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り未調整 内: ロクロナザ	①焼繰りやや弱い ②56/1 ③片岩、石英、砂岩	50	
第 105 番 74 PL34-74	S001	遺構器 件	[12.6]	6.0	3.4	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り後に周溝に手待ちへ ケズリ 内: ロクロナザ	①焼繰りやや弱い ②107/0 ③チャート、麻灰岩	40	
第 105 番 75 PL34-75	S001	遺構器 件	[13.0]	5.8	3.7	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り未調整 内: ロクロナザ	①焼繰りやや弱い ②2.97/1 ③チャート、石英	50	
第 105 番 76 PL35-76	S001	遺構器 件	[12.0]	5.8	3.0	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り未調整 内: ロクロナザ	①良好 ②107/5 ③石英、チャート、麻灰岩	50	
第 106 番 77 PL35-77	S001	遺構器 件	[12.0]	[5.8]	3.4	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り未調整 内: ロクロナザ	①良好 ②2.97/0 ③石英、石英、泥瓦	50	
第 106 番 78 PL35-78	S001	遺構器 件	—	[6.0]	[2.0]	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り未調整 内: ロクロナザ	①良好 ②96/0 ③チャート	20	
第 106 番 79 PL35-79	S001	遺構器 高台付塊	14.4	[7.0]	5.0	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り後に高台貼付 内: ロクロナザ	①焼繰りやや弱い ②7.30/7/4 ③粘分松、片岩、チャート	90	
第 106 番 80 PL35-80	S001	遺構器 高台付塊	[15.4]	[6.2]	5.4	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り後に高台貼付 内: ロクロナザ	①焼繰りやや弱い ②107/0/3 ③チャート、粘分松、研磨 面	30	外部底部から内部中空部素焼き
第 106 番 81 PL35-81	S001	遺構器 高台付塊	—	7.0	[2.5]	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り後に高台貼付 内: ロクロナザ	①良好 ②96/0 ③片岩、チャート、麻灰岩	20	
第 106 番 82 PL35-82	S001	遺構器 高台付塊	—	6.4	[3.0]	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り後に高台貼付 内: ロクロナザ	①焼繰りやや弱い ②2.97/1 ③石英、チャート、石英	40	
第 106 番 83 PL35-83	S001	遺構器 高台付塊	—	[6.2]	[3.1]	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り後に高台貼付 内: ロクロナザ	①焼繰りやや弱い ②2.97/1 ③チャート、石英	15	高台内側素焼き
第 106 番 84 PL35-84	S001	遺構器 高台付塊	—	—	[1.7]	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り後に高台貼付 内: ロクロナザ	①焼繰りやや弱い ②2.97/2 ③片岩、麻灰岩、チャート	20	
第 106 番 85 PL35-85	S001	遺構器 高台付塊	—	6.8	[3.1]	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り後に高台貼付 内: ロクロナザ	①焼繰りやや弱い ②7.30/6/2 ③片岩、チャート	30	
第 106 番 86 PL35-86	S001	軸輪陶 長頸瓶	—	[9.0]	[17.5]	クロコ成形 外: ロクロナザ。底面回転糸切り後に高台貼付 内: ロクロナザ	①良好 ②2.97/1 ③細密、長石	40	内部表面の剥落片が付着
			法縦 (cm) □径 直径 脊高			重量 (g) 材質	成形技術等の特徴		
第 106 番 87 PL35-87	S001	石器 打製石器	15.1	6.3	2.2	232.9 新質の頁岩	密度を持つ斜面を素材とし、両側斜め刃部に両面加工が施される。基部や刃部の翼辺に摩耗痕が留蓄にみられる。	100	
第 106 番 88 PL35-88	S001	石器 打製石器	(16.2)	6.3	2.2	(173.6) 安山岩	密度を持つ斜面を素材とし、両側斜め刃部に両面加工が施される。全体にやや粗粒化している。	90	基部が欠損
第 106 番 89 PL35-89	S001	石製品 碧玉	1.8	0.6	—	1.03 軟鉄質	孔径 0.25 cm、口徑に対して孔径が大きい	100	
第 106 番 90 PL35-90	S001	石製品 碧玉	1.9	0.5	—	0.84 軟鉄質	孔径 0.2 cm、口径に対して孔径が大きい	100	
第 106 番 91 PL35-91	S001	石製品 白玉	0.93	0.53	0.3	0.13 軟鉄質	孔径 0.2 cm、全面に擦痕、ゆがんでいる	100	
			法縦 (cm) □径 直径 脊高			成形・整形技術等の特徴 (記述・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③粘土		
第 106 番 92 PL35-92	S002	土師器 台付甕	—	9.4	[7.4]	内部と外部の接合面に跡子と異なる肩筋。筋板を含む複数枚の内面裏面間に折返す。 外: 脱模ハケ入り、脚部ナメハケメ後にタテのナザ 内: 脱模ハケ入り、脚部ナザ	①良好 ②7.30/6/4 ③石英、チャート	30	S字状口縫

第28表 E区Ⅱ 遺物観察表(3)

回収番号	遺構名	種別 器種	法量(cm) 1径 底径 厚さ			成形・整形技術等の特徴 (認形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③軸土 残存(%)	備考		
			法量(cm) 長さ 幅 厚さ			重量(g)	材質	作成技術等の特徴		
第106回93 PL.35-93	S002	裏欠凹 馬舌付鏡	—	7.5	(2.4)	ロクロ成形 外：コロナダ。底面同様系切後に高台貼付 内：ロクロナダ	①良好 ②7.5W6/1 ③チャート、砂岩	30		
第107回94 PL.35-94	S002	石器 打削石斧	9.3	4.9	1.92	(63.04) 石器	礫度をもつ横長削片を素材とし、2側縁に平面加工が施される。	95	一部欠損、タイ ドスケレイバー の可能性もあり。	
第107回95 PL.35-95	S006	土師器 小型壺	—	—	(6.9)	成形・整形・仕上げ等の特徴 (認形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③軸土			
第107回96 PL.35-96	S006	土師器 大型壺	【19.2】	—	(7.6)	側縁部は平滑化している。 外：口部底ハケメ後にヨコナダ。胴へ底部ヘラケズリ 内：口部底ハケメ、胴へ底面ヘラナダ	①普通 ②7.5W6/4 ③石灰、チャート、鉄分粒	90		
第107回97 PL.35-97	S006	土師器 平	【13.0】	—	3.3	この字形は「ノ」字形。 外：口部底ヨコナダ。頭部指捺押拌压後にヨコナダ。胴 内：口部底ヨコナダ。頭部指捺押拌压後にヨコナダ。胴 部ヘラナダ	①良好 ②5W6/6 ③鉄分粒、角閃石	10		
第107回98 PL.35-98	S006	土師器 平	11.6	—	3.1	外：口部底ヨコナダ。体部ヘラケズリ 内：口部底ヨコナダ。体部指捺押拌压後にナダ	①良好 ②5W6/4 ③鉄分粒、角閃石、チャート	60		
第107回99 PL.35-99	S006	土師器 壺环	—	13.0	(8.10)	頭部底面はくびを持ち、頭部は強く開く。 外：状跡部ヘラミガキ、頭部ヨコナダ 内：柱状跡しづけ目、頭部ヨコナダ	①良好 ②5W7.6 ③鉄分粒、角閃石岩	90		
第107回100 PL.35-100	S011	土製品 玉	1.9	1.75	1.6	成形・整形技術等の特徴 (認形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③軸土			
第107回101 PL.35-101	S011	石製品 石器	(2.07)	(1.63)	0.30	(6.83) 黒色安山岩	孔径0.45cm、円錐形 外：ナダ	①良好 ②7.5W8/4 ③チャート、鉄分粒	100	
第107回102 PL.35-102	S029	土師器 理	【7.2】	4.0	10.8	成形・整形技術等の特徴 (認形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③軸土			
第107回103 PL.35-103	S029	土師器 台付壺	【14.0】	—	(6.6)	外：口部底ヨコナダ。頭部と胴部の接合部にヘラケズリ。 内：頭部ヨコナダ。胴部ヘラナダ	①良好 ②7.5W6/2 ③チャート、砂岩	10	S字狀口縫	
第107回104 PL.35-104	S029	土師器 台付壺	—	—	(6.8)	体部と脚部の接合部前面に軸土と異なるチャート・片翼・ 石英・砂粒を含む充填粘土。内曲面端部は折返し。 外：脚部ハケメ	①良好 ②7.5W6/2 ③チャート、石英	30	S字狀口縫	
第107回105 PL.105	S029	土師器 台付壺	—	8.0	(5.9)	体部と脚部の接合部前面に軸土と異なる大粒の砂粒を含 む補充粘土。内曲面端部は折返し。 外：脚部ヨコナダ、脚部ヘラナダ	①良好 ②7.5W6/2 ③チャート、石英、結晶岩	20	S字狀口縫	
第107回106 PL.106	S029	土師器 小型壺	—	4.2	(4.9)	底部がやや突出する。 外：口部底ヨコナダ、胴・部タウメのヘラケズリ。底 部ハケメ、底面ヘラケズリ 内：口部底ヨコナダ、脚から底部ヘラナダ	①良好 ②7.5W7/2 ③石英、角閃石、チャート	60		
第107回107 PL.107	S031	土師器 壺	—	—	(4.4)	外：脚部ヘラミガキ 内：脚部指捺ナダ後にヘラミガキ。胴上部横積み楕、ヘ リナダ	①良好 ②5W6/4 ③チャート、鉄分粒、石英、 角閃石	10		
第108回108 PL.108	遺構外 土師器 小型壺	—	4.8	(9.2)	底部がやや突出する。 外：頭部ヨコハラケズリ。底面ヘラケズリ 内：脚部ヨコナダ	①良好 ②7.5W6/4 ③石英、チャート、砂岩	30			

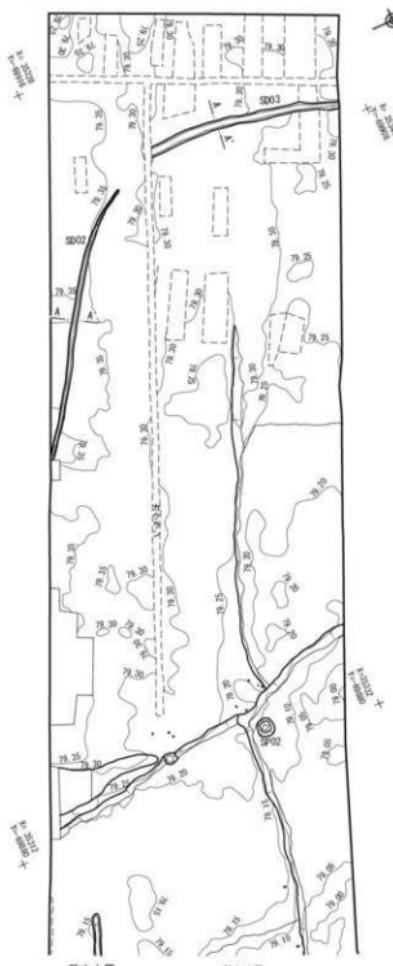
第29表 E区II 遺物觀察表(4)

国版番号	遺物名	種別 分類	法量(cm)			形成・整形法等の特徴(温湯・文様の特徴)	①焼成	②色調	③胎土	残存 (%)	備考
			口径	底径	高さ						
第108国109 PL36-109	遺構外 土師器 灰杯	土師器 灰杯	—	9.6	(7.0)	体部と脚部の接合面に補充粘土、内面脚端部は折出し 外：脚部タグのハーフタグ、接合部ヨコのハーフタグ、 脚部ナダメのヘラタグ、下部ナダ 内：脚部ナダメ、脚部ナダ	①良好 ②2.5W7/3 ③チャート、石英、致分粒、 燧瓦器	30			
第109国110 PL36-110	遺構外 土師器 高杯	土師器 高杯	—	【11.2】	(9.7)	脚部状態は直線的に広がり、脚部は強く聞く 外：脚部底タグラミガキ、脚部ヨコナダ 内：脚部底蓋しづびり目、脚部ヨコナダ	①良好 ②2.5W7/4 ③チャート、石英、致分粒、 燧瓦器	40			
第109国111 PL36-111	遺構外 土師器 器台	土師器 器台	—	【11.8】	(12.0)	受盤に径1.5×1.8cmの円孔・脚部に径1.0cmの円孔を 各1つ有する。表面は滑らか。底部は脚部付近に凹出する。 外：受盤のタグラミガキ、底部との接合部はハケタグ、 若部は口縁部を曲げし、ハケメ付ヨコナダ、脚柱 状況は2段のハラタガキ、若部はヨコハラタガキ、 内：受盤企配にハラタガキ、脚柱状態の上位に輪輪構 造、ヨコハラメ後、ナダ	①良好 ②2.5W7/3 ③チャート、南縫口器、石英	70	北側系装飾器台		
第109国112 PL36-112	遺構外 灰壺器 环	【12.0】	【7.0】	3.6	ヨコの成形 外：ロクロコゲ、底面回転糸切調整 内：ロクロコゲ	①地縫6.0 小心崩れ ②3W6/1 ③ナメル	40	外縫縫跡、内 面底部に2枚的 加热により変化 口縫縫内面に環 付着、胎明皿と して使用			
第109国113 PL36-113	遺構外 灰壺器 环	12.2	5.7	3.7	ヨコの成形 外：ロクロコゲ、底面回転糸切調整 内：ロクロコゲ	①地縫6.0 小心崩れ ②2.5W7/1 ③チャート、片岩、石英	100				
		法量(cm)	長さ	幅	厚さ	重量(g)	材質	作成技法等の特徴			
第109国114 PL36-114	遺構外 石器 石鏡	石29 石鏡	(2.54)	(2.98)	0.42	(1.45)	黒色安山岩	同系無基底		90	左脚部が欠損

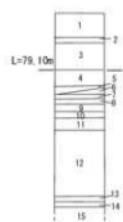
第30表 E区II 遺構観察表

名称	区	面	形状	主軸方位	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	時期	備考	出土遺物
SD01	II-1	1・2		N-76°-E	59.02	6.96	0.56	Hr-FP 降下後～ Ae-B 降下前	SD02 を切る。 土師器、环、壇、高杯、甌、台付 壇、小型壙、広口壺。須恵器、环、高台付壇、煮、 灰陶器29、壇、長颈壺。打削石斧、 土師器、台付壇。須恵器、高台環境。	
SD02	II-1	2		S-59°-E	12.84	1.22	0.61	若良、平定	SD01 を切る。	
SD03	II-3			N-25°-E	13.83	1.85	0.32		土師器、高杯、S字口縫台付壇。	
SD04				N-74°-E	5.18	0.86	0.31	古墳か	欠番	
SD05										
SD06	II-3			—	6.09	2.18	0.2		十脚置环、高杯、甌、小型壙、S字口縫台付壇。	
SD07	II-1	1		N-39°-E	3.89	1.39	0.17	Ae-A 降下後	SD01 を切る。	
SD08	II-6			N-4°-E	1.42	1.40	0.16	土師器		
SD09	II-6			N-69°-E	10.14	0.92	0.19	土師器		
SD10	II-6			N-83°-E	5.10	0.62	0.43	Hr-FP 降下後	土師器	
SD11	II-6			N-36°-E	2.54	1.24	0.21	Ae-A 降下後	土師器 S字口縫台付壇。罐29、土、石器	
SD12	II-6			N-80°-E	4.06	0.62	0.15	Ae-B 降下前	土師器	
SD13	II-5			N-65°-E	4.36	0.66	0.13	Ae-A 降下後		
SD14	II-5			N-68°-E	1.76	1.08	0.15			
SD15	II-6			N-69°-E	1.30	0.94	0.12			
SD16	II-1	2		N-70°-E	23.20	1.62	0.17	古墳崩落か	土師器	
SD17									欠番	
SD18	II-2			N-66°-E	3.99	1.58	0.27	若良、平定記	土師器环、S字口縫台付壇、灰陶器壺、壺	
SD19	II-4			N-94°-E	3.72	0.63	0.11	Ae-C 降下後	土師器、环	
SD20	II-4			N-32°-E	34.70	0.92	0.13	Ae-C 降下後	土師器、台付壇、小型壙、壺	
SD21	II-4			N-68°-E	1.32	2.91	0.16	Ae-B 降下後	SD20 を切る。	
SK01	II-1	1	椭円形	N-27°-E	1.32	1.06	0.52	Ae-B 降下後	土師器	
SK02	II-1	1	椭円形	N-71°-E	0.64	0.72	0.14	Ae-B 降下後		
SK03	II-1	1	椭円形	N-59°-E	2.44	1.14	0.23	Ae-B 降下後		
SK04	II-3		椭円形	N-69°-E	0.86	0.86	0.2	古墳か	土師器环、高杯、甌	
SK05									欠番	
SK06	II-2		椭円形	N-65°-E	0.84	0.30	0.17	Ae-B 降下後		
SK07	II-2		椭円形	N-3°-E	0.26	0.72	0.22	Ae-A 降下後	土師器	
SK08									欠番	
SK09	II-3		不整形	N-33°-E	1.56	0.46	0.14	Ae-A 降下後	土師器	
SK10	II-3		不整形	N-33°-E	1.76	0.26	0.2	Ae-A 降下後	土師器	
SK11	II-3		不整形	N-58°-E	1.18	1.38	0.4	古世以降	土師器、罐	
SK12	II-5		不整形	N-42°-E	0.96	0.26	0.25			
SK13	II-5		不整形	N-59°-E	1.62	0.31	0.45	Ae-B 降下前か	土師器	
SK14	II-2		不整形	N-42°-E	2.78	0.92	0.3	Ae-B 降下前か	土師器环、須恵器环、大甌、円筒埴輪	
SK15	II-4		不整形	N-39°-E	0.71	0.59	0.19	Ae-B 降下後		
SP01	II-1	2	円筒形	N-26°-E	0.86	0.42	0.14		SD01 を切る。SD01 に伴う遺構の可能性あり。	
SP02	II-1	2	円筒形	N-38°-E	0.38	0.34	0.16		SD01 を切る。SD01 に伴う遺構の可能性あり。	
SP03	II-1	2	円筒形	N-49°-E	0.49	0.28	0.03		SD01 に伴う遺構の可能性あり。	
SP04	II-1	2	円筒形	N-70°-E	0.96	0.44	0.05		SD01 に伴う遺構の可能性あり。	
SP05	II-1	2	円筒形	N-29°-E	0.50	0.44	0.3		SD01 に伴う遺構の可能性あり。	
SP06	II-1	2	円筒形	N-51°-E	0.44	0.32	0.35		SD01 に伴う遺構の可能性あり。	
SP07	II-1	2	円筒形	N-32°-E	0.49	0.32	0.26		SD01 に伴う遺構の可能性あり。	
SM01	II-1	1		N-44°-E	5.09	0.21		Hr-FP 降下後	土師器环、壺、S字口縫台付壇	
SM02	II-1	1		—	2.84	0.49	0.05	Ae-C 降下後		

第13節 E区Ⅲ



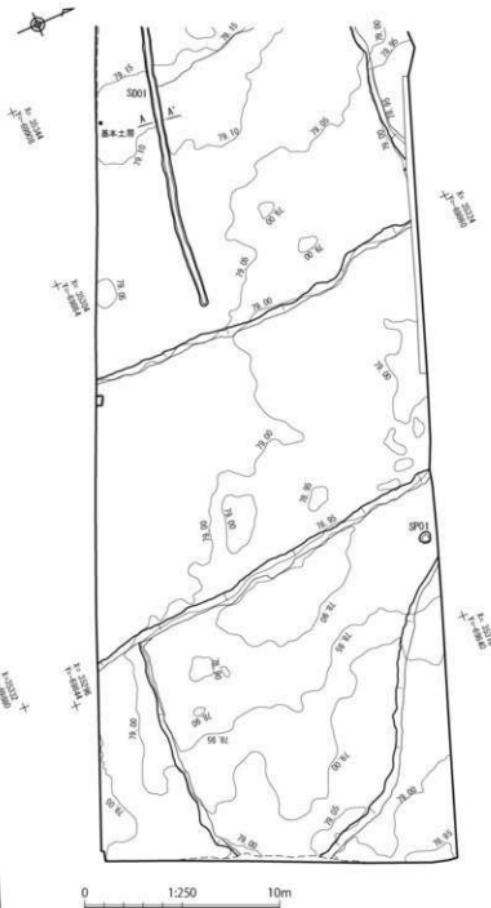
基本土層



基本土層

- 1 灰黃褐色土 (10Y4/2) 規規作土。Ar-Aテフラを含む。
 - 2 黄褐色土 (10W4/1) 床上。鉛分の沈着あり。
 - 3 黄褐色質土 (10W4/4) Ar-Bテフラを多量に含み底部には、Ar-Cテフラの一層堆積がある。
 - 4 黑色粘質土 (10W3/1) Br-FPを含む。
 - 5 黑色粘質土 (10W3/1) 鉛分の沈着あり。
 - 6 にじみ 黃褐色シルト (10W7/3)
 - 7 灰黃褐色粘質土 (10W5/2) 6層のシルトを少し含む。
 - 8 にじみ 黃褐色シルト (10W6/2)
 - 9 灰黃褐色シルト (10W5/2)
 - 10 にじみ 黃褐色粘質土 (10W4/2) 黄褐色軽石を含む。火山灰分析。
- サンプル採取箇所。
- 11 灰黃褐色土 (10W4/2)
 - 12 黑色粘質土 (10W1/7/1) 流木、腐食を含む。
 - 13 浅灰色砂質土 (10W1/1)
 - 14 黑色粘質土 (10W2/1)
 - 15 にじみ 黄褐色粘質土 (10W5/3) 星雲層。

第110図 E区Ⅲ 基本土層



第109図 E区Ⅲ 造横全体図



(1) 調査区の概要

E 区 III は新設道路工事に伴い設定した。調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんでおり、As-B 一次堆積層の残存状況は良くなかった。よって As-B 堆積層下面と As-B が削平されている場合には土地改良工事土下の黒褐色粘質土面を遺構検出面とした。本調査区では平安時代～As-B 降下後の遺構を検出した。遺構の内約は、溝 3 条、As-B 下水田跡、ピット 2 基である。

(2) 溝

本調査区では、3 条の溝を検出した。

SD02 には As-B 一次堆積層が埋土として堆積しており、As-B 降下時に埋没している。一帯の As-B 下水田と関連する遺構の可能性がある。

(3) As-B 下水田

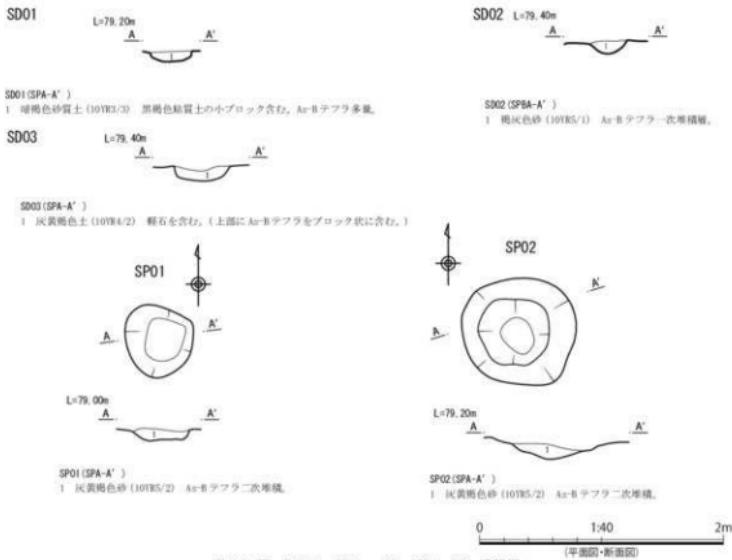
本調査区では、南側台地から北側低地と、東に向けて水田面を下げる As-B 下水田区画を検出した。

調査区西端区画の水田面標高は約 79.35m 程度で約 5 cm ~ 10 cm 程度ずつ北・東へ標高を下げ、調査区内では 79.00m 程度まで水田面標高を下げる。

畦ではなく、全ての水田区画の切り替わり部分は段となっていた。段の走行方向は真北を意識している。

(4) ピット

本調査区では、2 基のピットを検出した。ピット 2 基は As-B 二次堆積で埋没していた。



第 111 図 E 区 III SD01 ~ 03, SP01, 02 遺構図

第 31 表 E 区 III 遺構観察表

名称	形状	主軸方位	縦横 (m)	時期	備考・出土遺物	
SD01	U	N~76°~W	16.72	0.44	0.10	As-B 降下後 土師器
SD02	U	N~56°~W	14.42	0.34	0.09	As-B 降下前
SD03	U	N~11°~E	10.92	0.54	0.14	As-B 降下後 土師器高台・甕・S字口縁台付甕・甌・須恵器高台付甕・甌・陶器片・ 鉢形塊
SP01	円形		0.62	0.56	0.12	As-B 降下後
SP02	円形		1.00	0.94	0.25	As-B 降下後

第 14 節 E 区IV

(1) 調査区の概要

E 区IVは区画道路 1 号線工事に伴い発掘調査を実施した。

調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんでもり、As-B 一次堆積層の残存状況は良くなかった。よって As-B 堆積層下面と As-B が削平されている場合には、土地改良工事盛土下の黒褐色粘質土面を遺構検出面とした。

本調査区では平安時代・近現代の遺構を検出した。遺構の内訳は溝 5 条、As-B 下水田である。

(2) 溝

本調査区では近現代の溝 5 条を検出した。

溝は全て近現代の溝と判断できたため掘削を行わなかつた。

(3) As-B 下水田

本調査区西半では、南側台地から北側低地に向けて水田面を下げる棚田状の As-B 下水田区画を検出した。

南西端区画の水田面標高は 79.90m 程度で約 5 cm 程度ずつ北へ標高を下げ、調査区内では 79.80m 程度まで水田面標高を下げる。東西方向の水田面の落ち方向は上位の区画では西から東、下位の区画では東から西へと切り替わっており、万遍なく水が行き届くよう設計されている。

棚田状の区画は東西に長い不定形の長方形で、南側台地に向かって扇状に開く。水田区画の短辺長は約 4 m ~ 6 m、長辺長は区画毎に様々である。

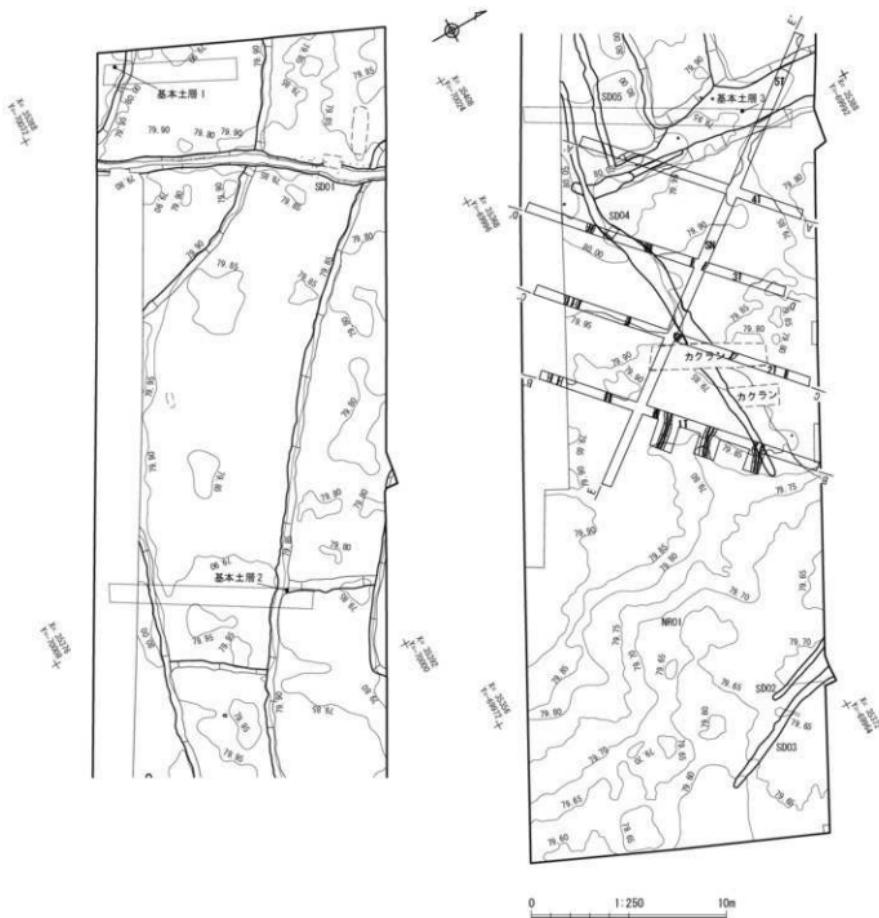
畦は調査区中央付近の幅約 1.5m ~ 3m のもののみ検出した。周辺遺跡の調査成果から、条里水田の南北方向大畦かつ坪交点であると推定できる。他に畦は検出できず、幅約 50cm の段が各水田区画を区切っていた。

大畦を境に調査区東半では全面に砂質土が広がっており、As-B の堆積・As-B 下水田面は検出できなかったため、トレーナーを設定し、砂質土の下の黒褐色粘質土を確認した。砂質土下の黒褐色粘質土を対象に、プランクトン・オパール分析を行ったところ、水田として認定するに足る量のプランクトン・オパールが検出された。何らかの理由により、As-B 降下前に砂質土で埋没した水田が、E 区 IV 東半に展開していたものと推測できる。埋没時期は不明だが、周囲の As-B 下水田と条里区画を共有する水田と考えられる。

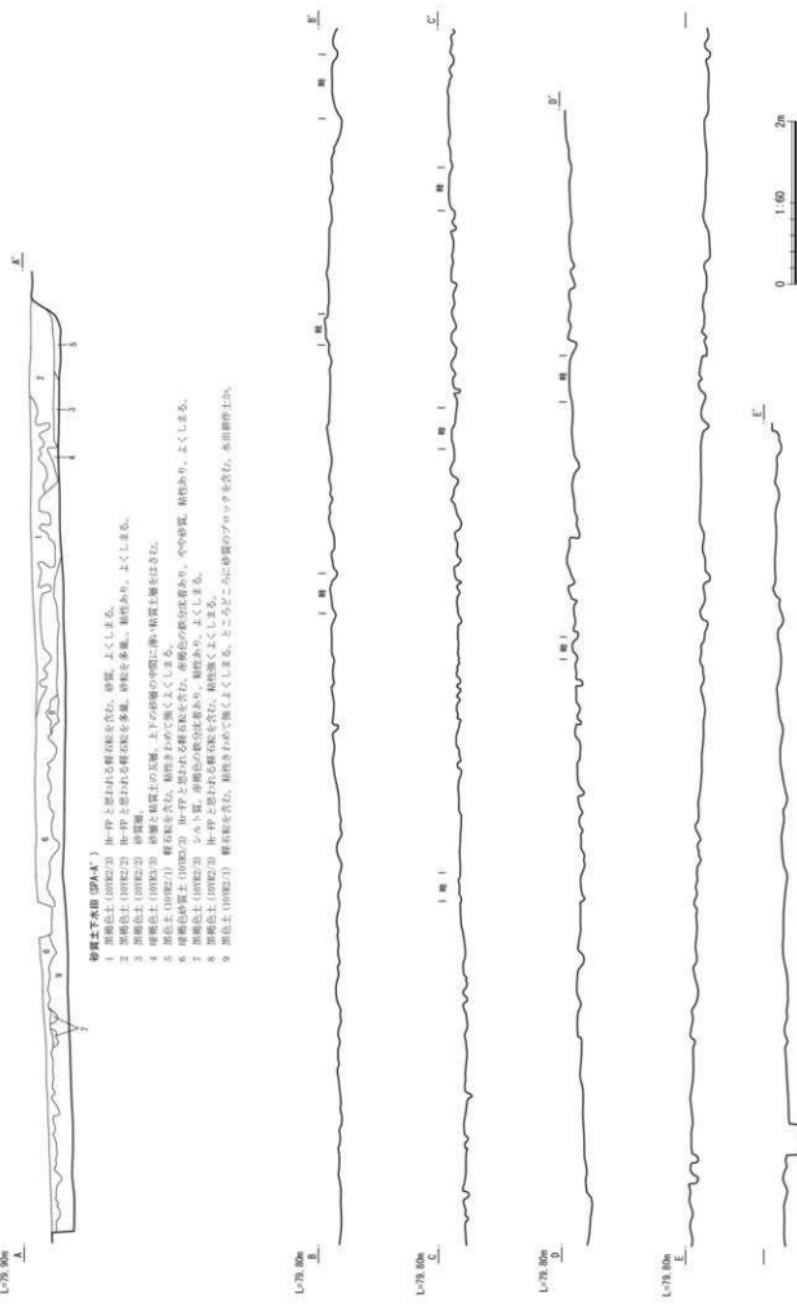


0 1:40 2m

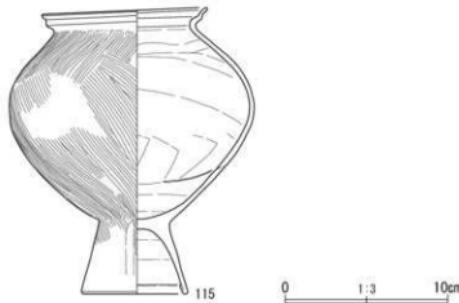
第 112 図 E 区IV 基本土層



第113図 E区IV 造構全体図



第114回 E区IV 砂質土下水田 造構圖



第115図 E区IV 遺物図

第32表 E区IV 遺物観察表

国版番号 PL.36-115	遺構名 遺構外	種別 土師器 台付壺	法面 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③新土	残存 (%)	備考
			口径	底径	脚高				
			10.0	6.2	17.5	体部と脚部の接合両面に補充粘土、内曲脚器部は折返し 外：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ。脚部ハケメ後に脚 ナデ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、脚部ナデ	①良好 ②7.5W7/2 ③チャート、石薬、凝灰岩	79	S字口縁

第33表 E区IV 遺構観察表

名称	形状	主軸方位	仰座 (s)	時期	備考
SD01		N-31°-E	14.90 0.98	近現代	土師器環・盖环・S字口縁台付壺・大壺・蓋
SD02		N-20°-W	3.96 0.25	近現代	
SD03		N-19°-W	7.80 0.40	近現代	
SD04		N-88°-E	23.40 1.15	近現代	
SD05		N-75°-W	7.39 0.58	近現代	

第 15 節 E 区 V

(1) 調査区の概要

E 区 V は区画道路 1 号線工事に伴い発掘調査を実施した。

調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんでおり、As-B 一次堆積層の残存状況は良くなかった。よって As-B 堆積層下面と、As-B が削平されている場合には土地改良工事盛土下の黒褐色粘質土面を遺構検出面とした。

本調査区では平安時代～近世の遺構を検出した。遺構の内訳は溝 1 条、As-B 下水田跡、耕具痕、土坑 2 基である。

(2) 溝

本調査区では As-B テフラ降下後の溝 1 条を検出した。

(3) As-B 下水田区画

本調査区北半では、As-B 水田区画を 3 面検出した。水田区画の東西辺は東の区画から約 17.3m 以上、約 5.7m、約 16m となっており一定でない。

東端の区画は南側の東西辺が屈曲しており、水田区画の設計に南側の台地の影響を受けているものと推定できる。水田面の標高は東の区画から 79.4m 前後、79.4m 前後、79.5m 前後となっており、西から東へ水田面を下げている。

(4) 耕具痕

本調査区南半中央部から東部にかけて、As-B 下水田区画と隣接して耕具による耕具痕を多数検出した。

耕具痕は長方形・三角・半月形の平面形を呈しており、少なくとも三種の耕具で掘り込まれていると推定できる。向きは確定できないが、耕具痕は一定の方向に掘り込まれている箇所が認められ、後ろに下がりながら連続して掘削を行ったと推定できる。

耕具痕は As-B 一次堆積層の上に位置する As-B を含む黒褐色砂質土層から掘り込まれ、As-B 下水田耕土の黒褐色粘質土を掘り込んでいた。以上の様子から As-B 下の黒色粘質土を狙って掘り込んでおり、掘削は耕地の復元を目的としたものと推定できる。

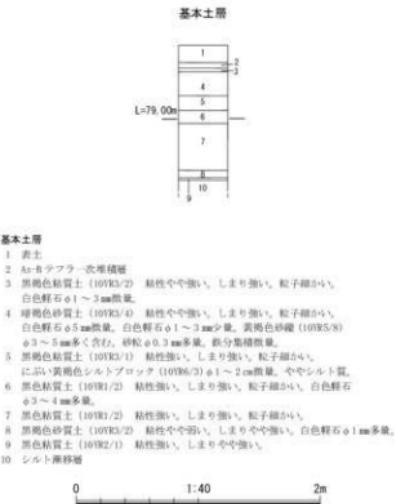
耕具痕の範囲は As-B の堆積が浅く旧地形が高い水田区画の南側に集中している。調査区北側の水田区画内は掘削されていない。

(5) 土坑

本調査区では、2 基の土坑を検出した。

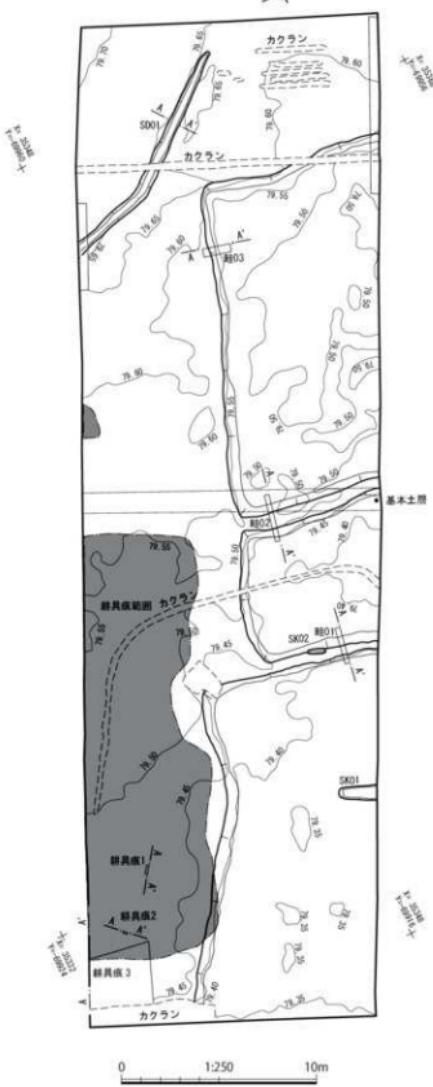
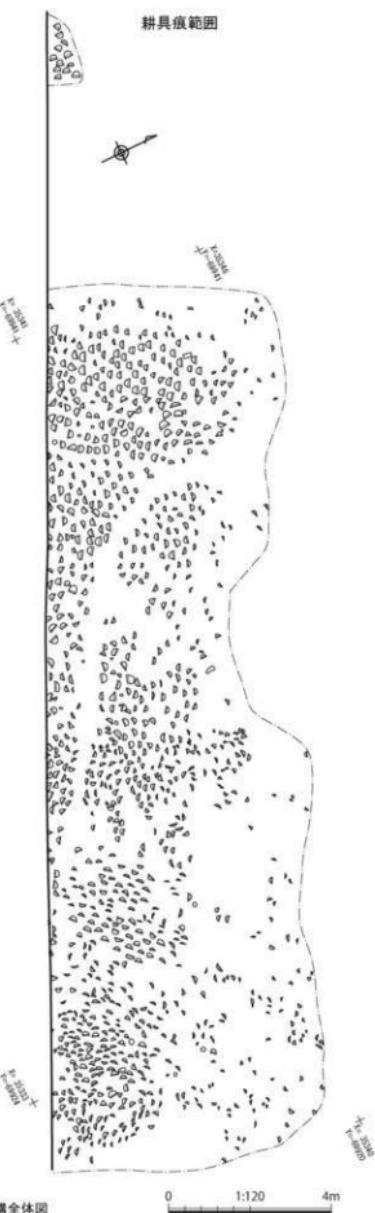
各土坑は遺物に乏しく、テフラから年代を

絞り込むことはできたが、性格を特定できる土坑は皆無であった。



第 116 図 E 区 V 基本土層

耕具痕範囲



第117図 E区V 造構全体図

耕具痕 01



耕具痕 01 (SPA-A')

- 1 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 粘性弱い。しまり強い。粒子やや細かい。Ar-B テフラ量で多量。ピンク灰微量。
- 2 Ar-B テフラ一次堆積層
- 3 増褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり強い。白色軽石微量。Ar-B テフラ水田土。

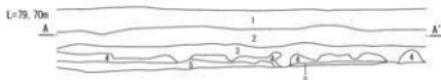
耕具痕 02



耕具痕 02 (SPA-A')

- 1 Ar-B テフラ二次堆積層 (10YR7/2) しまりやや弱い。粘性なし。粒子粗い。黑色土 (10YR2/3) 枯量。
- 2 黑褐色粘質土 (10YR3/2) しまり強い。粘性あり。白色軽石微量。

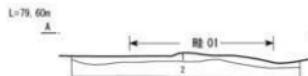
耕具痕 03



耕具痕 03 (SPA-A')

- 1 表土
- 2 土地改良工事浚渫土
- 3 黑褐色砂質土 (10YR2/3) 粘性弱い。しまり強い。粒子やや細かい。Ar-B テフラ多量。ピンク灰微量。
- 4 Ar-B テフラ一次堆積層
- 5 黑褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性やや強い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1 \sim 3$ mm微量。水田土。

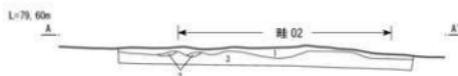
畦 01



畦 01 (SPA-A')

- 1 黑褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり強い。白色軽石微量。Ar-B テフラ下水田土上面。
- 2 増褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性あり。しまり強い。白色軽石微量。

畦 02



畦 02 (SPA-A')

- 1 黑褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり強い。白色軽石微量。Ar-B テフラ下水田土上面。
- 2 増褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性弱い。しまりやや強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1$ mm微量。
- 3 増褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性あり。しまり強い。白色軽石微量。

畦 03



畦 03 (SPA-A')

- 1 黑褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり強い。白色軽石微量。Ar-B テフラ下水田土上面。
- 2 増褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性あり。しまり強い。白色軽石微量。
- 3 増褐色砂質土 (10YR3/4) 粘性やや弱い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 5$ mm微量。黄褐色砂質 (10YR3/3) ~ 5 mm多量。鉄分鉻鉱微量。
- 4 増褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性やや強い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1$ mm微量。

SD01



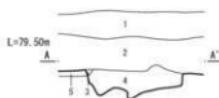
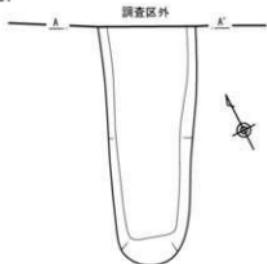
SD01 (SPA-A')

- 1 黒色砂質土 (10YR3/2) しまりやや強い。粘性なし。粒子やや細かい。ピンク灰少量。Ar-B テフラ $\phi 0.5$ mm主体。
- 2 増褐色砂質土 (10YR3/3) しまりやや強い。粘性やや弱い。粒子細かい。砂粒 $\phi 0.3$ mm多量。白色細粒子 $\phi 1$ mm微量。

0 1:40 2m

第 118 図 E 区 V 耕具痕 01 ~ 03, 畦 01 ~ 03, SD01 道構図

SK01



SK01 (SPA-A')

- 1 表土
- 2 土地改良工事底土
- 3 暗褐色土 (10YR 4/3) 黏性やや弱い。しまり強い。粘子や砂質54%、Ar-Bテフラ微量。
- 4 暗褐色砂質土 (10YR 4/3) 黏性やや弱い。しまりやや強い。粘子や砂質54%、Ar-Bテフラ多量。Ar-Aテフラ少量。
- 5 Ar-Bテフラ一次堆積層

SK02



0 1:40 2m
(平面図・断面図)

第119図 E区V SK01・02 造構図

第34表 E区V 造構観察表

名前	形状	主軸方位	断面(s)			時期	備考・出土遺物
			長軸	短軸	度合		
SK01	N°34°-W	12.26	0.68	0.14	Ar-B段下後	土器器、礫器	
SK01	長方形	N°26°-E	1.95	0.89	0.14	Ar-A段下前	
SK02	指円形	N°22°-E	0.94	0.22	0.13	Ar-B段下後	

第 16 節 F 区

(1) 調査区の概要

F 区は木村堰第 3 排水工事に伴い発掘調査を行った。

調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんでおり、As-B 一次堆積層の残存状況は良くなかった。よって As-B 堆積層下面と、As-B が削平されている場合には土地改良工事盛土下の黒褐色粘質土面を遺構検出面とした。

F 区は細かく 4 区画に分かれるため、F 区 - 1、F 区 - 2 のように枝番を振った。

本調査区では古墳時代～近世の遺構を検出した。遺構の内訳は溝 19 条、畝状遺構、土坑 4 基である。

(2) 溝

本調査区では古墳時代～近世の溝 19 条を検出した。

検出した溝の大半は As-A を埋土に含む近世以降の溝である。

SD01 は As-A や As-B を埋土に含まず、最下層には若干の砂礫層が堆積する。走行方向は旧地形の傾斜方向に関わらず東西である。上述の堆積状況と走行方向から、As-B 下水田に関連、またはやや先行する水路の可能性がある。

る。

SD05 は埋土上位に As-B 一次堆積層が認められ、埋土最下層には砂礫層が 2 ～ 3 cm 堆積する。走行方向は東西である。検出位置から SD01 と同一の溝と考えられる。

SD08 は土地改良事業以前まで農業用取排水路として機能した旧柏川の可能性がある。埋土は As-A 降下以前・降下以後・土地改良工事直前の三時期に分けることができる。時期が下るにつれて、河道中心及び西側の立ち上がりが東へと移っていく。河道成立時期は As-B 下水田廃絶後～As-A 降下以前と考えられる。

(3) 畝状遺構

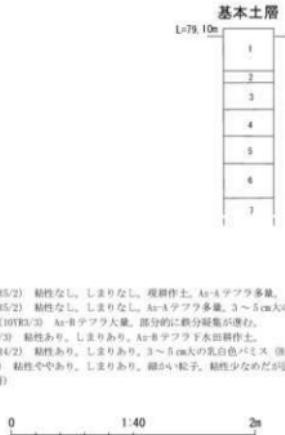
F 区 - 4 では畝状遺構と考えらえる溝列を 3 条検出した。畝の上部は土地改良事業により削平されていた。畝間に多量の As-B を含むものの As-B 一次堆積は認められないため、As-B 降下後の所産と考えられる。

(4) 土坑

本調査区では 4 基の土坑を検出した。

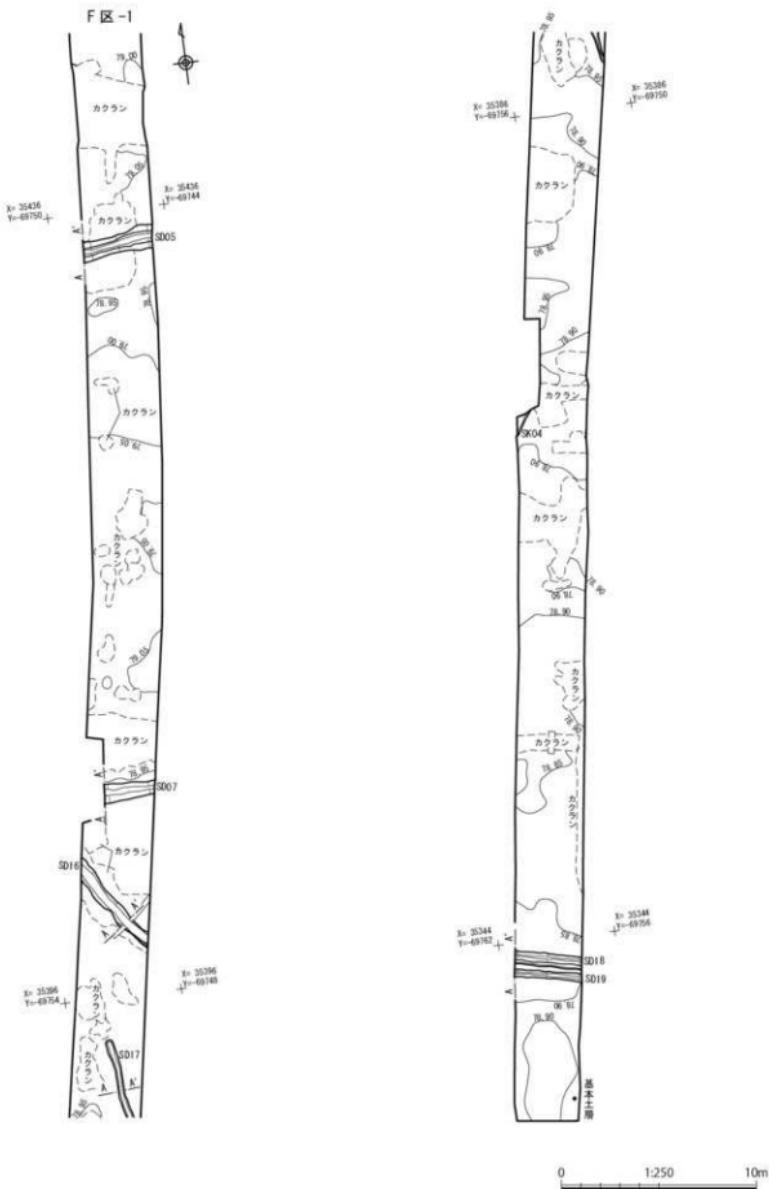
SK04 が As-A を埋土に含むほかは、各土坑埋土には火山噴出物は含まれていなかった。いずれの土坑も性格を絞り込むには至らなかつた。

F 区基本土層

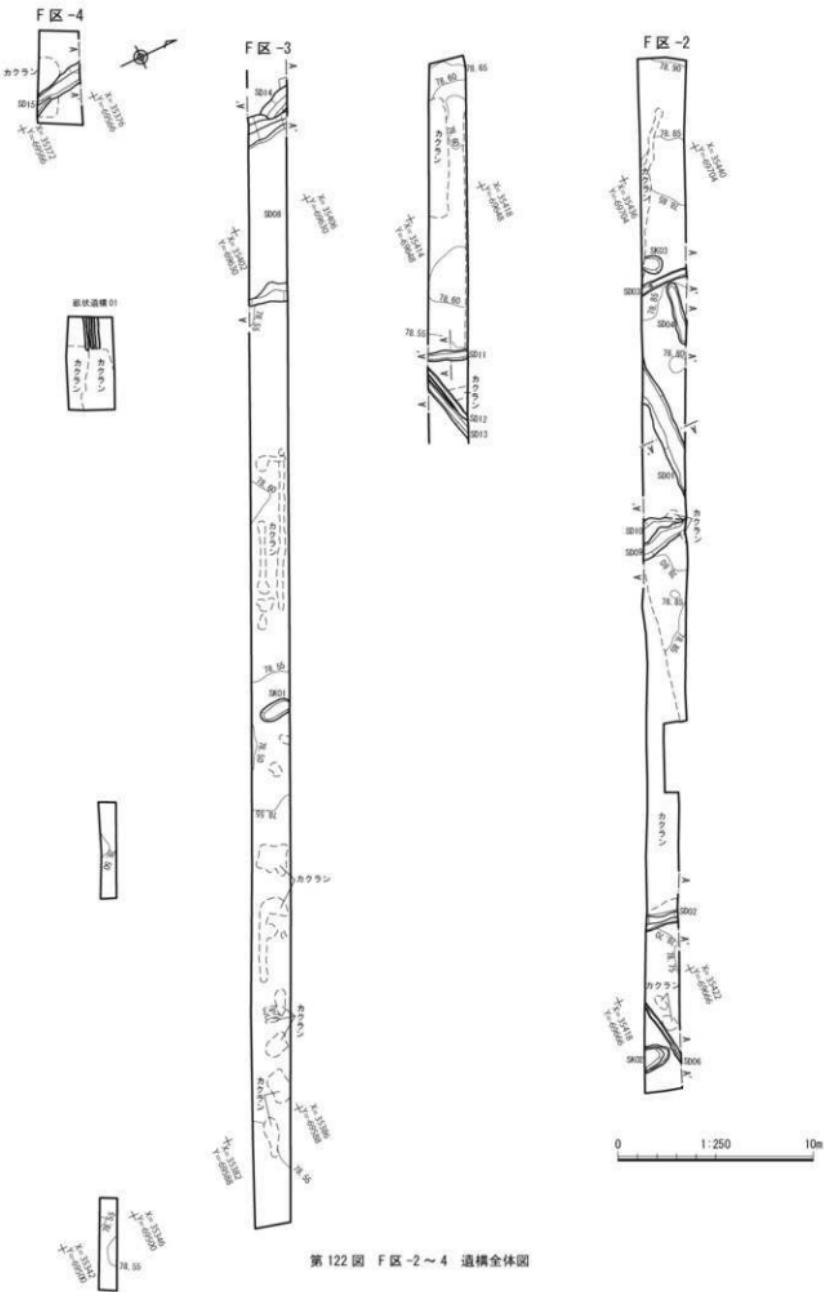


- 1 从黃褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。現耕作土。As-A テフラ多量。
- 2 从黃褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。As-A テフラ多量。3 ～ 5 cm 大の黒褐色土ブロック（土地改良による）を部分的に含む。
- 3 にじむ黒褐色土 (10YR3/2) As-A テフラ大量。部分的に鉄分凝聚が進む。
- 4 單褐色土 (10YR3/3) 黏性あり。しまりあり。As-A テフラ下水田耕作土。
- 5 从黃褐色土 (10YR4/2) 黏性あり。しまりあり。3 ～ 5 cm 大の白色バニス (Bt-PP と考被される) 含む。鉄分凝聚が進む。
- 6 黑色土 (10YR2/1) 黏性ややあり。しまりあり。細かい粒子。粘性少なめだが固くしまる。泥炭質。
- 7 基盤層 (ローム層)

第 120 図 F 区 基本土層

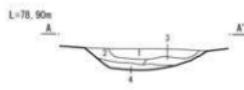


第121図 F区-1 遺構全体図



第122図 F区-2~4 遺構全体図

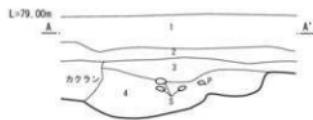
SD01



SD01 (SPA-A')

- 1 増褐色土 (10YR3/3) 粘性なし。しまりなし。黄白色の軽石少量。地山黄色土中量。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし。しまりあり。黑色粘質土を主体とし。地山黄色土少量。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性なし。しまりなし。砂質土を主体とし。地山黄色土少。黄色土ブロック (0.5~1cm) 中量。
- 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性なし。しまりなし。砂質土を主体とし。地山黄色土少。黄色土ブロック (0.5~1cm) 中量。

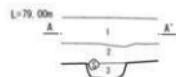
SD02



SD02 (SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりなし。現耕作土。Aa-kテフラ多量。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 粘性なし。しまりなし。E551倒壊工による盛土と考えられる。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりなし。Aa-kテフラ少量。すぐ南化鉄分凝集あり。
- 4 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。Aa-kテフラ多量。5~10cmの川原石含む。近現代の露頭出土。

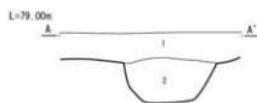
SD03



SD03 (SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりなし。現耕作土。Aa-kテフラ多量。
- 2 黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりなし。Aa-kテフラ多量。土地改良による3~5cmの黒褐色土ブロックを部分的に含む。
- 3 増褐色土 (10YR3/3) 粘性なし。しまりなし。Aa-kテフラ多量。

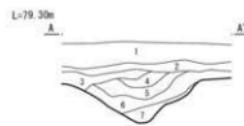
SD04



SD04 (SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりなし。現耕作土。Aa-kテフラ多量。
- 2 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。Aa-kテフラ多量。

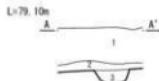
SD05



SD05 (SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりなし。現耕作土。Aa-kテフラ多量。
- 2 黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりなし。Aa-kテフラ多量。土地改良による3~5cmの黒褐色土ブロックを部分的に含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性なし。しまりあり。堆山ブロック多量。
- 4 Aa-kテフラ一次堆積。
- 5 黑褐色土 (10YR3/2) 粘性あり。しまりあり。細かい粒子含む。少量の乳白石ミス (Ihr-FP) 及び地山小ブロック含む。
- 6 増褐色土 (10YR3/4) 粘性なし。しまりあり。5層とはほぼ同様だが少量の砂粒含む。
- 7 にぶい黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。2~3mmの砂粒よりなる。浸水性堆積。

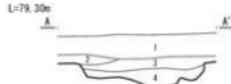
SD06



SD06 (SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりなし。現耕作土。Aa-kテフラ多量。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性なし。しまりなし。I層と地山の頂上層。工事廃。
- 3 増褐色土 (10YR3/4) 粘性なし。しまりなし。Aa-Bテフラ多量。若干酸化鉄分凝集あり。

SD07



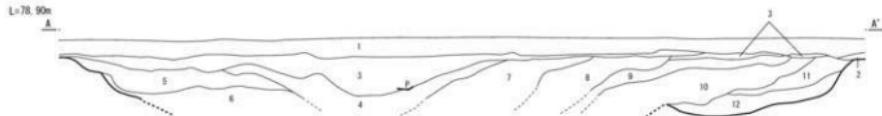
SD07 (SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりなし。現耕作土。Aa-kテフラ多量。
- 2 黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりなし。Aa-kテフラ多量。土地改良による3~5cmの黒褐色土ブロックを部分的に含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR3/3) Aa-Bテフラ多量。部分的に酸化鉄分凝集が進行。
- 4 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。Aa-Bテフラ多量。一部Aa-Bテフラの浸水性堆積あり。

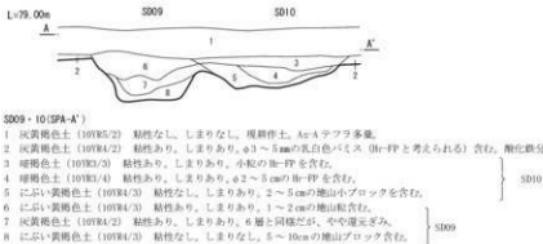


第123図 F区 SD01~07 違構図

SD08



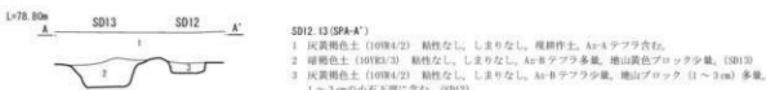
SD09, SD10



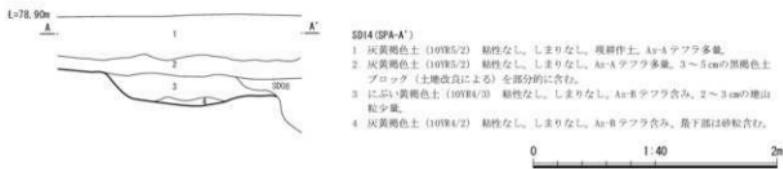
SD11



SD12, SD13

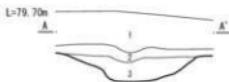


SD14



第 124 図 F 区 SD08 ~ 14 違横図

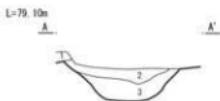
SD15



SD15 (SPA-A')

- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。現耕作土。Aa-hテフラ多量。
- 2 灰黄褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。Aa-kテフラ多量。3~5cmの黒褐色土ブロック (土地改良による) を部分的に含む。
- 3 喀褐色土 (10YR3/4) 黏性なし。しまりなし。Aa-hテフラ多量。若干粘化鉄分凝集あり。

SD16



SD16 (SPA-A')

- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。現耕作土。Aa-hテフラ多量。
- 2 喀褐色土 (10YR3/2) 黏性あり。しまりあり。細かい粒子。Hr-FP微量。
- 3 喀褐色土 (10YR3/4) 黏性あり。しまりあり。細かい粒子。粘化鉄分凝集あり。

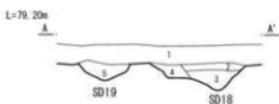
SD17



SD17 (SPA-A')

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) 黏性あり。しまりあり。地山粘質土。
- 2 喀褐色土 (10YR3/3) 黏性なし。しまりややあり。白色粘。Aa-Cテフラ少量。地山粘少量。
- 3 にふい黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。地山粘。シルト質土のブロック中量。

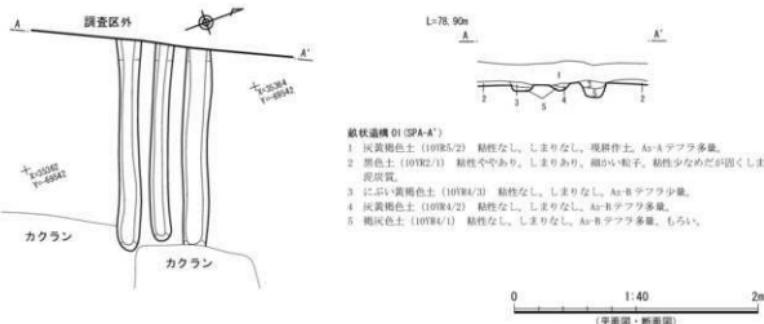
SD18, SD19



SD18 - 19 (SPA-A')

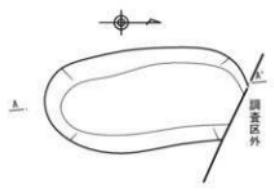
- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。現耕作土。Aa-Aテフラ多量。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。Aa-kテフラ多量。
- 3 開灰褐色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Aa-kテフラ多量。
- 4 にふい黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。Aa-hテフラ多量。
- 5 海灰色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Aa-hテフラ多量。(SD19)

歓状造構 01



第125図 F区 SD15 ~ 19、歓状造構 01 造構図

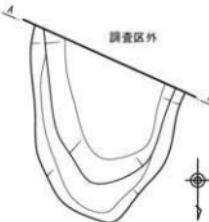
SK01



SK01 (SPA-A')

- 1 單色土 (10YR3/4) 粘性なし。しまりあり。 ϕ 1 ~ 2mm の砂粒を部分的に含む。

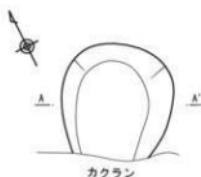
SK02



SK02 (SPA-A')

- 灰黄褐色土 (10Y5/2) 粘性なし。しまりなし。現耕作土。A-A'テフラ多量。
- にじみ・黄褐色土 (10Y5/3) 粘性ややあり。しまりあり。1 ~ 3cmの小礫を含む。
- 黄褐色土 (10W3/4) 粘性ややあり。しまりあり。細かい砂。底部はやや漂元気。
- にじみ・黄褐色土 (10Y4/3) 粘性ややあり。しまりあり。堆山砂多量。

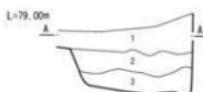
SK03



SK03 (SPA-A')

- 暗褐色土 (10Y3/4) 粘性なし。しまりあり。粒子細かい。
- にじみ・黄褐色土 (10Y4/3) 粘性なし。しまりあり。粒子細かい。若干酸化鉄分の凝聚塊。

SK04



SK04 (SPA-A')

- 灰黄褐色土 (10Y5/2) 粘性なし。しまりなし。現耕作土。A-A'テフラ多量。
- にじみ・黄褐色土 (10Y4/3) 粘性あり。しまりあり。やや酸化鉄分の凝聚塊。
- 黒色土 (10Y2/1) 粘性ややあり。しまりあり。粒子細かい。粘性少なめが固くしまる。泥炭質。

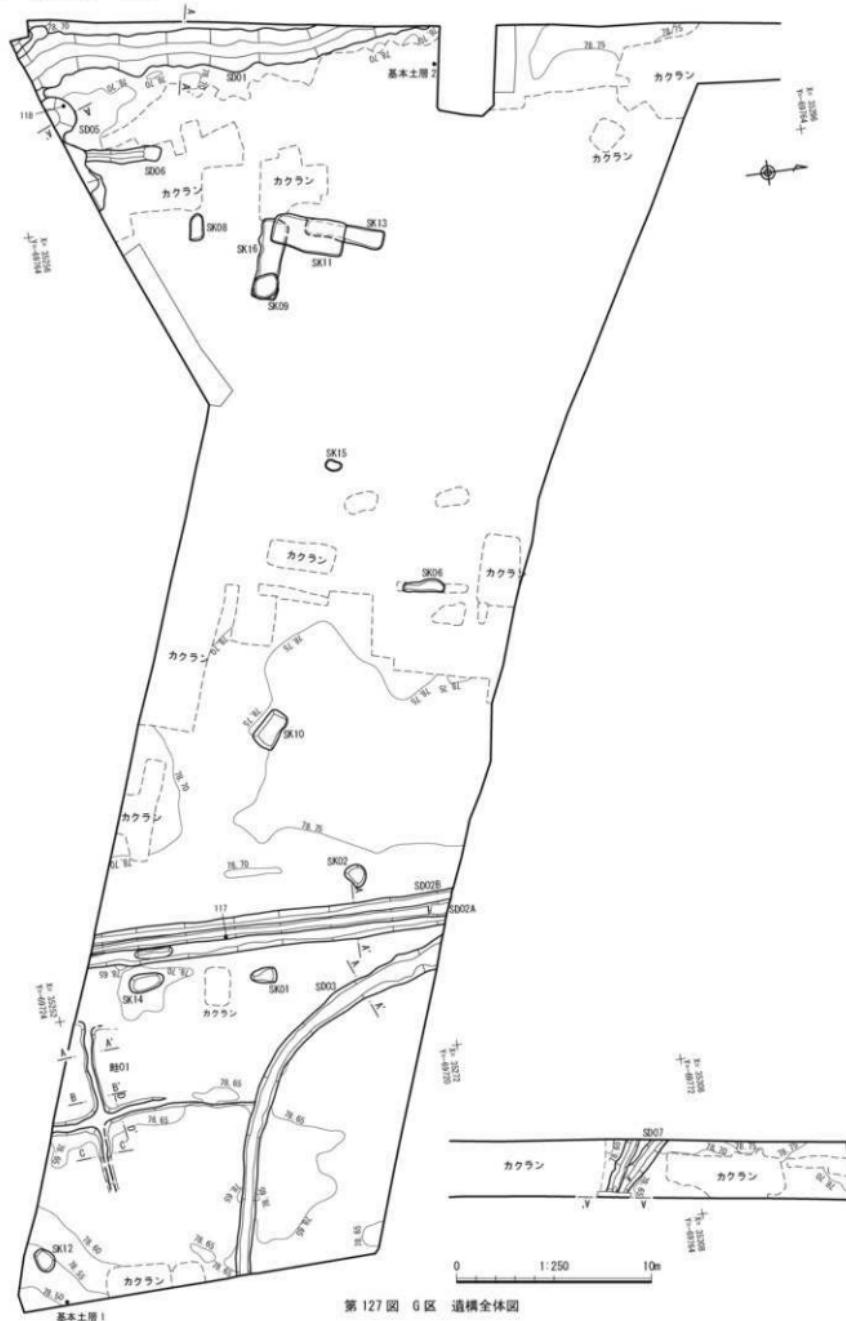


第126図 F区 SK01～04 造構図

第 35 表 F 区 造構観察表

名称	区	形狀	主軸方位	規格 (m)			荷重	備考・出土遺物
				長軸	短軸	深さ		
S001	F-2		N~80°~E	5.94	1.10	0.18		Ae-B 下水田に關係する唐か。
S002	F-2		N~10°~E	1.68	0.76	0.12	Ae-A 降下後	
S003	F-2		N~1°~E	2.50	0.44	0.20	Ae-A 降下後	
S004	F-2		N~77°~W	3.22	0.69	0.20	Ae-A 降下後	
S005	F-1		N~81°~E	3.58	1.28	0.46	Br-FP 降下後~ Ae-B 降下後	S001 と同一化。
S006	F-2		N~80°~E	3.34	0.30	0.09	Ae-B 降下後	
S007	F-1		N~89°~E	2.58	0.98	0.29	Ae-B 降下後	
S008	F-3		N~10°~E	7.44	2.08	0.15	Ae-A 降下後	細網川合。
S009	F-2		N~9°~W	2.50	0.90	0.27	Br-FP 降下後	
S010	F-2		N~16°~E	1.60	0.88	0.13	Br-FP 降下後	S009 を切る。
S011	F-3		N~20°~E	2.06	0.52	0.17	Ae-B 降下後	
S012	F-3		N~75°~E	3.12	0.28	0.17	Ae-B 降下後	
S013	F-3		N~74°~E	3.14	0.60	0.39	Ae-B 降下後	
S014	F-2		N~19°~W	1.42	0.94	0.28	Ae-B 降下後	
S015	F-4		N~15°~W	2.20	0.94	0.28	Ae-B 降下後	
S016	F-1		N~35°~W	4.78	0.82	0.24	Br-FP 降下後か。	
S017	F-1		N~7°~W	5.62	0.42	0.10	Ae-C 降下後	
S018	F-1		N~80°~W	3.42	0.66	0.18	Ae-A 降下後	
S019	F-1		N~79°~W	3.46	0.42	0.10	Ae-A 降下後	
S020	F-3	不整形	N~6°~W	1.37	0.83	0.13		
S021	F-2	不整形	N~8°~E	2.64	2.40	0.56		
S022	F-2	不整形	N~33°~E	1.90	1.82	0.54		
S023	F-1	不整形	-	1.60	0.44	0.12	Ae-B 降下後	
S024	F-1	不整形	-	1.60	0.44	0.12	Ae-B 降下後	

G区 第17節 G区



第127図 G区 造構全体図

(1) 調査区の概要

G区は区画道路2号線工事に伴い発掘調査を実施した。

調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんでもり、As-B一次堆積層の残存状況は良くなかった。よってAs-B堆積層下面と、As-Bが削平されている場合には土地改良工事下の黒褐色粘質土面を遺構検出面として調査を行った。

本調査区ではSD01の下層遺構を第2面として調査を行った。遺構の内訳は溝9条、As-B下水田、土坑12基である。

(2) 溝

本調査区では、溝9条を検出した。

SD01はAs-Bにより埋没した溝であり、層上位にはAs-RkやAs-Bの堆積が確認できる。層中位にはAs-B下水田耕作土と同質な土が堆積するため、当時の水田に配水を行っていた溝

であると推定できる。SD01の時期は、As-B低下時が埋没時期であり、上限年代はさらに遡ると考えられるが特定に至らなかった。

(3) As-B下水田

本調査区東でAs-B下水田の交点を検出した。畦はほとんど慣れており、残存高は2~4cm程度だ。畦の走行方向は、ほぼ真北である。土地改良工事により削平されいるものの、一帯にAs-B下水田が展開していたと推定できる。

(4) 土坑

本調査区では12基の土坑を検出した。ほとんどの土坑は埋土にAs-Bを含んでおり、As-B低下以降の時期に属すると考えられる。

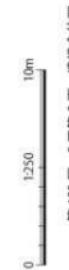
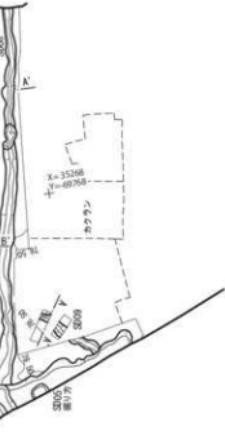
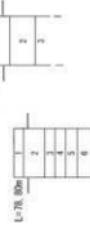
SK13は埋土にHr-TPを含み、時期は古墳時代後期に属する可能性がある。

SK11・13・16は別の土坑として掘削を行つたが、一連の土坑となつた。

基本土層2



基本土層1



第128図 G区第2面 遺構全体図

第129図 G区 基本土層

1 沖積台地土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, 厚さ20cm, Ar-テフラ多量。
2 沖積台地土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, 厚さ10cm, Ar-テフラ多量。
3 沖積台地土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, 厚さ10cm, Ar-テフラ多量。
4 沖積台地土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, Ar-テフラ多量。
5 沖積台地土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, Ar-テフラ多量。
6 沖積台地土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, 厚さ10cm, Ar-テフラ多量。
7 沖積台地土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, 1~3mの砂礫を含む。
8 黑色土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, 厚さ10cm, Ar-テフラ多量。

1 沖積台地土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, 厚さ20cm, Ar-テフラ多量。
2 沖積台地土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, Ar-テフラ多量, 3~5cmの乳白色土。
3 沖積台地土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, Ar-テフラ多量。
4 沖積台地土 (10mE/2) 粘性なし, しまりなし, Ar-テフラ多量。

SD01

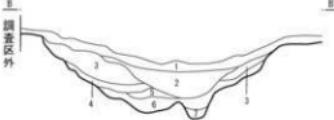
L=79.00m



SD01(SPA-A')

- 暗褐色土 (10YR3/3) 黏性なし。しまりなし。Ar-Bテフラ多量。
- 褐色色土 (10YR5/1) 黏性なし。しまりなし。Ar-hkテフラ層。
- 灰黃褐色土 (灰 0YR5/2) 黏性なし。しまりなし。hk-Bテフラ層上位のいわゆる「ピンクhk」層。
- Ar-Bテフラ-次堆積層。

L=78.90m



SD01(BP-B')

- 暗褐色土 (10YR3/3) 黏性あり。しまりあり。Ar-Bテフラ下水田耕作土と同質。
- 褐色色土 (10YR3/4) 黏性あり。しまりあり。粒子細て細かい。
- 暗褐色土 (10YR3/4) 黏性あり。しまりあり。1層と同様だが、ところどころφ1~2mmの砂粒が混じる。
- 灰黃褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。φ1~2mmの砂粒を主体とする。
- 褐色色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。3層と同様だが、0.5~1cm厚の黒褐色粘土を含む。
- にぶく黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。φ2~5mmの砂粒を主体とする。やや酸化鉄分の凝集あり。
- 褐色色土 (10YR4/1) φ1~2mmの砂粒よりなる。水成堆積。

SD02A, SD02B

L=78.90m



SD02A, B(SPA-A')

- 灰黃褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。Ar-Aテフラ多量。
- 褐色色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Ar-Aテフラ多量。少量の暗褐色土ブロックを含む。
- 灰黃褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。φ1~2mmの砂粒と Ar-Aテフラの混合土。
- にぶく黄褐色土 (10YR5/3) 黏性なし。しまりなし。Ar-Bテフラ多量。若干酸化鉄分凝集あり。

SD03

L=78.80m

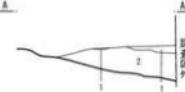


SD03(SPA-A')

- 灰黃褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。Ar-Bテフラ多量。地山(黄)ブロック(0.5~2cm)を少箇。一部黄褐色土に鉄分の酸化鉄凝集が見られる。

SD05

L=79.00m



SD05(SPA-A')

- 黒褐色土 (10YR3/2) 黏性なし。しまりなし。Ar-Bテフラ多量。最下位には、2~3cmの黒褐色土ブロックを含む。
- Ar-Bテフラ-次堆積層

SD07

L=78.90m



SD07(SPA-A')

- 灰黃褐色土 (10YR4/2) 黏性なし。しまりなし。現耕作土。Ar-hkテフラ多量。
- 灰黃褐色土 (10YR5/2) 黏性なし。しまりなし。Ar-Aテフラ多量。3~5cmの黒褐色土ブロック(土地改良による)を部分的に含む。
- 褐色色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Ar-Bテフラ多量。酸化鉄分沈着層。黒色土ブロック(0.5~1mm)を含む。
- 褐色色土 (10YR4/1) 黏性なし。しまりなし。Ar-Bテフラ多量。下部に酸化鉄分沈着。

SD08

L=78.80m



SD08(SPA-A')

- 灰黃褐色土 (10YR4/2) 黏性あり。しまりあり。φ3~5mmの乳白色バミス(Ohr-P)と考えられる)を含む。酸化鉄分凝集が見られる。
- にぶく黄褐色土 (10YR4/3) 黏性なし。しまりなし。φ1~2mmの乳白色バミス含む。最下部には、φ1~2mmの砂粒多量。

0 1:40 2m

第130図 G区 SD01 ~ 03・05・07・08 道構図

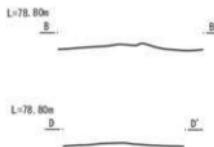
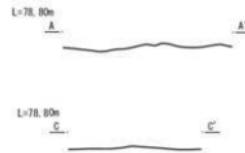
SD09



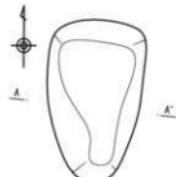
SD09 (SPA-A')

1. 暗褐色土 (10R3/3) 粘性あり。しまりあり。Aa-Bテフラ下水田耕作土。又は、同等層。
2. 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性あり。しまりあり。φ3~5mmの乳白色バニスを含む。酸化鉄分凝集が進行。
3. 墓褐色土 (10YR3/4) 粘性なし。しまりあり。φ2~3mmの砂粒及び黄白色バニス含む。
4. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性なし。しまりなし。φ2~3mmの砂粒を主体とする。
5. 墓褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。黑色粘質土ブロック多量。

陸01



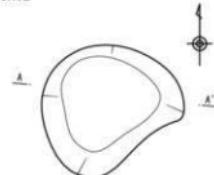
SK01



SK01 (SPA-A')

1. にぶい黄色土 (10YR4/3) 粘性なし。しまりなし。Aa-Bテフラ多量。黑色粘質土ブロック (1~3cm) 中量。地山黄色土ブロック (1cm) 少量。
2. 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりなし。Aa-Bテフラ多量。黑色土ブロック (1~3cm) 中量。黑色粘質土中量。

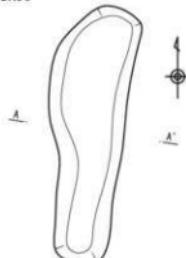
SK02



SK02 (SPA-A')

1. 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりなし。Aa-Bテフラ多量。地山黄色土ブロック (1~3cm) 中量。
2. 墓灰色土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりなし。Aa-Bテフラ多量。地山黄色土ブロック (0.5~1cm) 少量。
3. 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性ややあり。しまりなし。Aa-Bテフラ多量。地山黄色土ブロック (1~3cm) 少量。黑色粘質土ブロック (1~2cm) 少量。

SK06

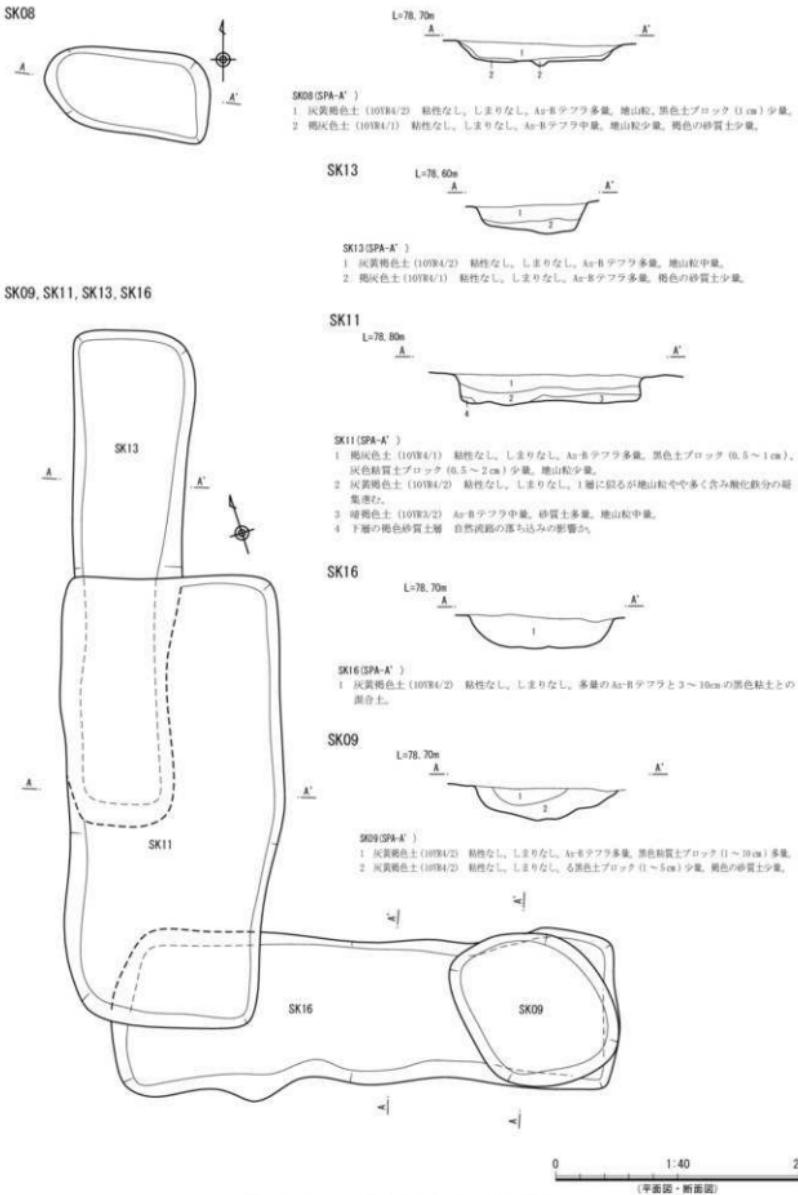


SK06 (SPA-A')

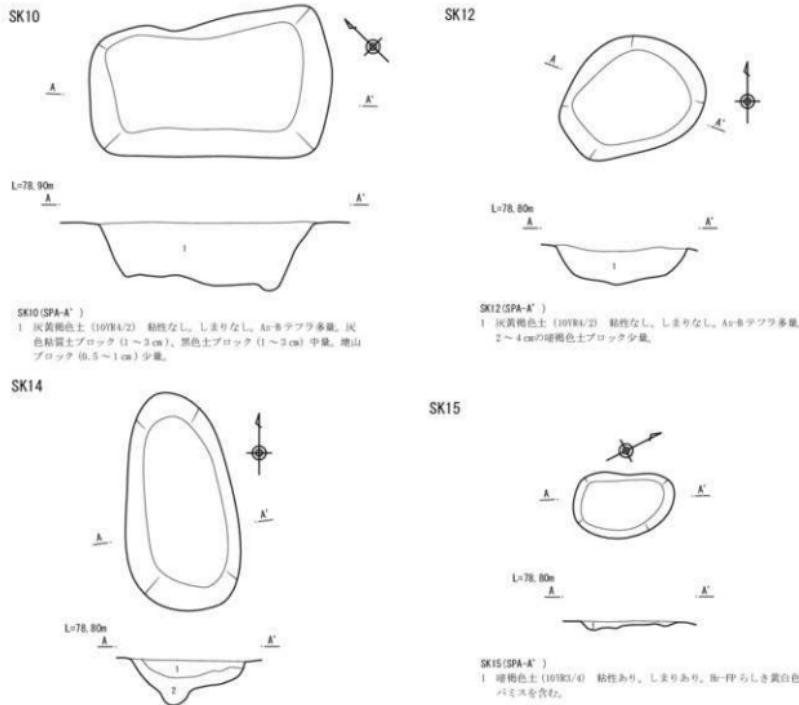
1. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性ややあり。しまりなし。Aa-Bテフラ多量。灰色粘質土多量。黑色土ブロック (1~2cm) 少量。



第131図 6区 SD09、陸01、SK01・02・06 道構図

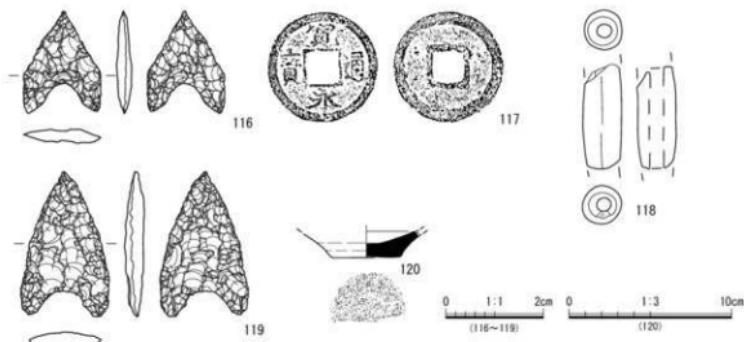


第132図 G区 SK08・09・11・13・16 造構図



0 1:40 2m
(平面図・断面図)

第133図 6区 SK10・12・14・15 造構図



第134図 6区 通物図

第36表 G区 退骨観察表

回収番号	遺構名	埋明 認識	法縫(cm)	重量(g)	材質	作成技法等の特徴	残存 (%)	備考		
			長さ 幅 厚さ							
PL36-116	石器	2.11	1.60	0.33	0.75	チャート	凹面無茎端、U角形	100		
PL36-117	石器	2.2	0.2	0.1	1.65	陶製、裏面無文。孔は0.7×0.7cmの方形		100		
PL36-118	石器	(2.2)	0.8	0.8	(1.06)	手ねじ、孔径0.3cm 外:ナダ	①普通 ②7.5%1/2 ③吸水性、實心	40		
PL36-119	石器	2.98	1.83	0.42	1.84	チャート	凹面無茎端	100		
PL36-120	石器	—	—	—	—	法縫(cm) 11種 低作 裂縫	成形・整形技法等の特徴 (器形・文様等の特徴)	①焼成 ②色調 ③紹土		
						クロコ成形 外:クロコナダ、底面凹船舟切と調整 (内)クロコナダ				
PL36-121	石器	—	—	—	—		①地織りや毛羽 ②2.5%1/2 ③チャート、耐火器、石英	30		

第37表 G区 造構観察表

名称	形状	主軸方位	周縁(m)	基輪	切輪	深さ	時期	備考・出土遺物
SK001	W-3°-E	17.02	2.28	0.32	Ao-B輪下後	土師器、須恵器、陶		
SK002A	W-1°-E	18.52	0.62	0.30	Ao-A輪下後	土師器、須恵器、實水通宝		
SK002B	W-2°-E	18.44	0.82	0.29	Ao-A輪下後	土師器、須恵器、石鏡		
SK003	N-75°-W 異平 N-20°-W 西平	20.94	1.48	0.11	Ao-B輪下後			
SK004								欠番
SK005	W-69°-E	6.36	1.30	0.28	Ao-B輪下前	土鏡		
SK006	W-7°-E	5.84	0.68	0.06				
SK007	N-46°-W	2.92	0.64	0.15	Ao-B輪下後			
SK008	N-11°-E	19.36	0.96	0.29	Hr-FP 輪下後	土師器、須恵器		
SK009	N-47°-W	3.46	0.62	0.32	Hr-FP 輪下後~ Ao-B輪下前			
SK010	楕円形	W-5°-E	1.33	0.77	0.21	Ao-B輪下後		
SK012	不整形	W-48°-E	1.16	0.94	0.34	Ao-B輪下後	石鏡	
SK013								欠番
SK014								欠番
SK015								欠番
SK016	楕円形	N-9°-E	2.15	0.65	0.10	Ao-B輪下後	土師器	
SK017								欠番
SK018	楕円形	N-82°-W	1.37	0.71	0.20	Ao-B輪下後		
SK019	円形	N-8°-W	1.52	1.23	0.49	Ao-B輪下後	土師器	
SK10	不整形	N-46°-W	1.99	1.23	0.56	Ao-B輪下後		
SK11	長方形	N-29°-E	2.68	1.81	0.27	Ao-B輪下後	SK13+16を切る。土師器、須恵器	
SK12	楕円形	N-58°-E	1.20	0.96	0.32	Ao-B輪下後		
SK13	長方形	N-20°-E	4.06	1.00	0.26	Ao-B輪下後		
SK14	楕円形	N-8°-W	1.81	0.94	0.39	Ao-B輪下後		
SK15	楕円形	N-25°-E	0.82	0.54	0.07	Hr-FP 輪下後	須恵器	
SK16	不整形	N-72°-W	1.16	1.49	0.28	Ao-B輪下後	土師器、須恵器	

第18節 H区I・II

(1) 調査区の概要

H区I・IIは区画道路2号線工事に伴い発掘調査を行った。

調査区全体に昭和期の土地改良工事による削平がおよんでおり、As-B一次堆積層の残存状況は極めて悪い状況であった。よってAs-B堆積層下面と、As-Bが削平されている場合には土地改良工事盛土下の黒褐色粘質土面を遺構検出面とした。

本調査区では古代～近世の遺構を検出した。遺構の内訳は溝19条、土坑6基、ピット4基、井戸3基、自然流路1条である。

(2) 溝

本調査区では古代～近世の溝19条を検出した。検出した溝の大半はAs-Aを埋土に含む近世～現代の溝である。

SD03は埋土にAs-Aを含む近世頃の溝であると考えられるが、円筒埴輪片が出土している。H区IIの南側の台地から流れ込んだ可能性がある。

SD07・SD14は火山灰層を含む層位と流下方向から同一の溝であると考えられる。溝埋土はAs-Bを多量に含み、水成堆積が確認できることから、As-B下水田と併存し、配水に関わる溝の可能性がある。しかし、蛇行している

ことから、条里区画ではなく、旧地形に合わせて作られたものであろう。

(3) 土坑

本調査区では6基の土坑を検出した。

遺物の出土は乏しく、性格を絞り込める土坑はなかった。

(4) ピット

本調査区では4基の土坑を検出した。

SP03のように深く埋まる特徴的なものはあるが、その性格は不明である。

(5) 井戸

本調査区では3基の井戸を検出した。

SE01は上端直徑約3.2m、深さ90cmで直徑約1mに窄まる漏斗状を呈する。埋土には少量ながらAs-Bと思われる輕石を含む。

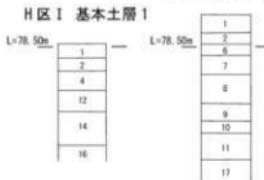
3基の井戸は隣接してH区II南東に位置している。いずれも近世のものと考えられる。

(6) 自然流路

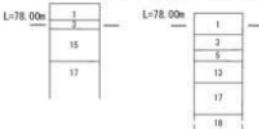
第2面では蛇行しながら北東流する自然流路1条を検出した。

NR01は、埋土にAs-Bが入らないことから、As-B降下時には完全に埋没している。遺物は埋土から土師器片が出土している。

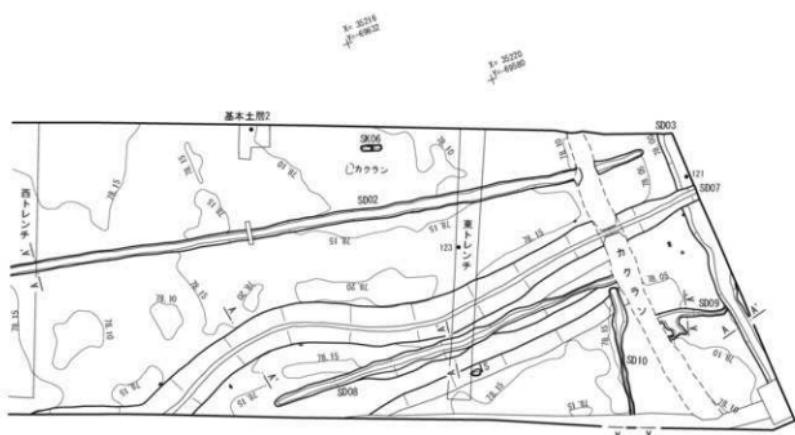
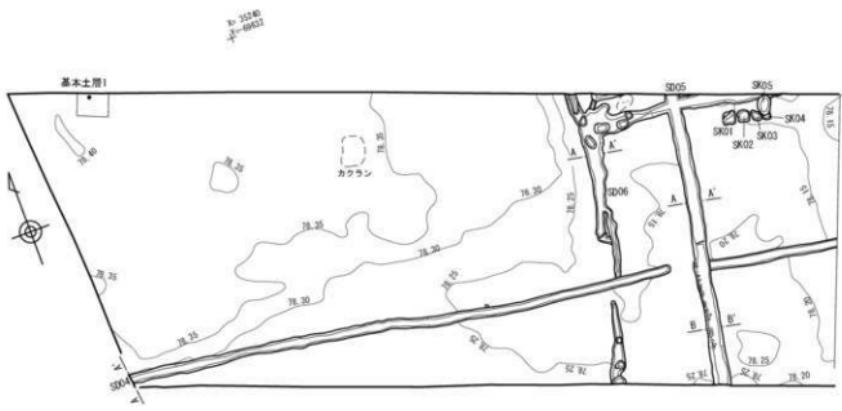
H区I 基本土層2



H区II 基本土層1 H区II 基本土層2



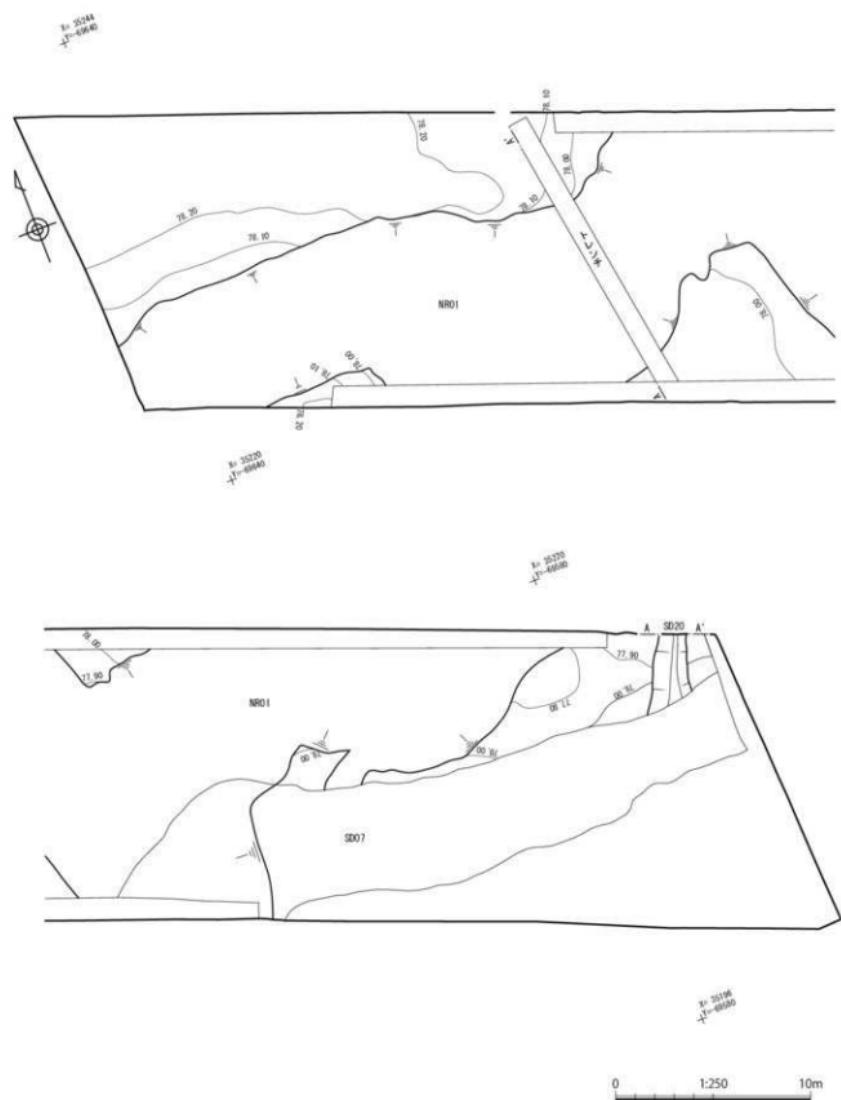
第135図 H区I・II 基本土層



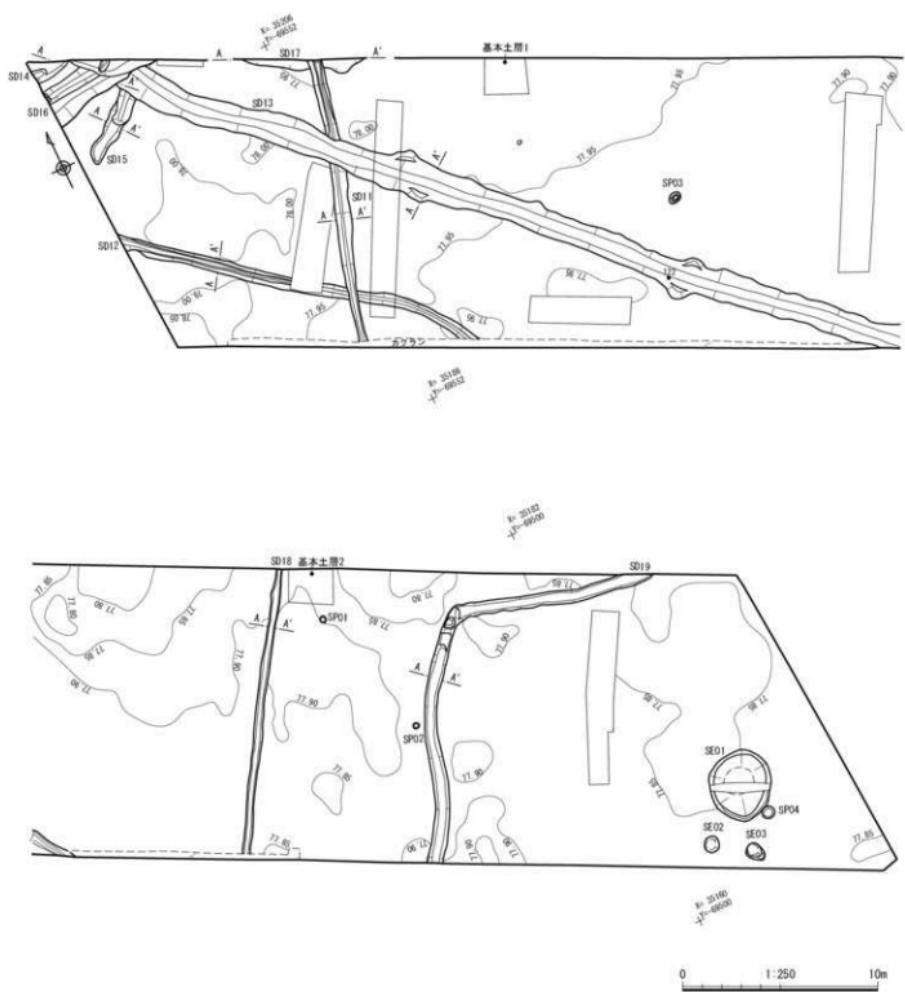
353
69580

0 1:250 10m

第136図 H区I 遺構全体図



第137図 H区 I 第2面 造構全体図



第138図 H区II 造構全体図

SD02



SD02(SPA-A')

- 1 黄褐色土 (7.SYK3/3) 粘性なし。しまりなし。砂質土主体。φ1~1.5mm程度のAs-Aテフラと思われる粒子をわずか含む。
黄褐色粘質土ブロック少量。両側ぎわ上部にAs-Bテフラ少量。

SD03



SD03(SPA-A')

- 1 黄褐色土 (7.SYK3/2) 粘性なし。しまり弱く砂質土主体。φ0.5~1mm程度のAs-Aテフラ含む。断面はラミナ構造を呈し
ており、下層には粒子の混じる砂粒が混じる。

SD04



SD04(SPA-A')

- 1 増強色土 (7.SYK3/3) 粘性なし。しまりなし。砂質土主体。上層部に酸化鉄分分布。赤色変化している。As-Bテフラ含む。

SD05



SD05 (SPA-A')

- 1 増強色土 (7.SYK3/3) 粘性なし。しまりなし。砂質土主体。φ1~1.5mm程度のAs-Aテフラと思われる粒子微量。



SD05 (SPA-B')

- 1 増強色土 (7.SYK3/4) 粘性やや強くしまりあり。砂質土主体。φ1~1.5mm程度の粒子 (As-Aテフラか) 数量。粘質土ブロック多量。
2 増強色土 (7.SYK3/3) 粘性強くしまり強い。粘質土主体。
3 増強色土 (7.SYK3/4) 粘性なし。しまりなし。砂質土主体。黄褐色土ブロック多量。

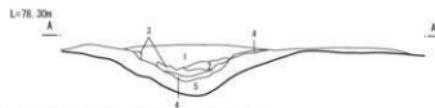
SD06



SD06(SPA-A')

- 1 黄褐色土 (7.SYK4/1) 粘性なし。しまりなし。砂質土主体。φ1~1.5mm程度の軽石粒 (As-Aテフラか) 少量。下層の一部に細砂と堆積する。

SD07



- 1 黄褐色土 (7.SYK3/1) 粘性なし。しまりなし。砂質土主体。φ0.5mm軽石微量。
- 2 黑褐色土 (7.SYK3/2) 粘性なし。しまりなし。砂質土主体。
- 3 棕褐色土 (7.SYK4/1) 粘性なし。しまりなし。火山灰層。
- 4 增強色土 (7.SYK5/4) 粘性ややあり。しまりなし。火山灰層。
- 5 黑褐色土 (7.SYK5/2) 粘性なし。しまりなし。砂質土主体。As-Bテフラ多量。部分的にラミナ構造を呈している。(上層部は川砂層)

SD08



SD08(SPA-A')

- 1 黄褐色土 (7.SYK3/1) 粘性なし。しまりなし。黄褐色土ブロック少量。黄褐色粒子多量。As-Bテフラ多量。
2 黑褐色土 (7.SYK3/2) 粘性やや強い。しまりなし。砂質土。

SD09

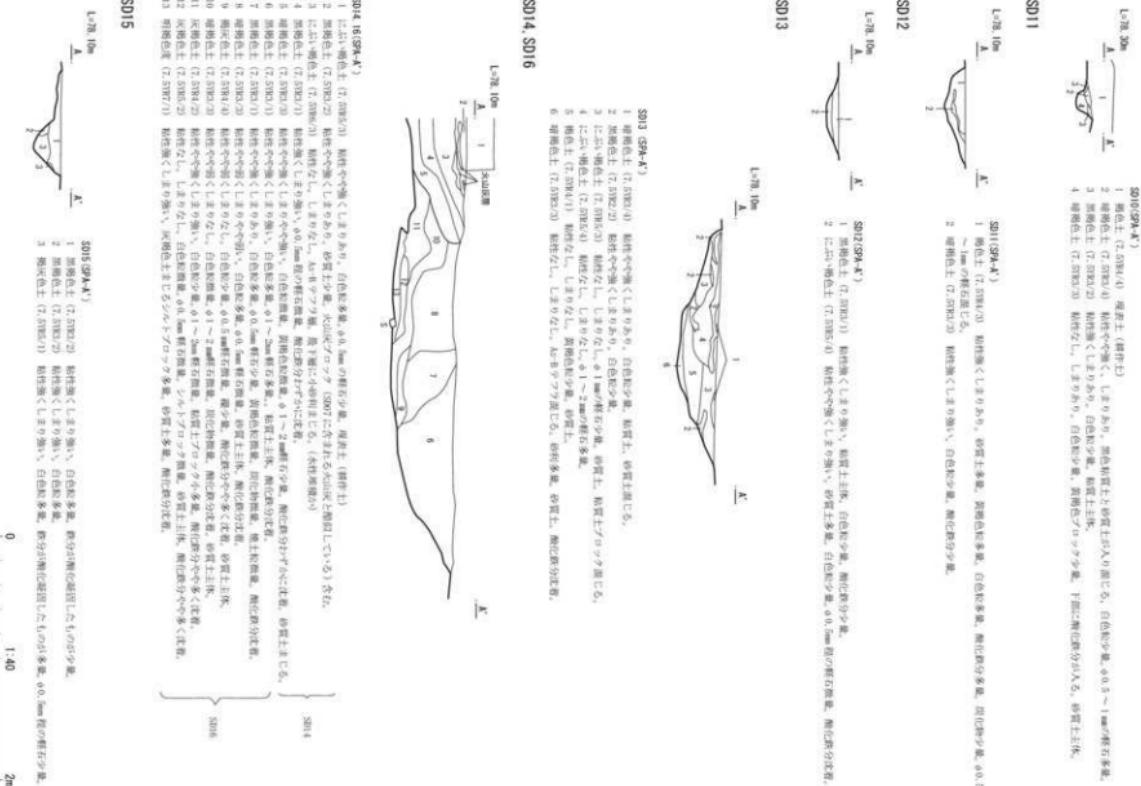


SD09(SPA-A')

- 1 増強色土 (7.SYK3/4) 粘性なし。しまりややあり。砂質土。ロームブロック少量。As-Bテフラや多量。炭化物微量。

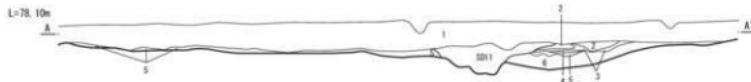


第139図 H区 I・II SD02~09 遺構図



第140回 H区I+II SD10~16 造構図

SD17



SD17 (SPA-A')

- 1 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 黏性や少強くしまり強い。白色粘多量。φ0.5~1mm輕石少量。現表土 (耕作土)
- 2 黒褐色土 (7.5YR3/3) 黏性なし。しまりなし。白色粘多量。φ0.5mm輕石微量。有機物が堆積し腐敗したものか。
- 3 褐灰褐色土 (7.5YR3/1) 黏性なし。しまりなし。火山灰層。
- 4 にぶい褐色土 (7.5YR6/3) 黏性なし。しまりなし。Asをテフラ。
- 5 にぶい褐色土 (7.5YR6/4) 黏性や少弱くしまりなし。火山灰層。
- 6 にぶい褐色土 (7.5YR6/3) 黏性なし。しまりなし。Asをテフラ。酸化鉄分沈着。下部水成堆積。

SD18



SD18 (SPA-A')

- 1 墓褐色土 (7.5YR3/3) 黏性なし。しまりやや強い。白色粘少量。φ0.5mm輕石微量。粘質土ブロック少量。酸化鉄分沈着。

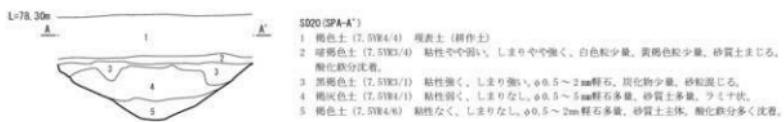
SD19



SD19 (SPA-A')

- 1 褐土
- 2 黒褐色土 (7.5YR3/2) 黏性や少弱くしまりあり。φ0.2mm輕石少量。褐色粘質土中量。酸化鉄分が凝固したものがまじる。砂質土主体。
- 3 褐灰褐色土 (7.5YR3/3) 黏性や少弱くしまりあり。粘質土ブロック少量。砂質土まじる。

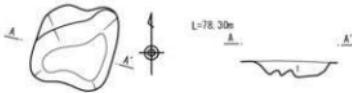
SD20



SD20 (SPA-A')

- 1 棕色土 (7.5YR3/1) 現表土 (耕作土)
- 2 黑褐色土 (7.5YR3/4) 黏性や少弱い。しまりやや強く、白色粘少量。黃褐色粘少量。砂質土まじる。酸化鉄分沈着。
- 3 黑褐色土 (7.5YR3/4) 黏性強く。しまり強い。φ0.5~2mm輕石。褐色粘質土少量。砂質混じる。
- 4 黑褐色土 (7.5YR4/1) 黏性弱く。しまりなし。φ0.5~5mm輕石多量。砂質土多量。ラミナ状。
- 5 棕色土 (7.5YR4/6) 黏性なく。しまりなし。φ0.5~2mm輕石多量。砂質土主体。酸化鉄分多く沈着。

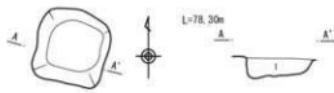
SK01



SK01 (SPA-A')

- 1 黑褐色土 (7.5YR3/3) 黏性なし。しまりなし。砂質土。φ0.5mm輕石多量。外周に沿って酸化鉄分沈着。黑色粘質土ブロック小~中含む。

SK02



SK02 (SPA-A')

- 1 棕色土 (7.5YR3/3) 黏性なし。しまりなし。砂質土。φ0.5mm輕石多量。外周に沿って酸化鉄分沈着。黑色粘質土ブロック小~中含む。

SK03



SK03 (SPA-A')

- 1 黑褐色土 (7.5YR3/2) 黏性なし。しまりなし。砂質土。φ0.5mm輕石多量。黑色粘質土ブロック小~中含む。

SK04

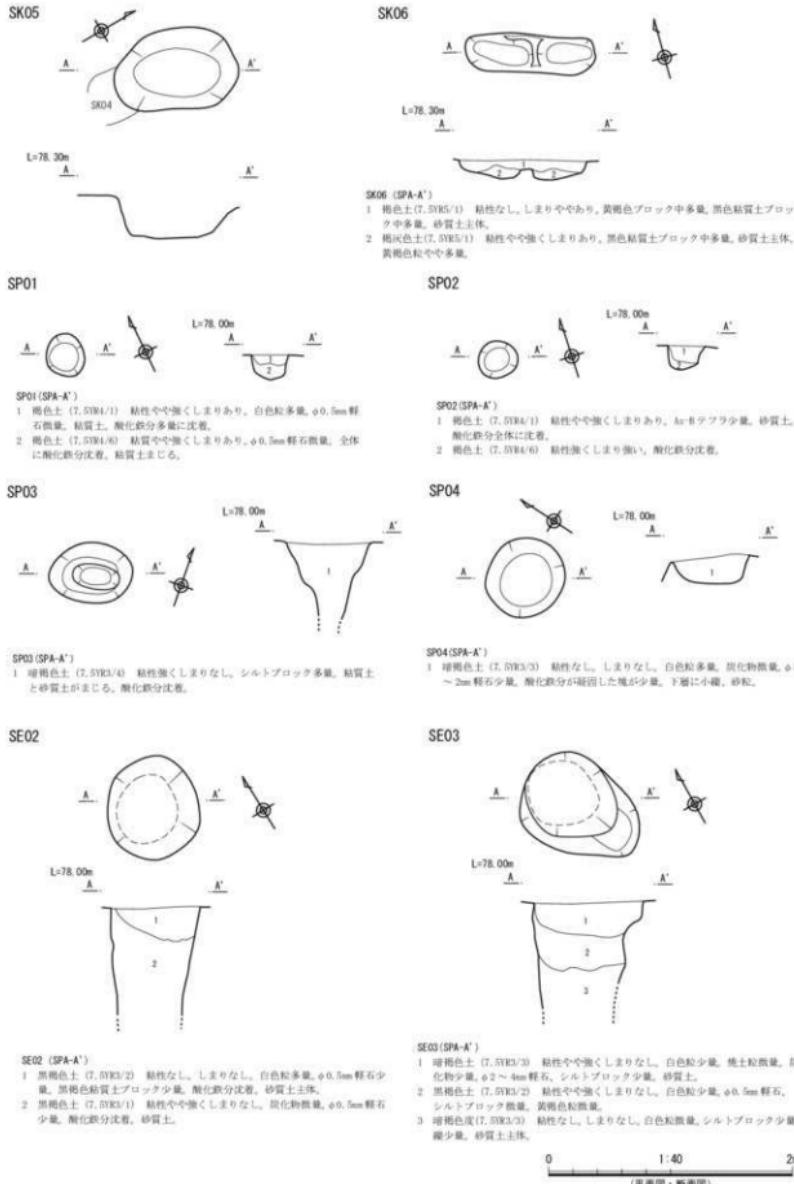


SK04 (SPA-A')

- 1 黑褐色土 (7.5YR3/2) 黏性なし。しまりなし。砂質土。φ0.5mm輕石多量。黑色粘質土ブロック小~中含む。

0 1:40 2m
(平圖面・断面図)

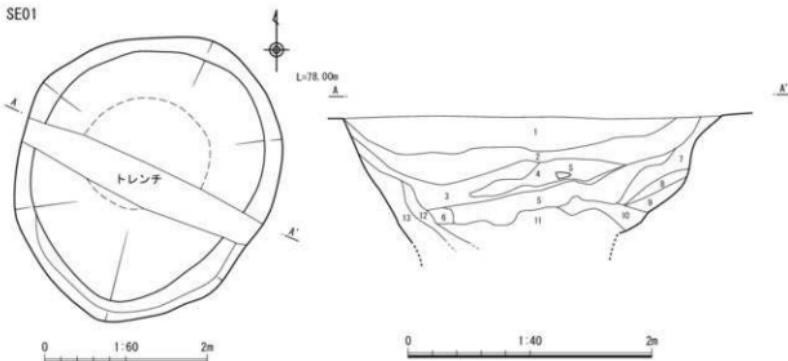
第141図 H区 I・II SD17 ~ 20, SK01 ~ 04 透構図



0 1:40 2m
(平面図・断面図)

第142図 H区 I・II SK05・06、SP01～04、SE02・03 遺構図

SE01

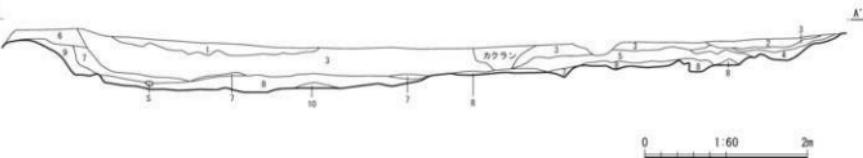


SE01 (SPA-A')

- 暗褐色土 (7, SWR3/3) 黏性なく、まわりやぐらかい。白色粘多量。ø 1 ~ 2mm 粒石少量。酸化鉄分沈着。砂質土主体。
- 灰褐色土 (7, SWR3/2) 黏性やや強くしまりあり。黄色粘少量。白色粘多量。ø 1 ~ 3mm 粒石少量。酸化鉄分沈着が顯著。砂質土まじる。
- 褐灰色土 (7, SWR4/1) 黏性強くしまり強い。ø 2 ~ 3mm 粒石微量。白色粘微量。酸化鉄分沈着。砂質土主体。
- 黒褐色土 (7, SWR3/2) 黏性やや弱くしまりあり。白色粘多量。ø 1 ~ 3mm 粒石少量。酸化鉄分沈着やや顯著。砂質土主体。
- 黒褐色土 (7, SWR3/2) 黏性なし。しまりあり。白色粘微量。ø 0.5mm 粒石微量。シルトブロック少量。砂質土主体。下層との境界に酸化鉄分沈着が顯著。
- 黒褐色土 (7, SWR4/1) 黏性強くしまりあり。白色粘微量。酸化鉄分沈着。
- 黒褐色土 (7, SWR3/2) 黏性やや強くしまりあり。白色粘少量。ø 1 ~ 2mm 粒石微量。砂質土まじる。
- 灰褐色土 (7, SWR3/2) 黏性なし。しまりなし。白色粘微量。ø 1 ~ 3mm 粒石微量。シルトブロック微量。砂質土主体。粘質土せきかにまじる。酸化鉄分沈着。
- 褐灰色土 (7, SWR4/1) 黏性なし。しまりなし。白色粘微量。ø 1 ~ 3mm 粒石少量。シルトブロック少量。砂粘多量。酸化鉄分沈着。砂質土主体。
- にじみ褐色土 (7, SWR5/4) 黏性やや弱くしまりあり。ø 1 ~ 3mm 粒石少量。シルトブロック多量。砂質土。粘質土まじる。
- にじみ褐色土 (7, SWR5/4) 黏性やや強くしまり強い。シルトブロック多量。ø 2 ~ 3mm 粒石多量。砂粘。粘質土まじる。酸化鉄分の沈着が顯著。
- 灰褐色土 (7, SWR4/2) 黏性やや弱くしまりなし。白色粘少量。ø 1 ~ 2mm 粒石少量。シルトブロック微量。酸化鉄分沈着。砂質土と粘質土まじる。
- 暗褐色土 (7, SWR3/4) 黏性やや弱くしまりなし。白色粘微量。上層との境界に ø 2 ~ 3mm 粒石多量。砂質土主体。

NRO1

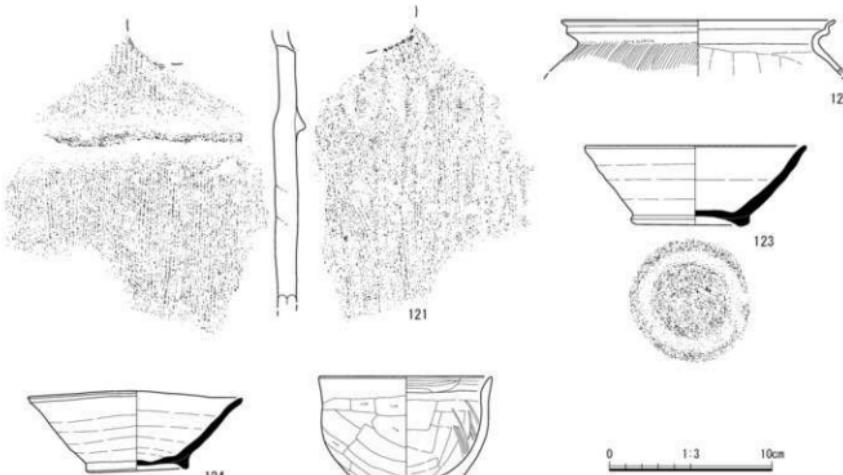
L=78.20m



NRO1 (SPA-A')

- 黒褐色土 (7, SWR3/1) 黏性やや弱い。しまり弱い。白色粘。黄褐色粘多量。ø 0.5 ~ 2mm 粒石多量。砂質土主体。
- 明褐色土 (7, SWR3/6) 黏性なし。しまりなし。ø 0.5 ~ 2mm 粒石多量。砂質土主体。酸化鉄分微量。
- 黒色土 (7, SWR2/1) 黏性強くしまり強い。酸化鉄分沈着。
- 灰褐色土 (7, SWR5/2) 黏性なし。しまりなし。ø 0.5mm 粒石。砂土土体。酸化鉄分ø 2mm 以下沈着。
- 灰褐色土 (7, SWR4/2) 黏性強くしまり強い。ø 0.5 ~ 5mm 粒石少量。シルトブロック小量。酸化鉄分沈着多量。
- 黒褐色土 (7, SWR3/1) 黏性強くしまり強い。ø 0.5mm 粒石。酸化鉄分ø 2mm 以下沈着。
- 黒褐色土 (7, SWR3/1) 黏性強くしまり強い。ø 1 ~ 3mm 粒石少量。粘質土主体。酸化鉄分沈着。
- 黒色土 (7, SWR4/4) 黏性なし。しまりなし。ø 1 ~ 5mm 粒石多量。小礫含む。砂質土主体。酸化鉄分沈着。
- 褐灰色土 (7, SWR5/1) 黏性強くしまり強い。ø 2 ~ 3mm 粒石。シルトブロック少量。酸化鉄分沈着。
- 明褐色土 (7, SWR3/8) 黏性なし。しまりなし。小礫多量。砂質土主体。酸化鉄分微量。

第143図 H区 I・II SE01, NRO1 造構図



第144図 H区 I・II 遺物図

第38表 H区 I・II 遺物観察表

因版番号	遺物名	種別 器種	法量 (cm) 口径 底径 高さ	成形・焼成法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③軽土 残存 (%)	備考
第144図 121 PL36-121	壺輪 円筒埴輪	—	— (19.3)	内周面は下刃部突出する台形、円形透孔 外:タガテハケ (2 cm 10本) 内:タガテハケ (2 cm 10本) 後にタガテハケ	①良好 ②57B-6 ③切刃、チャート、鉛分配	5
第144図 122 PL36-122	土師器 台付甕	【16.4】	— (3.4)	外:口縁墨ヨコナギ。瓶上部ハケメ 内:口縁墨ヨコナギ。瓶上部タケヘラナギ	①良好 ②57B-6/3 ③チャート、石英、耐火泥	5
第144図 123 PL36-123	遺構外 須恵器 高台付甕	13.5	6.6 4.9	ロクロ成形 外:コラコナギ。底面印軸系切後に高台貼付 内:コロナギ	①焼成り弱い ②16TR7-2 ③チャート、石英、片岩	100
第144図 124 PL36-124	遺構外 須恵器 高台付甕	13.1	6.0 5.0	ロクロ成形、全体に歪んでいる 外:コラコナギ。底面印軸系切後に高台貼付 内:コロナギ	①焼成り弱い ②16TR8-1 ③チャート、片岩、鉛分配	100
第144図 125 PL36-125	遺構外 土師器 小型鉢	【16.5】	3.4 7.2	内斜面切削 外:口縁墨ヨコナギ。体部ヘラケメリ 内:口縁墨ヨコのヘラミガキ。体部ヘラナギ後にミガキ	①良好 ②57B-6/3 ③チャート、石英、片岩	80

第39表 H区 I・II 遺構観察表 (1)

名前	区	面	形状	主軸方位	埋設 (a)			時期	備考・出土遺物
					長軸	短軸	深さ		
S001	I			N-80°-W	28.88	0.92	0.30	Ae-B層下後	欠番
S002	I			N-80°-W	12.89	1.06	0.21	Ae-B層下後	土師器、須恵器、陶器
S003	I			N-81°-W	28.28	0.54	0.22	Ae-B層下後	土師器、台付甕、須恵器、円筒埴輪
S004	I			N-9°-E	15.08	0.90	0.23	Ae-B層下後	S006を切る。土師器、須恵器
S005	I			N-11°-E	0.78	1.08	0.23	近現代	土師器
S006	I			N-86°-E	29.22	2.66	0.45	Ae-B層下後	土師器、須恵器、陶器、瓦、磁器
S007	I			N-86°-E	—	—	—	土師器、須恵器	
S008	II			N-88°-W	18.72	1.82	0.12	Ae-B層下後	
S009	II			N-75°-W	5.66	0.52	0.09	Ae-B層下後	土師器、磁器
S010	II			N-13°-E	6.56	0.80	0.13	Ae-B層下後	
S011	II			N-17°-E	9.25	0.78	0.22	Ae-B層下後	
S012	II			N-51°-W	18.26	0.70	0.10	Ae-B層下後	
S013	II			N-47°-W	41.96	1.92	0.38	Ae-B層下後	土師器 S字U縁台付甕、須恵器高台付甕
S014	II			—	1.48	1.18	0.28	Ae-B層下後	
S015	II			N-55°-E	4.00	1.06	0.24		
S016	II			N-85°-E	2.82	0.88	0.08	Ae-B層下後	
S017	II			—	8.54	0.74	0.22	Ae-B層下後	
S018	II			N-33°-E	14.68	0.48	0.12		
S019	II			N-74°-W	22.5	0.78	0.32		
				N-15°-E 南半					

第40表 H区 I・II 造模観察表(2)

名称	区	面	形状	主軸方位	規格 (in)				初期	備考
					長軸	短軸	厚度			
SK09	I	平		N-20°-E	0.48	1.82	0.33		小頭前側以降	土削器・S字口縫合付箇
SK01	I		長方形	N-71°-W	0.68	0.62	0.14			
SK02	I		長方形	N-76°-W	0.60	0.60	0.16			
SK03	I		橢円形	N-33°-W	0.68	4.49	0.15			
SK04	I		不整形	—	0.42	0.26	0.16			
SK05	I		橢円形	N-23°-E	1.02	0.68	0.36	Az-B降下後	SD04を切る	
SK06	I		長方形	N-73°-W	1.08	0.32	0.16			
SP01	II		円形	—	0.34	0.30	0.20			
SP02	II		円形	—	0.34	0.32	0.19	Az-B降下後		
SP03	II		橢円形	N-67°-E	0.70	0.52	0.26			井戸穴
SP04	II		円形	—	0.66	0.64	0.26			
SP05	II		橢円形	N-22°-E	3.68	3.29	1.28	近世	現地深入箇、確認場、周辺	
SP06	II		円形	—	0.86	0.76	0.12	古墳か		
SP07	II		橢円形	N-31°-W	1.04	0.58	0.92	古墳か		

第19節 H区III・IV

(1) 調査区の概要

H区III・IVは寄居堰用水路工事に伴い発掘調査を実施した。

本調査区中央部分で良好に残存したAs-B一次堆積層を確認した。H区IVは調査区全体に土地改良工事の削平がおよんでおり、As-Bの残存状況は極めて悪い状況であった。よってAs-B堆積層下面とAs-Bが削平されている場合には土地改良工事下の黒褐色粘質土面を遺構検出面とした。

H区IV調査区西端は、遺構が無く、As-Bの残存もなかったため掲載を割愛した。

本調査区では古代～近世の遺構を検出した。遺構の内訳は、H区IIIではAs-B下水田、H区IVでは溝4条、土坑5基である。

(2) 溝

溝4条を検出した。

SD01～03はいずれも埋土中にAs-Aを含んでおり、近世以降のものと考えられる。

(3) As-B下水田区画

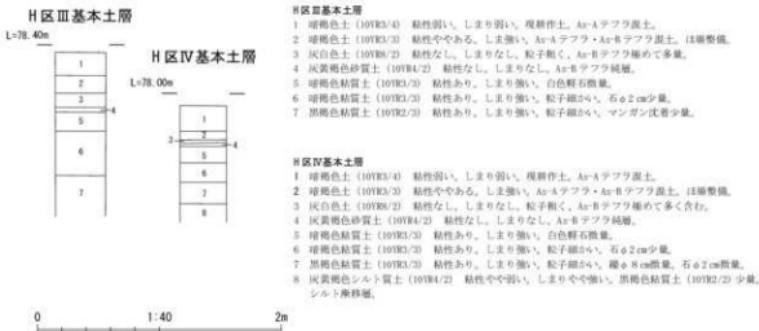
H区IIIでは、調査区中央でAs-B下水田区画を検出した。

As-B下水田面の標高値は、約77.65m～77.80mで、畔1・6間に特に低く約77.65mとなる。畦は真北を意識して作られているが、太さにはバラつきがあり、東西方向畔は0.65m程度、南北方向畔は1.15m程度の幅を測る。検出したAs-B下水田区画の東西はどちらも高く土地改良工事によって削平されており、推定条里区画ラインのすぐ東に位置するため、坪境界に該当すると考えられる。

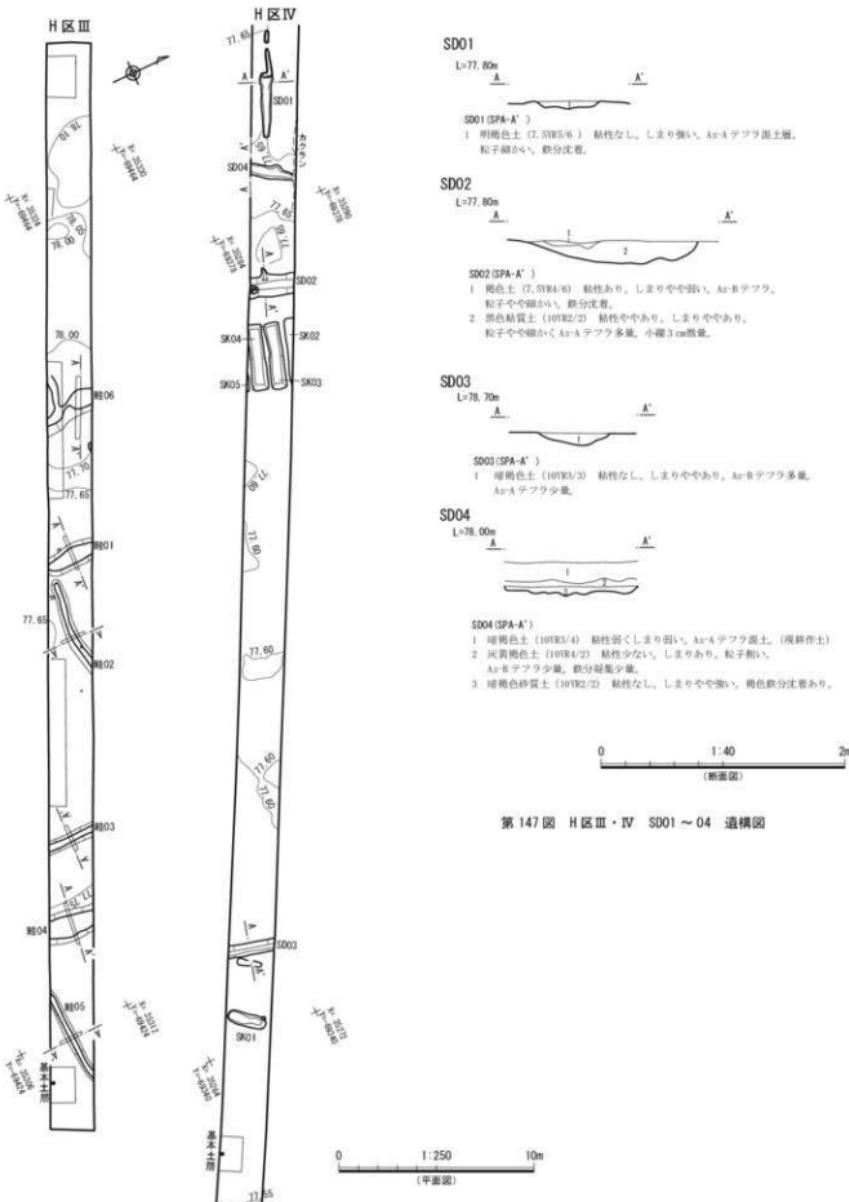
(4) 土坑

本調査区では5基の土坑を検出した。

SK02～05は、埋土の状況と、南北に整然と並んでいることからAs-A処理坑と考えられる。



第145図 H区III・IV 基本土層



第147図 H区III・IV SD01～04 造構図

第146図 H区III・IV 造構全体図

畦 01



畦 01 (SPA-A')

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 黏性強い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。
- 2 赤褐色粘質土 (10YR3/3) 黏性強い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。

畦 02



畦 02 (SPA-A')

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 黏性強い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。
- 2 赤褐色粘質土 (10YR3/3) 黏性強い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。

畦 03



畦 03 (SPA-A')

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 黏性強い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。
- 2 赤褐色粘質土 (10YR3/3) 黏性強い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。

畦 04



畦 04 (SPA-A')

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 黏性強い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。
- 2 赤褐色粘質土 (10YR3/3) 黏性強い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。

畦 05



畦 05 (SPA-A')

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 黏性高い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。
- 2 赤褐色粘質土 (10YR3/3) 黏性高い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。
- 3 赤褐色粘質土 (10YR3/3) 黏性高い。しまり強い。粒子細かい。酸化鉄分凝聚多量。

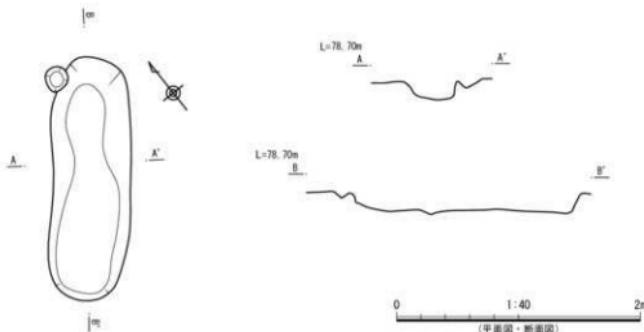
畦 06



畦 06 (SPA-A')

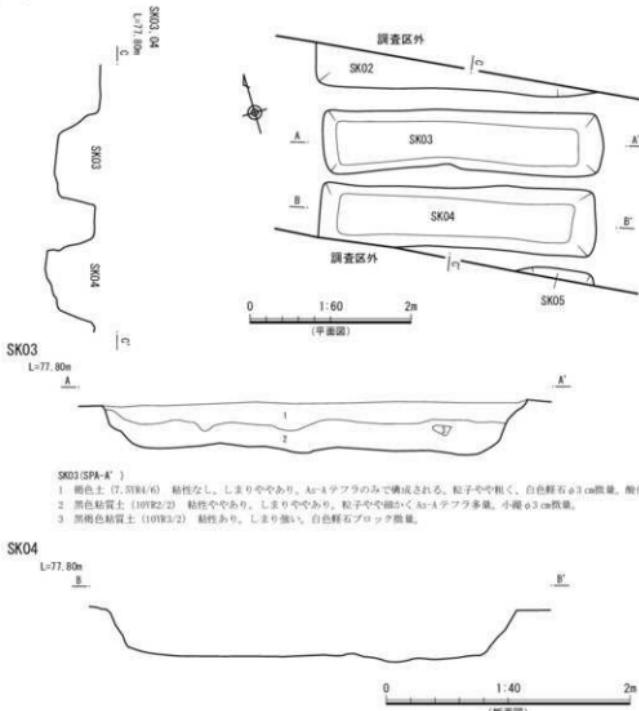
- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 黏性高い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。
- 2 赤褐色粘質土 (10YR3/3) 黏性高い。しまり強い。粒子細かい。白色軽石 $\phi 1mm$ 程度。
- 3 赤褐色粘質土 (10YR3/3) 黏性高い。しまり強い。粒子細かい。砂粒微量。
- 4 赤褐色粘質土 (10YR3/3) 黏性高い。しまり強い。粒子細かい。酸化鉄分凝聚多量。
- 5 灰褐色粘土 (10YR4/2) 黏性やや低い。しまりやや強い。粒子細かい。シルト質土。黒褐色粘質土 (10YR2/2) 少量。

SK01



第148図 H区III・IV 畦 01～06、SK01 造構図

SK02, 03, 04, 05



第149図 H区III・IV SK02～05 造構図

第41表 H区III・IV 造構観察表

名稱	区	形状	主軸方位	規模 (m)			時期	備考・出土遺物
				長軸	短軸	厚さ		
SK01	IV	N-66°-E		3.06	0.68	0.03	Ae-A 降下後	
SK02	IV	N-29°-E		2.28	1.14	0.20	Ae-A 降下後	
SK03	IV	N-14°-E		2.38	0.64	0.13	Ae-A 降下後	
SK04	IV	N-34°-E		2.22	0.72	0.05	Ae-B 降下後	
SK05	IV	北方面	N-36°-E	2.09	0.66	0.15		
SK02	IV	北方面	N-72°-E	3.25	0.50	-	Ae-A 降下後	Ae-A 处理灰
SK03	IV	北方面	N-73°-E	3.43	0.74	0.36	Ae-A 降下後	Ae-A 处理灰
SK04	IV	北方面	N-72°-E	3.39	0.78	0.37	Ae-A 降下後	Ae-A 处理灰
SK05	IV						Ae-A 降下後	Ae-A 处理灰

第20節 H区V

(1) 調査区の概要

H区Vは区画道路2号線工事に伴い発掘調査を実施した。

H区Vでは、調査区東半でAs-B一次堆積層の残存を確認した。調査区西半は土地改良工事により削平されており、遺構も確認できなかつたため、本報告書への掲載を割愛した。

本調査区では古代～近世の遺構を検出した。遺構の内訳は、As-B下水田、水路2条、土坑2基である。

(2) As-B下水田と水路

本調査区東半全体でAs-B下水田を検出した。西側では水田区画は南東に向かって水田面を下げる入れ子状を呈する区画、中央では南に水田面を下げる東西4m、南北8mの細長い区画、東側は不定形な水田区画を検出した。

水田区画を区切る畔は貧弱で、最大で2cm程度でほとんど高まりがなかつた。

中央の水田区画からは北から南へ水が流れた痕跡を検出した。ほとんど凹まず断面図にも図示し難い為、範囲を明示し溝とは区別して水路とした。この水路はAs-B水田に伴うものであり、水路が位置する水田区画が小型なことも併せて、水田の排水に用いられた区画の可能性がある。水路01は水田区画の際に直線的に作られ、上端が盛り上がり4cm程度の凹みとして検出することができた。水路02は水路01に並行するが、凹凸を図化することができず、調査区南端で蛇行する。水路02は潟水期に少量の水が流れた部分と考えられる。

(3) 土坑

本調査区では2基の土坑を検出した。

SK01では埋土にAs-Aの混入が認められ、近世以降に掘削されたものである。

SK02の埋土はAs-Bを多量に含んでおり、As-B降下時からあまり時間を置かない時期のものの可能性がある。

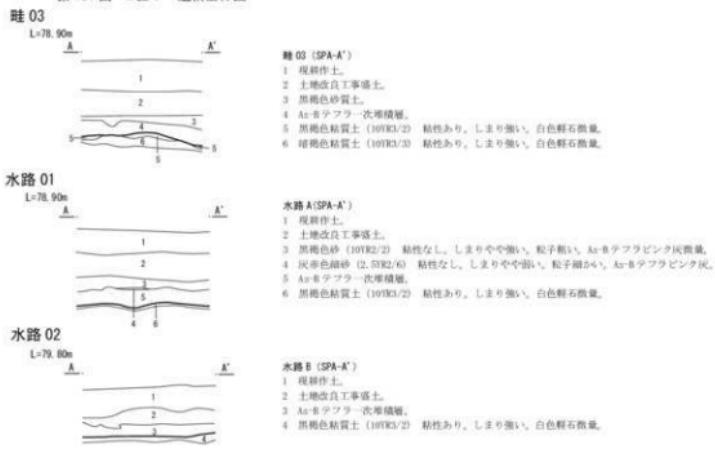
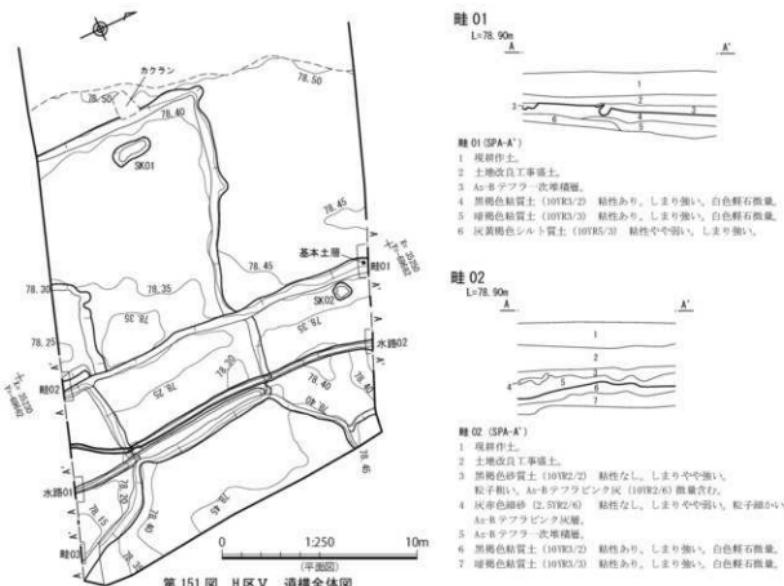
遺物は検出できず、詳細な性格を絞り込むことはできなかつた。



- 基本土層**
- 1 稲耕作土。
 - 2 土地改良工事底土。
 - 3 As-Bテフラ一次堆積層。
 - 4 黒褐色粘質土 (19TK3/2) 黏性あり。しまり強い。白色軽石微量。
 - 5 塗褐色粘質土 (19TK3/3) 黏性あり。しまり強い。白色軽石微量。

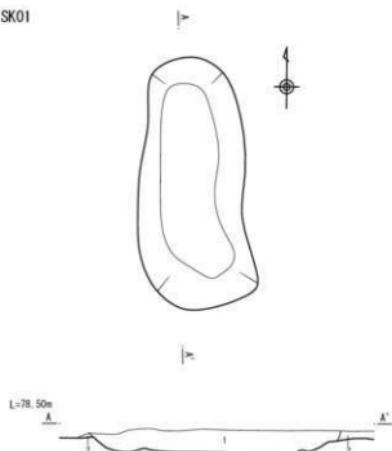
0 1:40 2m

第150図 H区V 基本土層

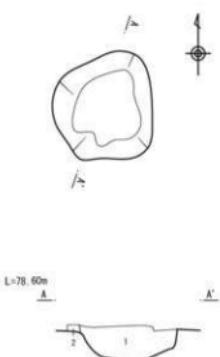


第152図 H区V 跡 01～03、水路 01・02 道構図

SK01



SK02



SK02 (SPA-A')

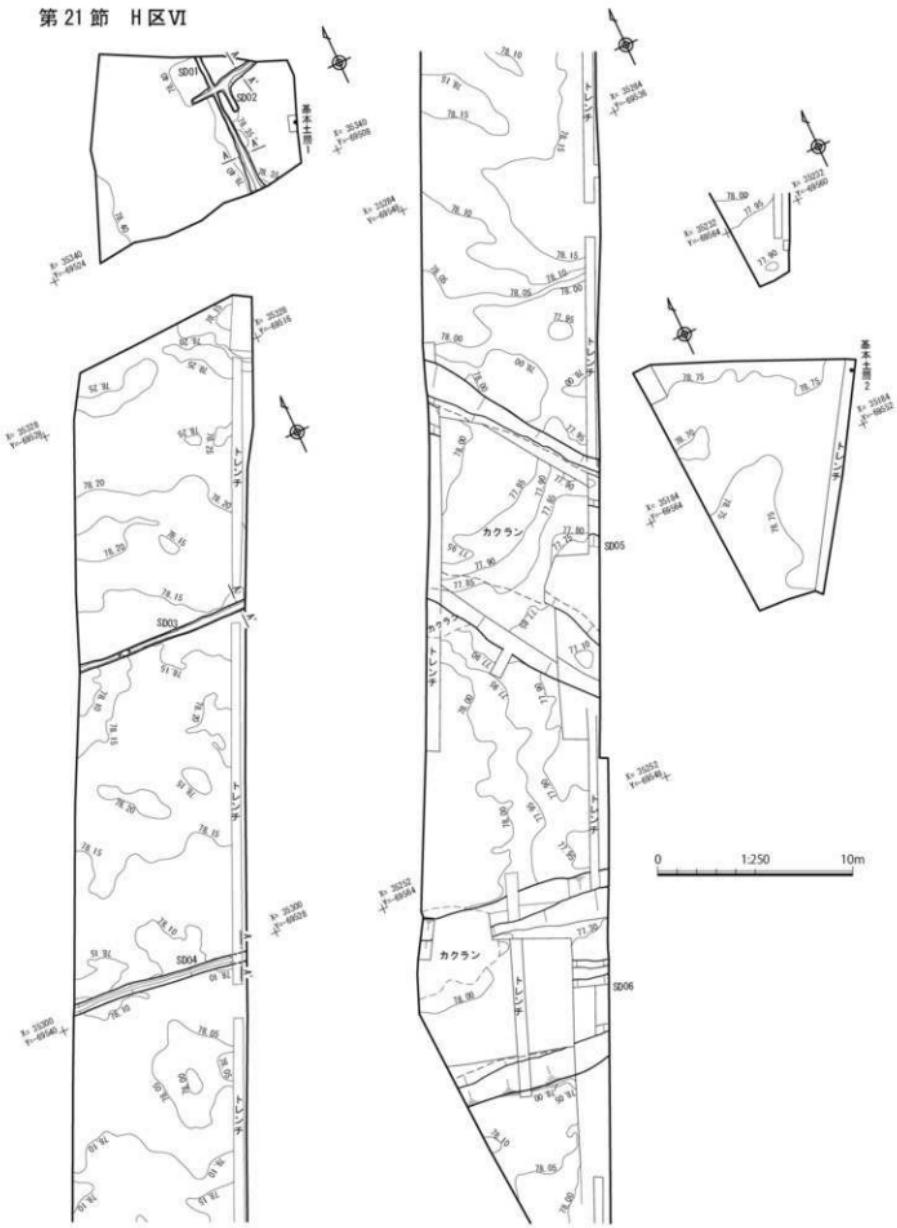
1 緑褐色粘土 (10YR3/3) 粘性やや弱い。しまり強い。Ae-Bテフラ多量、黒褐色粘土ブロック少量。
2 Ae-Bテフラ…一次堆積層。

第 153 図 H 区 V SK01・02 造構図

第 42 表 H 区 V 造構観察表

名称	形状	主軸方位	規模 (m)	時期	備考・出土遺物
SK01	長方形	N< 0°	2.00 0.65	0.17	Ae-A堆下層
SK02	不整形	N< 20° E	0.96 0.89	0.28	Ae-B堆下層

第21節 H区VI



第 154 図 H 区 VI 遺構全体図

(1) 調査区の概要

H区VIは区画道路5号線工事に伴い発掘調査を実施した。

H区VIはほぼ全面に土地改良工事による削平がおよんではいたため、土地改良工事盛土下面を標準検出面として設定した。

本調査区では古代～近代の遺構を検出した。遺構の内訳は図4条である。

(2) 溝

S001～03は埋土にAs-Bを含む。特にS003はAs-B降下時から大きく時期を隔てない遺構であると考えられる。



S001(SPA-K')

1. 黒褐色土(10YR4/2) 粘性有り。しまりなし。As-Bチャラ多。



S003(SPA-K')

1. 黑褐色土(10YR4/2) 粘性有り。よくしまる。As-Bチャラを主体とした下部のシルト・ロック層など。(As-Bチャラ層から大差なく時期でない遺構の通説と考え方される)

S004(SPA-K')

1. 黑褐色土(10YR4/2) 粘性有り。よくしまる。As-Bチャラと比較される層を含む。(土中にビニール袋ごとあり、埋没は現代)



第156図 H区VI S001～04 遺構図

第43表 H区VI 遺構観察表

名前	形状	主軸方位	周囲(m)	周囲(m)		参考	出土遺物
				長軸	短軸		
S001	N-S	8.40	0.80	0.85	0.85	10-YR4/2	
S002	N-S'	3.90	0.70	0.10	0.10	10-YR4/2	
S003	N-S'	0.20	0.10	0.10	0.10	10-YR4/2	
S004	N-S'	3.60	0.60	0.13	0.13	10-YR4/2	

基本土層1



基本土層1

1. 黒褐色土(10YR4/2) 粘性有り。As-Bチャラ(表土)。しまりなし。As-Bチャラ多。

2. 黑褐色土(10YR4/2) 粘性有り。As-Bチャラ多。

3. 黑褐色土(10YR4/2) 粘性有り。As-Bチャラ多。

4. 黑褐色土(10YR4/2) 粘性有り。As-Bチャラ多。

基木土層2

1. 黑褐色土(10YR4/2) 粘性有り。As-Bチャラ。解化土層。

2. にじく黒褐色土(10YR4/2) 粘性有り。しまり強い。解化土層。

0 1.40 2m
(面積55)

第155図 H区VI 基本土層



SD02

L=18.40m

A-A'

K-K'

SD02(SPA-K')

1. 黒褐色土(10YR4/2) 粘性有り。しまり強い。As-Bチャラ多。



SD04

L=18.20m

A-A'

K-K'

SD04(SPA-K')

1. 黒褐色土(10YR4/2) 粘性有り。よくしまる。As-Bチャラと比較される層を含む。(土中にビニール袋ごとあり、埋没は現代)



第155図 H区VI SD01～04 遺構図

第22節 1区

(1) 調査区の概要

1区は区画道路1号線工事に伴い発掘調査を実施した。而してAs-B一次堆積層を確認し、As-B一次堆積層下面を造構確認面として設定した。本調査区では古代～近世の造構を検出した。造構の内約は、As-B下水田、溝6条である。

(2) As-B下水田区画

As-B下の畦（ここでは段も含む）を伴う水田区画は調査区西半で検出された。水田区画は畦の走行方向から3区に分類することができた。

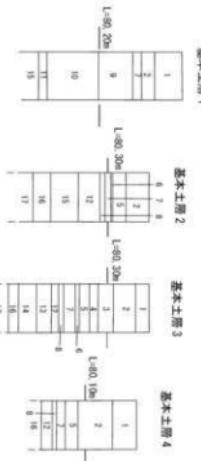
1区の水田区画は調査区西側に位置し、南北向畦がN~29°-Eを志向し、北東に向けて水田面を下げる。台地と接する箇所の段は南北向畦とは関係なく、台地と並行して走る。水田区画の長軸は南北方向である。2区の水田区画は調査区中央西寄りに位置

し、南北向畦がN~5°-Eを志向する。水田区画の長軸によつて細別することができた。調査区中央西寄りでは水田区画の長軸は南北方向、調査区中央では水田区画の長軸が東西方向となる。3区の水田区画は、1・2区とは異なり、高崎台地北辺斜面に位置する。南北向畦は1区と同じN~29°-Eを志向するが、水田区画の南北幅は1~2mと細かく、東西幅は約13mである。これは、斜面に合わせて水田区画を設定していると考えられる。

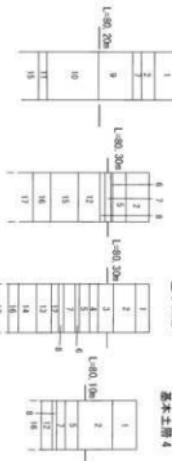
(3) 溝

本調査区では古代～近代の溝6条を検出した。SD02はAs-B一次堆積層が溝底部に堆積しており、As-B下水田区画と併存していた溝と考えられる。SD02の走行方向は東西方向であり、東へ流下している。後述するJ区IV・V・VIで検出した高崎台地の隙を流れる溝と同一の造構の可能性がある。

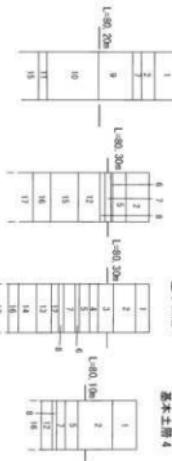
基本土層1



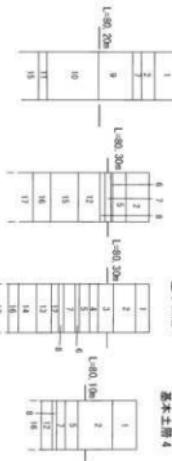
基本土層2



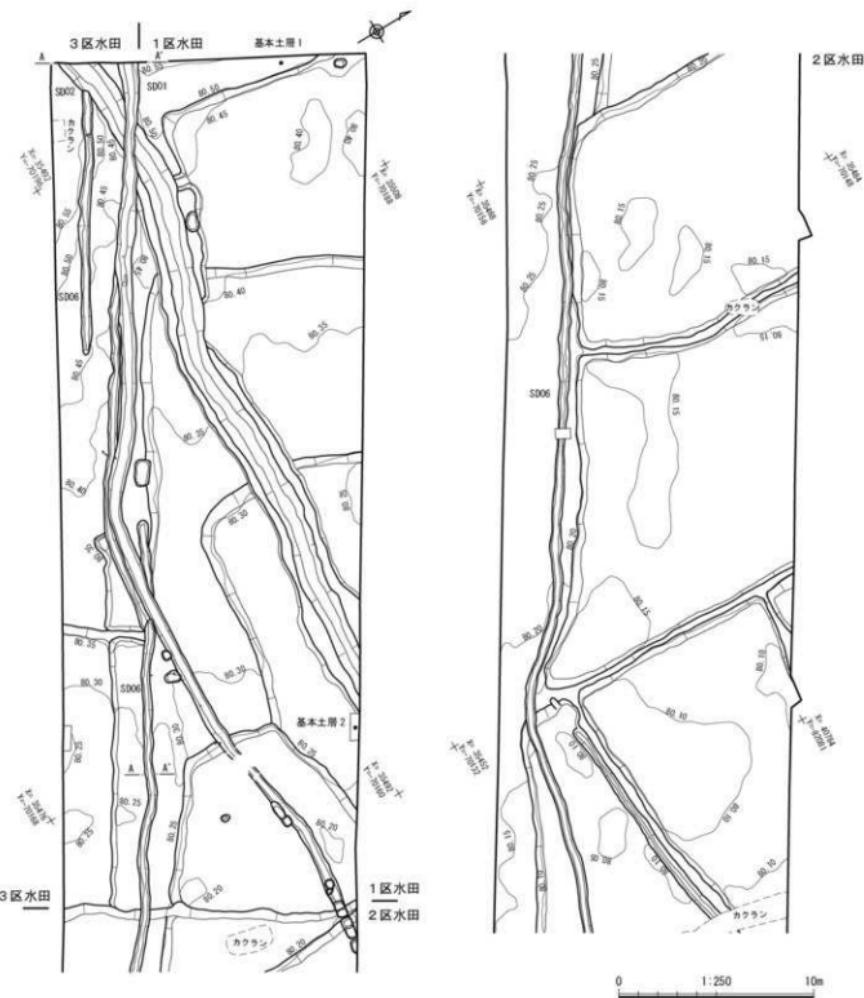
基本土層3



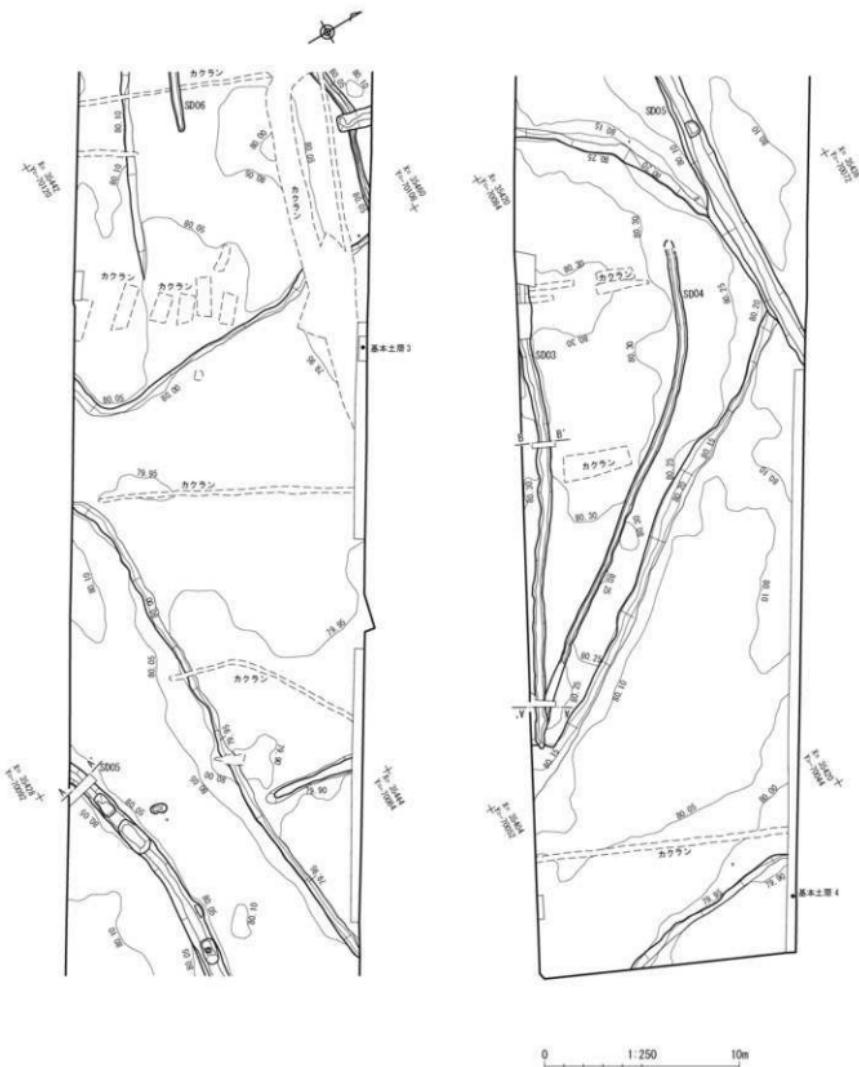
基本土層4



- 基本土層1・2・3・4**
- 1 地中色土 (10R2/2) 畦外土。
 - 2 地中色土 (10R2/4) As-B下フラを含む。土壤表面に土塗土層と想われる。褐色(5), 上より褐色(7)。
 - 3 地中色土 (10R2/2) As-B下フラ及びナロウフラを含む。褐色(5)。
 - 4 As-B下フラ層
 - 5 地中色土 (10R2/2) As-B下フラ多量。褐色(5)。
 - 6 地中色土 (10R2/2) As-B下フラ多量。褐色(5)。
 - 7 As-Bフラ (灰褐色) As-B下フラ。
 - 8 地中色土 (10R2/2) As-Bを含めて褐色(5)と強い、よくしまる。
 - 9 地中色土 (10R2/2) As-Bを含めて褐色(5)と強くしまる。褐色(5)。
 - 10 地中色土 (10R2/2) As-Bを含めて褐色(5)と強くしまる。褐色(5)。
 - 11 シラフササシグンペー根鉢輪 (10R2/2) 基礎層 (10R2/2) 基礎層 (10R2/2) As-B下フラを含む。
 - 12 地中色土 (10R2/2) 0~2cm程度の耕石を含む。
 - 13 地中色土 (10R2/2) 肥料堆積物を含む。
 - 14 地中色土 (10R2/2) 肥料堆積物を含む。
 - 15 地中色土 (10R2/2) As-Bを含む。褐色(5)。
 - 16 地中色土 (10R2/2) As-Bを含む。褐色(5)。
 - 17 地中色土 (10R2/2) As-Bを含む。褐色(5)。

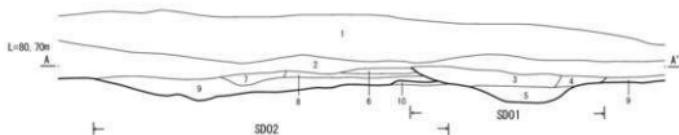


第158図 I区 遺構全体図(1)



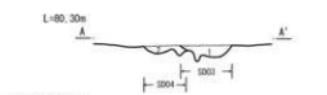
第 159 図 I 区 造構全体図 (2)

SD01, 02



- SD01, 02 (SPA-A'')
- 現代の盛り土
 - 土地改良時の造成土
 - 灰黃褐色砂質土 (10YR4/2) 軽石多量。酸化鉄分の沈着が若干見られる。
 - 灰黃褐色砂質土 (10YR4/3) 3層に比べて軽石の含有がやや少ない。
 - 褐灰色砂質土 (10YR4/1) Aa-Aテフラを多く含み、砂のテラミが見られる。
 - 褐灰色砂質土 (10YR4/1) Aa-Bテフラを含む。
 - にじみ黄褐色シート (10YR5/2) 土地改良前の土壤か。
 - 灰黃褐色砂質土 (10YR4/2) 酸化鉄分の沈着あり。
 - Aa-Bテフラ一次堆積層
 - 黒褐色粘土質土 (10YR3/1) Hr-PP を含む。(底の高まり部分)

SD03, 04



- SD03, 04 (SPA-A'')
- 暗褐色シート (10YR3/3) 軽石粒を含む。弱い粘性あり。しまりやや弱い。
 - 暗褐色土 (10YR5/2) 砂粒多量。よくしまる。

SD05



- SD05 (SPA-A'')
- 暗褐色土 (10YR3/4) Aa-Aテフラ多量。粘性あり。しまりやや弱い。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 若干の軽石粒を含む。粘性強く良くしまる。

SD06



第 160 図 I 区 SD01 ~ 06 透構図

第 44 表 I 区 透構観察表

名前	形状	主軸方位	埋深 (m)	長軸	短軸	深さ	時期	備考・出土遺物
SD01	N~89°~W	46.29	1.00	0.16			Aa-A降下後	SD02~06 を切る。土師部高坪・S字口縁台雙、須恵器、焼瓦
SD02	N~80°~W	34.50	1.50	0.16			Aa-B降下前	土師器
SD03	N~57°~W	23.92	0.76	0.15			Aa-B降下後	SD04を切る
SD04	N~37°~W	25.38	0.44	0.08			Aa-B降下前	
SD05	N~83°~W	28.70	1.38	0.35			Aa-A降下後	
SD06	N~56°~W	66.34	0.58	0.14			Aa-A降下後	

第 23 節 J 区 I・II・III

(1) 調査区の概要

J 区 I・II・III は市道 H1104 号線道路工事に伴い発掘調査を実施した。

J 区 I・II は、調査区北端を除き As-B 一次堆積層が残存していたため、As-B 下面を遺構検出面として設定した。

J 区 III は全面に土地改良工事による削平がおよんでいたため、土地改良工事土下面を遺構検出面として設定した。

本調査区では古代～近世の遺構を検出した。遺構の内訳は以下の通りである。J 区 I は As-B 下水田、溝 3 条、ピット 5 基である。J 区 II は、As-B 下水田、溝 4 条である。J 区 III は溝 1 条である。

(2) 溝

本調査区では古代～近代の溝 8 条を検出した。

SD05・06 は As-B により埋没し、走行方向も正方位なため、一帯の As-B 下水田と関係している可能性がある。

SD03・07 は連続する同一の溝であり、As-B 混土により埋没している。

明確に As-B 下水田区画と関連する溝は確認できなかった。

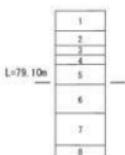
(3) As-B 下水田区画

J 区 I・II では南東へ水田面を下げる As-B 下水田を検出した。水田区画は南北辺が約 8 m で短軸となり、規模は不明だが東西辺が長軸になる長方形区画であると推定できる。畦はほとんど潰れており、段状にしか捉えられない箇所もある。

(4) ピット

J 区 I・III で検出したピット 6 基は、性格を絞り込むことができるものは検出できなかつた。

J 区 II 基本土層



J 区 II 基本土層

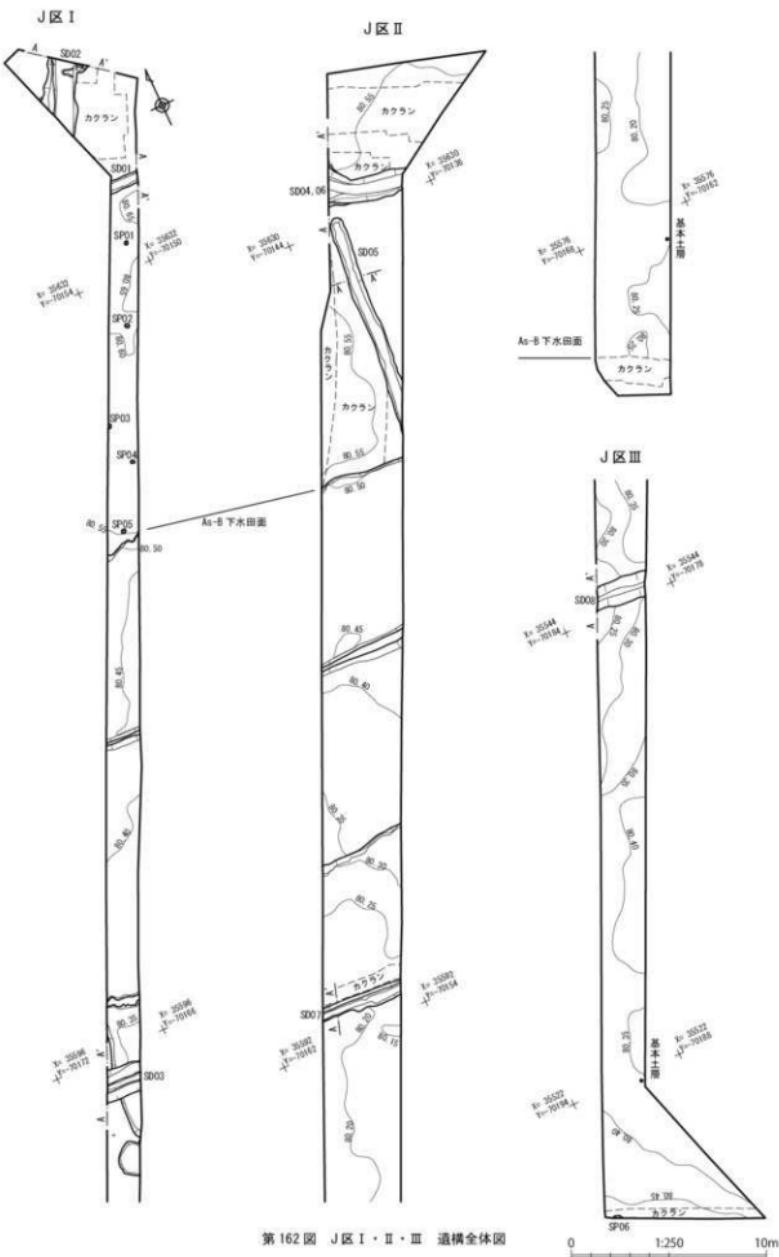
- 1 規則作土。
- 2 As-B ラフラー～泥炭層。粘性なし。しまり無し。酸化鉄分沈着を中心多量。
- 3 黒褐色土 (7.5H3/2) 粘性強い。しまり強い。黄褐色鉄少量。酸化鉄分沈着。
- 4 黄褐色土 (7.5YR4/4) 粘性強い。しまり強い。黄褐色鉄少量。1～3mm 粒石少量。砂質土まじる。酸化鉄分やや多量沈着。
- 5 棕褐色土 (7.5H5/4) 粘性やや強い。しまり強い。小礫少量。0.5～1mm 粒石少量。砂質土まじる。酸化鉄分やや多量沈着。
- 6 黄褐色土 (7.5YR4/6) 粘性やや強い。しまり強い。1～2mm 粒石。小礫少量。シルトブロック少量。酸化鉄分やや多量沈着。
- 7 明褐色土 (7.5H5/8) 粘性やや強い。しまりやや強い。0.5～1mm 粒石少量。小礫強度。酸化鉄分多量。
- 8 沈白色土 (7.5H8/1) 粘性強い。しまりやや強い。1mm 程の粒石少量。酸化鉄分微細沈着。シルト質。

J 区 III 基本土層

- 1 規則作土。
- 2 暗褐色土 (7.5H1/3) 粘性やや強い。しまり強い。白色粒少量。0.5mm 程の粒石微量。鉄分沈着。
- 3 黑褐色土 (7.5H3/1) 粘性強い。しまり強い。白色粒無量。酸化鉄分微量沈着。
- 4 棕褐色土 (7.5H6/1) 粘性やや強い。しまりやや強い。砂質土主体。粘質土ブロック少量。
- 5 黑褐色土 (7.5H2/1) 粘性強い。しまり強い。1～3mm 粒石微量。
- 6 沈白色土 (7.5H8/1) 粘性強い。しまり強い。0.5～1mm 粒石微量。酸化鉄分沈着。シルト質。

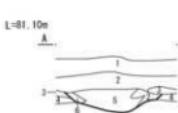


第 161 図 J 区 II・III 基本土層



第162図 J区 I・II・III 造構全体図

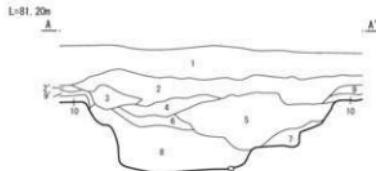
SD01



SD01 (SPA-A')

- 1 覆耕土。
- 2 黄灰色土 (10YR4/1) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。Ar-aテフラ少量。酸化鉄分多量。褐色土ブロック5~15mm少量。
- 3 褐灰色砂質土 (10YR4/1) 粘性弱い。しまりやや弱い。粒子やや細かい。明黄色土粒少量。酸化鉄分凝集中量。
- 4 Ar-B 一次堆積層
- 5 黄灰色砂質土 (2.5YR4/1) 粘性なし。しまりあり。Ar-aテフラ多量。
- 6 褐灰色砂質土 (10YR5/1) 粘性なし。しまりややあり。粒子やや細かい。Ar-aテフラ少量。酸化鉄分凝集微量。

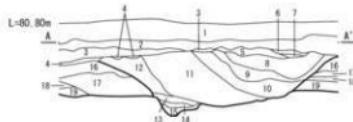
SD02



SD02 (SPA-A')

- 1 覆耕土。
- 2 棕灰色土 (10YR4/1) 粘性弱い。しまりあり。Ar-aテフラ中量。鉄分凝集中量。
- 2 層より酸化鉄分多い。
- 3 黄灰色砂質土 (2.5YR4/1) 粘性なし。しまりやや弱い。Ar-aテフラ少量。酸化鉄分凝集微量。
- 4 黄灰色砂質土 (2.5YR4/1) 粘性なし。しまりやや弱い。Ar-aテフラ多量。酸化鉄分凝集斑状に少量。
- 5 棕灰色砂質土 (10YR4/1) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。Ar-aテフラ少量。Ar-Bテフラ多量。酸化鉄分多く含む。にぶい黄褐色土ブロック1~5cm中量。灰黄色土粒質土大ブロック3~15cm少量。底面の酸化鉄分凝集斑状。
- 6 黄灰色砂質土 (2.5YR4/1) 粘性なし。しまりやや弱い。Ar-Bテフラ多量。酸化鉄分凝集多量。
- 7 棕灰色砂質土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりやや弱い。Ar-Bテフラ多量。酸化鉄分凝集微量。
- 8 棕灰色砂質土 (10YR5/1) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。Ar-aテフラ無量。Ar-Bテフラ多量。酸化鉄分多く含む。暗褐色土小ブロック1~3cm中量。黒褐色土粒質土大ブロック3~6cm少量。
- 9 棕灰色砂質土 (10YR4/1) 粘性弱い。しまりやや弱い。粒子やや細かい。明黄色土粒少量。酸化鉄分凝集中量。
- 9 棕灰色砂質土 (10YR4/1) 3層より酸化鉄分非常に多く。
- 10 Ar-Bテフラ 一次堆積層。下面に酸化鉄分凝集。

SD03



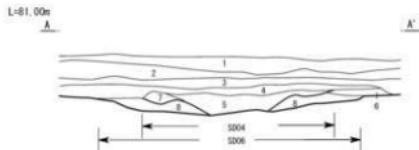
SD03 (SPA-A')

- 1 覆耕土。
- 2 棕灰色砂質土 (10YR4/1) 粘性弱い。しまりあり。上部に褐色の酸化鉄分やや多い。Ar-aテフラ少量。
- 3 明黄色土粒質土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりやや弱い。10YR4/1の褐色砂層に酸化鉄分が沈着している。
- 4 棕灰色土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりやや弱い。
- 5 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 粘性なし。しまりやや弱い。粗砂粒微量。
- 6 棕灰色土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりやや弱い。黑褐色の粗砂多量。
- 7 棕灰色砂質土 (10YR5/6) 粘性なし。しまりやや弱い。2層に鉛錠。黄褐色砂質土少量 (黄色の鉄分少) Ar-aテフラ微量。
- 8 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 粘性なし。しまりやや弱い。Ar-Bテフラ少量。
- 9 棕灰色砂質土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりやや弱い。黑褐色土中量。炭素灰化砂質土ブロック1~3cm中量。黄褐色の酸化鉄分沈着少。粗砂少量。
- 10 暗褐色砂質土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりやや弱い。粗砂少量。暗褐色の酸化鉄分沈着全体に中量。Ar-Aテフラ微量。
- 11 暗褐色砂質土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりやや弱い。粗砂少量。暗褐色の酸化鉄分沈着全体に少量。Ar-aテフラ少量。
- 12 暗褐色砂質土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりやや弱い。粒子細かい。黄褐色の酸化鉄分沈着中量。Ar-aテフラ微量。
- 13 暗褐色砂質土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりやや弱い。黑色細砂少量。酸化鉄分沈着多量。暗褐色土粒質土ブロック2~4cm少量。
- 14 棕灰色砂質土 (10YR4/1) 粘性なし。しまりやや弱い。黑色細砂少量。酸化鉄分沈着多量。黑褐色土粒質土ブロック2~4cm少量。
- 15 黑褐色土 (10YR2/1) 粘性弱い。しまりやや弱い。Ar-Bテフラ少量。褐色の酸化鉄分沈着斑状に多量。
- 16 棕灰色土 (2.5YR3/1) 粘性弱い。しまりやや弱い。Ar-Bテフラ多量。暗褐色の酸化鉄分沈着斑状に多量。
- 17 暗褐色土 (10YR4/2) 粘性弱い。しまりやや弱い。Ar-Bテフラ多量。褐色の酸化鉄分沈着斑状に多量。
- 18 棕褐色土 (2.5YR3/1) 粘性なし。しまりやや弱い。Ar-Bテフラ多量。暗褐色の酸化鉄分沈着斑状に多量。
- 19 Ar-Bテフラ-一次堆積層 褐色の酸化鉄分沈着多量。底面にφ3~7mmの粗石が部分的に見られる。

0 1:40 2m

第163図 J区 I・II・III SD01~03 道構図

SD04, 06



- SD01, SD02 (SPA-A')
- 現耕作土。
 - 土壤改良工事廻上。
 - 褐色砂質土。(7.5m)/4(3) 粘性なし。しまりやや弱い。白色粒やや多量。軽石 6.0mm 微量。
 - 褐色砂質土。(7.5m)/4(3) 粘性なし。しまりなし。Aa-Bテフラ含む。
 - 褐色砂質土。(10m)/3(3) 粘性なし。しまりやや弱い。粒子やや細かい。Aa-Aテフラ少量。Aa-Bテフラ少量。
 - 褐色砂質土。(10m)/3(3) 粘性あり。しまり強い。白色粒やや多量。
 - Aa-Bテフラ二枚堆積層。
 - 褐色砂質土。(10m)/3(3) 粘性ややあり。しまりあり。粒子細かい。Aa-Bテフラ微量。砂粒微量。

SD05



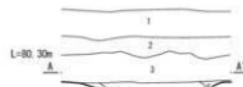
SD07



SD05 (SPA-A')

- 褐色砂質土。(10m)/3(3) 粘性なし。しまりやや弱い。粒子やや粗い。Aa-Bテフラ多量。
- 褐色粘質土。(10m)/4(4) 粘性やや強い。しまりやや強い。粒子やや細かい。Aa-Bテフラ主体。
- 褐色鉄分沈着色砂質土。
- 褐色砂質土。(10m)/3(3) 粘性なし。しまりやや弱い。粒子やや細かい。Aa-Bテフラ主体。褐色粘質土微量。
- 褐色砂質土。(10m)/3(3) 粘性あり。しまり強い。白色軽石微量。

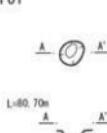
SD08



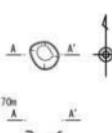
SD08 (SPA-A')

- 現耕作土。
- 灰黄色砂質土。(10m)/4(2) 粘性なし。しまりあり。Aa-Aテフラ中量。全体に酸化鉄分沈着少量。
- にじみ黄褐色土。(10m)/4(3) 粘性なし。しまりあり。Aa-Aテフラ微量。Aa-Bテフラ主体か。全体に酸化鉄分沈着やや多量。
- 褐色砂質土。(10m)/4(1) 粘性なし。しまり弱い。Aa-Bテフラ少量。Aa-Bテフラ多量。褐色粘質土プロック 3~5cm 量。粒子が粗砂中量。
- 褐色土。(10m)/4(6) 粘性あり。しまりやや弱い。酸化鉄分沈着多量。粗砂中量。

SP01



SP02



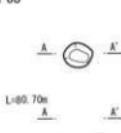
SP03



SP04



SP05



SP06



0
1:40
(平面図・断面図)
2m

第164図 J区 I・II・III SD04～08, SP01～06 透構図

第45表 J区I・II・III 造構観察表

名前	区	形状	主軸方位	規模 (m)	時期	備考・出土遺物
SD01	I	N 90°-W	1.48	0.64	0.08	As-B 降下後
SD02	I	N 30°-E	3.00	1.90	0.58	As-B 降下後
SD03	I	N 86°-W	1.82	1.52	0.18	As-B 降下後
SD04	II	N 71°-W	3.92	1.96	0.23	陶器壇・埴輪
SD05	II	N 22°-E	10.32	0.82	0.19	古墳
SD06	II	N 71°-W	3.80	1.28	0.26	As-B 降下後
SD07	II	N 85°-W	4.26	0.88	0.15	土壙壺、羽柴瓦壺、陶器埴輪、鐵石
SD08	III	N 82°-W	2.56	1.34	0.36	As-B 降下後
SP01	I	円形		0.22	0.18	0.07
SP02	I	円形		0.24	0.22	0.07
SP03	I	不整形		0.24	0.16	0.13
SP04	I	円形		0.22	0.20	0.16
SP05	I	円形		0.24	0.20	0.17
SP06	III	不整形	N 65°-W	0.5	0.14	0.09

第24節 J区IV・V

(1) 調査区の概要

J区IVは区画道路3号線工事及び1号線地工事、J区Vは区画道路3号線工事に伴い発掘調査を行った。

J区IVは、ほぼ全面にAs-Bの一次堆積層が残存していたため、As-B下面を造構検出面として設定した。

J区Vは調査区北側はAs-B一次堆積層を確認できなかったため、土地改良工事盛土下面を造構検出面として設定した。調査区南側はAs-B一次堆積層が残存していたためAs-B一次堆積層下面を造構検出面として設定した。

J区Vは、SD03に先行する自然流路を対象として第2面を設定し、調査を行った。

本調査区では奈良時代～近世の造構を検出した。造構の内訳は、溝19条、As-B下水田、土坑15基、ピット11基、井戸1基、自然流路1条である。

(2) 溝

本調査区では古墳時代～近代の溝19条を検出した。

SD03は高崎台地北辺の際を流れる溝である。流下方向は西～南西で、As-B一次堆積により埋没していた。J区IV・V周辺のAs-B下水田の配水・排水に利用されていたと考えられる。

SD04は、周囲にAs-B下水田区画の段が存在するものの、埋土にはAs-Bを含まないところから、As-B下水田に先行する溝であると考えられる。SD04の流下方向は南である。遺物は古墳時代～平安時代の土器が出土している。

(3) As-B下水田区画

J区IV北側でAs-B下水田区画と考えられる段を2条検出した。水田面は東に向かって下がっている。

(4) 土坑

本調査区では古墳時代前期～近代の土坑15基を検出した。

SK05は9世紀末～10世紀前半の土坑墓と考えられる。遺物はSK05底部北東隅から「風」墨書き土師器壺(138)、底部南西辺南寄りから「般若御瓶」刻書須恵器長頸壺(137)が出土している。須恵器長頸壺は口縁部を北東に向けて寝た状態で出土した。土器以外の遺物は検出できなかったため、詳細な埋葬施設は不明である。

他にSK12・14から10世紀前半の須恵器壺が出土しており、J区V北側はAs-B下水田の範囲から外れると考えられる。

(5) ピット

本調査区ではピット11基を検出したが、性格を絞り込めるものは無かった。

(6) 井戸

本調査区では1基の井戸を検出した。
SE01は円柱状を呈し、比較的上位の埋土にAs-Bを含んでいた。As-B降下後の所産と考えられる。

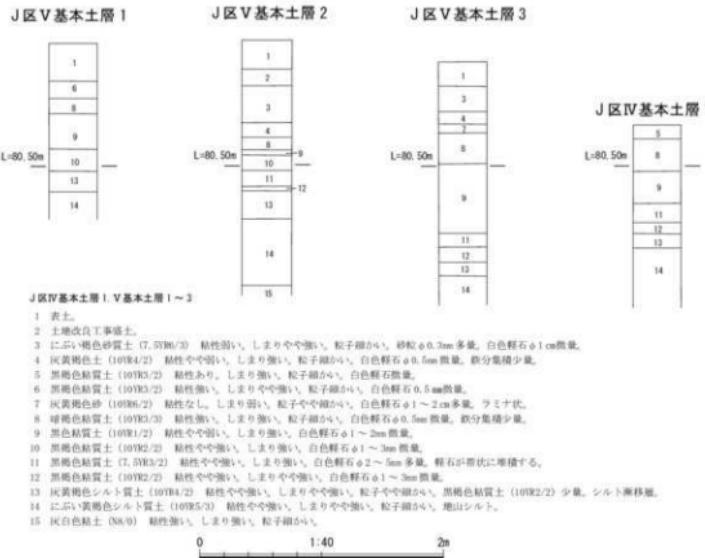
(7) 自然流路

NR01はSD03に先行する台地際の流路である。複数時期に渡る流路の痕跡が確認できる。

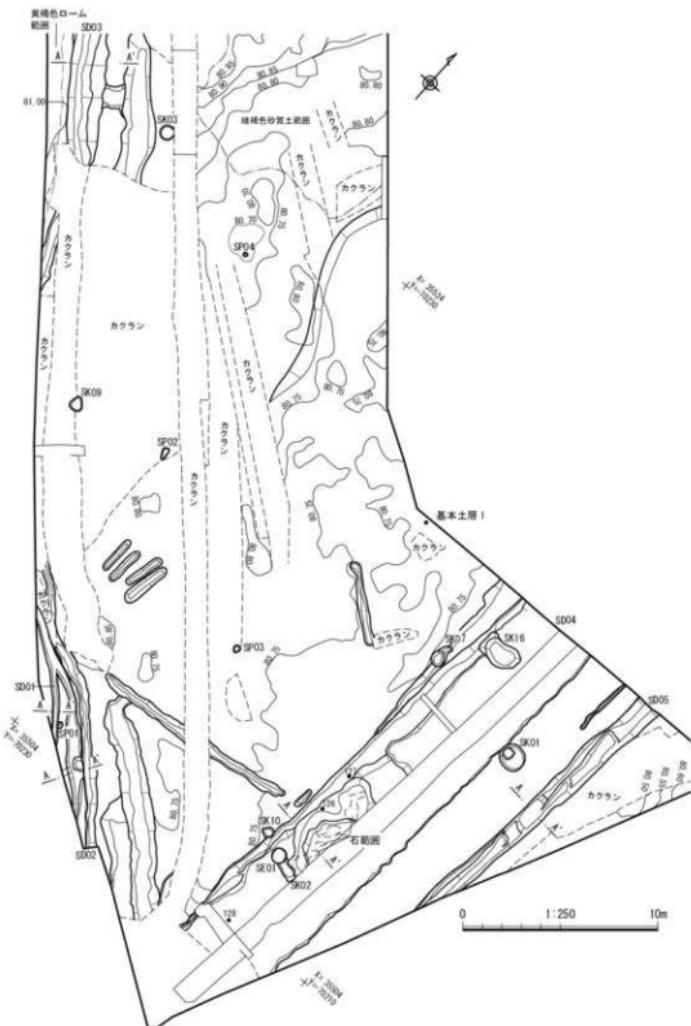
出土遺物は石鎌(135)、古墳時代前期～中期土師器(129～133)、平安時代須恵器壺(134)が出土しており、近隣の台地上に当該期の遺跡が分布していると考えられる。

時期は特定しきれないが、出土した平安時代須恵器壺から9世紀頃には埋没し、SD03に変わっていくと考えられる。

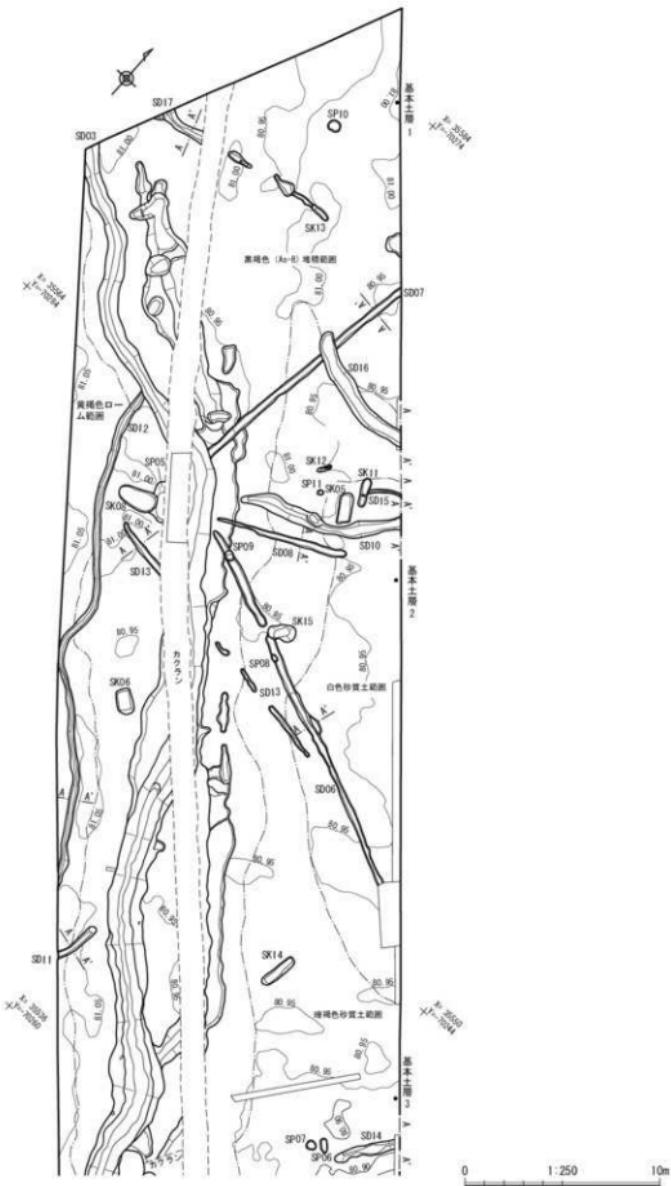
他に縄文時代中期土器や弥生時代土器の破片が出土しており、台地上に縄文時代～平安時代の遺跡が分布していると考えられる。



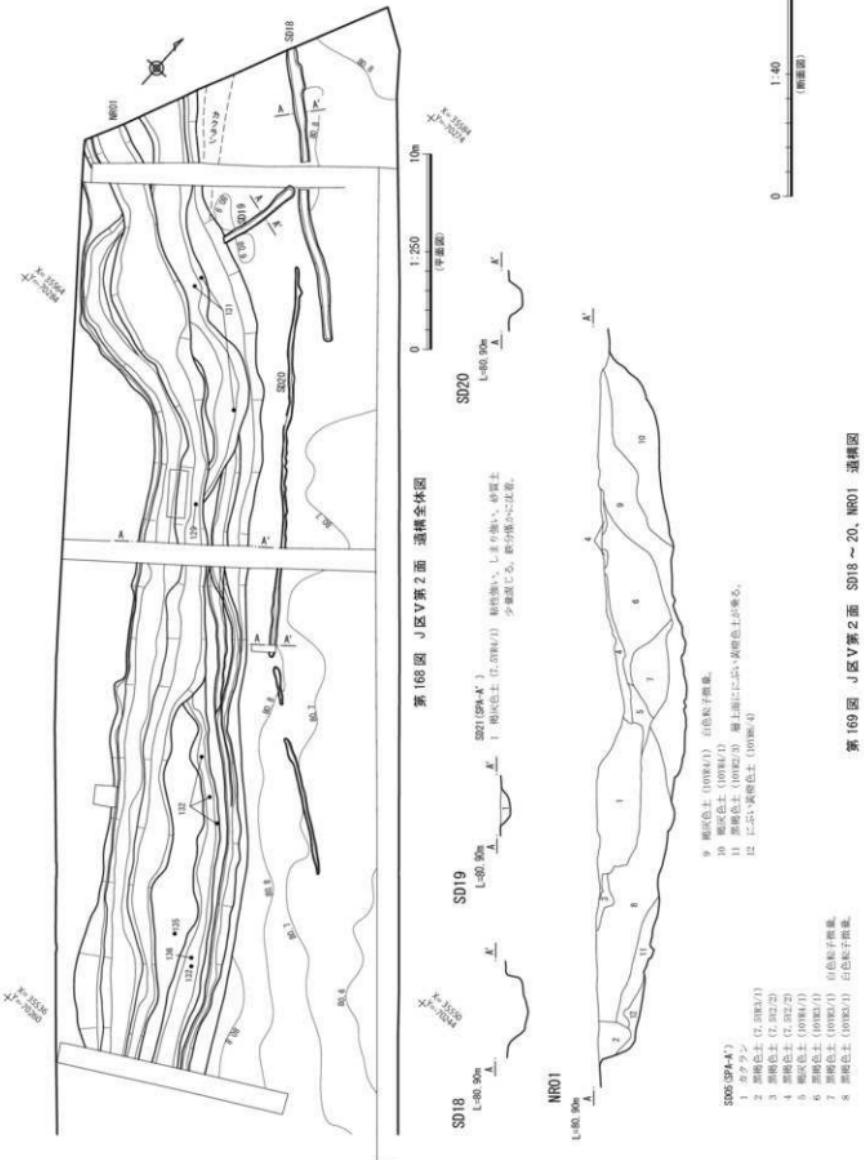
第165図 J区IV・V 基本土層



第 166 図 J 区 IV 遺構全体図



第167図 J区V第1面 造構全体図



SD01



- SD01(SPA-K¹)
1 黄褐色土 (0-10cm) 植物あり。しまりややか。緑色の少く～5mm (Ar-A'付) 少量。Ar-A' フラクション。
Ar-A' フラクション。

SD02



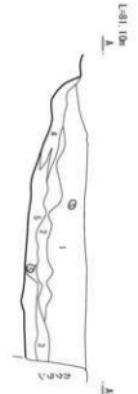
- SD02(SPA-K¹)
1 黄褐色土 (0-10cm) 植物多い。しまりややか。緑色ト葉、細粒の白色 (Ar-A' フラクション) & 黒、Ar-A' フラクション。
2 黄褐色土 (0-10cm) 植物多く。しまりやや弱い。粘子細かい。根石6mm程まではに入る。
3 黄褐色土 (0-10cm) 植物多く。しまりやや弱い。粘子細かい。根石6mm程までは入る。Ar-A' フラクション。
4 黄褐色土 (0-10cm) 植物多く。しまりやや弱い。粘子細かい。根石6mm程までは入る。Ar-A' フラクション。
5 黄褐色土 (0-10cm) 植物多く。しまりやや弱い。粘子細かい。根石6mm程までは入る。Ar-A' フラクション。

SD03



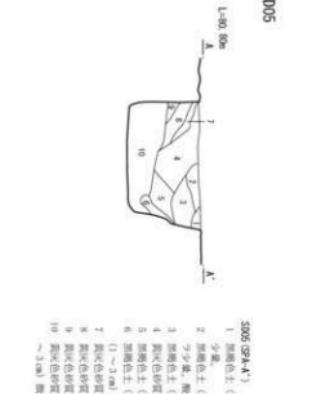
- SD03(SPA-K¹)
1 黄褐色土 (0-10cm) 植物ややか。しまりややか。細粒少。白。黄色の少。黒山田鉱
2 黄褐色土 (0-10cm) 植物ややか。しまりややか。細粒少。白。黄色の少。黒山田鉱
3 黄褐色土 (0-10cm) 植物ややか。しまりややか。細粒少。白。黄色の少。黒山田鉱
4 黄褐色土 (0-10cm) 植物ややか。しまりややか。細粒少。白。黄色の少。黒山田鉱
5 黄褐色土 (0-10cm) 植物ややか。しまりややか。細粒少。白。黄色の少。黒山田鉱

SD04



- SD04(SPA-K¹)
1 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
2 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
3 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
4 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
5 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
6 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
7 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
8 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
9 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
10 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。

SD05



- SD05(SPA-K¹)
1 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
2 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
3 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
4 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
5 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
6 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
7 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
8 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
9 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。
10 黄褐色土 (0-10cm) 植物やや多い。しまりややか。細粒 (Ar-A' フラクション) 中量。Ar-A' フラクション。

第170図 J区IV・V SD01～05 連続図

SD06



SD06 (SPA-A')

- 1 黄褐色土 (10YR5/2) 粘性ややあり。しまりややあり。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性弱い。しまりややあり。

SD08



SD08 (SPA-A')

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性やや弱い。しまりあり。シルト質。淡黄褐色のシルトブロック (0.5 cm) 少量。

SD07



SD07 (SPA-A')

- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘性やや弱い。しまりあり。白色粘 (An-Hテフラ) 少量。淡面酸化鉄分少量。
- 2 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘性なし。しまりややあり。粗砂 (An-Hテフラ混) 多量。

SD10



SD10 (SPA-A')

- 1 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘性あり。しまりあり。白色粘少量。
- 2 淡灰色土 (7.5YR4/1) 粘性あり。しまりあり。白色粘少量。
- 3 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性なし。しまりあり。灰白色の細緻一様マーブル状に半量。未分解木片少量。木片に酸化鉄分凝集し棒状を保つものもある。
- 4 黑褐色土 (7.5YR4/1) 粘性あり。しまりややあり。

SD11



SD11 (SPA-A')

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) 粘性ややあり。しまりあり。細砂～粗砂ブロック (4 ~ 10 cm) 少量。白色粘少量。
- 2 黑褐色土 (10YR3/2) 粘性弱い。しまりあり。細砂多量。地山ブロック (灰岩 0.3 ~ 1 cm) 少量。酸化鉄分少量。粗砂少量。
- 3 に5-灰褐色土 (10YR7/4) 粘性なし。しまりややあり。シルト質。黑褐色土少量。
- 4 黑褐色土 (10YR3/2) 粘性あり。しまりあり。
- 5 灰褐色砂質土 (10YR5/1) 粘性なし。しまりあり。細砂質。堆山シルト (灰岩質) 少量。

SD13



SD13 (SPA-A')

- 1 黄褐色土 (2.5YR5/3) 粘性弱い。しまり弱い。ややシルト質。白色粘少量。黑色粘中量。

SD15



SD15 (SPA-A')

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) 粘性なし。しまり弱い。
- 2 黑褐色土 (10YR3/2) 粘性弱い。しまりややあり。酸化鉄分多量。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりややあり。粗砂, φ 5 mm白色粘中量。黄褐色土中量。黑褐色土ブロック (0.5 ~ 1 cm) 少量。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性弱い。しまりやや弱い。粗砂少量。φ 5 mm白色粘少量。

SD12



SD12 (SPA-A')

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) 粘性ややあり。しまりあり。黑色土粒～ブロック (3 cm) 微量。砂粒・白色粘少量。
- 2 岩灰色土 (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりあり。地山 (黄土～ブロック 3 cm) 中量。砂粒少量。複 (0.2 ~ 15 cm) やや多量。
- 3 黑褐色土 (10YR4/2) 粘性ややあり。しまりややあり。

SD14



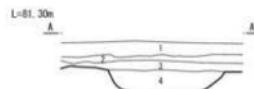
SD14 (SPA-A')

- 1 粘性伴土。
- 2 に5-灰褐色土 (10YR4/3) 粘性弱い。しまりあり。白色粘含む。褐灰色土ブロック (7 cm) 少量。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性弱い。しまりやや弱い。シルト質。

0 1:40 2m

第 171 図 J 区 IV・V SD06 ~ 08・10 ~ 15 道構図

SD16



SD16(SPA-A')

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし。しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性弱い。しまりややあり。無化鉄分多量。
- 3 深黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりややあり。粗砂、0.5mm白色粒中量。 黒褐色土中量。黒褐色土ブロック (0.5~1cm) 少量。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性やや弱い。しまりややあり。粗石粒較 0.5mm以下中量。細かい凝灰の無化鉄分中量。

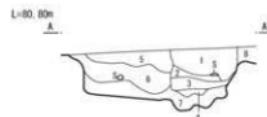
SD17



SD17(SPA-A')

- 1 黒褐色土 (2.5Y3/2) 粘性弱い。しまりあり。シルト質。黒色粘質土ブロック (i. ~3cm) 極微量。細砂微量。

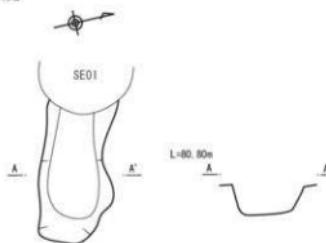
SK01



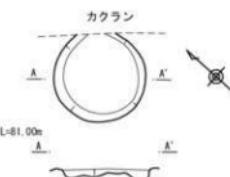
SK01(SPA-A')

- 1 黒褐色粘質土 (10Y3/4) 粘性なし。しまりややあり。粒子や空隙から。Ar-Bテフラ少量。褐色 (10YR4/4) ロームブロック 8cm少量。暗褐色粘質土 (10Y3/4) ブロック 8cm少量。
- 2 黑褐色砂質土 (10Y3/1) 粘性なし。しまりあり。粒子や空隙から。Ar-Bテフラ少量。黑褐色粘質土 (10Y3/2/1) ブロック 5cm少量。
- 3 黑褐色砂質土 (10Y3/4) 粘性なし。しまりややあり。粒子や空隙から。Ar-Bテフラ少量。褐色 (10YR4/4) ロームブロック 8cm少量。暗褐色粘質土 (10Y3/4) ブロック 8cm少量。
- 4 黑褐色粘質土 (10Y3/1) 粘性あり。しまりあり。粒子や空隙から。粘質土ブロック 4cm含む。
- 5 黑褐色砂質土 (10Y3/1) 粘性なし。しまりややあり。粒子や空隙から。Ar-Bテフラ少量。
- 6 黑褐色砂質土 (10Y3/2) 粘性なし。しまりややあり。粒子や空隙から。Ar-Bテフラ多量。黑色砂質土 (10YR2/1) ブロック 4cm多量。
- 7 黑褐色砂質土 (10Y3/2) 粘性なし。しまりややあり。粒子や空隙から。Ar-Bテフラ多量。無化鉄分凝灰微量。
- 8 黑褐色砂質土 (10Y3/1) 粘性なし。しまりややあり。粒子や空隙から。Ar-Bテフラ多量。

SK02



SK03



SK03(SPA-A')

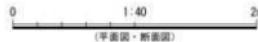
- 1 黑褐色砂質土 (10Y3/1) 粘性なし。しまりやや弱い。白色粒 Ar-Bテフラか 多量。

SK05

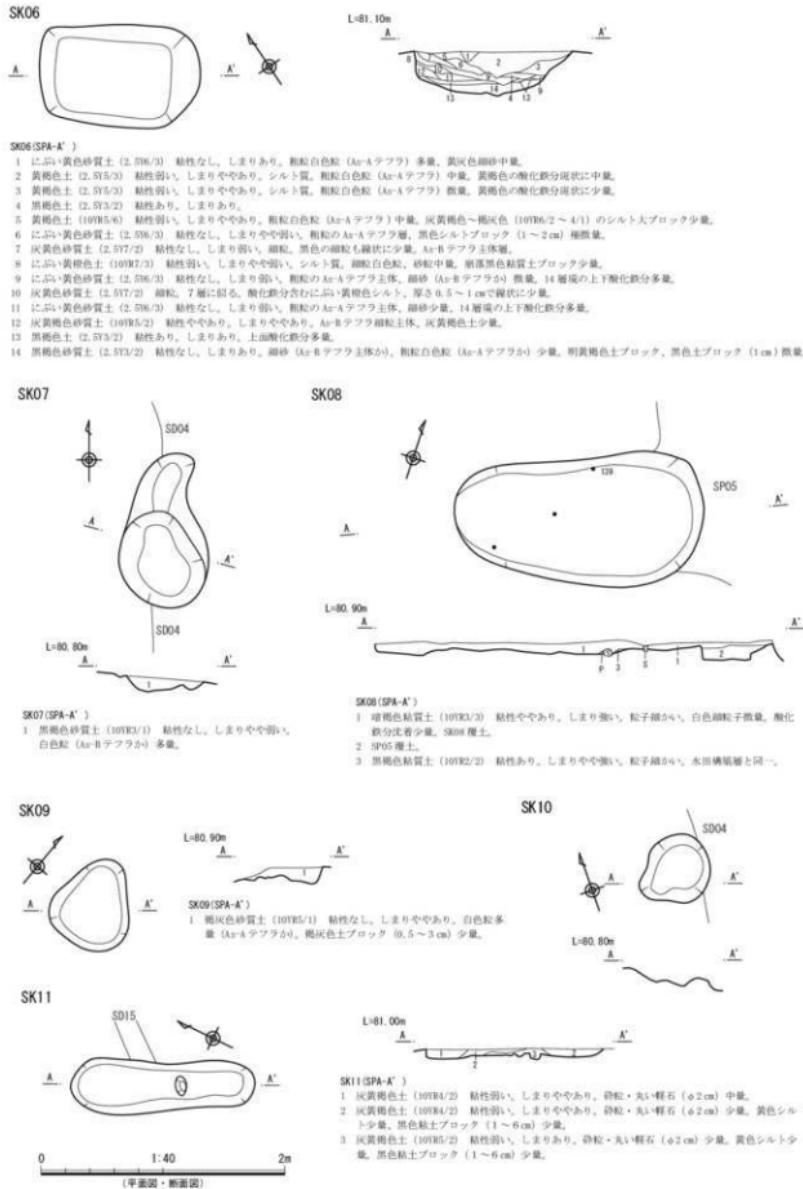


SK05(SPA-A')

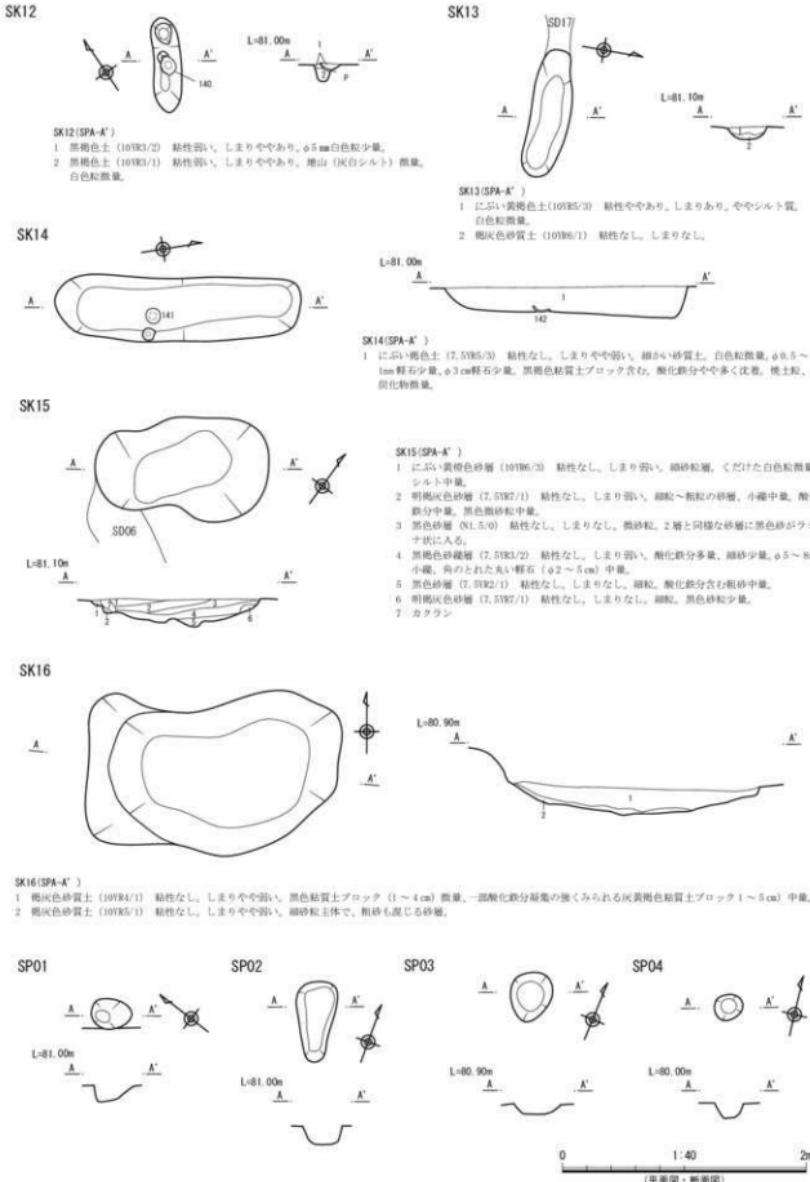
- 1 深黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりやや弱い。小礫多量。
- 2 深黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりあり。シルト質。にふい黃褐色シルト粒・ブロック (3cm) 少量。黒色粘質土ブロック (2~5cm) 微量。白色粒 (i. ~15mm) 少量。細砂や多量。



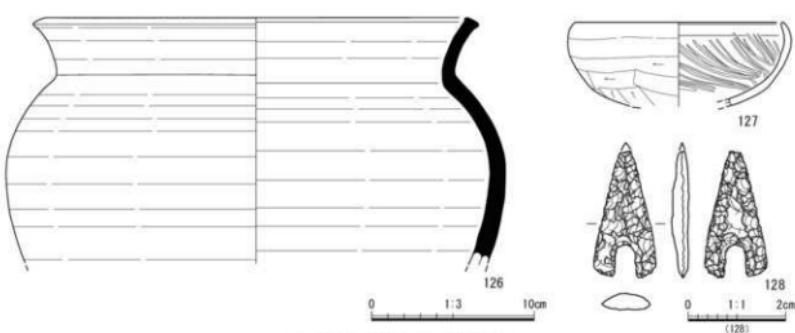
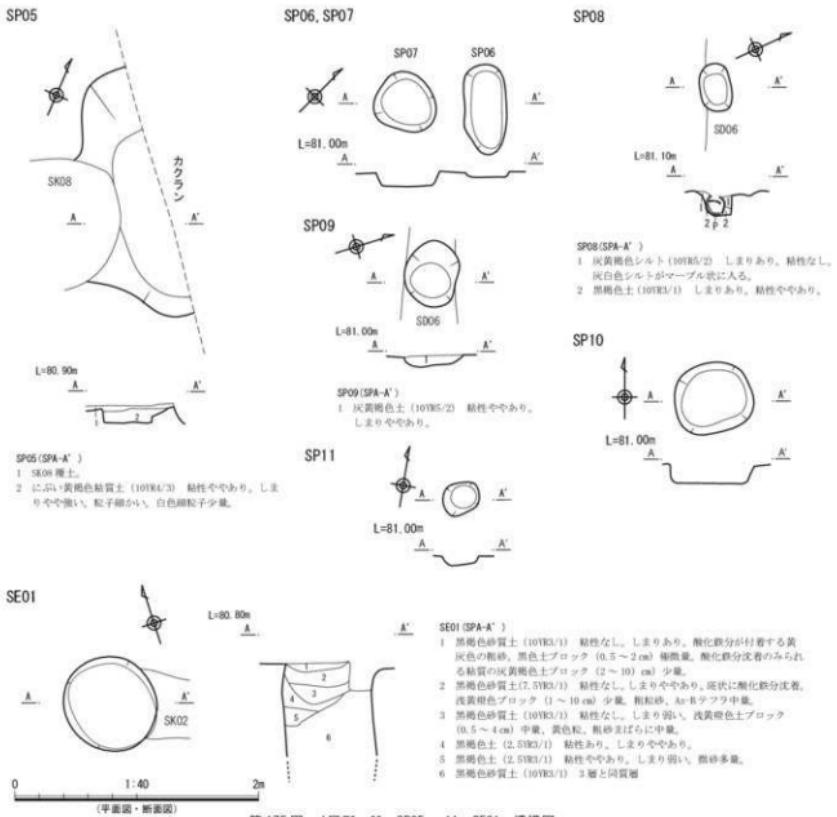
第 172 図 J区IV・V SD16・17, SK01 ~ 03・05 遺構図

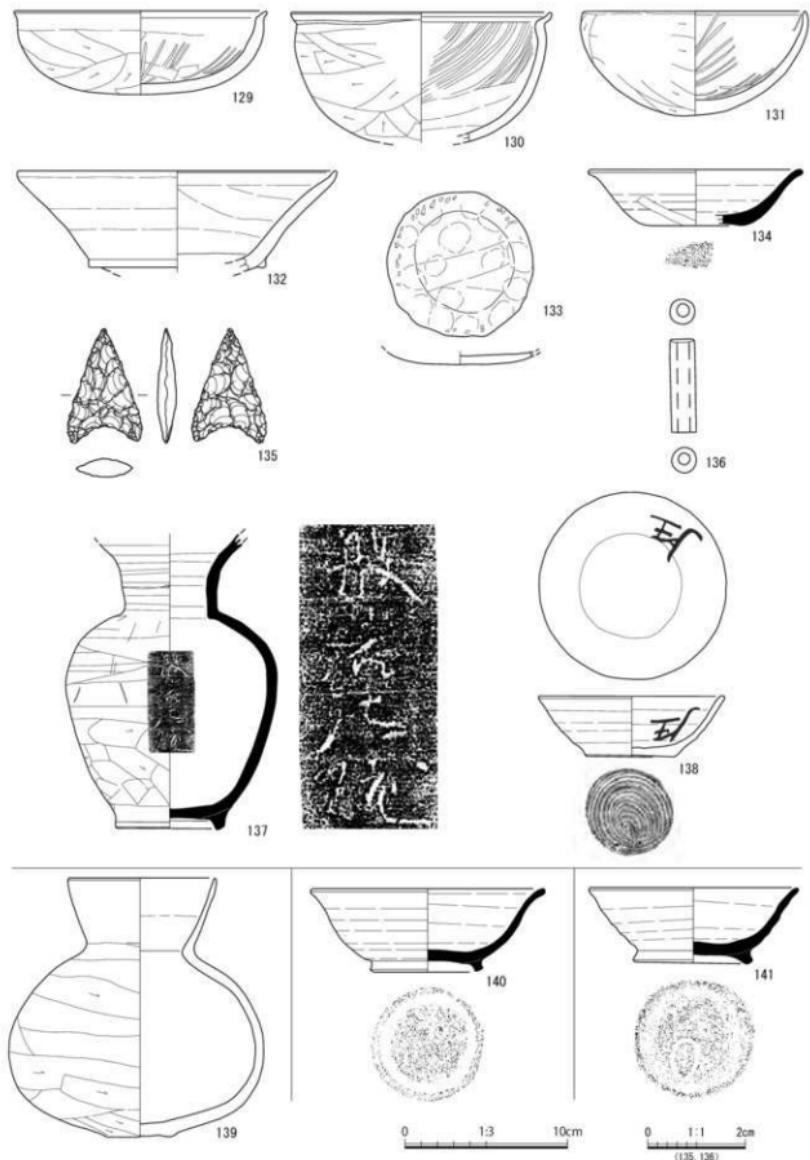


第173図 J区IV・V SK06～11 遺構図

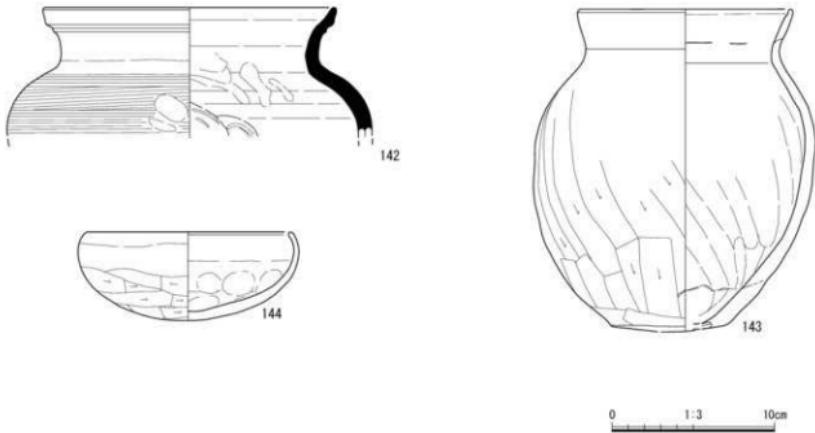


第 174 図 J 区 IV・V SK12～16, SP01～04 造構図





第177図 J区IV・V 遺物図(2)



第178図 J区IV・V 遺物図(3)

第46表 J区IV・V 遺物観察表(1)

回復番号	遺物名	種別 遺構	法縦 11径 幅 厚さ	法横 12径 幅 厚さ	成形、整形法等の特徴(器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③軽土		残存 (%)	備考
						長さ (cm)	幅 (cm)	重量(g)	材質
第176回126 PL36-126	SD04 灰窓器 甕	【26.0】	—	(15.1)	ロクロ成形 外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	①良好 ②5.0W7/1 ③チャート	10		
第176回127 PL36-127	SD04 土師器 甕	【12.8】	—	(5.2)	内斜口鋸突縁 外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ。体部ヘラケズリ 内:ロクロナヂ。体部ヨコナヂ。放射状ヘラミ 分厚	①良好 ②5.0W6/4 ③軽土 ④軽分厚、角閃石、石英、凝灰岩	30		
		法縦(cm) 11径 幅 厚さ	法横(cm) 12径 幅 厚さ						
第176回128 PL36-128	SD04 石器 石器	(2.6)	1.29	0.38	(0.86) チャート	同系無杂质 抉り出石い	90	先端部欠損	
		法縦(cm) 11径 幅 厚さ	法横(cm) 12径 幅 厚さ						
第177回129 PL36-129	NB01 土師器 甕	【15.4】	—	5.1	成形、整形法等の特徴(器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③軽土			
第177回130 PL36-130	NB01 土師器 甕	【15.8】	—	(8.0)	内斜口鋸 外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ。体部ヘラミ 分厚	①良好 ②5.0W6/4 ③軽分厚、石英、角閃石	30		
第177回131 PL36-131	NB01 土師器 甕	—	13.5	—	内斜口鋸 外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ。ヘラケズリ	①良好 ②2.5W6/4 ③軽分厚、石英、軽分厚、チャート	30		
第177回132 PL36-132	NB01 高环	【19.5】	—	(6.2)	円下部に軽土塊を貼付し壁を持たせる 外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ。体部ナヂ 内:ロクロナヂ。体部ナヂ	①良好 ②5.0W6/6 ③石英、軽分厚、角閃石、凝灰岩	30		
第177回133 PL36-133	NB01 土師器 甕	—	—	(0.10)	外:底面ヘラケズリ 内:底面全体に指紋押圧痕にナヂ。周囲に棒状工具の 圧痕がある	①良好 ②7.0W7/4 ③角閃石、凝灰岩	30		
第177回134 PL36-134	NB01 灰窓器 甕	【13.0】	[6.0]	3.5	ロクロ成形 外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	①良好 ②5.0W7/1 ③チャート、石英、凝灰岩、頁岩	20		
		法縦(cm) 11径 幅 厚さ	法横(cm) 12径 幅 厚さ						
第177回135 PL36-135	NB01 石器 石器	2.35	1.54	0.4	0.95	同系無杂质 右脚部がやや崩壊	100		
第177回136 PL37-136	NB01 石製品 石器	1.9	0.52	—	0.77	軽軟質 孔隙率 0.25 cm	100		

第47表 J区IV・V 造物観察表(2)

図版番号	遺跡名	種別 器種	法面 (cm) 口径	法面 容積	成形・整形法等の特徴 (器形・式様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④灰分 (%) ⑤備考		
第177 番 137 PL37-137	恵庭部 長頸瓶		6.7	(18.3)	横輪み成形、口クロ調整 外：口閉へ腕中位クロコナダ。腕下部へラケズリ	①焼き締り弱い ②57W/1 ③チャート、石英、雲母	95 胴部に「般若御 瓶」の刻書あり	
第177 番 138 PL37-138	恵庭部 片口瓶		11.6	5.5	3.8	ロクロ成形 外：口クロコナダ、底面凹輪系切口未調整 内：クロコナダ	①焼き締り弱い ②57W/1 ③石英、雲母	100 内部に「風」 の墨書きあり
第177 番 139 PL37-139	土師器 瓶	[9.0]	3.9	15.9	口縁部がやや内気味。瓶頸部はやや下膨れ 外：口縁部クロコナダ。瓶頸タテのヘタケズリ。底面へ ラケズリ	①良好 ②57W/6 ③灰分少、軽分粒。雲母	90	
第177 番 140 PL37-140	恵庭部 馬舌台付瓶		14.0	6.3	5.1	口縁部が強く外反する。ロクロ成形 外：クロコナダ。底面凹輪系切口に馬舌貼付 内：クロコナダ	①焼き締り弱い ②57W/2 ③灰分少、チャート、砂岩	90
第177 番 141 PL37-141	恵庭部 馬舌台付瓶		12.7	7.0	4.7	ロクロ成形 外：クロコナダ。底面凹輪系切口に馬舌貼付 内：クロコナダ	①焼き締り弱い ②57W/1 ③チャート、波紋質	100
第178 番 142 PL37-142	遺構外 裏窓		[17.6]	—	(8.0)	口縁部が上方へ突出し、西面に弱い屈曲をもつ。外 部：ロクロ成形。胴上部河粘土タイ。部分的に指す タケズリ	①良好 ②57W/1 ③チャート、石英、燧石泥	10
第178 番 143 PL37-143	遺構外 裏窓	土師器 瓶	[13.0]	7.0	19.8	口縁部がやや内気味。 外：ロクロコナダ。瓶頸タテのヘタケズリ。底面へ ラケズリ 内：ロクロコナダ。輪縁み瓶。瓶頸タテの指すタケズリ 下部に横筋み瓶	①良好 ②57W/4 ③チャート、石英、燧石泥	60
第178 番 144 PL37-144	遺構外 裏窓	土師器 瓶	[12.6]	—	5.4	内窓口跡 外：ロクロコナダ。体部へラケズリ 内：ロクロコナダ。体部指頭延長後にヨコナダ	①良好 ②57W/6 ③灰分少、雲母質、チャート	同

第48表 J区IV・V 造構観察表(1)

名前	区	面	形状	主軸方位	現地 (cm) 長軸	現地 (cm) 短軸	時期	備考・出土物	
S001	IV		N-28°-W	6.74	0.6	0.16	Az-A 肩下後		
S002	IV		N-46°-W	8.26	0.78	0.14	Az-B 肩下後	土師器、恵庭器	
S003	IV・V		N-42°-W	34.00	2.66	0.30	Az-B 肩下前	SD02 を切る。土師器、恵庭器	
S004	IV		N-4°-E	24.3	6.31	0.39	Az-C 肩下前	土師器、瓶、恵庭器、甌、石器、馬鹿	
S005	IV		N-5°-E	14.54	1.38	0.63	Az-A 肩下後	恵庭器、陶器、礫岩	
S006	V		N-67°-W	20.72	0.52	0.11	Az-B 肩下前か	SD03 を切る。土師器	
S007	V		N-7°-E	11.96	0.56	0.04	Az-B 肩下前		
S008	V		N-6°-E	6.86	0.42	0.07			
S009								矢器	
S010	V		N-6°-E	9.48	0.90	0.13	Az-B 肩下前か	土師器、恵庭器	
S011	V		N-9°-E	1.29	0.44	0.14			
S012	V		N-36°-W	26.90	0.50	0.27	Az-B 肩下前か	土師器、S字口縁台付甌	
S013	V		N-82°-W	7.58	0.40	0.07	Az-B 肩下前か	土師器	
S014	V		N-36°-E	3.42	0.49	0.07			
S015	V		N-55°-E	1.66	0.20	0.03			
S016	V		N-74°-E	6.94	0.94	0.18	Az-B 肩下後	SD07 を切る。土師器	
S017	V		N-89°-E	2.28	0.60	0.11	Az-B 肩下前か	土師器	
S018	V		N-49°-E	13.74	0.70	0.14			
S019	V		N-11°-E	4.48	0.52	0.13	奈良時代か	土師器・S字口縁台付甌。恵庭器	
S020	V		N-39°-E	31.34	0.49	0.11	土師器		
S021	IV	円筒	N-50°-W	1.26	1.12	0.47	Az-B 肩下後		
S022	IV	不整形	N-45°-W	1.98	0.61	0.25	Az-B 肩下前		
S023	IV	円筒	N-0°	0.73	0.71	0.06	Az-B 肩下後		
S024								矢器	
S025	V		長方形	N-34°-W	1.54	0.68	0.18	9世紀末～10 世紀前半	土師器・墨書き。刻書恵庭器長頸瓶
S026	V		長方形	N-50°-W	1.32	0.84	0.34	Az-A 肩下後	
S027	IV	不整形	N-5°-W	1.28	0.74	0.15	Az-A 肩下後	SD04 を切る。恵庭器	
S028	V		横円筒	N-74°-E	2.04	1.02	0.08	中世	SP05 を切る。土師器、甌、灰陶罐
S029	IV	不整形	N-22°-W	0.26	0.68	0.09	Az-A 肩下後		
S030	IV	不整形	N-27°-E	0.64	0.54	0.14		SD04 を切る。	
S031	V	不整形	N-34°-W	1.52	0.44	0.07		SD15 を切る。	
S032	V	不整形	N-30°-E	0.26	0.24	0.16	10世紀前半	土師器、恵庭器・S字口縁台付甌	
S033	V	不整形	N-90°-E	1.54	0.32	0.08		SD17 を切る。土師器	
S034	V	不整形	N-11°-E	2.02	0.54	0.24	10世紀前半	恵庭器・S字口縁台付甌	
S035	V	不整形	N-35°-W	1.44	0.86	0.19	Az-B 肩下前か	SD06 を切る。土師器	
S036	IV	長方形	N-90°-E	2.05	1.20	0.29			
SP01	IV	横円筒	N-33°-W	0.34	0.26	0.12			
SP02	IV	不整形	N-24°-W	0.66	0.34	0.14			
SP03	IV	円筒	N-0°	0.42	0.36	0.07		恵庭器	
SP04	IV	円筒	N-26°-W	0.24	0.20	0.12			
SP05	V	不整形	N-36°-W	2.08	0.11				

第49表 J区IV・V 造構観察表(2)

名称	区	面	形状	主軸方位	埋構(n)			時期	備考・出土遺物
					長軸	短軸	±E.S.		
SP06	V		貴方形	N-49°-W	0.74	0.34	0.04		
SP07	V		円形		0.52	0.48	0.15		土師器
SP08	V		椭円形	N-67°-W	0.38	0.26	0.17	As-B層下底辺	SK06を切る。土師器
SP09	V		椭円形	N-69°-W	0.56	0.42	0.19	As-B層下底辺	土師器
SP10	V		円形		0.64	0.56	0.15		
SP11	V		円形		0.28	0.26	0.06		
NR01	IV		円形		0.89	0.76	0.93	As-B層下後	SK02を切る。
NR01	V	2面		N-36°-W	49.69	5.82	0.69	～9世紀後半	調文土器、土師器・坪・高杯・器台・甕・瓶、粗挽器・坪・大盤、石器、管玉

第25節 J区VI

(1) 調査区の概要

J区VIは区画道路3号線に伴い発掘調査を実施した。

本調査区は、土地改良工事盛土下面を造構検出面として設定した。

J区Vから続く自然流路は第2面として全面発掘を行わず、トレンチを入れることで断面での確認を行った。

本調査区では平安時代～近現代の造構を検出した。造構の内訳は、溝5条、土坑1基、自然流路1条である。

(2) 溝

本調査区では5条の溝を検出した。

SD02・04はAs-B一次堆積層により埋没しており、埋土上位にはAs-Bピンク灰層も確認できた。SD02・04は連続する溝と推定でき、J区IV・V SD03に接続する台地際を流れる溝であると考えられる。

SD02・04の北側肩には、性格は不明だが、As-B下で段が確認でき、周囲のAs-B下水田に関係する造構の可能性がある。

(3) 土坑

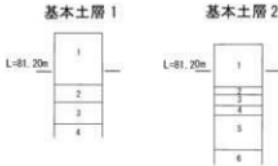
本調査区では1基の土坑を検出した。

遺物に乏しく、SK01の詳細な性格を掴むことはできなかった。

(3) 自然流路

本調査区では1条の自然流路を検出した。全面発掘は行わず、トレンチによる断面調査を行った。

SD02・04に先行し、平安時代までには埋没する。NR01はJ区V第2面で調査を行った台地際を流れる自然流路(J区V NR01)の続きであると推定できる。



基本土壤1

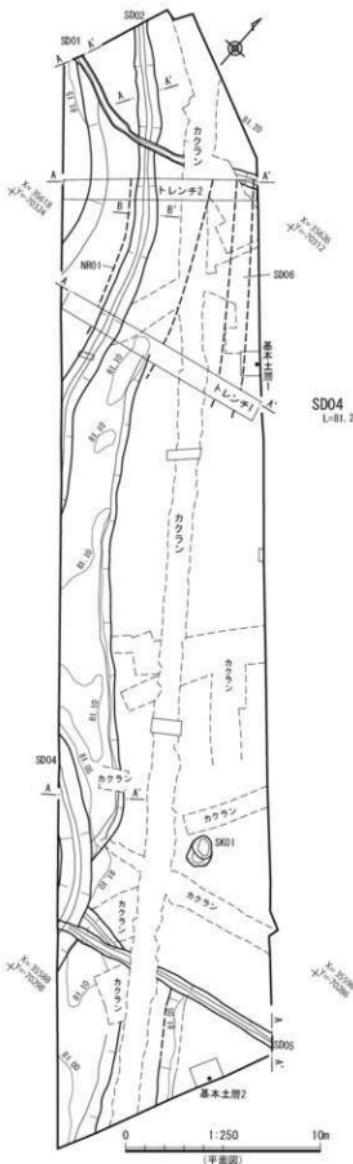
- 1 砂表土
- 2 黄褐色土 (T.5YR5/1) 粘性強い。しまり強い。白色粘少量。0.5～2mm粒石微量。酸化鉄分少。
- 3 黑褐色土 (T.5YR3/2) 粘性強い。しまり強い。白色粘少量。0.5mm程の粒石微量。酸化鉄分少。
- 4 黄褐色土 (T.5YR6/1) 粘性やや強い。しまりやや強い。0.5～2mm粒石少量。砂質土層じる。酸化鉄分やや多く沈着。シルト層。

基本土壤2

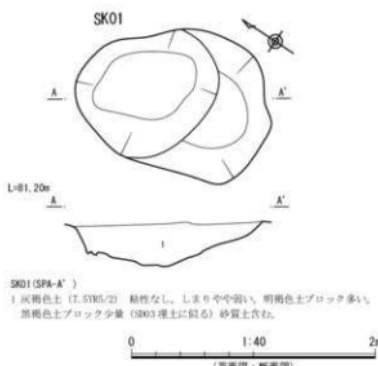
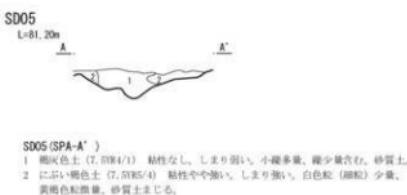
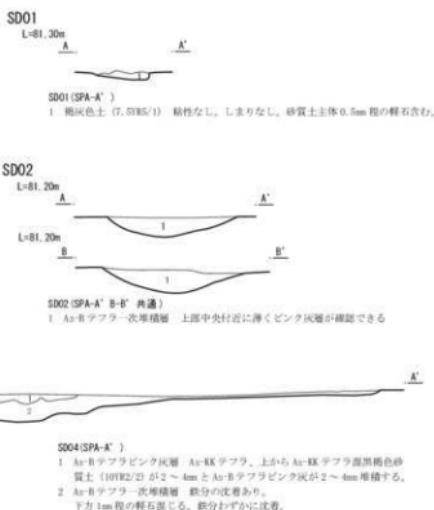
- 1 砂表土
- 2 にじむ黄褐色土 (T.5YR5/4) 粘性なし。しまりなし。As-Bテフラ混入。砂質土。
- 3 黑褐色土 (T.5YR3/2) 粘性強い。しまり強い。白色粘少量。黄褐色粘少量。酸化鉄分少。
- 4 黄褐色土 (T.5YR5/1) 粘性強い。しまり強い。白色粘微量。0.5mm程の粒石含む。酸化鉄分少。
- 5 黑褐色土 (T.5YR3/1) 粘性強い。しまり強い。白色粘少量。0.5mm程の粒石含む。酸化鉄分少。
- 6 灰褐色土 (T.3YR6/2) 粘性やや強い。しまりやや強い。白色粘少量。0.5～1mm粒石少量。砂質土じる。酸化鉄分沈着。



第179図 J区VI 基本土壤

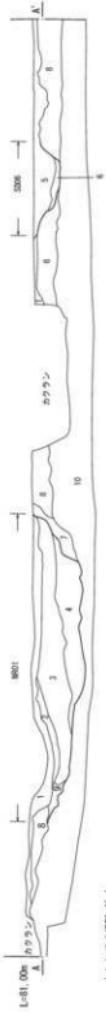


第 180 図 J 区 VI 遊構全体図



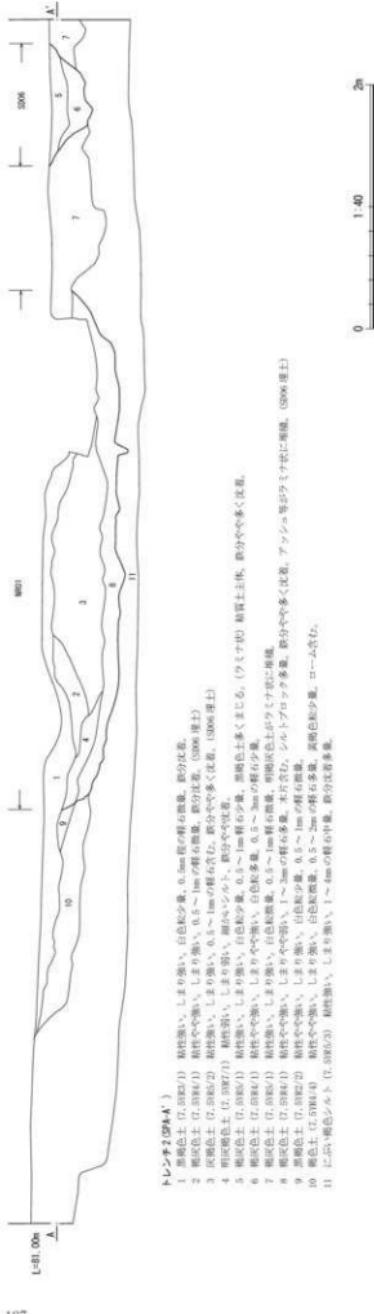
第 181 図 J 区 VI SD01・02・04・05、SK01 遊構図

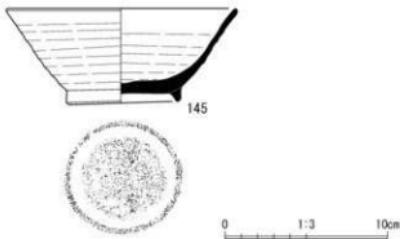
トレンチ 1



トレンチ 2

トレンチ 2





第 183 図 J 区 VI 遺物図

第 50 表 J 区 VI 遺物観察表

国宝番号	遺構名	種別 器種	法面 口径	法面 底径	法面 断面	形成・整形技法等の特徴(器形・文様の特徴)			①焼成 ②色調 ③釉土	残存 (%)	備考
						外: ロクロナデ、底面凹凸系切後に高台貼付 内: ロクロナデ	①焼成 ②M7/1 ③瓦器、磁灰器、チャート				
第 183 番 145 11.37-145	遺構外 渠底面	渠底面	[14.0]	6.6	5.9					60	

第 51 表 J 区 VI 造模観察表

名称	形状	主軸方位	規模 (m)	時期	備考・出土遺物	
S001	N-72°-E	11.56	0.40	0.53	土師器、須恵器、陶器	
S002	N-30°-W	25.5	1.20	0.17	As-B 落下前	
S003					灰土	
S004	N-40°-E	12.0	1.50	0.2	As-B 落下前	
S005	N-78°-E	12.6	0.80	0.16	As-B 落下後	
S006	N-40°-W		1.00	0.35	As-B 落下前	
S007	楕円形	N-29°-W	1.60	1.20	0.35	土師器
S008		N-24°-W	1	4.24	0.68	～9世紀後半か

第 26 節 小調査 (E 区 I -2)

(1) 小調査の概要

公共トイレ設置工事に伴い、対象地の小調査を行った。トイレ設置工事によって掘削が及ぶ深さまで掘削し、記録保存を行った。

調査区には E 区 I -2 として番号を割り振った。

(2) 壊穴建物跡

本調査区では、壊穴建物跡 1 軒を検出した。

S101 は、榛名山由来の洪水堆積層を掘り込んで構築されている。主軸方向は N-24°-E、検出長は南北 1.03m、東西 3.01m である。調査区北東端に焼土や灰の堆積が認められ、おそらく調査区外に東カマドが取りつくものと考えられる。

出土遺物から 9 世紀の壊穴建物跡と考えられる。遺物は図化に至らなかった。

調査区一帯は、As-B の堆積は確認できず、微高地であると考えられる。

第 27 節 試掘・立会調査

(1) 試掘調査の概要

道路工事以外の高崎 354 複合産業団地企業用地部分については、TE1 ~ 13 の番号を割り振り、トレンチによる試掘調査を行った。

立会調査には T1 ~ 8 の番号を割り振った。

(2) 試掘調査区について

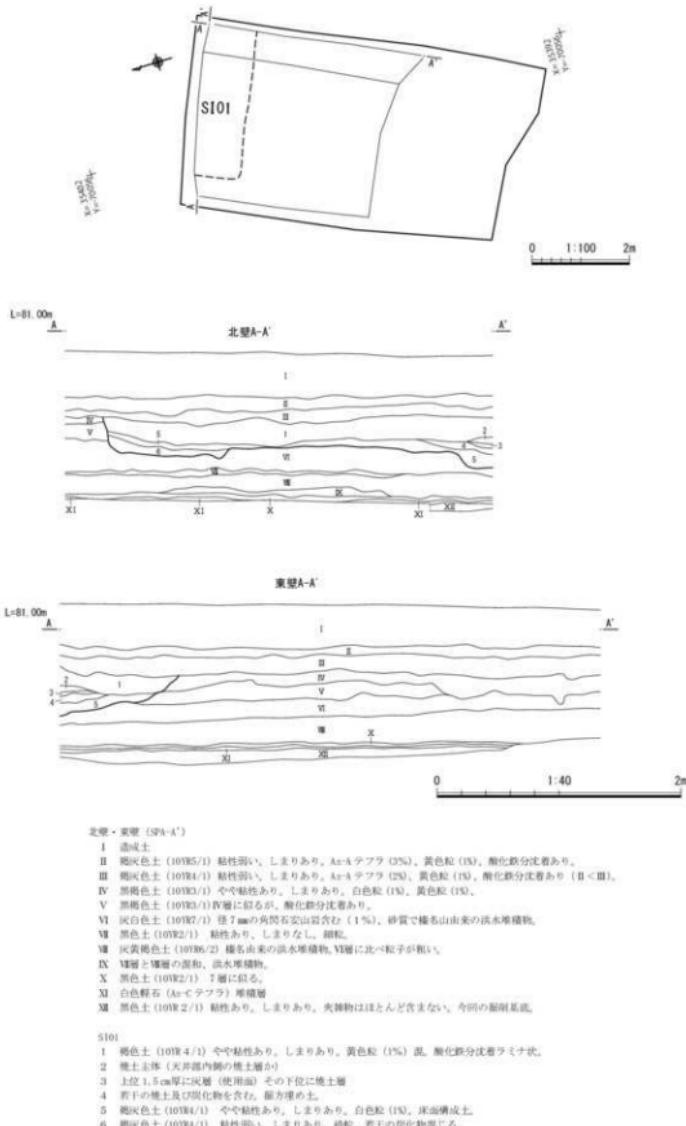
TE1

6・11T において、標高約 77.5m の深さでほぼ東西方向の As-B 下水田畠を検出した。また、10T では As-B 下水田の段を検出した。

1・3T において、H 区 IV から連続する溝 1 条、As-A 処理坑 19 基検出した。

TE2

7・8・9・11・13・14・15・16・17・18・19T において、標高約 79.3 ~ 78.8m の深さで



第184図 E区I-2 造構図

As-B 下水田面を検出した。水田面の標高は南東に向かって低くなる。

7・8Tでは、ほぼ正位東西方向のAs-B下畦を検出した。

TE3

4・6・7・9・10・11・12Tにおいて、標高約79.6～79.3mの深さからAs-B下水田面を検出した。4・7Tにおいて、ほぼ東西方向の畦を検出した。

TE4

1・2・3・8Tで標高約78～77.7mの深さにおいてAs-B下水田面を検出した。さらに2Tでは、畦を検出した。

TE5

5・6・11・12・13・14・15・16・17・18Tにおいて標高約79.9～79.7mの深さからAs-B下水田面を検出した。水田面は調査区北東へ向けて下がっている。12Tでは東西方向の畦を検出した。

TE6

17・18Tにおいて、標高約74.9mの深さからAs-B下水田耕土と考えられる黒色粘質土を検出した。

TE7

As-B一次堆積層は確認できず、As-B下水田の残存を確認できなかった。

TE8

TE2・3・5の試掘調査でTE8も含めて試掘を行ったため、報告もTE2・3・5の各項に含まれる。

TE9

TE6と合わせて試掘調査を行ったため、報告もTE6に含まれる。

TE10

調査区南端を除くほぼ全域で、標高約81.2～80.9mの深さからAs-B一次堆積層と直下の水田面を検出した。

As-B下水田面に伴う畦は1Tで1条、2Tで2条、3Tで1条、4Tで4条、5Tで2条、6Tで1条、7Tで3～4条、9Tで1条、11Tで1条、12Tで3条検出した。9・11Tではいわゆる大畦も検出でき、9T南端で東西に走り、11Tで9Tで検出した大畦と南北方向大畦が交差している。坪交点となる可能性がある。

他の遺構として、As-B降下後の溝を1・6Tで、As-A降下前の溝を7・9・12Tで、As-B混土で埋まつたピット1基を10Tで検出している。

地形としては6T北端で微高地と低地の境界部分を検出し、土師器片が出土している。

TE11

1・2Tの一部と4～7Tで、標高約81～80.7mの深さからAs-B下水田面を検出した。1・5・7Tで畦を検出した。

As-B下水田以外の遺構は10TでAs-A処理坑

を検出した他、溝・自然流路を多数検出した。

TE12

全トレンチから標高約80.3～79.8mのAs-B下水田面を検出した。

1T北端で、As-B下水田に関係し北へ向かって下がる段を検出した。他に畦1条を検出した。

2T全体で低平な畦を複数検出した。

3TではAs-B直下で、東西走向畦3条、南北走向畦1条、両端が盛り上がる溝1条を検出した。他にAs-B混土を埋土とする土坑2基、近現代溝を検出した。

4TではAs-B下東西走向畦5条、南北走向畦2条、両端が盛り上がる溝1条を検出した。他にAs-B降下以降の溝2条を検出した。

TE13

調査区北寄りを除き、標高約80.2～80.1mのAs-B下水田面を検出した。5・6T北側で地形変換点を検出し、その南で東西方向の畦を検出した。

7T全体と8T北側は微高地となっており、トレンチ南側で畦畔を検出した。

他に8Tで中世以降の土坑・ピット2基を検出した。

TE14

3・13Tにおいて標高約79mの深さでAs-Bの極薄い堆積を確認した。

他にAs-B降下後～昭和期までの溝を検出した。

(3) 立会調査について

T1

対象地は微高地であり、As-B一次堆積層は確認できなかつた。約GL-40cmでAs-B混土下に複数の焼土を確認したが、堅穴建物跡と認定するに至らなかつた。

T2

切れ切れながら、As-B一次堆積層と畦が確認でき、As-B水田面の範囲と考えらえる。

T3

As-B一次堆積層や遺構は確認できなかつた。

T4・5

As-B一次堆積層は確認できなかつた。As-B混土下には一帯のAs-B下水田耕土と同一の黒色粘質土が堆積していた。

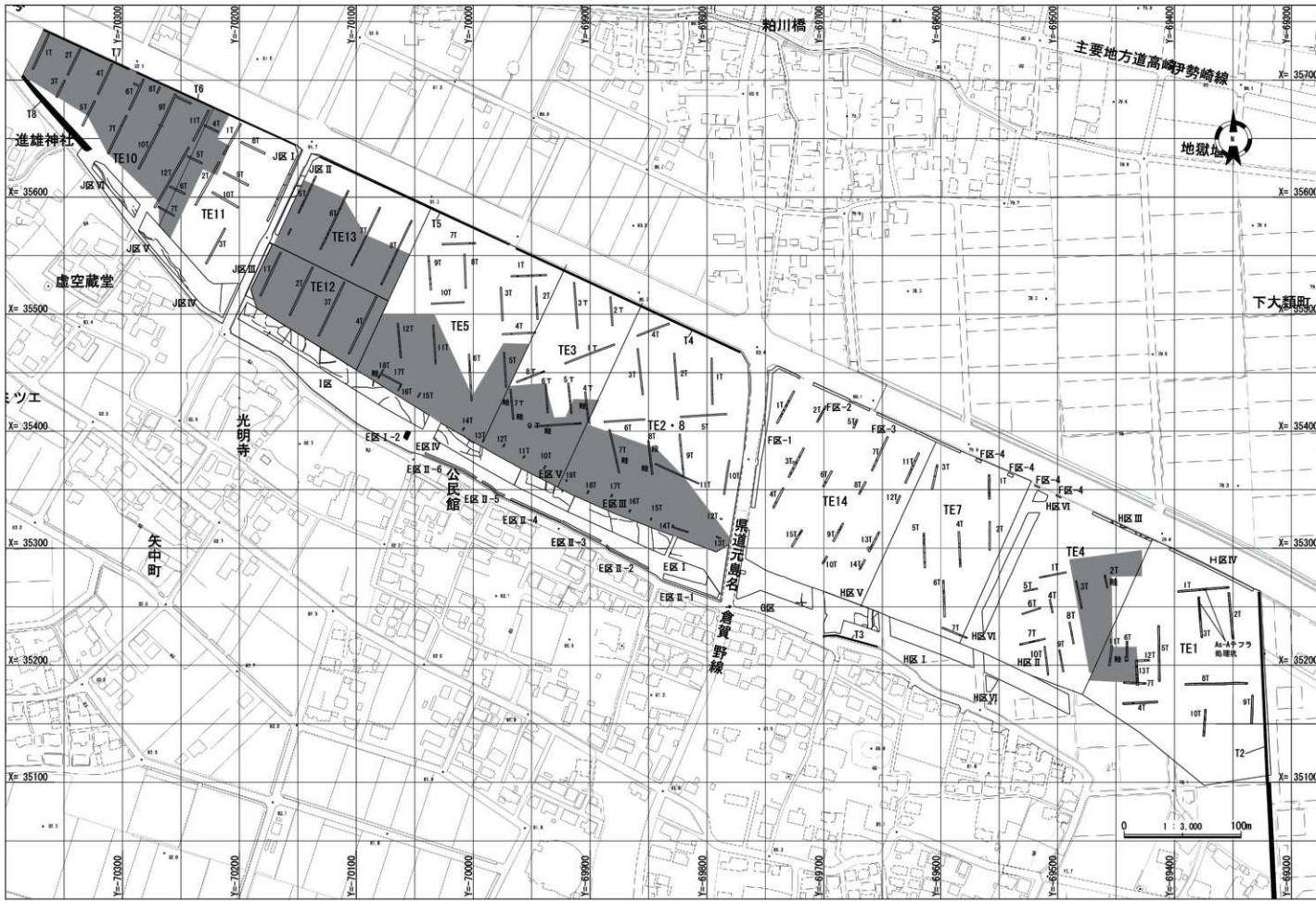
他にAs-B混土の溝を検出した。

T6・7

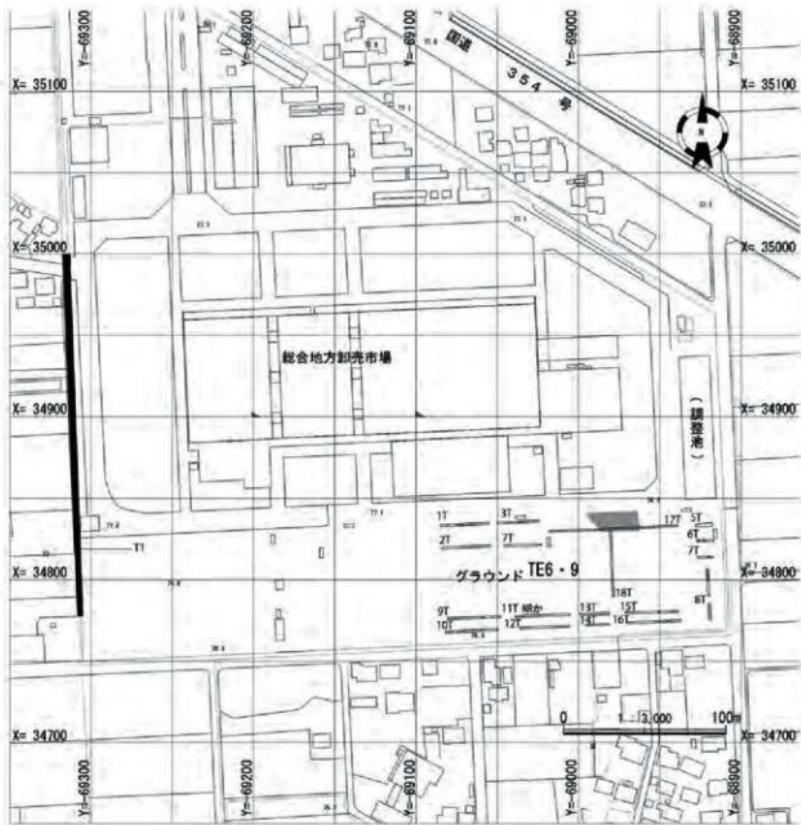
T6西側とT7でAs-B一次堆積層を確認した。畦は検出できなかつた。

T8

As-B下水田耕作土と考えられる黒色粘質土の堆積は確認できたが、削平されており畦や水田面は検出できなかつた。



第185図 小調査、試掘・立会調査区全体図(1)



第 186 図 小調查、試掘・立会調査区全体図 (2)

第4章 自然科学分析

高崎市卸売市場周辺遺跡
自然科学分析業務報告

株式会社古環境研究所

I. プラント・オバール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_4) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オバール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オバール分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山, 2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山, 1984）。本報告では、卸売市場周辺遺跡の発掘調査で検出された水田作土、水田畔土およびその他の層についてプラント・オバール分析を行い、稻作をはじめとする農耕の様相および周辺植生を推定し、当時の土地利用や環境について検討する。

2. 試料

分析試料は、795E区IVの砂質土下水田耕土（黒褐色土・Hr-FFを含む）の試料①～③の3点、同砂質土下水田下（黒褐色粘質土）の試料①～③の3点、同褐色砂質土（6層）、795H区Vの畔2secの試料1～6の6点、795I区の西壁深掘1TsecAの6層上部（As-B直下黒褐色土）と6層下部（As-B下黒褐色土）の2点の計15点である。

3. 方法

- 1) プラント・オバール分析は、ガラスビーズ法（藤原, 1976）を用いて、次の手順で行った。
- 2) 土壌サンプルの表面約5mmを除去後、新鮮な部分の土壌約10cm³を採量する。
- 3) 採量した試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）する。
- 4) 電気炉灰化法（550°C・6時間）により脱有機物処理を行う。
- 5) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）により分散する。
- 6) 沈底法により20μm以下の微粒子を除去する。
- 7) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラートを作製する。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オバールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が500以上になるまで行った。これはほぼプレ

パラート1枚分の精査に相当する。検鏡結果は、計数値を試料1中のプラント・オバール個数（試料1gあたりのガラスビーズ個数）に、計数されたプラント・オバールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（ここでは1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-3}g ）を乗じて、単位面積で厚層1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山, 2000）。

各分類群の換算係数は、イネ（赤米）は2.94（種実重は1.03）、ヨシ属（ヨシ）は6.31、スキ属（スキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、チマキザサ節は0.75、ミヤコザサ節は0.30である（杉山, 2000）。

4. 結果

(1) 分類群

検出されたプラント・オバールの分類群は以下のとおりである。これらについて定量を行い、その結果を表1、図1に示した。また、主要な分類群の顕微鏡写真を図版1に示す。

[イネ科]

イネ、キビ族型、ヨシ属、サヤヌカグサ属、スキ属型、ウシクサ族型

[イネ科ータケ亜科]

メダケ節型（メダケ属メダケ節・ヤダケ属など）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、その他タケ亜科

[イネ科ーその他]

未分類等

[プラント・オバール以外]

海綿骨針

(2) プラント・オバールの検出状況

以下に、プラント・オバールの検出状況を記す。なお、植物珪酸体の生産量は植物種によって相違することから、検出密度の評価は分類群によって異なる。

1) 795E区IV 砂質土下水田耕土（試料①～③）
イネは、3試料すべてで検出されている。プラント・オバール密度は、試料①と試料③は比較的高い値であるが、試料②は低い値である。ヨシ属は、すべての試料で検出されている。試料①は高い密度であり、試料②と試料③は比較的高い密度である。スキ属もすべての試料で検出されている。試料①は高い密度であるが、試料②と試料③はやや低いか低い密度である。他の分類群では、キビ族型、ウシクサ族型、メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が検出されているが、いずれもやや低いか低い密度である。

2) 795E 区IV 砂質土下水田下 (試料①～③)

イネは、3試料すべてで検出されている。試料③は比較的高い密度であるが、試料①と試料②はやや低い密度である。ヨシ属とスキ属もすべての試料で検出されている。ヨシ属は、試料①と試料③で高い密度であるが、試料②ではやや低い密度である。スキ属は、試料②で高い密度であり、試料①と試料③では比較的高い密度である。他の分類群では、キビ族型、ウシクサ族型、メダケ節型、ネザサ節型が検出されているが、いずれも低い密度である。

3) 795E 区IV 暗灰色砂質土

ここでは、スキ属のみが確認された。プラント・オパール密度は低い値である。

4) 795H 区V 畦 2Sec (試料1～6)

イネは、6試料すべてで検出されている。試料①と試料③は比較的高い密度であるが、その他はやや低い密度である。ヨシ属、スキ属、メダケ節型もすべての試料で検出されている。ヨシ属はすべての試料で高い密度であり、試料2～試料5では非常に高い密度である。スキ属は、試料5と試料6で高い密度であり、試料1～試料4では比較的高い密度である。メダケ節型は、試料2で高い密度であり、試料4～6では比較的高い密度である。試料1と試料3ではやや低いか低い密度である。他の分類群では、キビ族型、サヤヌカグサ属、ウシクサ族型、ネザサ節型、チマキザサ節型が検出されているが、いずれも低い密度である。プラント・オパール以外に、各試料でやや低いか低い密度で海綿骨針が検出されている。

5) 795I 区 西壁深掘 1TsecA (6層上部、6層下部)

イネは、両試料で検出されている。いずれも比較的高い密度である。ヨシ属、スキ属、メダケ節型もすべての試料で検出されている。ヨシ属とメダケ節型は、各試料とも比較的高い密度である。スキ属は、6層上部で高い密度であり、6層下部では比較的高い密度である。他の分類群では、キビ族型、ウシクサ族型、ネザサ節型、チマキザサ節型が各試料で検出されているが、いずれも低い密度である。ここでも海綿骨針が各試料で少量検出されている。

5. 考察

(1) 稲作の可能性について

プラント・オパール分析において稲作跡の探査や検証を行う際には、通常、イネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。ただし、最近の調査では密度が3,000個/g程度あるいはそれ未満であっても水田遺構が検出された事例が報告されていることから、ここでは判断の基準を3,000個/g

として検討を行う。

1) 795E 区IV 砂質土下水田耕土

砂質土下水田耕土では、試料①～③のすべてからイネが検出されている。試料①では密度が3,000個/gであり、稲作跡の判断基準値に達している。こうしたことから、分析結果は当該層が水田耕作土であることを支持している。なお、試料③では密度が2,100個/gと比較的高い値であるが、試料②では900個/gと低い値である。このことは、地点によって水田の耕作期間に違いがあったか、洪水や流水等で耕作土が流出した可能性があることを示唆している。

2) 795E 区IV 砂質土下水田下

砂質土下水田下では、試料①～③のすべてでイネが検出されている。試料③では2,500個/gと比較的高い密度であるが、試料①と試料②では密度はそれぞれ1,200個/g、1,900個/gとやや低い値である。いずれも稲作跡の判断基準値には満たないが、砂質土下水田耕土と同程度の密度であることから、当該層においても稲作が行われていた可能性が考えられる。なお、プラント・オパール密度が低いことの要因としては、1) 稲作が行われた期間が短かった、2) 稲の生産性が低かった、3) 試料採取箇所が畦畔など耕作面でなかった、4) 土層の堆積速度が速かった、5) 耕作土の一部が流出した、などが考えられる。

3) 795E 区IV 暗灰色砂質土

ここでは、プラント・オパールの産出量は少なく、スキ属が少量検出されたのみである。土層の堆積速度が速かったか、イネ科草本植物の生育に適さない堆積環境であったとみられる。

4) 795H 区V 畦 2Sec

畔2では、黒褐色粘質土の試料1、試料3、試料5、暗褐色粘質土の試料2、試料4、試料6のすべてでイネが検出されている。黒褐色粘質土の試料3では密度が3,700個/gであり、稲作跡の判断基準値を超過している。同じく試料1では2,300個/gと比較的高い密度である。こうしたことから、黒褐色粘質土および暗褐色粘質土は水田に伴う畦畔と判断され、畦の構築や作り替え、畔塗りに水田土壤が使われていたり、稻藁が利用されていた可能性が考えられる。

5) 795I 区 西壁深掘 secA

ここでは、6層上部と6層下部でイネが検出されている。密度はそれぞれ2,200個/g、2,900個/gと比較的高い値であるが、稲作跡の判断基準値には達していない。こうしたことから、これらの層では調査地もしくは近傍で稲作が行われていた可能性が考えられる。調査地で稲作が行われていたとするならば、プラント・オパール密度が低いことに関しては、前述のようなことが要因としてあげられる。

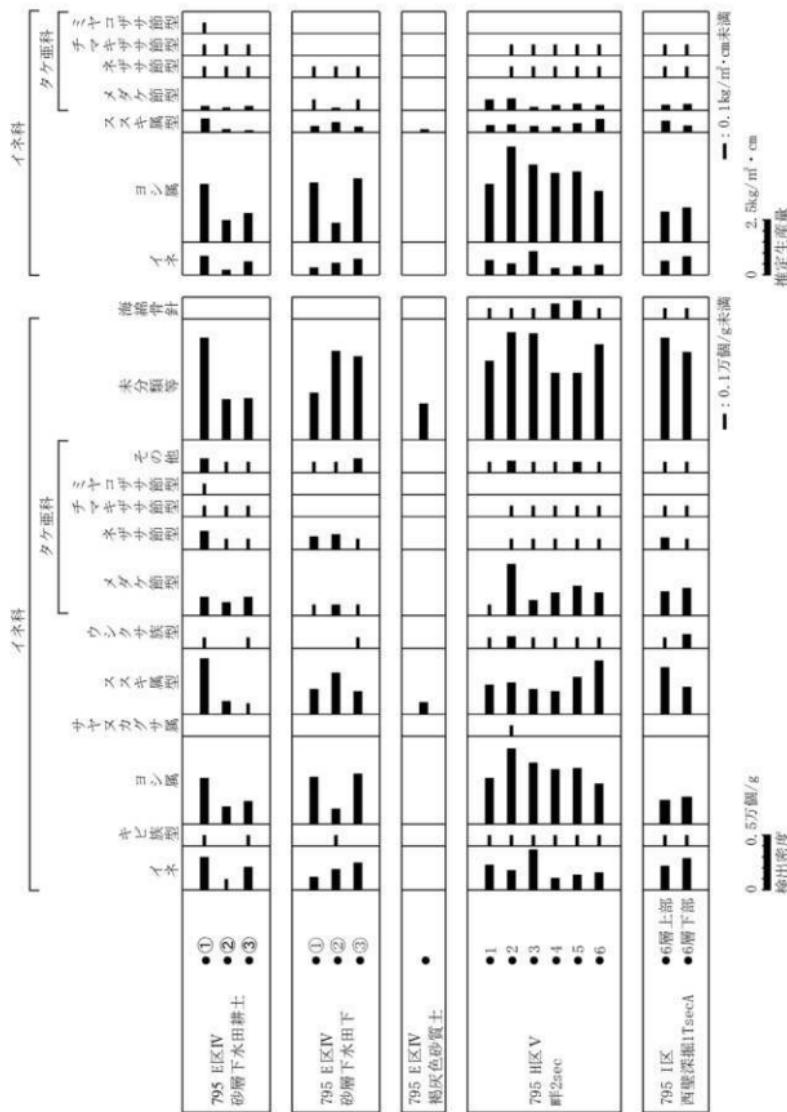
第5表 自然科学分析 鈴鹿市堀田邊通跡におけるプラント・オバール分析結果

検出密度 (単位 : ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料	795 区											
			795 E区IV				795 W区V				795 区VI			
			砂質土下水田耕土		砂質土下水田下		褐灰色		シルト		砂質土下水田耕土		シルト	
イネ科	Gramineae		(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)
イネ キビ様型	<i>Oriza sativa</i> <i>Panicace type</i>	30 8 21 12 19 25 23 18 37 11 14 16 22 29												
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	4 4 5 4 5 4 4 5 7 3 4 4 4 4												
サヤスカサグサ属	<i>Leersia sayanica</i>	42 16 21 43 14 46 42 69 56 50 51 37 22 25												
スキサ属型	<i>Miscanthus type</i>	51 12 8 23 38 21 11 27 29 23 21 34 49 43 25												
ウシクサ属型	<i>Andropogoneae type</i>	8 4 4 4 4 4 11 5 4 3 4 4 4 13												
タケ草科	<i>Bambusoideae</i>													
メダケ節型	<i>Pleoblastus sect. Nipponocatla</i>	17 12 17 4 10 8 8 47 14 21 27 21 22 25												
ネザサ節型	<i>Pleoblastus sect. Nezasa</i>	17 8 4 12 14 8 7 5 7 7 4 11 8												
チマキササ節型	<i>Sasa sect. Sasa etc.</i>	4 4 4 4 4 4 5 7 3 4 4 4 8												
ミヤコササ節型	<i>Sasa sect. Crassinodi</i>	4 4 4 4 4 4 4 5 13 8 11 9 7 10 8 4 8												
その他	Others	13 4 4 4 4 4 5 13 8 11 9 7 10 8 4 8												
その他のイネ科	Others	93 37 38 43 81 76 33 72 98 97 61 61 87 93 80												
未分類等	Others													
海綿性針	Sponge													
プラント・オバール總!Total		283 101 125 141 186 201 44 188 302 256 196 213 234 229 225												

おもな分類群の推定生産量 (単位 : kg/m²・cm) : 試料の乾比重を1.0と仮定して算出

イネ ヨシ属	<i>Oriza sativa</i> <i>Phragmites</i>	0.88 0.24 0.62 0.35 0.56 0.74 0.68 0.53 1.09 0.32 0.41 0.47 0.65 0.85
スキサ属型	<i>Miscanthus type</i>	0.63 0.15 0.10 0.29 0.47 0.26 0.14 0.33 0.36 0.29 0.26 0.42 0.61 0.53 0.31
メダケ節型	<i>Pleoblastus sect. Nipponocatla</i>	0.20 0.14 0.20 0.05 0.12 0.09 0.09 0.55 0.16 0.24 0.31 0.24 0.26 0.29
ネザサ節型	<i>Pleoblastus sect. Nezasa</i>	0.08 0.04 0.02 0.06 0.07 0.04 0.03 0.02 0.03 0.03 0.02 0.05 0.04
チマキササ節型	<i>Sasa sect. Sasa etc.</i>	0.03 0.03 0.03 0.03 0.03 0.03 0.03 0.04 0.05 0.02 0.03 0.03 0.06
ミヤコササ節型	<i>Sasa sect. Crassinodi</i>	0.01



第187回 自然科学分析 割売市場周辺遺跡のプラント・オバール分析結果

(2) プラント・オパール分析から推定される植生と環境

ヨシ属やマコモ属は湿地あるいは湿ったところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育する。そこで、これらの植物の産出状況を検討することで、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。これらを参考にして、稻作の可能性と周辺環境について検討する。

今回の調査地では、各試料でヨシ属が高い密度で優勢である。したがって、これらの層の時期の調査地近辺は、いずれも湿地もしくは湿地に近い環境であったと推定される。また、それぞれの地点ではススキ属も高い密度であることは比較的高い密度であることから、水田の畦畔や周辺の乾いたところにススキ属が生育していた可能性がある。なお、ススキ属の多くは乾いた環境に生育するが、オギは湿地に群落を形成する。現時点ではプラント・オパールの形状からオギを特定することは困難である。上述したように、調査地近辺は湿地あるいはそれに近い環境とみられることから、そこにオギが生育していた可能性も考えられる。一方、周辺の乾いたところにはササ類（おもにメダケ節など）が生育していたと推定される。

6.まとめ

卸売市場周辺遺跡における水田稲作の可能性と周辺環境を検討することを目的に、プラント・オパール分析を行った。その結果、砂質土下水田耕土（黒褐色土・Hr-FPを含む）において稲作が行われていたことが分析的にも確認された。さらに、砂質土下水田下（黒褐色粘質土）でも稲作が行われていた可能性が認められた。また、畦2secでは、黒褐色粘質土と暗褐色粘質土とともに水田に伴う畦畔と判断された。西壁深掘17secでは6層上部（As-B直下黒褐色土）と6層下部（As-B下黒褐色土）でも調査地もしくは近傍で稲作が行われていた可能性が考えられた。

参考文献

- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）。考古学と植物学。同成社, p.189-213.
- 杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—。考古学と自然科学, 19, p.69-84.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—。考古

学と自然科学, 17, p.73-85.

II. 火山灰分析

1.はじめに

高崎市に所在する卸売市場周辺遺跡では、調査区内の土層断面より火山灰（テフラ）とされる碎屑物の堆積が確認されている。本報告では、それら碎屑物の特性を明らかにすることにより、由来するテフラを同定し、調査区内土層の堆積に關わる資料を作成する。

2. 試料

試料は、調査区内の土層断面より採取された4点の砂質土壌である。各試料には1~4までの試料番号が付されている。これらのうち、試料番号1と2は灰褐色を呈する土壌の中に最大数mm程度の白色粒が観察される。また試料番号3は径1~2mm程度の砂粒を多量に含む土壌であり、試料番号4は固結した灰白色を呈する砂質シルト塊である。

各試料の採取地点等の詳細は、分析結果を示した表1に併記する。

3. 分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた纖維束状のものとする。

4. 結果

結果を表1に示す。各試料には少量から多量までの軽石が確認され、スコリアおよび火山ガラスは認められなかった。以下に各試料の軽石の特徴を述べる。

試料番号1: 軽石が少量含まれる。軽石には色調や発泡度の異なる2種類が認められる。軽石の多くは、灰白色を呈し、発泡不良、角閃石の斑晶を包有する。最大径は約2.5mmである。これに少量の灰褐色で発泡や不良、斜方輝石の斑晶を包有する軽石が混在する。この軽石の最大径は、約1.3mmである。

試料番号2: 軽石が中量含まれる。軽石は、灰白色を呈し、発泡不良、角閃石の斑晶を包有する。最大径は約4mmである。

試料番号3: 軽石が多量含まれる。軽石は、灰褐色を呈し、発泡や不良、斜方輝石の斑

第53表 自然科学分析 テフラ分析結果

地点名等	試料番号	スコリア	火山ガラス	軽石		
		量	量	量	色調・発泡度	最大粒径
I区西壁深掘1TsecA 6層上部	1	—	—	++	GW・b(ho)>GBr・sb(ox)	2.5
I区西壁深掘1TsecA 8層	2	—	—	+++	GW・b(ho)	4.0
795E区V掘削痕3 サンプル1	3	—	—	++++	GBr・sb(ox)	2.7
795E区III 砂層中	4	—	—	+++	W・b	0.7

凡例 一:含まない、(+)きわめて微量、+ :微量、++ :少量、+++ :中量、++++ :多量。

GW:灰白色、GBr:灰褐色、W:白色。

g:良好、sg:やや良好、sb:やや不良、b:不良、最大粒径はmm。

(ho):角閃石斑晶包有、(ox):斜方輝石斑晶包有。

品を包有する。また、同試料中には、灰黒色や黒色を呈する角礫状の岩片も比較的多く混在する。

試料番号4: 軽石が中量含まれる。軽石は、最大径約0.7mmと細粒であり、白色を呈し、発泡は不良である。

5. 考察

分析結果から、3種類の軽石が識別される。1つは試料番号2に中量含まれ、試料番号1にも少量含まれる灰白色軽石である。軽石の色調と発泡度および角閃石の斑晶を包有することから、この軽石は古墳時代に榛名火山から噴出したテフラである榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP) (新井, 1979; 早田, 1989) に由来すると考えられる。Hr-FPの噴火は軽石噴火を主体とする活動であり、放出された軽石の分布軸は北東方向に向いており、遠隔地においても軽石として認められている (早田, 1989)。Hr-FPの噴出年代は、6世紀第二四半期頃とされている (坂口, 1993)。

試料番号3に含まれる多量の軽石は、色調や発泡度および斜方輝石の斑晶を包有することから多量の岩片を伴うことから、平安時代の天仁元年(1108年)に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B: 新井, 1979)に由来すると考えられる。試料番号1には同様の軽石が少量混在するが、これは、試料が採取された土層が発掘調査所見によりAs-B直下の土層であるとされていることから、上位の土層からの擾乱によると考えられる。

試料番号4に中量含まれる細粒の軽石は、採取された試料が砂質シルト塊様を呈することと、その色調や発泡度および粒径から、古墳時代に榛名火山から噴出したテフラである榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA) (新井, 1979; 早田, 1989)に由来すると考えられる。Hr-FAの噴火は火碎流の噴出を主体とする活動であり、火碎流から舞い上がった細粒の碎屑物の分布域は給源から東方に広がり、遠隔地では

細粒の火山ガラスを含むことを特徴とする。Hr-FAの噴出年代は、5世紀末から6世紀第1四半期ぐらいまでとされている (坂口, 1993; 中村ほか, 2008)。

引用文献

新井房夫, 1979, 関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層、考古学ジャーナル, 157, 41-52.

中村賢太郎・早川由紀夫・藤根 久・伊藤 茂・廣田正史・小林紘一, 2008, ウィグルマッチング法による榛名渋川噴火の年代決定(再検討)。日本第四紀学会講演要旨集, 38, 18-19.

坂口 一, 1993, 火山噴火の年代と季節の推定法。新井房夫編 火山灰考古学。古今書院, 151-172.

早田 勉, 1989, 六世紀における榛名火山の二回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, 297-312..

III. 成分分析(土器内の土壤)

1.はじめに

卸売市場周辺遺跡の発掘調査で出土した土器の用途・使用状況を明らかにする目的で、土器内の土壤を対象として成分分析(室素安定同位体比分析)を実施する。

2. 試料と方法

分析試料は、795J区VのSP8土器内部土壤1点である。

室素安定同位体比分析は、以下の方法で行う。

- 1) 試料を蒸留水で洗浄し細かく碎く。
- 2) 植物の小根など混入物の存在を顕微鏡で調べ、存在する場合は注意深く取り除く。
- 3) 塩酸(1.2N HCl)により炭酸塩を除去後、水酸化ナトリウム(1N NaOH)により二次的

- に混入した有機酸を除去する。
- 4) 再び塩酸(1.2N HCl)で洗浄後、蒸留水で洗浄し乾燥させる。
 - 5) 試料をスズカプセルに約1mg秤量したのち、装置内の燃焼管に落とし、酸素を含むヘリウム(キャリヤーガス)気流中で燃焼、ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させる。
 - 6) 還元管を通過させ還元銅によって窒素酸化物を還元させ、さらに過塩素酸マグネシウムでH₂Oを除去する。燃焼ガスを均一化した後、分離カラムに通しCO₂及びN₂ガスを成分分離する。
 - 7) 分離した分離した炭酸ガス(質量44)及び窒素ガス(質量28)と、これらの安定同位体からなる炭酸ガス(質量45、46)及び窒素ガス(質量29、30)を質量分析計(Isotope Ratio Mass Spectrometer:IR-MS)で検出し、その信号強度から炭素および窒素の同位体比を算出する。

3. 所見

前処理を行った結果、分析の対象となつた土壌には有機質物質は認められず、当該試料からは炭素安定同位体比を得ることができないと判断された。安定同位体比分析による成分分析では、窒素安定同位体比と炭素安定同位体比を合わせて検討する必要があることから、本試料は安定同位体比分析には不適当であり、分析の実施は困難であった。

IV. 成分分析(土器内の付着物)

1. はじめに

卸売市場周辺遺跡の墓坑で出土した土器の用途・使用状況を明らかに目的で、土器内の付着物を対象として成分分析(窒素安定同位体比分析、リン・カルシウム分析)を実施する。

2. 試料と方法

分析の対象となつた試料は、795J区VのSK5-No.2墓坑出土土器内面付着物1点である。窒素安定同位体比分析とリン・カルシウム分析は

- (1) 窒素安定同位体比分析
- 1) 試料を蒸留水で洗浄し細かく碎く。
- 2) 植物の小根など混入物の存在を顕微鏡で調べ、存在する場合は注意深く取り除く。
- 3) 塩酸(1.2N HCl)により炭酸塩を除去後、水酸化ナトリウム(1N NaOH)により二次的に混入した有機酸を除去する。
- 4) 再び塩酸(1.2N HCl)で洗浄後、蒸留水で洗浄し乾燥させる。
- 5) 試料をスズカプセルに約1mg秤量したのち、装置内の燃焼管に落とし、酸素を含むヘリウム(キャリヤーガス)気流中で燃焼、ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させる。
- 6) 還元管を通過させ還元銅によって窒素酸化物を還元させ、さらに過塩素酸マグネシ

ウムでH₂Oを除去する。燃焼ガスを均一化した後、分離カラムに通しCO₂及びN₂ガスを成分分離する。

- 7) 分離した分離した炭酸ガス(質量44)及び窒素ガス(質量28)と、これらの安定同位体からなる炭酸ガス(質量45、46)及び窒素ガス(質量29、30)を質量分析計(Isotope Ratio Mass Spectrometer:IR-MS)で検出し、その信号強度から炭素および窒素の同位体比を算出する。

(2) リン・カルシウム分析

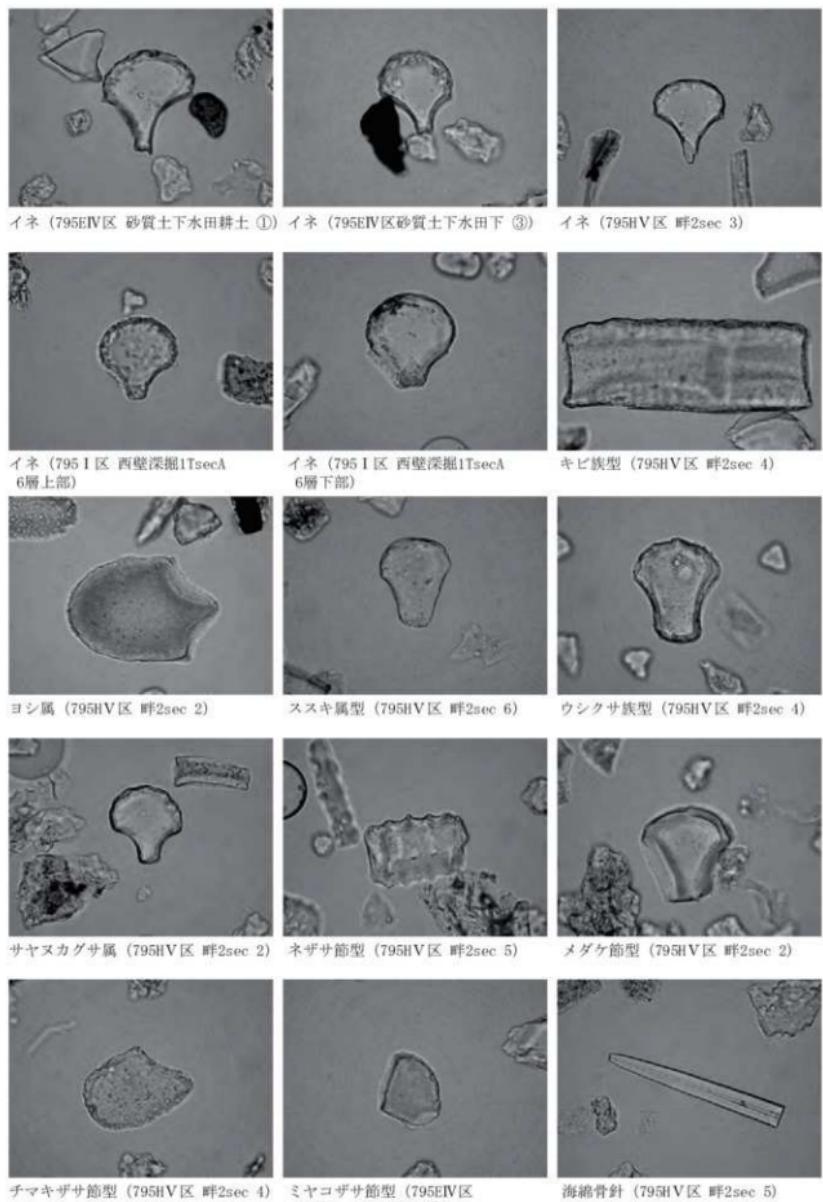
- 1) 試料を絶乾(105°C・24時間)する。
- 2) メノウ製乳鉢を用いて試料を粉碎する。
- 3) 試料を塩化ビニール製リング枠に入れ、圧力15t/Dでプレスして錠剤試料を作成する。
- 4) エネルギー分散型蛍光X線分析システム(日本電子㈱製、JSX3201)を用いて元素を同定する。

測定時間300秒、照射径20mm、電圧30keV、試料室内真空の条件で測定する。なお、X線発生部の管球
はロジウム(Rh)ターゲット、ベリリウム(Be)
窓、X線検出はSi(Li)半導体検出器
を使用する。

- 5) 測定結果は、ファンダメンタルバラメータ法(FP法)による定量値として示す。

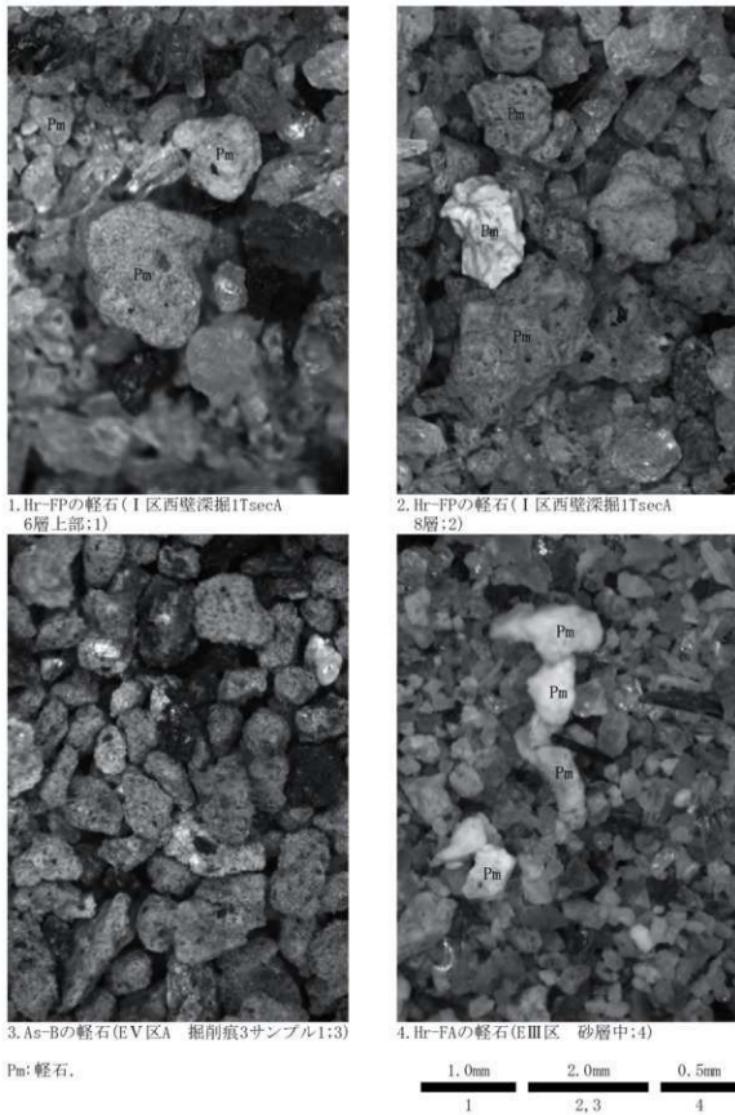
3. 所見

前処理を行つた結果、土器内面付着物には有機質物質は認められなかつた。前章でも述べたとおり、安定同位体比分析による成分分析では、窒素安定同位体比と炭素安定同位体比を合わせて検討する必要があるが、当該試料からは炭素安定同位体比データを得ることは困難である。また、リン・カルシウム分析データは、安定同位体比分析データと総合して評価する必要がある。以上のことから、本試料は、安定同位体比分析およびリン・カルシウム分析には適さないと判断され、分析の実施は困難であった。



第188図 科学分析 卸売市場周辺遺跡のプラント・オバール

50 μm



第 189 図 卸売市場周辺遺跡テフラ

第5章 成果と課題

第1節 卸売市場周辺遺跡の成果と課題

本遺跡は高崎台地北辺斜面の一部と井野川低地帯を東西約2kmの広範囲にわたり、高崎354複合産業団地造成工事部分（道路・水路・調整池）について本調査を実施した。加えて、公共トイレ部分は小調査、企業用地部分はトレンチによる試掘調査を実施した。

昭和期の土地改良工事による削平が広範囲におよんでいたものの、高崎台地北辺斜面地と井野川低地との境におけるAs-B下水田の設定、削平された微地形の情報を得ることができ、柴崎町・下大類町・栗崎町の遺跡の広がりを検討していく上で、貴重な遺構・遺物を検出した。

本項では堅穴建物跡と方形区画溝について記述し、As-B下水田と「般若御瓶」須恵器長頸壺は別項を設けて記述した。

堅穴建物跡

D区Iでは9軒、D区IIでは2軒の堅穴建物跡を検出しており、出土遺物から

古墳時代前期 D区II SI02

8世紀後半 D区I SI03

9世紀前半 D区I SI01

D区II SI01

の年代が与えられ、古墳時代前期と8世紀後半～9世紀前半の集落がD区I・IIでは展開していると考えられる。隣接する北側に下大類流通団地遺跡は古代末期の集落遺跡と報告されており、そちらとの一連の集落であると考えられる。加えて、D区I・IIの南側にも遺跡地が広がっており、そちらも一連の集落である可能性がある。

小調査を行ったE区I-2からは、9世紀の堅穴建物跡を検出している。調査地は、高崎台地北辺斜面地と井野川低地帯の境界付近に位置し、E区I-2区の調査から隣接するI区まで榛名山由來の洪水層が残存しており、高崎台地際の微高地に堆積しているものと考えられる。E区I-2SI01はこの洪水層を掘りこんで作られており、As-B下水田域から外れている。榛名山由來の洪水層はI区の中でも北側の井野川低地帯に向かって窄まって終わっている。洪水層の広がりから、集落域は高崎台地北辺斜面地～高崎台地上に展開するものと考えられる。

方形の土地区画

B区I・C区I・II・V、C区III・IV、D区IIにおいて方形の土地区画を構成する堀の可能性がある溝を検出した。方形土地区画溝の時期は以下の通りである。

As-B 降下後	B区I SD01・02 C区III・IV SD53・54・56 D区II SD12・13
As-A 降下後	C区I・II・V SD104 C区III・IV SD41・57・58・60・72

上述の溝のうちC区I・II・V SD104とC区III・IV SD60は連続する南北方向の溝である。

C区III・IV SD53・54・56は、C区III・IV SD41・57・58・60・72とSD53・52部分が重なる。時期・規模に差があるものの、上記遺構のラインに限っては土地区画が共通する可能性がある。

D区II SD12・13は調査区北側で直角に曲がる幅2.64m、深さ約0.8m、断面台形の溝であり、調査区南側に中世～近世の屋敷や館等が展開していた可能性が高い。

各方形の土地区画間に関係する可能性がある遺構は、C区I・II・V SB01以外には検出できなかった。規模や範囲と共に、区画内の施設を含めた構造の検討が今後の課題として残る。

第2節 卸売市場周辺遺跡のAs-B下水田について

(1) 概要

卸売市場周辺遺跡では、E区III・E区IV・E区V・H区III・H区V・I区・J区I・J区II・J区IVでAs-Bによって埋没した水田区画を検出した。

As-B下水田面にはAs-B灰色細粒火山灰層が堆積しており、1108年後の浅間山の噴火で埋もれてから変容を受けていないと考えられる。

検出したAs-B下水田区画は標高の低い区画が削平を受けずに残ったもので、標高の高い区画は土地改良工事により削平されていた。

各調査区のAs-B下水田区画の詳述は区画ごとに記載するため、ここでは割愛する。

(2) 周辺遺跡のAs-B下水田畠との対応

本遺跡周辺では既に井野川低地帯のAs-B下水田の調査が行われており、本遺跡北の柴崎遺跡群の調査では条里地割の基準となる東西・南北両方向の大畠を確認している。柴崎遺跡群の大畠を延長したラインから、周辺には1町(109m前後)の大畠からなる方格地割の条里制に基づく水田区画が設定されていたと考えられている。この方格地割は真北から西に1°ずれており、本遺跡もこの条里制水田区画に則った大畠の設定をしていると考えられる。

周辺遺跡と本遺跡で検出したAs-B下水田を合成した図(第190図)からも、周辺遺跡の大畠の座標値と規格が、本遺跡の大畠と共通していることが見て取れる。

本遺跡ではI区で想定条里ラインと一致する大畠を検出した。E区III・E区IV・H区III・H区Vは水田区画の傾向の切り替わりや、残存する水田区画が想定大畠ラインと概ね共通し、坪境界になるとされるものの、想定大畠ラインから東に6~7.5m程度ずれる。上述の区画以外にも想定条里ラインが伸びるもの、土地改良工事により削平されており、関係を指摘できる遺構は検出できなかった。

(3) 高崎台地北辺斜面と水田区画

本遺跡のE区IV・I区で条里区画の大畠を確認したこととは前述したが、同調査区内では水田区画が高崎台地北辺斜面まで伸びる。

井野川低地帯を中心とする周辺遺跡とは水田の立地が異なっており、水田区画も異なる。条里区画では、南北方向に長い長方形区画が小畠による水田区画の基本となっている。対してE区IVでは、大畠を境として西側で高崎

台地上から北へ向かって水田面を下げていく棚田状、かつ東西方向に長く高崎台地に向かって扇状に開く小畠による水田区画を確認した。

I区では大畠西側、調査区南端で東西に長い長方形棚田状の水田区画、調査区北側では南北から北東へ向かって水田面を下げる不定形入れ子状の水田区画を確認した。

E区IV・I区双方で確認した高崎台地北辺斜面の棚田状の水田区画は、大畠を水田区画の境としている。これは高崎台地北辺斜面においても大畠による水田区画が機能していることを示している可能性がある。

他に高崎台地北辺という立地は水田区画だけでなく、水路にも影響を与えている。E区II・4、J区IV・V・VIではAs-Bで埋没した高崎台地際を東南流する溝を確認している。地形に沿って流れ、J区V・VIでは溝下層に先行する自然流路を確認できたため、既に存在していた自然流路をAs-B下水田への配水用の水路に利用している可能性がある。

(4) 水田への配水

次に本遺跡のAs-B下水田の配水を周辺遺跡も含めて検討しておきたい。

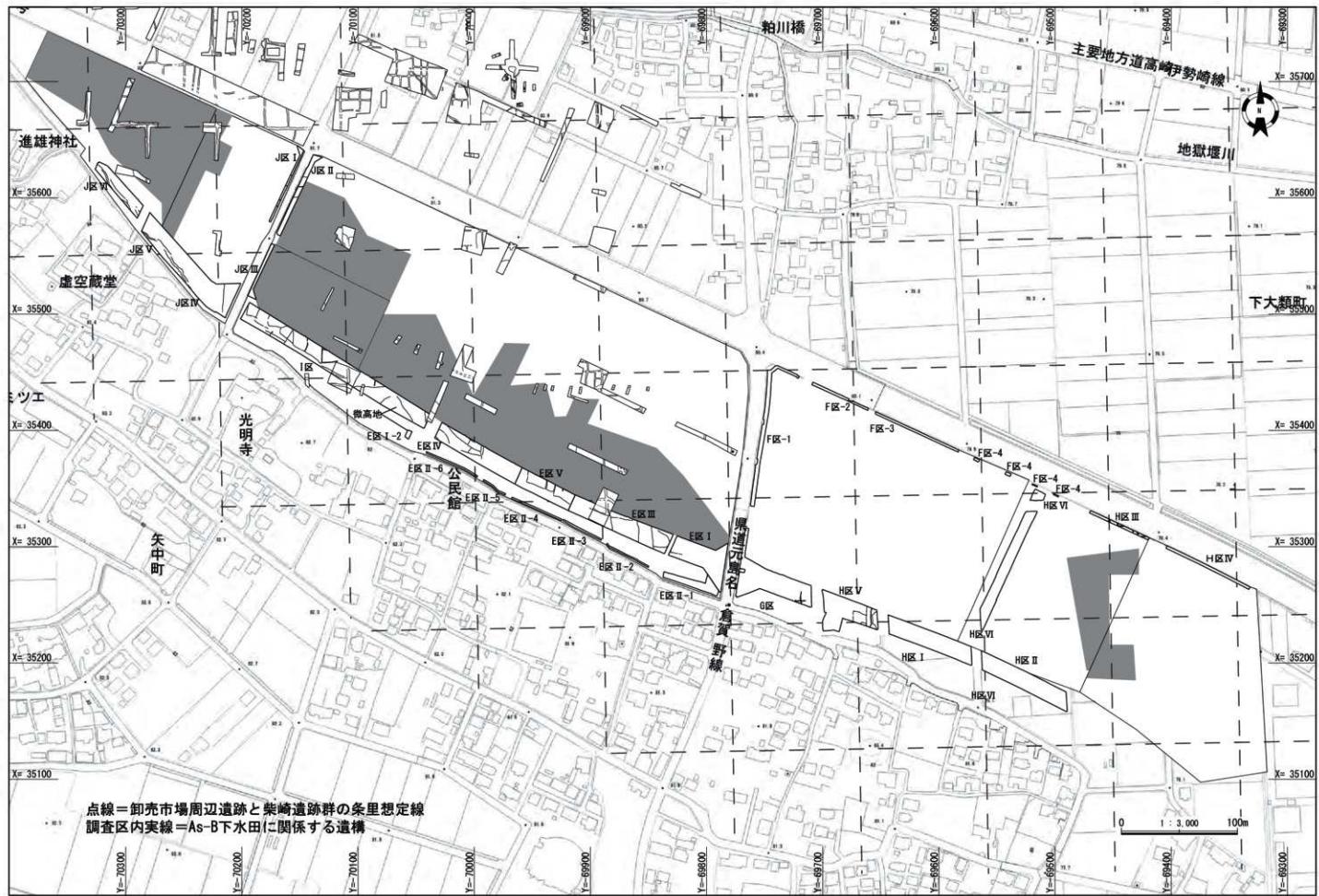
柴崎遺跡群(III)新堀・根際・吹手西A・富士塚B遺跡8Tにおいて、北西から南東に向かっての配水方向が確認されている。他方、本遺跡のE区IV・I区では台地から井野川低地帯に向かう、南から北の配水方向を確認している。柴崎遺跡群IIで確認された北西からの配水と台地上南からの配水はどこかで合流し、共通する配水方向である東へ流れしていくものと考えられる。

ここでJ区I・IIで確認された水田区画に着目すると、北西から南東へ向かって水田面を下げていく状況が確認できる。水路は大畠周辺に作られていることが既に柴崎遺跡群の調査で明らかになっているため、相反する方向の水の流れはJ区I・IIとJ区IV間で合流し、東流するものと考えられる。

本遺跡では他にも水田の水路と思われる区画をH区V東側で検出している。H区Vの区画は東西4m、南北8m程度の区画が南に向かって水田面を下げながら連続し、水田面に南へ向かう流水の痕跡が観察できる。

本遺跡では、周辺遺跡の調査と合わせておよそその配水方向を掴むことができた。しかしながら、土地改良工事により削平されている箇所が多くあり、H区を境として本遺跡東半のAs-B下水田の様相は未だ明らかになっておらず、今後の発掘調査の課題として残った。

(5) 砂質土によって埋没した水田区画



第190図 卸売市場周辺遺跡と塚崎条里想定線

E区IVでは調査区東半に砂質土が広がっており、砂質土下から水田土壤と考えられる黒色粘質土を検出した。黒色粘質土のプラント・オパール含有量を分析したところ、水田土壤と判断するに足る量のイネのプラント・オパールが検出された。よって、E区IV東半の砂質土下の黒色粘質土は水田土壤であると認定できた。

では、E区IV砂質土下水田はどの時期に属する水田なのか。同一の条里区画内に位置するE区Vの水田区画と比較し、E区IV砂質土下水田の属する時期を考えてみたい。

E区Vで検出したAs-B下水田区画の標高は78.5～78.4mである。対してE区IV砂質土下水田の標高は78.5mであり、ほぼ同一の標高となる。のことから、E区IV砂質土下水田はAs-B下水田と同一のものであると考えることができる。

課題としては、E区IV砂質土下水田の埋没理由の解明が残る。ここでは、E区IV東半とE区V西端という限られた箇所だけが砂質土で埋没しており、低位の水田が全て埋没したわけではない。E区IVの南北の水田区画の今後の発掘調査成果に期待する。

(6) As-B下水田の再掘削

本遺跡E区Vにおいて、調査区南半は削平されているものの長方形・半月形・三角形の耕具痕を多く確認した。この3種類の耕具痕の違いは、耕具刃先の形状の違いであると考えられる。このE区Vで検出した耕具痕は、As-B下水田耕土をAs-B上面から掘削しており、耕地復興を意図したものであると考えられる。また一部の耕具痕は弧を描いて折り返している。

他方、E区Vの北半は水田区画が残存しているが、耕具痕はなく平坦な水田面であった。As-B下水田の再掘削の有無がなぜ存在するのかが今後の課題として残る。掘削されていく区画が、台地北辺の斜面地であることからAs-B下水田ではなく、As-B下畠の可能性も視野に検討していく必要があるだろう。

第3節 「般若御瓶」刻書須恵器長頸壺について

(1) はじめに

卸売市場周辺遺跡 J 区 V の SK05 からは、「般若御瓶」刻書須恵器長頸壺、「風」墨書き土師器坏が検出された。特に「般若御瓶」の刻書がある土器は他に類例を見ない。

本項では遺構・遺物の性格、周辺環境について触みたい。

以下、J 区 V SK05 は SK05 と記述する。

(2) 遺構の規模・立地・主軸

SK05 は長軸 1.54m 短軸 0.7m を測るやや不整形な長方形の土坑である。残存する深さは、20cm を測る。遺構底部には凹凸などではなく平坦である。

SK05 は高崎台地北辺斜面から北に 14 m の井川原低地帯に位置する。一帯には広く As-B 下水田が展開するが、SK05 周辺には As-B 下水田耕土は無く、SK05 は黒褐色砂質土を掘りこんでいる。よって、As-B 下水田の範囲からは外れていると考えられる。

主軸は N-33°-W と真北から西側に振れています。一帯は土地改良事業によって削平されおり旧地形は残存しておらず定かではないが、旧地形の傾斜に沿つたものであったのだろうか。

(3) 遺物出土状況について

各遺物の出土状況は以下の通りである。

「風」墨書き土師器坏は土坑北西端から正位、かつ、墨書きを土坑内側に向けて出土している。「般若御瓶」刻書須恵器長頸壺は土坑中央西端底部で、口縁部を土坑主軸と合わせた北に向かって倒位の状態で出土している。出土時には、刻書面は上側や外向きを向いていた。

2 点の土器以外に遺物は検出できなかった。

(4) 遺物の性格

SK05 の出土遺物である「風」墨書き土師器坏、「般若御瓶」刻書須恵器長頸壺について基本的な情報をまとめ、その性格を考察する。

2 点の遺物の時期は 9 世紀後半～10 世紀前半と考えられる。

「風」墨書き土師器坏は器高 3.8cm、口縁径 11.4cm、底径 5.4cm、高台高 1cm を測る。「風」墨書きは底部を上とし、内面部から一部底部にかけて書かれている。文字を「几」に入れることの意味は複数の説が唱えられている。県内の類例として高崎市川内遺跡（旧吉井町）から主、前橋市岩之下遺跡（旧富士見村）から上を「几」に入れた墨書き土器が出土してい

る（第 192 図）。図示した他に太田市清水田遺跡からも「几」に生を入れた墨書き土器が出土している。（平川 2000）

「般若御瓶」刻書須恵器長頸壺は輪積成形、ロクロ整形により制作されている。口縁部が全周欠損しており、残存器高 18cm、残存口縁部径 8.8cm、頸径 5.7cm、最大径 13cm を測る。最大径は肩部に位置する。底部には高さ 6mm の付け高台が付く。

「般若御瓶」刻書（第 191 図）は、「般若」は一般的な字体だが、「御」はくずし字、「瓶」は月偏に并の異体字で書かれている。刻書は胴部中央に焼成前に書かれて、刻書を刻んだ際に横に押しのけられた粘土の盛り上がりが観察できる。語句に関する専門的な知識を持つ人物が土器の製作段階で関与していたと考えられる。

続けて刻書の意味を考えていきたい。「般若」はそのまま仏教用語であり、すべての物事を理解する智慧を意味する。「般若」の語は古墳時代～古代に用例がある。後に続く「御瓶」は須恵器長頸壺の用途や中身を規定しており、液体が入るものと考えられる。よって、「般若御瓶」刻書は、物事を理解できるようになる闇伽水を入れた容器であることを示した刻書であると考えられる。

他に「般若」が使われる語句として、酒の意味の「般若湯」が有名だが、「般若湯」の用例は 14 世紀が初出であり、本遺物の時期とは符合しない。

(5) 遺構の性格

遺構の性格について考察していく。

壙と長頸壺という遺物のセットは、同時期の土坑墓に見られる。加えて、土坑の形状・規模から SK05 は土坑墓と考えられる。埋葬方法は、SK05 の長軸は 1.54m であることから木棺や直葬が想定されるが、釘や遗体が検出できていないため判然としない。

他の可能性として、長頸壺は火葬墓の骨蔵器となる例もある。多くは頸部を割って転用するが、念のため「般若御瓶」刻書須恵器長頸壺内の土壤の精査と内部付着物の分析も行ったものの、人骨の痕跡や有機物は検出できなかつた。

(6) 副葬前の「般若御瓶」刻書須恵器長頸壺と周辺遺跡

「般若御瓶」刻書須恵器長頸壺は内部に闇伽水を入れ安置していたものと考えられ、土坑墓に副葬されるという用途は遺物のライフサイクルにおける最終段階にあたる。よって、本来どこで使用されていたのかという問題が

想起される。

まず、この遺物の所持者について考えたい。「般若御瓶」刻書から仏教関連遺物であることは自明であり、仏教知識を持つ人物の持ち物と考えられる。この遺物の所持者は一帯の有力者や僧尼が所持者として考えられ、使用場所は仏教関連施設や有力者の邸宅が想定される。残念ながらJ区V周辺では、当該期の古代瓦の散布や候補になる遺構は見つかっていない。

最後にJ区Vの周辺遺跡についてまとめておきたい。「般若御瓶」刻書長頸壺と同時期の遺跡としては、J区V西210mの高崎台地上には貞觀11年(869年)に愛知県津島の津島神社を勧請したことが始まりとされる進雄神社が所在する。J区V SK05の遺物の時期とは、ほぼ乖離の無い時期である。

現状では周辺遺跡と「般若御瓶」刻書須恵器長頸壺との関係は不明瞭なままであり、今後の発掘調査および研究に期待したい。

注

- 1 墨書・刻書の篆文は高島氏のご教示による。
- 2 墨書における「几」と「冂」、またはその中に文字を入れたものは、則天文字として祭祀的な意味とする説(平川2000)や、高島氏の単に文字を囲んだものとする説がある。(高島氏のご教示による)
- 3『勝鬘經義疏』「敷仮真実功德章」(伝・聖德太子直筆、推古19年)に「次一行偈喫波若」の用例あり。9世紀前半頃の空海の『仁王經開闢』に「般若能護此世間」の用例あり。(SAT 大藏經テキストデータベース研究会2018)

4 「空華日用工夫略集」3卷 康暦3年2月5日条(国際日本文化研究センター 2021)

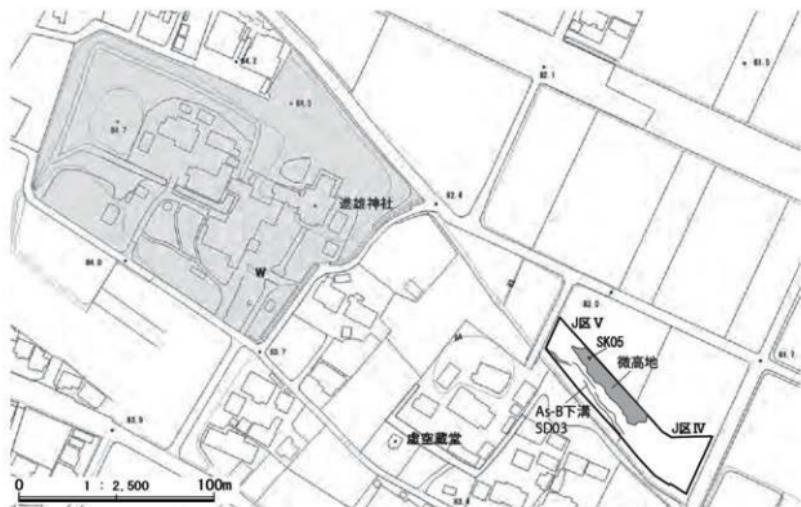
5 進雄神社縁起による。(高崎市史編さん委員会 1996)



第191図 『般若御瓶』刻書須恵器長頸壺拓本(原寸大)



第192図 群馬県内の几に文字を入れた墨書土器



第193図 J区V SK05と進雄神社の位置関係

発掘調査報告書等

- ・高崎市教育委員会 1985『東原・富士塚・富士塚前B遺跡』柴崎遺跡群(II) 高崎市文化財調査報告書第62集
 - ・高崎市教育委員会 1986『新堀・根際・吹手西A・富士塚B遺跡』(III) 高崎市文化財調査報告書第70集
 - ・高崎市教育委員会 1993『柴崎遺跡群・南大類遺跡群』高崎市文化財調査報告書第126集
 - ・高崎市市史編さん委員会 1996『新編 高崎市史』資料編3中世I
 - ・高崎市市史編さん委員会 2000『新編 高崎市史』資料編2原始・古代II
 - ・富士見村教育委員会 1987『富士見遺跡群 向吹張遺跡・岩之下遺跡・田中遺跡・寄居遺跡』
 - ・吉井町教育委員会 1982『川内遺跡発掘調査報告書』
- 参考文献
- ・高島 英之 2006『古代東国地域史と出土文字資料』東京堂出版
 - ・東日本埋蔵文化財研究会榎木大会準備委員会 1995『東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—』第5回 東日本埋蔵文化財研究会 第1分冊 北海道・東北地方・関東一部
 - ・平川 南 2000『墨書き土器の研究』吉川弘文館
- データベース等
- ・SAT大藏經テキストデータベース研究会 2018『SAT大正新脩大藏經テキストデータベース 2018版 (SAT 2018)』 2023年3月 1日確認
 - ・国際日本文化研究センター 2021『中世禪籍テクストデータベース』 2023年3月 1日確認

写 真 図 版



卸売市場周辺遺跡 A区I・B区II空中写真（左が北）



卸売市場周辺遺跡 A区II空中写真（左が北）



卸売市場周辺遺跡 A区III空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 B区I空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 B 区Ⅲ空中写真（左が北）



卸売市場周辺遺跡 C 区Ⅰ第1面空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 C区I・II第1面空中写真（左が北）



卸売市場周辺遺跡 C区III・IV空中写真（上が北）



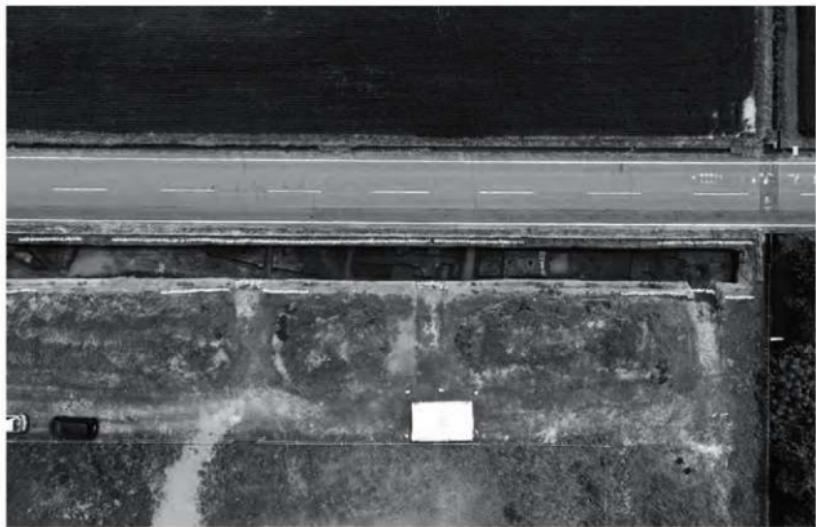
卸売市場周辺遺跡 C区V第1面空中写真（左が北）



卸売市場周辺遺跡 C区V第2面空中写真（左が北）



卸売市場周辺遺跡 D 区 I 東側空中写真（下が北）



卸売市場周辺遺跡 D 区 I 西側空中写真（下が北）



卸売市場周辺遺跡 D区II第2面東側空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 D区II第2面西側空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 E 区 I 空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 E 区 II-1・2 空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 E区III空中写真（下が北）



卸売市場周辺遺跡 E区IV空中写真（下が北）



卸売市場周辺遺跡 E区II - 4下・E区V上空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 G区空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 H区Ⅰ空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 H区Ⅱ空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 H区III空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 H区IV空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 H区V空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 H区VI空中写真（左が北）



卸売市場周辺遺跡 I 区空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 J 区 I・II・III 空中写真（左が北）



卸売市場周辺遺跡 J区IV・V 空中写真（上が北）



卸売市場周辺遺跡 J区VI 空中写真（上が北）



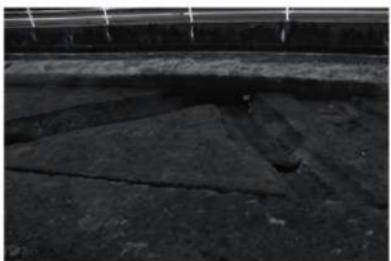
A区II SD39～44、SF21 空中写真（左が北）



A区II SD39～44、SF21 ベルト（南東から）



A区III SK53 断面（北から）



B区I SD01・02 全景（南から）



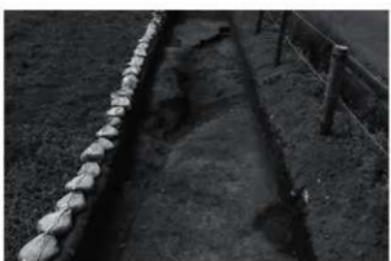
B区I SK06 人骨出土状況（西から）



B区I SK06 人骨出土状況（西から）



B区II 基本土層（東から）



B区III SD02 全景（北から）



C区III 全景 (南西から)



C区IV SD52・53 全景 (西から)



C区IV 全景 (南東から)



C区V SD108 全景 (南から)



C区V NR02断面 (南東から)



C区V SD85・86・94 全景 (北西から)



C区V SD85・86・94全景 (南東から)



C区VI SD01 全景 (東から)

P L 18



D区Ⅰ第1面 SD04・05・14 全景（北から）



D区Ⅰ第2面 SI01・SI03 全景（北から）



D区Ⅰ第2面 SI01 カマド断面（東から）



D区Ⅰ第2面 SI02 全景（南から）



D区Ⅰ第2面 SI15 全景（北から）



D区Ⅰ第2面 SI16 全景（西から）



D区Ⅰ第2面 調査区全景（西から）



D区Ⅱ第2面 SI01 全景（南から）



D 区 II 第 2 面 SD01 カマド全景（南西から）



D 区 II SD01 貯蔵穴断面（東から）



E 区 I SD01 全景（西から）



E 区 I 犬 01 東端部動物足跡検出状況（北西から）



E 区 II -1 SD01 全景（東から）



E 区 II -1 SD01 全景（北から）



E 区 II -1 SX02 全景（北から）



E区II-1 第2面 SD01・SX01 全景（東から）



E区II-3 SD06 全景（東から）



E区II-4 SD19・20 全景（東から）



E区III SD01 全景（西から）

E区II-4 全景（東から）



E区III SD02 全景 (南東から)



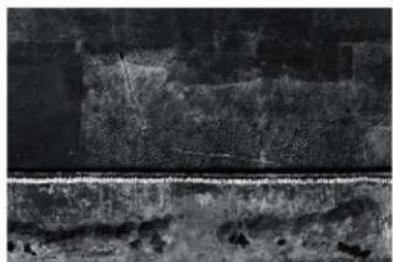
E区III SD03 全景 (南から)



E区IV As-B下水田部分空中写真 (上が北)



E区IV 砂質土下水田トレンチ全景 (南西から)



E区V As-B下水田耕具痕空中写真 (上が北)



E区V 耕具痕03断面 (北から)



E区V 耕具痕サンプル採取箇所 (北から)



E区V 帽01断面 (南から)



E 区V 畦 02 断面（南から）



E 区V 畦 03 断面（東から）



E 区V 耕具痕検出状況（西から）



E 区V 耕具痕全景（西から）



F 区 -1 北側全景（南から）



F 区 -2 SD09・10 全景（北から）



F 区 -2 全景（東から）



F 区 -3 SD08 全景（東から）



F区-3 SD12・13全景(南から)



F区-3 東側全景(西から)



G区 畦01全景(南西から)



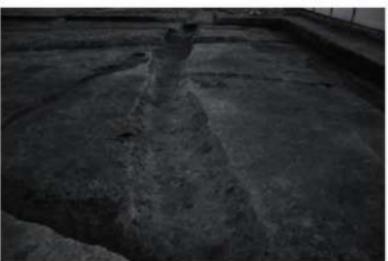
G区 SD03全景(北から)



G区 SD01掘方全景(南から)



G区 SD08全景(北から)



H区 I SD01全景(南から)



H区I 第2面 NB01 検出状況（南西から）



H区II SD13 全景（北西から）



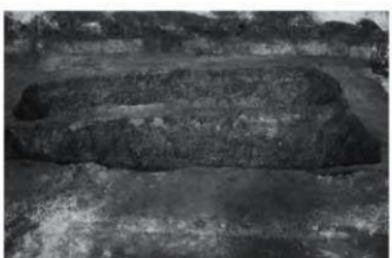
H区II SE01 断面（北から）



H区III 畦01 断面（南から）



H区IV SD02 全景（南から）



H区IV SK02 ~ 04 全景（南から）



H区V 01・02 全景（北から）



H区V 水路01 断面（北から）



H 区V 畦 02 サンプル採取箇所（南から）



H 区V 畦 01 断面（南から）



H 区V 畦 03 断面（北から）



H 区VI SD03 全景（北から）



I 区 SD01 全景（北東から）



I 区 SD02 全景（北東から）



I 区 1 トレンチ断面（北東から）



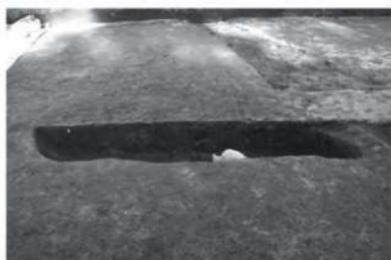
J 区 I SD03 全景（東から）



J 区III SD01 全景（東から）



J 区IV SD04 全景（南から）



J 区V SK05 断面（南から）



J 区V SK05 全景（南から）



J 区V SK05-137 遺物出土状況（東から）



J 区V SK05-138 遺物出土状況（東から）



J 区V 第2面 NR01 断面（東から）



J 区VI SD02 全景（南東から）



J 区VI SD02 断面（東から）



E 区I-2 小調査区全景（南西から）



TE1 10T 段（西から）



TE1 11T 坡（南から）



TE1 3T As-A処理坑（南から）



TE2 14T 全景（南から）



TE2 7T 全景（北から）



TE2 8T 全景（南から）

P L. 28



TE3 4T 眺望全景 (南から)



TE3 10T 全景 (南から)



TE3 7T 眺望・SD (西から)



TE4 1T 全景 (西から)



TE4 2T 全景 (北から)



TE5 5T 全景 (北から)



TE5 11T 全景 (南から)



TE5 12T 全景 (南から)



TE5 14T 全景（南から）



TE5 18T 峰（南から）



TE6・9 17TAs-B 堆積状況（南から）



TE6・9 17TAs-B 検出状況（東から）



TE7 1T 全景（南から）



TE7 5T 全景（北から）



TE10 1T 全景（北から）



TE10 7T 全景（南から）

P L 30



TE10 9T 全景（北から）



TE10 11T 大堆検出状況（南東から）



TE11 1T 全景（南から）



TE11 7T 全景（西から）



TE12 1T 全景（北から）



TE12 4T 全景（南から）



TE13 7T 微高地全景（南から）



TE14 1T 全景（北東から）



TE14 3T 断面（南東から）



T1 断面（西から）



T1 全景（北東から）



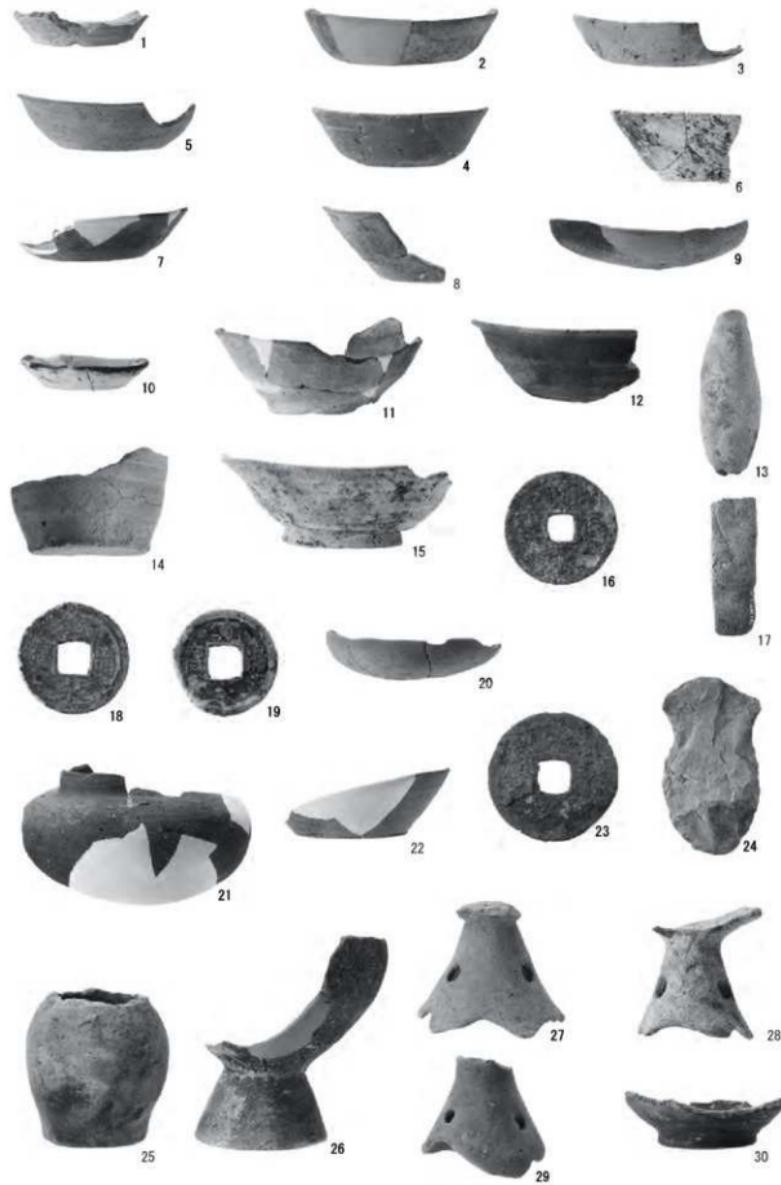
T2 全景（南西から）

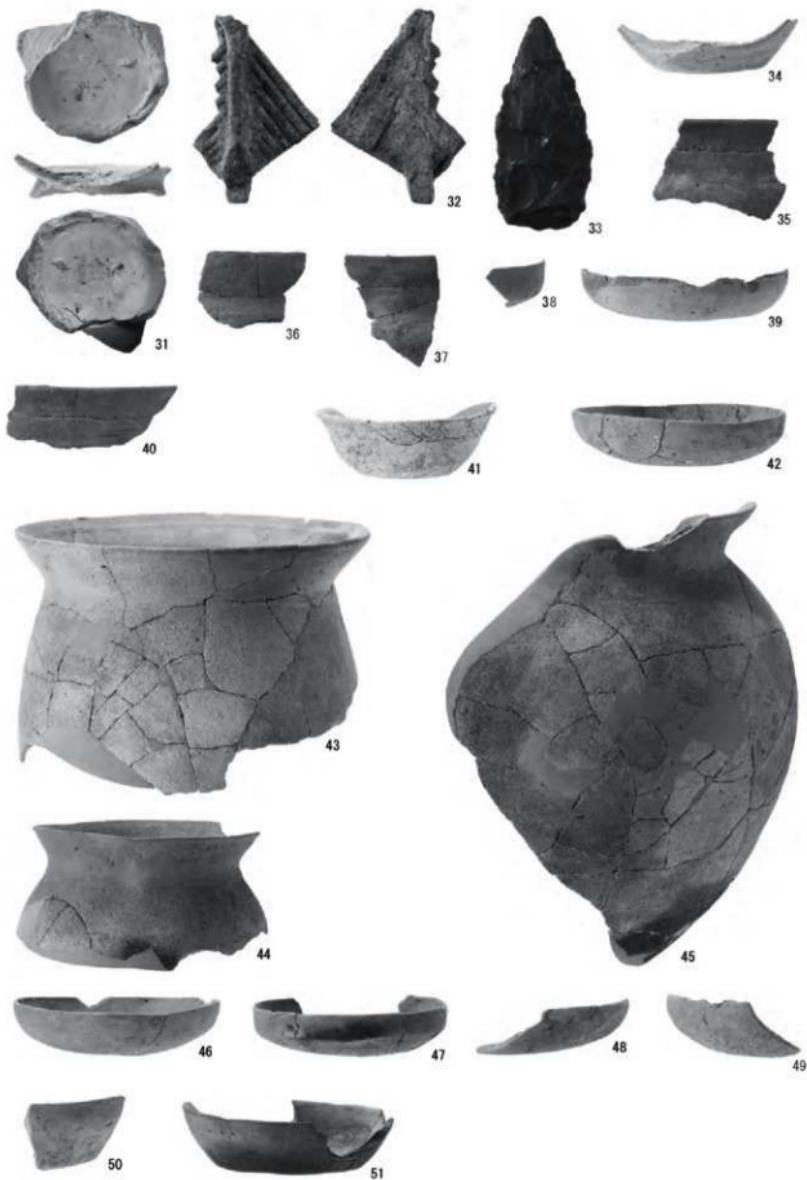


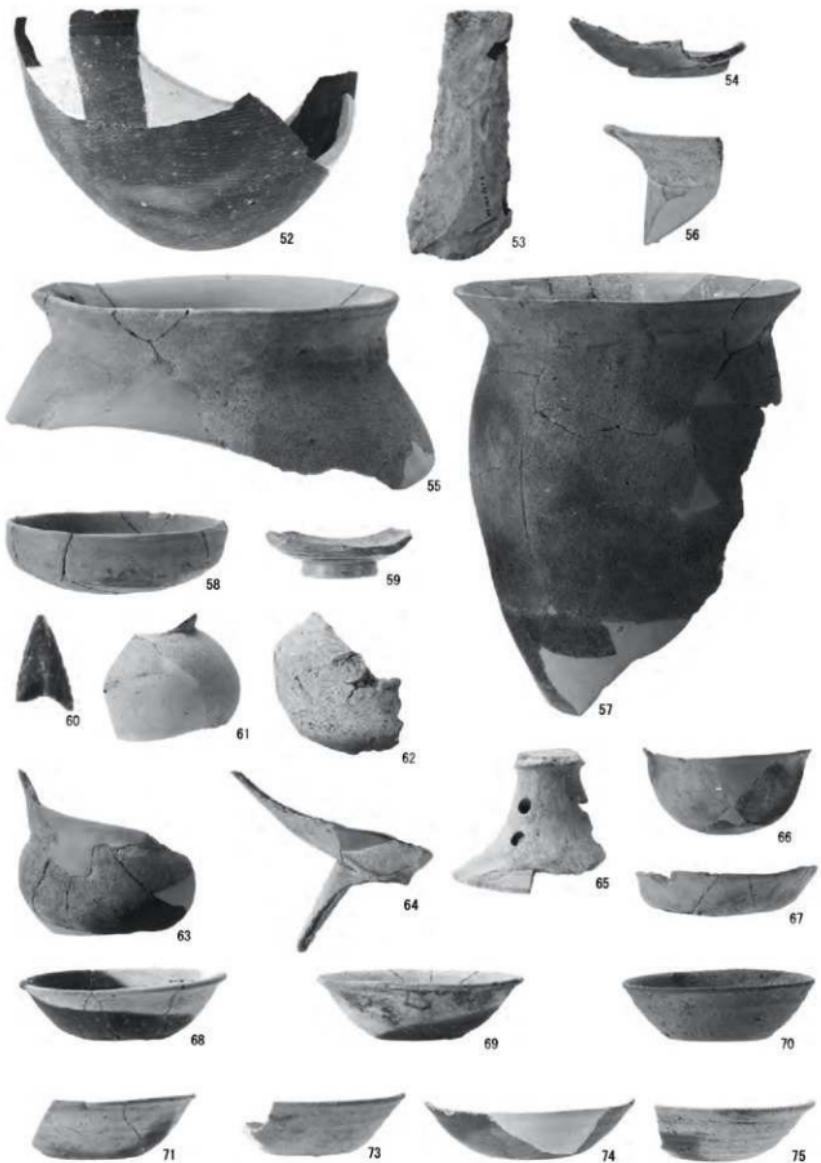
T5 全景（東から）

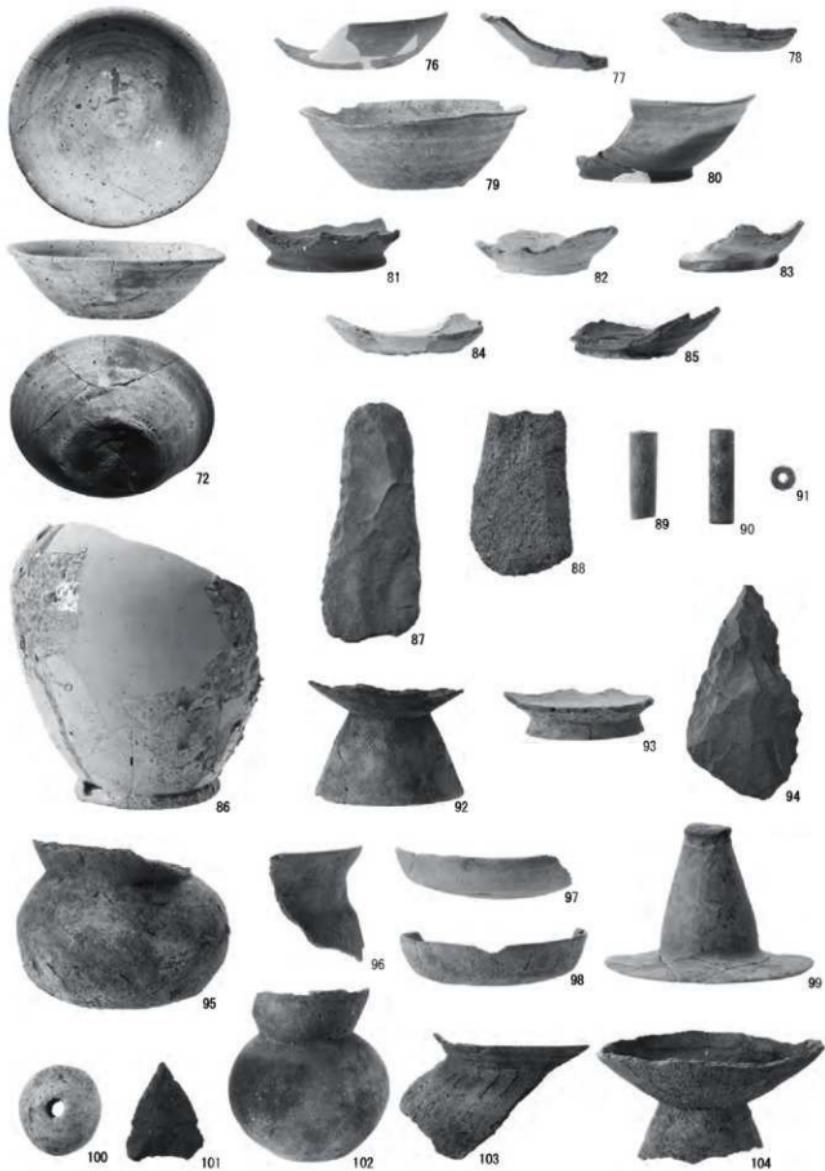


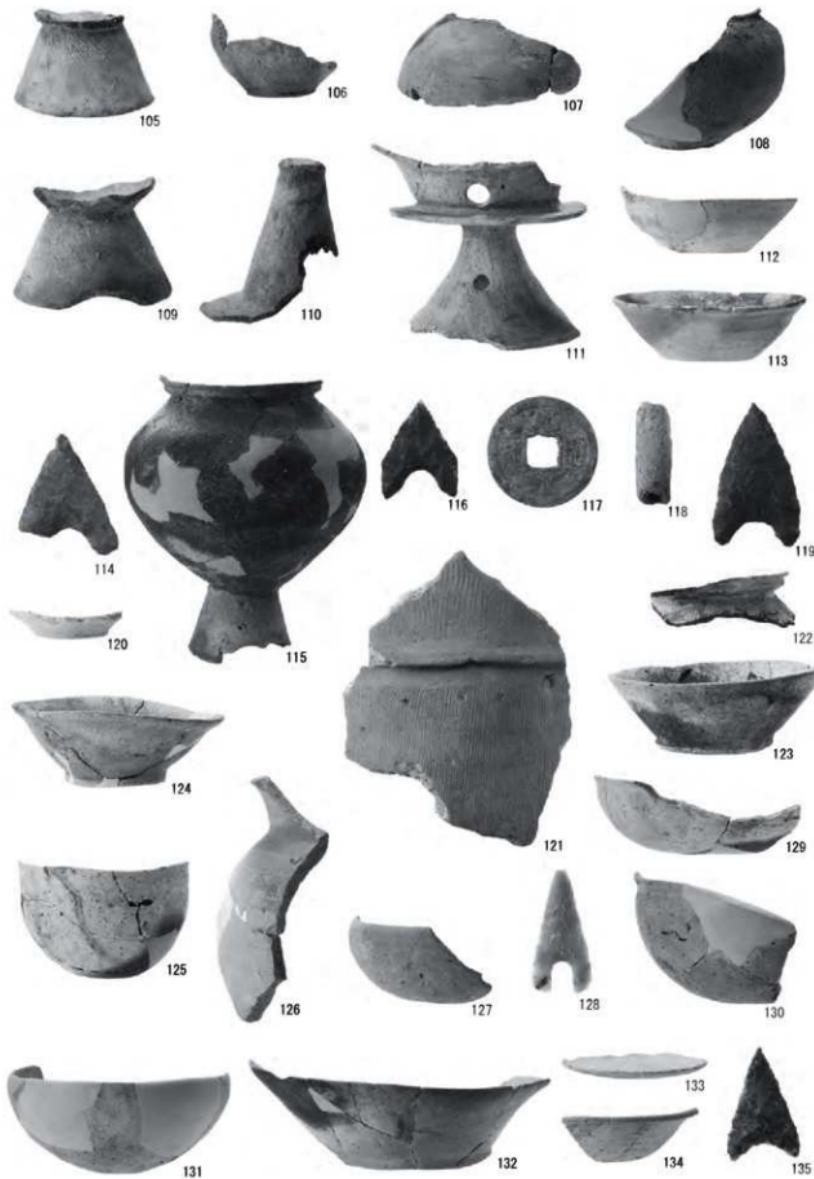
T6 全景（南東から）













136



137



138



139



140



141



142



143



144



145

抄 錄

ふりがな	おろしうりいちばしゅうへんいせき							
書名	卸売市場周辺遺跡							
副書名	高崎354複合産業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第486集							
編著者名	櫻井条・飯島克巳							
編集機関	高崎市教育委員会							
編集機関所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1							
発行年月日	2023年 3月 24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因	
卸売市場周辺遺跡	群馬県高崎市 しばさきまち しらひざきまち 斐崎町・下大畠 町・栗崎町	101	765 768 769 792 795 826	36° 19' 6" 36° 18' 35"	139° 02' 59" 139° 04' 07"	2019.04.22 2022.7.22	35188m ²	高崎354複合 産業団地造成

ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
卸売市場周辺遺跡	縄文時代	自然流路		尖頭器・打製石斧	
		自然流路		土師器・須恵器	高崎台地上の集落から流路への流れ込み多数。
	集落 水田	奈良・平安時代	堅穴建物(8C後半～9C前半)・掘立柱建物・As-Bテフラ下水田・土坑墓・溝・土坑・ピット・自然流路	土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦塔	土坑墓から「風」墨書き土師器 坑と「般若御瓶」須恵器長頸瓶出土。
		中近世	溝・As-Aテフラ処理坑・土坑・ピット	陶器・磁器	方形の土地区画を形成する溝を検出。

高崎市文化財調査報告書 第486集

卸売市場周辺遺跡

～高崎354複合産業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～

印刷・発行日 令和5年3月24日
編集・発行 高崎市教育委員会
群馬県高崎市高松町3-5番地1

印刷 野島印刷株式会社